

- 一、傷病兵ニシテ家族ナ有スル場合ニ於テハ「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ニ傷病兵ノ分ヲ加ヘタルモノヲ掲ケ傷病兵ノ分ハ更ニ朱書括弧ヲ付シ「傷病兵」ノ欄ニ掲ケルコト第二表以下之ニ做フ
- 二、「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ハ下士兵卒ノ家族ト傷病兵ノ家族ト区分シ二行ニ（右欄ハ下士兵卒ノ家族）掲ケルコト「下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族」ノ欄亦同シ
- 三、同一人ニ對シ二種類以上ノ救護ヲ爲ス場合ハ主タル方ヲ墨書シ其ノ他ヲ朱書スルコト第二表以下之ニ做フ
- 四、計ノ欄ハ墨書、朱書ノ合計ヲ掲ケヘキモノナルモ重複スルモノハ合計ニ加ヘサルコト第二表以下之ニ做フ
- 五、金額ハ四捨五入シ四位ニ止ムルコト第二表以下之ニ做フ
- 六、表中「戸數」トアルハ戸籍ニ依ル「戸」ノ數ナリ第二表以下之ニ做フ

(第二號様式)

軍事救護費請求書											
大正七年 月分不足額											
種別	傷病兵		下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族		下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族		計		前配付 高	前同ノ 殘高	今回ノ 請求高
	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員			
生業扶助											
醫療											
現金給與											
現品給與											
勅令第三條ノ臨時救護											
合計											

注意

一、表中計迄ノ欄ハ新ニ請求スヘキ分ニ限リ掲ケルコト從テ計ノ金額ト前同ノ殘高及今回ノ請求額ノ合算額トハ符合スルヲ要ス

(社會)

(第三號様式)

軍事救護狀況報告											
大正 年 自 月 日 分											
種別	傷病兵		下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族		下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族		計		金配 額當	殘差 額引	備考
	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員			
生業扶助											
醫療											
現金給與											
現品給與											
勅令第三條ノ臨時救護											
合計											

注意

- 一、本表ハ一期間内即チ十五日迄又ハ月末迄ニ救護費トシテ支出シタル總額(戸數人員同シ)ヲ掲ケルモノナリ
- 二、二回以後ノ報告ニハ前報告ノ分ヲ加ヘサルコト
- 三、備考欄ニハ前報告ノ數ト比較シテ増減アル場合等ノ如キ特ニ參考トナルヘキ事項ヲ記載スルモノトス

軍事救護ニ關スル件

大正十一年十月十八日
發社會第一二一號社會局長依命通牒

地方長官宛

軍事救護ニ關シテハ屢次通牒ノ次第モ有之施行上遺算ナキ時期セラレ居候
コトト被存候處逐年被救護者ノ數ヲ増加シ之ニ要スル給與額ノ増加ヲ來タ
スハ物價ノ關係軍事救護法ノ趣旨普及シタル結果ト被認候ヘトモ左記各項
ニ依リ公平ヲ旨トシ嚴ニ過キス濫給ヲ戒メ救護上萬遺算ナキ時期セラレ
度

記

第五章 賑恤救護 第六節 軍事救護

廢兵院法

- 一、傷病兵及其ノ遺族家族ニ對シテハ數回ニ亙リ恩給、扶助料等増額セラレタルヲ以テ之方調査ノ遺漏ナキ時期被救護者ノ生活狀態ヲ調査シ救護ノ廢止或ハ給與ノ減額ヲ爲シ公正時期スルコト
- 二、被救護者ニ對シテハ適當ノ方法ニ依リ常ニ其ノ生活ノ實況ヲ調査シ被救護者ノ生活實情ニ照應シ救護ノ變更ヲ行ヒ公正時期スルコト
- 三、每期救護費ノ請求及實施狀況報告ハ往々期限ヲ經過シ再三ノ督促ニ依リ漸ク提出スル向モアリ處理上支障不尠ニ付大正八年七月十九日發乙第二五七號及本年三月二十七日發乙第九九號通牒ニ依リ必ス期限内ニ提出スルコト

明治三十九年四月七日
法律第二十九號

改正 大正二年三月法律第一號、一二年三月第二八號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テタル癩兵院法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

癩兵院法

- 第一條 戰闘ノ爲傷損ヲ受ケテ軍人恩給法ニ依リ增加恩給ヲ受ケル者ニシテ救護ヲ要スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ癩兵院ニ收容ス
- 第二條 公務ノ爲傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ軍人恩給法ニ依リ增加恩給ヲ受ケル者ニシテ救護ヲ要スルモノハ特ニ癩兵院ニ收容スルコトヲ得
- 第三條 癩兵院ニ收容中ノ者ニハ恩給ノ支給ヲ停止シ其ノ親族ニ扶助料ヲ給ス
- 第四條 前項ノ扶助料ニ付テハ軍人恩給法ノ扶助料ニ關スル規定ヲ準用ス但シ其ノ年額ハ軍人恩給法第二十八條第一項第三號ノ金額ニ依ル
- 第五條 軍人ノ兄弟姉妹ニシテ第一項ノ扶助料ヲ受ケタル者ニハ軍人恩給法第三十四條ノ扶助料ヲ給セ
- 第六條 癩兵院ニ收容シタル者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ退院ヲ命ス
- 第七條 一 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタルトキ
- 第八條 二 救護ヲ要セザルニ至リタルトキ
- 第九條 三 屢懲戒ニ處セラレ改悛ノ見込ナキトキ
- 第十條 癩兵院ニ收容シタル者ニシテ退院ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退院シタル者ハ退院ノ日ヨリ二箇年ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ癩兵院ニ收容スルコトヲ得
- 第十一條 但シ特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 癩兵院ニ收容シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ懲戒ヲ爲スコトヲ得

前項旅費額ハ別表ニ依ル

- 第一條 旅費支給ニ關シテハ内務省所管旅費規則ヲ準用ス
- 第二條 癩兵院ニ收容シタル者ニハ在院中本人ノ受ケヘキ增加恩給月割額二分ノ一ニ相當スル金額ヲ毎月手當トシテ支給ス
- 第三條 在院一箇月ニ滿タサル月ノ手當ハ現日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス但シ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ月ノ全額ヲ支給ス
- 第四條 手當ハ毎月二十一日、死亡又ハ退院スルトキハ其ノ際之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ順延トス
- 第五條 癩兵院ニ收容シタル者ニ對スル食料又ハ被服ニ關スル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ癩兵院長之ヲ定ム
- 第六條 癩兵院ニ收容シタル者傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ病院ニ於テ治療ヲ要スルトキハ其ノ治療ヲ病院ニ依託スヘシ
- 第七條 癩兵院長ハ癩兵院ニ收容シタル者ニ對シ左ノ懲戒ヲ行フコトヲ得
- 第八條 一 誹責
- 第九條 二 三十日以内ノ謹慎
- 第十條 三 一年以上一年以下手當月額三分ノ一以下ノ減額
- 第十一條 癩兵院ニ收容シタル者ニ對スル退院處分ハ内務大臣之ヲ行フ
- 第十二條 癩兵院ニ收容中ノ者死亡シタルトキハ癩兵院ニ於テ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ヨリ遺骸ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ埋葬料ヲ支給ス
- 第十三條 癩兵院ハ圖書器物等ノ寄附ヲ受ケ各其ノ目的ニ使用スルコトヲ得
- 第十四條 癩兵院長ハ處務細則其ノ他本則施行ニ關シ必要ナル細則ヲ定ム

附則

第五章 賑恤 救護 第六節 軍事救護

- 第七條 癩兵院ニ於テ寄附ヲ受ケタル不動産、金錢及有價證券ハ癩兵院基金ト爲シ其ノ利子其ノ他ノ果實ト共ニ之ヲ蓄積ス
- 第八條 癩兵院基金ノ利子其ノ他ノ果實ハ癩兵院ニ收容シタル者ニ係ル費用ニノミ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第九條 癩兵院基金及其ノ利子其ノ他ノ果實ノ收支ニ係ル検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十九年勅令第二百十三號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

癩兵院法施行規則

大正十二年三月三十一日
內務省令第十號

- 第一條 癩兵院法施行規則左ノ通定ム
- 第二條 癩兵院法施行規則
- 第三條 癩兵院ニ收容スル者ハ自己ノ資産又ハ勞役ニ依リ自活スルコト能ハサル者ニ限ル
- 第四條 恩給法施行令第二十四條第一項第二項症以上ノ不具癩疾者ニシテ救護ヲ要スヘキ特別ノ事情アル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ收容スルコトヲ得
- 第五條 癩兵院ニ收容スル者ハ其ノ收容ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ內務大臣其ノ許可ヲ決定ス
- 第六條 前項ノ申請書ニハ恩給證書寫及戶籍謄本ヲ添付シ居住地地方長官ヲ經由スヘシ
- 第七條 癩兵院ニ收容シタル者ニハ入院及退院ニ要スル旅費ヲ支給ス此場合ニ於テ附添人ヲ要スルトキハ其ノ附添人ノ旅費ヲ併給スルコトアルヘシ

(社會八號)

(社會八號)

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅費額

區分	鐵道	船	貨	車馬賃	宿泊料	日當
甲	普通貨金	普通貨金	六十錢	三	四	四
乙	普通貨金	普通貨金	八十錢	五	四	三

備考
一、准士官以上ハ甲額其ノ他ハ乙額トス
二、鐵道賃及船賃ハ士官以上ハ一、准士官ハ二等其ノ他ハ三等ノ賃金トス
三、附添人ノ旅費額ハ本人ノ受ケル額トシ額トス

癩兵院法第三條ノ扶助料給與手續

大正十二年三月三十一日
閣令第二號

- 第一條 癩兵院法第三條ノ扶助料給與手續左ノ通定ム
- 第二條 癩兵院法第三條ノ扶助料ノ給與ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外軍人恩給法施行規則中扶助料ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第三條 癩兵院ニ收容シタルトキハ癩兵院長ハ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ヲ扶助料ヲ受ケヘキ親族ニ下付スヘシ
- 第四條 一 恩給證書ニ記載シタル事項

二 收容ノ目

- 第三條 扶助料ヲ請求スル者ハ軍人恩給法施行規則第三條ノ書類ノ外前條ノ證明書ヲ其ノ請求書ニ添付スヘシ
- 第四條 癩兵入院又ハ退院シタルトキハ癩兵院長ハ直ニ其ノ氏名及入院又ハ退院ノ日ヲ貯金局ニ通知スヘシ
- 第五條 癩兵院ニ收容中ノ者死亡シ又ハ退院シタル爲扶助料ヲ受クルノ權ヲ消滅シタルトキハ貯金局ニ於テ退院ノ日ノ翌日ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其ノ旨内閣恩給局ニ通知スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ貯金局ニ於テ其ノ扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

附則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
癩兵院長ハ本令施行ノ際ニ癩兵院ニ在ル者ノ親族ニ第二條ノ證明書ヲ下付スヘシ

癩兵院基金管理規則

明治三十九年八月三十日
勅令第二百三十四號

改正 大正一二年三月勅令第一一二號

朕癩兵院基金管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 癩兵院基金管理規則
- 第一條 癩兵院基金ハ内務大臣之ヲ管理ス
- 第二條 癩兵院基金ニ屬スル不動産及其ノ果實並有價證券ハ便宜之ヲ賣却スルコトヲ得
- 第三條 癩兵院基金ニ屬スル現金ハ國債證券ニ換ヘ之ヲ蓄積ス但シ現金トシテ蓄積スルヲ要スルモノハ大藏省預金部ニ寄託スヘシ

第四條 癩兵院基金ニ屬スル有價證券ノ賣却及前條ニ依ル國債證券ノ購買ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

癩兵院基金整理規程

大正十二年三月三十一日
内務省訓令第八號

- 癩兵院基金整理規程
- 第一條 癩兵院基金ハ左ノ二種ニ分チ各別ニ之ヲ整理スルモノトス
 - 一 資金
 - 二 利子其ノ他ノ果實
- 第二條 癩兵院ニ於テ寄附ヲ受ケタル不動産金錢及有價證券ハ之ヲ資金ニ編入ス
- 第三條 資金ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス
- 第四條 資金ニ屬スル物件ヲ處分セムトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第五條 利子其ノ他ノ果實ヲ使用セムトスルトキハ院長ハ其ノ用途及金額ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第六條 基金ノ出納ヲ爲サシムル爲癩兵院長ハ其ノ職員ニ出納官吏ヲ命スヘシ
- 第七條 基金ニ屬スル現金ハ大藏省預金部ニ預入シ有價證券ハ日本銀行ニ寄託スヘシ
- 第八條 出納官吏ハ每月基金ニ屬スル金錢物件ノ整理簿ヲ備ヘ出納ノ事實ヲ登記スヘシ
- 第九條 出納官吏ハ毎月基金ニ屬スル金錢物件ノ受拂ヲ記載セル計算書及處分濟報告書ヲ製シ翌月十日迄ニ内務省ニ送付スヘシ

〔社會〕

第九條 本規程施行ノ細則ハ癩兵院長之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

癩兵院寄附金錢物件取扱手續

大正十二年三月三十一日
内務省告示第八十二號

癩兵院寄附金錢物件取扱手續左ノ通定メ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

癩兵院寄附金錢物件取扱手續

- 第一條 癩兵院基金トシテ不動産、金錢及有價證券ヲ寄附セムトスル者ハ其ノ金額又ハ品目員數時價ヲ記入及寄附者ノ本籍地並現住地、官、位、職、功、爵、氏名ヲ記載シタル寄附申込書ヲ居住地ノ市町村長、癩兵院又ハ内務省ニ差出スヘシ
- 數名連合シ又ハ團體等ノ名義ヲ以テ寄附ヲ爲サムトスル場合ニ在リテハ二名以上ノ代表者ヲ定メ前項ノ手續ヲ爲スモノトス但シ各自ノ寄附額ヲ示サムトスルモノニ在リテハ其ノ金額又ハ品目員數時價並本籍地及現住地、官、位、職、功、爵、氏名ヲ列記シタル内譯明細書ヲ添付スルヲ要ス
- 第二條 市町村長又ハ癩兵院ニ於テ前條ノ寄附申出書ヲ受ケタルトキハ直ニ内務省ニ差出スヘシ
- 第三條 寄附金錢物件ニシテ左ノ各號ノ一二該當スルモノハ之ヲ受理セサルコトアルヘシ
 - 一 使用ノ方法ヲ特定シタルモノ及管理困難ナルモノ
 - 二 査問未済ノモノ
- 第四條 金錢ノ寄附ニ在リテハ其ノ納付期日及金額ヲ定メ五箇年以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

〔社會〕

第五條 内務大臣第一條ノ寄附申込書ヲ受理シタルトキハ承認書第一號ヲ居住地ノ市町村長ヲ經テ本人ニ交付シ指定ノ期限内ニ癩兵院ニ納付セシム但シ納付ニ關スル費用ハ本人ノ負擔トス

- 第六條 癩兵院ニ於テ寄附ノ金錢物件ヲ受領シタルトキハ出納官吏ヨリ受領證書ヲ本人ニ交付シ内務省ニ之ヲ報告スヘシ
- 第七條 内務省ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ金額又ハ品目員數時價及寄附者ノ本籍地並現住地、官、位、職、功、爵、氏名ヲ官報ニ掲載ス
- 第八條 寄附申出者ニシテ其ノ金錢物件ノ納付未済中居住地、族稱、官、位、職、功、爵、氏名ヲ變更シタルトキハ之ヲ癩兵院ニ届出ツルヲ要ス
- 第九條 第五條第一項ノ承認書ヲ交付シタルモノニシテ指定ノ期限内ニ寄附ヲ完了セサルモノアルトキハ癩兵院長ハ其ノ事實ヲ調査シ之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ
- 第十條 圖書器物其ノ他癩兵院基金ニ屬セサル物件ノ寄附ニ關シテハ前諸條ノ規定ヲ準用ス但シ寄附ノ申出ハ癩兵院長ニ之ヲ爲シ其ノ承認ヲ受ケルモノトス
- 前項ノ寄附ニ在リテハ其ノ使用ノ方法ヲ指定シ或ハ匿名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第一號書式
- 承認書

第五章 賑恤救護 第六節 軍事救護

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地
 現住地 府(縣)郡(市)町(村)番地
 族 稱
 官、位、勳、功、爵 氏 名

一金何圓也
 (一何々) 此時價金何圓何拾錢(何箇)
 右撥兵院基金トシテ寄附ノ趣承認ス
 年月日 内務省 省團
 追而本寄附金(物件)ハ 何年何月何日迄ニ撥兵院出納官吏何某ニ
 納付スルヲ要ス
 第二號書式

第 一 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 二 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 三 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 四 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 五 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 六 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 七 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 八 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 九 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)
第 十 號	一金何圓	何々	此時價金何圓何拾錢(何箇)

但シ撥兵院基金トシテ寄附
 右領收候也
 年月日 官 氏 名

帝國軍人援護會殘餘資金分配ノ件

明治三十九年八月十四日
 内務大臣訓第六〇八號
 帝國軍人援護會ヨリ今般同會殘餘資金ノ全部ヲ舉テ之ヲ道廳府縣ヘ分配シ以テ長ク出征軍人ノ遺族並ニ撥兵及其ノ家族ノ救護ニ供セシメ度旨申出有之依テ右資金ハ此ノ際之ヲ各地方ヘ分配スルコトトシ貴府(縣)ヘ金 圓ヲ配付ス
 此ノ資金タル素ト戰時ニ在テ出征軍人ノ家遺族並撥兵等ヲ援護シ出征者ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメシムコトヲ期スル爲志士仁人ノ義舉ニ出テタルモノ而シテ今其ノ殘餘資金ヲ以テ戰後長ク遺族撥兵及其ノ家族援護ノ爲各地方ヘ配付セルモノナルヲ以テ能ク其ノ主旨ノ存スル所ヲ體シ其ノ救護ヲ要スルモノニ在テハ主トシテ自費ノ途ヲ得セシムル爲各種ノ手段ニ依テ其ノ生業ヲ補助シ其ノ他子弟ノ救養兒童ノ保育等各地ノ狀況ニ應シテ最モ適切ノ費途ニ充テ其ノ勞働ニ堪ヘサルモノ若ハ事情已ムテ得サルモノニ限リ直接救助ヲ爲ス等之カ用途ヲ慎ミ長ク援護ノ效果ヲ完カラシムルヲ期スヘシ
 右訓令ス

帝國軍人援護會分配資金支出方

〔社會〕
 ラル、ハ差支無之候ニ付他ノ援護團體等ノ權衡御調査ノ上可然御取計相成候様致度此段得貴意候草々

帝國軍人援護會引繼資金ハ府縣有財産ト同様管理スヘキ件

大正五年六月九日
 發地第七九號地方局長通牒
 帝國軍人援護會引繼資金ハ府縣有財産ト同様管理スヘキ件
 標記ノ件ニ就テハ彙ニ配付ノ際右資金ハ當分ノ内府縣會ニ附議セシ貴官限リ管理セルルヘキ旨及通牒置候處「右ハ特別會計トシ他ノ府縣有財産ト同シク其管理並收支トモ府縣會ノ議決ニ付シ」今後一層其ノ取扱確實ヲ期スル標致度尙本資金ハ豫テ申進候志士仁人ノ義舉ニ出テタルモノニシテ專ラ出征軍人中戰死者若ハ病死者ノ遺族出征軍人ノ撥兵ト爲リタル者及其ノ家族並出征及在郷軍人ノ家族ニシテ其生計困難ナル者ノ救護ノ資ニ充ツヘキモノニ付深ク其用途ヲ慎ミ苟モ濫ニ涉ルカ如キコト無之様十分御留意相成度
 北海道廳ニ對シテハ「内ヲ左ノ通りトス
 右資金ハ特別會計トシ其ノ收支ハ道會ノ議決ニ付シ

帝國軍人援護會引繼資金ハ赤十字病院建設費及招魂祭費等ニ補助スヘカラサル件

大正五年五月六日
 發地第六八號地方局長通牒
 標記資金ニ關シテハ其ノ管理ヲ確實ニセラルヘキハ勿論之ヲ以テ赤十字病院建設費其他招魂祭等ノ費用ニ補助スルカ如キハ然ルヘカラサル義ニ有之

ノ件

明治三十九年八月十四日
 地甲第一五八號地方局長通牒
 帝國軍人援護會殘餘資金配付ノ件本日大臣ヨリ訓令相成候處右配付金ハ貴官ニ於テ之ヲ保管シ其ノ支出ノ必要アルニ際シテハ可成利子ヲ以テ之ニ充テ資金ハ永遠之ヲ保存セルル、ハ最モ切望スル所ニ有之就テハ事情萬止ムテ得ス元本ヲ支出セントスル場合ニ於テハ豫メ本省ヘ稟請相成度尙其ノ救濟ハ個人ニ在テモ主トシテ生業扶助ノ方法ニ依リ團體ニ對シテハ生業扶助ノ施設ニ係ルモノヲ主トシテ之ヲ援助セルル、ハ勿論殊ニ團體補助ノ場合ニ在テハ充分其ノ事業ノ適否經濟ノ如何ヲ查察シ補助金額ノ如キ特別ノ事情ナキ限リハ可成團體ノ負擔額ヲ超過セサル程度ニ於テ支出セルル、標致度且配付金支出ノ方法相定リ候上ハ直ニ報告セラレ其ノ援助セル事業ノ執行ニ關スル狀況及其ノ成績等ハ時々御報告相成度
 追テ配付金ハ海軍公債證書ニテ三井銀行ニ保管爲致置候ニ付必要ニ應シ同銀行ヨリ引出可相成尙公債證書ハ府縣會ノ議決ニ依ラス當分貴官限リ御取扱相成可然爲念併セテ申添候也

帝國軍人援護會分配資金生業扶助及子弟教養費等ニ支出方ノ件

明治三十九年八月十四日
 地甲第一五八號ノ内地方局長通牒
 拜啓今般帝國軍人援護會解散ニ付其ノ殘餘資金ハ之ヲ各地方ヘ分配相成リ尙其ノ管理並支出方法等ニ關シ訓令及通牒候次第モ有之候ニ付テハ右配付金ノ處理上夫々御考案モ有之候義ト存候處愛國婦人會支部ノ施設ニシテ訓令ノ旨趣ニ則リ生業ノ扶助子弟ノ教養ヲ圖ル等其ノ事業適切ト認メラル、モノニ對シ今般通牒ノ範圍内ニ於テ婦人會本部ノ援助ト相須テ相當援助セ

第五章 賑恤救護 第六節 軍事救護

備後御倉相成度

●軍人援護資金ノ費途ニ關スル件

大正七年一月 發地第三號地方局長通牒
遺府縣ノ特別會計ニ屬スル軍人援護資金ハ從來出征軍人ノ遺族、遺兵及其ノ家族ノ救助費ニ充當スルコト、相成居候處軍事救護法實施後ニ於テハ右公費ノ救助ハ之ヲ廢シ該資金ハ専ラ軍人ノ遺族、遺兵及其ノ家族等ノ救助ヲ爲ス私設團體ニシテ基礎確實成績優良ナルモノニ對シ補助シ又ハ軍事救護法第二條乃至第四條ノ範圍以外ノ者ニシテ事實救護ノ必要アル場合其ノ救護費ニ支出スル方可然ト被存候

●軍人後援事業費ニ對シ市町村費ヨリ補助スルモ差支ナキ件

岐阜縣照會大正七年十月
今回ノ應召軍人家族ノ慰籍救護ノ爲金品ノ給與若ハ勞務ノ扶助ヲ爲シ應召軍人ヲシテ後願ノ憂ナカラシメ其ノ志氣ヲ鼓舞シ且ツ地方生産力ノ減退ヲ防止スルノ趣旨ヲ以テ各市町村長ニ軍人後援會若ハ尙武會ヲ設ケテ之カ活動ヲ計リツ、アリ而シテ其ノ費用ノ多クハ有志ノ寄附金ヲ以テ充テ勞役ノ如キハ在郷軍人、青年會員其ノ他關係ノ情誼ニ依リ扶助ノ實ヲ舉ケル方針ナルモ寄附金ノミヲ以テ後援ノ目的ヲ達シ難ク不得止場合ハ該事業費ニ對シ市町村經濟ノ許ス範圍ニ於テ公費ヲ以テ補助スルモ差支無之哉
追テ自活シ難キモノハ軍事救護法ノ適用ヲ受ケヘキモ戸籍上ノ關係等ニ依リ同法ノ適用ヲ受ケルコト能ハサルモノ有之是等ノモノニ對シ市町村費ヲ以テ貧民トシ救助ノ途アリト雖モ此際可成救助ノ名義ヲ避ケ且ツ幾分其範圍ヲ擴張シ後援ノ目的ヲ達セムトスルノ趣旨ニ候

地方局長問答 大正七年十月 右ハ差支ナキ義ト存候

●軍事救護法ニ依ル救護費請求等ニ關スル件

大正七年二月二十日 內務省六發地第二六八號ノ內 內務大臣官房會計課長地方局長通牒
客年十一月二十八日發地第二六八號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ及通牒置候處大正七年度以降ニ於ケル救護費ハ每三ヶ月分ノ概算御見込ノ上各其ノ初月ノ前月十日迄ニ請求相成候様致度又救護狀況ハ每三ヶ月分ヲ一纏トシ六月、九月、十二月、三月末日現在ヲ該期日後十五日以内ニ御報告相成候様致度
追テ現ニ御報告中ノ狀況報告書ニ依リハ救護出願許可済ノモノト雖事實救護金員ヲ支出セサル分ハ除カレアル向有之候處既ニ救護出願許可済ノ分ハ其ノ支出ノ有無ニ拘ハラズ總テ掲記相成候様致度

●軍事救護費支出仕譯書様式變更ノ件

軍事救護法實施當時救護費支出ニ要スル仕譯書様式ハ第一號ノ通り相定メラレ候處今般會計檢査院ヨリ現金給與ニ對シテハ從來ノ要項ノ外更ニ被救護者ノ資格ヲ附記セラレ度キ旨通牒有之候ニ付該様式ヲ第二號ノ通り改メ又生業扶助並現品給與ニ對シテハ決議書寫添付スルコトニ被相定可然候相候候也

〔社會一〇號〕

第一號 (從來ノ分)

Table with columns: 大正 年, 月分, 軍事救護費支出仕譯書, 給與金額, 摘要, 住, 所, 氏, 名

第二號 (改正ノ分)

Table with columns: 大正 年, 月分, 軍事救護費支出仕譯書, 給與金額, 摘要, 住, 所, 氏, 名

備考 取扱手續ハ從來ノ通り

●軍事救護法ニ係ル救護費等ニ關スル件

大正八年七月十九日 發地乙第二五七號地方局長官房會計課長通牒
大正六年十二月一日內務省發地第二六八號及客年二月二十日內務省六發甲第四五號ヲ以テ及通牒置候標記ノ件左記ノ通改正候條請求書ハ十月以降ノ分狀況報告ハ四五六月分ヨリ右ニ依リ御取扱相成度 第一表

Table with columns: 種, 類, 戶, 數, 人, 員, 所, 要, 額, 前, 見, 込, 殘, 額, 差, 引, 請, 求, 額, 備, 考

二、下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族ノ欄ハ下士兵卒ノ家族ト傷病兵ノ家族トチ區分シ二行ニ(右欄ヲ下士兵卒ノ家族左欄ヲ傷病兵ノ家族トス)掲クレトコト下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族ノ欄モ之ニ準スルコト

●軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

大正七年三月十九日
地發乙第一二二號地方局長通牒

軍事救護法實施ニ關シ救護地タル本人住所地ト本籍地ト異ナル場合其ノ聯絡方ニ付テハ曩ニ屢々通牒ノ次第モ有之夫々相當方法ヲ講セラレ居候事ト存候處被救護資格ヲ喪失スヘキ身分上ノ異動ヲ生シタル場合又ハ軍事救護法第八條乃至第十條ニ該當スル刑ニ處セラレタル者アル場合ニ於テハ時機ヲ失ヘス本籍地ヨリ救護地ニ通報候事ニ御取計相成度爲念此段及通牒候

●軍事救護ニ就テ

大正九年四月
發地乙第一七二號地方局長通牒

標記ノ件ニ關シ本年三月二十五日憲兵司令部ニ於ケル全國憲兵隊長會同席上ニ於テ本省事務官ヲシテ別紙ノ通牒演セシメ置候條御了知ノ上連絡上將來一層御留意相成度

(別紙)

軍事救護ニ就テ

(大正九年三月二十五日憲兵司令部ニ於ケル全國憲兵隊長會同席上ニ於ケル川西事務官講話要領)

一、軍事救護法制定ノ理由
我國ハ數回ノ戰爭ニ因リ多數ノ戰死者及傷病兵ヲ續出シ此等ノ者茲

其ノ遺家族ニシテ生活困難ヲ感ズルモノ愈多キニ至レリ尙下士兵卒ノ應召入營等ニ因リテ生活ノ困難ヲ訴フルモノ少シトセザリキ此等ニ對スル國家ノ施設トシテハ傷病兵ニ對スル恩給戰病死者ノ遺族ニ對スル扶助料ノ下附傷病兵收容ノ爲ノ療兵院ノ設置及貧困者ニ對スル兵役免除等ノ方法アリト雖未ダ充分ナリト云フヲ得ス他而我國古來ノ美風タル隣保相扶ノ情誼ノ有ルアリ更ニ愛國婦人會、軍人後援會在郷軍人會等ノ力ニ俟テテ相當保護ノ途ヲ講セラレタリト雖亦以テ遺憾ナシト云フヲ得ス輒近益々生活困難者ノ増加スル趨勢アリ又國家カ兵役ノ義務ヲ強制スル以上國家ニ於テ此等ノ者ノ生活ヲ保障シ以テ能ク士氣ノ振興ヲ期スヘシトノ理由ニ依リ大正六年七月軍事救護法ノ制定ヲ見ルニ至リ翌大正七年一月一日ヨリ施行セラル、コトトナレリ

二、救護ノ狀況

大正六年度 自一月四二、八八九圓 三、二五〇戶 八、〇四八人
大正七年度 至三月四二、一〇圓 一六、〇一九戶 三四、九一九人
大正八年度 前年ニ比シ約十萬圓増加シテ大正九年度ニ於テハ約百萬圓ヲ要スル見込ナリ

三、軍事救護法ノ内容

- (一)被救護者(自法第一條至第四條註自法第八條至第十三條)
 - 1 傷病兵及其ノ遺家族
 - 2 戰病死者ノ遺族
 - 3 應召下士兵卒並現役兵ノ家族
- (二)救護ノ種類(法第六條令第三條)

〔社會一〇號〕

〔社會一〇號〕

1 生業扶助

2 醫藥

3 現品給與

4 現金給與

(臨時現金給與)

(一)救護ノ程度並方法(法第五條令第二條第三條)
救護ハ生活ニ必要ナルヲ限度トシ救護ヲ出願スル者ノ住所地地方長官勅令所定ノ範圍内ニ於テ救護ノ程度並方法ヲ決定ス
勅令所定ノ範圍左ノ如シ

現金品給與

通常ノ場合 一人一日十五錢以内 一家一日六十錢以内

災害臨時ノ場合 一家總額三十圓以内

其ノ他限度ヲ定メス必ズニ應シ適宜給與ス

右一人一日十五錢一家一日六十錢ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ増額スルコトヲ得ルモノニシテ近時物價騰貴生活困難ノ爲勅令所定ノ限度ヲ超エテ給與スルモノ甚々多シ而シテ目下ノ所一人一日四十五錢一家一日一圓三十錢ヲ増額許可ノ最高限度トス

救護ノ程度方法等ニ關シテハ嚴ニ失ヘス緩ニ流レズ專ラ其ノ適切ナラ

ムコトヲ期シツツアリ

四、軍事救護法ノ施行ニ關シ憲兵隊ニ對スル希望

軍事救護法ノ實施ニ關シテハ陸軍ニ在リテハ聯隊區司令官及部隊長海軍ニ在リテハ人事部長等ト地方長官トノ間ニ相互聯絡通報ノ途ヲ講シ遺憾ナキヲ期シツ、アリト雖モ尙不充分ナル點妙カラス即軍人並其ノ遺家族等ノ生活狀況又ハ性狀等ヲ知悉セラル、憲兵隊ニ對シテ軍事救護法ノ圓滿周到ナル施行ニ關シ援助ヲ乞ハムトスル所以ナリ

(一)救護ノ公平ナリ期スル爲

救護ヲ公平ナラシムルコトハ最モ肝要ノコトニシテ法實施以後本省ニ於テモ訓示、通牒、協議會、視察等ニ依リテ銳意督勵ヲ加ヘ居レルカ今尙傷病兵等ヨリ取扱上ノ不公平ヲ訴フルモノアリ、而ルニ右ハ單ニ取扱主任者ノ責ノミナラス被救護者ニシテ救護ヲ出願スル際シ又ハ取扱主任者カ實地調査ノ爲其ノ家庭ニ臨ミタル際其ノ收入支出及財產等ニ關シ不實ノ陳述ヲ爲ス者アリ、爲ニ此等ノ者ト正直ニ陳述スル者トノ間ニ不公平ヲ生スルコトアリ此等ニ對シ救護ノ公平ナリ期セム爲ニハ平素彼等ノ生活狀況性狀等ヲ知悉セラル、憲兵隊援助ヲ切ニ希望ス

(二)救護ノ周到敏速ナリ期スル爲

イ、救護ヲ要スル者アリト認メラレタル場合ハ直接地方廳ト交渉セラレタリ從來憲兵隊ニ於テ調査ノ結果救護ヲ要スト認メラレタルトキハ之ヲ憲兵司令部ニ報告シ司令部ヨリ內務省ニ通報アリ內務省ヨリ地方長官ニ調査方通牒スル等非常ニ手数ヲ要シ爲ニ益々救護ヲ遅延セシムルノ虞アリ加之或ハ救護ノ要否ニ就テ地方廳ト見解ヲ異ニシ爲ニ延イテ或ハ感情ノ疎隔ヲ來スコト無シトモ限ラス故ニ今後ハ如斯場合ニ於テハ直接地方當局ニ交渉セラレ敏速ニ救護ノ行ハル、様配慮セラレ度シ

因ミニ出征或ハ入營軍人ノ感想トシテ司令部ヘ報告セラル、モノ、中軍人カ出身町村其ノ他當局者等ニ對スル不平アリ司令官ヨリノ通牒ニ依リ地方長官ヲシテ取調ヘシムルニ事實ニ齟齬スルコト屢々アリ此ノ如キ事實モ前同様可成地方廳ニ直接好意の注意ヲ與ヘラレ適當ニ解決セラレタキモノナリ

ロ、地方廳ノ救護取扱振テ豫メ憲兵隊ニ於テ承知シ置カレ度シ

救護ノ程度方法等ハ住所地地方長官ノ決定スルモノナルコト既ニ述

ヘタル所ノ如シ即チ地方廳ニ於テハ一定ノ標準規定等ヲ設ケテ救護ヲ行ヒ居レリ憲兵隊ニ於テ豫メ此等地方廳ノ規定ヲ承知シ置カレ傷病兵戰病死者ノ遺家族應召下士兵卒並現役兵ノ家族ノ生活狀況等ヲ調査セラレ若シ當地方廳ノ所定ノ標準ニ照シテ未ダ救護セラレザル者アルヲ發見セラレタルトキハ直ニ地方長官ニ交渉セラレ、様致シ度キモノナリ、從來憲兵司令官ヨリ内務次官宛通報ノ要救護者ニ付地方長官ヲシテ調査セシムルニ往々相當ノ資産収入等アリテ眞實救護ヲ必要トセサル者アリ

ハ、入營並戰時應召ノ如キ救護事務多忙ノ時特ニ援助ヲ望ム
斯ノ如キ際ニハ特ニ意ヲ用ヒテ敏速周到且公平ニ救護事務ヲ取扱フヘキ旨地方廳ニ對シテ指示シ督勵ヲ加ヘツ、アリト雖モ一時ニ多數ノ要救護者ヲ生スル上ニ救護事務ノ外動員徵發送迎等諸般ノ事務輻輳シテ忙殺セラル、爲動モスレハ救護ノ遅延疎漏等遺憾ノ點ヲ生シ易シ此等ノ場合ニ於テ憲兵隊ノ活動ニ依リ救護上援助ヲ得ハ甚ダ好都合ナリ

(一)現役兵ノ歸休除隊ノ場合被救護者ノ生活狀況變化ノ場合等ニ迅速通知方
如斯場合ニ於テハ或ハ救護ヲ廢止シ或ハ其ノ程度方法等ヲ變更セザルヘカラサルモノナリ此等ニ關シテハ素ヨリ取扱主務者ニ於テ相當注意ヲ怠ラサルモノナレトモ時ニ或ハ此等ノ事實ヲ知ルノ遅キコトアリ爲ニ機宜ノ處置ヲ課ルコト無キニシモアラズ憲兵隊ノ周到ナル觀察ノ結果迅速ニ此等ノ事情ヲ地方廳ニ通報セラル、チ得ハ甚ダ好都合ナリ

(二)隣保相扶及軍人後援會愛國婦人會ノ活動等ニモ留意セラレ度シ
救護ノ事ハ最初ニモ述ヘタルカ如ク獨リ軍事救護法ニ依ル國家ノ救助ノミナラス我國古來ノ美風タル隣保相扶軍人後援會愛國婦人會等ノ團

體ノ力ニ俟ツモノ極メテ多シ殊ニ情狀甚ダ惘然ナルモ法規ノ解釋上之ニ其ノ適用ヲ許サ、ルモノアリ如斯モノニ對シテハ專ラ此等ノ力ニ期待セサルヘラス憲兵隊ニ於ルモ一面法ノ規定スル所ヲ理解セラレ他面此等ノ方法ノ存在ニ留意セラレテ救護ノ實績ヲ舉グル上ニ於テ充分ナル援助アラムコトヲ希望ス

軍事救護廢止ノ場合通報ニ關スル件

大正十三年五月十六日
橫人第三三號ノ四〇橫須賀海軍人事部長通報

海軍々人離現役ノ爲軍事救護廢止ノ場合之カ通報ノ要否ニ關シ疑義ヲ有セラルル向モ有之候處右ハ左記海軍次官ヨリ内務次官ヘノ回答ニ依リ其ノ都度御通報ヲ要スル次第ニ有之候當部處理上必要ニ候條今後可然御取計相煩
右通報ス

(左記)

官房三六二〇號ノ二
大正六年十二月十五日

水野内務次官殿

柄内海軍次官

軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

内務省發地第二五二號ヲ以テ照會ノ件了承左記ノ通御取計相成度

一、救護地々方長官ヨリ海軍人事部長ヘ照會ノ際ハ別紙第一號ノ要領ニ準據セラレ度
二、現役兵並應召中ノ下士卒家族ニ對スル救護ノ停止、廢止若ハ其ノ程

〔社會一〇號〕

度減少ノ場合モ亦救護ノ開始ト同様救護地々方長官ヨリ海軍人事部長ヘ通知セラレ度

右回答ス

醫療救護ニ關スル件

大正十二年三月二十六日
東二部第九〇號ノ二社會局第二部長通報

北海道廳長官宛

標記ノ件ニ關シ二月九日東京府知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致置候ニ付御了知ノ上爾後右通報ニ依リ取扱相成候様致度
亥社第四五八號
大正十二年二月九日

東京府知事 宇佐美勝夫

東京府知事印

田子社會局第二部長殿

醫療救護ニ關スル件照會

管下居住傷病兵太田金藏ヨリ別紙ノ通、温泉治療出願有之調査候處其ノ必要アリト認メラレ候ニ付テハ醫療救護トシテ取扱可然尙救護方法トシテハ醫師ノ診斷ニ基キ十週間分ノ最低滯泊料ヲ給與シ後日精算ノ上給與額ニ違セル時ハ過渡ノ分ハ返納セシムルカ或ハ温泉旅館ニ對シ直接之カ費用ヲ仕拂ヒ本人ヘハ交付セサルコト、スヘキヲ取扱上疑義相生シ候間何分ノ御同示得度此段及照會候也

追テ温泉地ハ專門醫ニ選擇セシメ其他善養醫ニ滯泊料等照會中ニ有之候東二部第九〇號
大正十二年三月二十六日

田子社會局第二部長

宇佐美東京府知事殿

醫療救護ニ關スル件回答

標記ノ件ニ關シ二月九日亥社第四五八號ヲ以テ御照會有之候處右ハ身體上ノ生理的故障ヲ除去スル爲ニ温泉入浴ヲ必要トスルニ於テハ醫療救護トシテ取扱フモ差支ナキモノト被認候ヘ共弊害ヲ生スル虞アルヲ以テ將來如斯場合ハ當局ニ豫メ御打合セ相成候様致度
追テ右費用ノ支出ニ關シテハ温泉旅館ト交渉ノ上必要ナル費用ハ精算ノ上直接旅館ニ支拂ヒ取扱上萬遺算ナキ様致度申添候

軍事救護法ニ依ル救護費ニ關スル件

大正十一年三月二十五日
發乙第九九號 社會局長通報

北海道廳長官宛

標記ノ件ニ關シ大正八年七月十九日内務省發乙第二五七號通報左記第一項ニ依リ請求書ハ毎三ヶ月分ノ概算ヲ各其ノ初月ノ前月十日迄ニ提出スルコトニ相成居候處右ハ六ヶ月分ノ概算ヲ各其ノ初月前月十日迄ニ提出スルコトニ改正相成候條十月以降右ニ依リ御取扱相成度
追而軍事救護狀況報告其ノ他ニ關シテハ變更無之ニ付御了知相成度

第七節 水難救護

●水難救護法

明治三十二年三月二十九日
法律第九十五號

改正 明治三十三年三月法律第六六號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水難救護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
水難救護法

第一章 遭難船舶

- 第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ
- 第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滞ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ
- 警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ
- 第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ
- 第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ
- 第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認め又ハ船長ニ惡意アリト認めタル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事

〔社會一〇號〕

〔社會〕

- 第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得
- 市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
- 市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得
- 第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ
- 前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ
- 第十條 船長ハ遭難後遲滞ナク船難報告書ヲ作り市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス
- 市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ
- 市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ
- 一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト
- 二 爆發物、容易ニ燃焼スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト
- 三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

- 前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告示スヘシ
- 遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ
- 船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス
- 一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員
- 二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者
- 三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者
- 四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者
- 五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者
- 第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス
- 一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬
- 二 第六條ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償
- 三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用
- 第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ
- 前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム
- 市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受ケヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引渡ヲ受ケルコトヲ得

左ニ掲ケル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受ケルコトヲ得

一 船員ノ所持品

二 船員及旅客ノ食料

三 運送貨ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物

四 第十七條第二項ニ掲ケル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ

所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須サレトコトヲ得

第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限リ所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニアリテハ其價格ノ十分ノ一其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其價格ノ十五分ノ一其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス

物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

拾得者ハ前項期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受ケルニ因リテ其ノ所得權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、鐵地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タズシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條 本章中船長ニ關セル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條 第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十四條 漂流物及沈没品

漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遲滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以內ノ報酬ヲ受ケルコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ難船報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 一 刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈没品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條 二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

- 第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム明治三十二年七月勅令第三百五十七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行
- 第三十七條 明治三年二月二十九日不閉港場規則、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス
- 第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

水難救護法施行細則

明治三十二年七月二十九日 逕信省令第三十五號

水難救護法施行細則左ノ通定ム

- 第一章 遭難船舶
 - 第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ
 - 一 船舶ノ種類及名稱
 - 二 總噸數又ハ積石數
 - 三 船籍港
 - 四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
 - 五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
 - 六 遭難及救護ノ顛末

- 七 船舶ノ損害
- 八 死傷者ノ氏名
- 九 滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積其荷造ノ種類、簡數、記號及備船者若クハ荷送人ノ氏名若クハ名稱
- 第二條 船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ
- 第三條 船長船難報告書ニ認印ヲ受ケントスルトキハ該報告書ニ通テ差出スヘシ
- 第四條 市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ヲキコトナシ認印スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該役場ニ之ヲ保存スヘシ
- 第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滞ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スルモノトス
- 第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ
- 第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ
- 第八條 地方習慣上ノ賃錢ハ市町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當該地方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ
- 第九條 市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得
- 第十條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

(社會)

第九條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章 漂流物及沈没品

- 第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市町村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到着シタル地ノ市町村長ヲ謂フ
- 第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ
- 第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ説明スヘシ

第三章 公賣

- 第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ
- 第十四條 市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 - 一 物件ノ種類、數量及品質
 - 二 公賣ノ場所及年月日時
 - 三 公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル
- 第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附則

- 第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス
- 第十七條 明治九年十二月第十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第五章 賑恤救護 第七節 水難救護

水難救護法取扱手續

明治三十二年七月二十九日 逕信省訓令第六號

改正 明治三十五年六月逕信省訓令第一號、四三年六月第三號、大正元年一〇月第三號

(社會)

- 水難救護法取扱手續左ノ通定ム
- 第一章 遭難船舶
 - 第一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ招集、物件ノ徵用其他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ限リ救護費用ノ增加セサル様注意スヘシ
 - 第二條 救護ハ人命ヲ先ニシ逐次郵便物、船内書類其他ノ物件ニ及ホスヘシ
 - 第三條 市町村長ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ
 - 第四條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スルモノナルトキハ市町村長ハ事件ヲ認知シタル後遲滞ナク地方官廳ニ左ノ事項ヲ通知スヘシ
 - 一 船舶ノ國籍及名稱
 - 二 遭難ノ事由、場所及年月日
 - 第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者ニ於テ其金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
 - 第六條 救護ヲ爲シタル市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ
 - 一 遭難船舶ノ種類、名稱及積量並ニ外國ノ船舶ナルトキハ其國籍
 - 二 船籍港

- 三 船舶所有者ノ住所、氏名若クハ名稱
- 四 船長ノ氏名並ニ海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其種類及番號
- 五 遭難ノ事由、年月日時及場所
- 六 救護ノ狀況
- 七 救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類、時間、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額及市町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ掲ケタル者アルトキハ其事項
- 八 徵用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若クハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額市町村長ノ定メタル救護費用
- 九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ氏名及住所
- 十 救上ケタル物件ノ種類及數量
- 十一 公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金
- 十二 物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用
- 第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
- 第八條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サントスルモ船長、船舶所有者又ハ其代理人内國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ地方長官ニ申立ツヘシ
- 地方長官ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ
- 第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金錢又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシム

- 第十條 市町村長救護費用ヲ支辨セントスルトキハ之ヲ領收スヘキ者ヲ呼出シテ其金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其金額ヲ送付スヘシ
- 第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ際本ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ逡信大臣ニ差出スヘシ
- 第十二條 市町村長ハ救護事務終了シタルトキハ一箇月以内ニ救護始末書ノ際本ヲ當該地方長官ニ差出スヘシ
- 第十三條 市町村長水難救護法第九條第一項ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ其ノ種類、數量及荷主、船長、船舶所有者等分明ナル場合ニ在リテハ其ノ住所並ニ氏名ヲ直ニ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ通知スヘシ
- 第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈没品ノ件名書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 物件ノ名稱、數量、品質其他必要ナル表示
 - 二 拾得ノ日時及場所
 - 三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時
 - 四 拾得者ノ住所、氏名
 - 五 公告ノ方法公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日
 - 六 物件ノ評價額
 - 七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用
 - 八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額

- 九 所有者ノ住所、氏名
- 十 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ取得額又ハ補給金額
- 第十五條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其氏名ノ項ニ何年何月何日引渡シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ
- 第十六條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受ケヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈没品計算書ヲ調製シ地方長官ヲ經由シテ逡信大臣ニ之ヲ差出スヘシ
 - 一 物件ノ名稱、數量及品質
 - 二 公賣代金
 - 三 公告、保管及公賣ノ費用
 - 四 殘餘又ハ不足ノ金額
- 第十七條 市町村長ハ毎年一回附錄第一號書式ニ從ヒ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ地方官廳ニ差出スヘシ
- 地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル件數表ヲ統計シ同一ノ書式ニ依リテ更ニ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ其年六月三十日マテニ之ヲ逡信大臣ニ差出スヘシ
- 地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル救護始末書ノ際本ニ依リ毎年一回附錄第二號書式ニ從ヒ遭難船舶取扱表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ之ヲ逡信大臣ニ差出スヘシ
- 第十八條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其ノ種類並ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場所並ニ期日ヲ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未済ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ

- 第十九條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ其ノ引渡ヲ受ケヘキコトヲ告知セントスル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ公賣シ又ハ之ニ關シ告知スルコトナク左ノ取扱ヲ爲スヘシ
 - 一 水難救護法第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ公賣セントスル場合ニ於テハ葉煙草ニ在リテハ之ヲ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ、其他ノ物件ニ在リテハ之ヲ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ有價ニテ引渡シ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フコト
 - 二 水難救護法第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ告知又ハ公賣セントスル場合ニ於テハ該物件ヲ無價ニテ前號ノ例ニ準シ引渡スコト
- 第二十條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣セントスル場合ニ於テ該物件政府ノ證票アル製造煙草ナルトキハ之ヲ公賣スルコトナク第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ場合ニ在リテハ有價ニテ、第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ在リテハ無價ニテ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ引渡スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ有價ニテ物件ヲ引渡シタルトキハ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フヘシ
- 第二十一條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當シ且同法ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ第十九條第一號ノ例ニ準シ無價ニテ引渡スヘシ
- 第二十二條 前三條ノ規定ニ依リ物件ヲ專賣官署ニ引渡ス爲メニ要スル運搬費ハ該官署ニ於テ之ヲ負擔ス

大正十二年七月三日
勅令第三百三十二號

朕内務省直轄土木事業ニ従事スル現業員ノ共済組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十年勅令第二百七十七號ハ内務省ノ直轄土木事業ニ従事スル現業員以下ノ現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土木事業従事員共済組合規則

大正十二年七月二十日
内務省令第二十一號

改正 大正一五年二月内務省令第五六號、昭和三年三月第一〇號
土木事業従事員共済組合規則左ノ通定ス

第一章 總則

第一條 本組合ハ大正十二年勅令第三百三十二號ニ基キ之ヲ組織ス

本組合ハ土木事業従事員共済組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務ハ内務次官之ヲ統轄シ土木局長土木出張所長土木試験所長其ノ事務ヲ分掌ス

第三條 土木局長土木出張所長土木試験所長ハ所部ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ従事セシムルコトヲ得

第二章 組合員

第四條 組合員ヲ分テテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ内務省直轄土木事業ニ従事スル現業員以下ノ現業員タル組合員ヲ謂フ

乙種組合員トハ前項ノ現業員ニ非スシテ組合ニ加入シタル者又ハ前項ノ

現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

本令ニ於テ現業員以下ノ現業員ト稱スルハ定備ノ又ハ健康保險法施行令第九條但書ノ規定ニ該當スル職工及傭人(事務傭人ヲ除ク)並現場従務ノ職員ヲ謂フ

第五條 現業員以下ノ現業員ニ採用セラレタル者及非現業員ヨリ現業員ニ轉シタル者ハ其ノ日ヨリ當該甲種組合員ト爲ル

現業員以下ノ現業員ニ非スシテ六月以上在職シ内務次官ニ於テ加入ヲ承認シタル者ハ其ノ翌月ヨリ乙種組合員ト爲ル

前條第三項ニ依ル意思表示ヲ爲シタル者ハ現業員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタルトキヨリ乙種組合員ト爲ル

給料ヲ支給セサル者ハ組合員タルコトヲ得ス

本令ニ於テ規定スル給料中ニハ俸給及給料ヲ包含ス

第六條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ組合ヨリ脱退ス

一 死亡シタルトキ

二 退官又ハ退職シタルトキ

三 土木局長、土木出張所長、土木試験所長以外ノ官廳ニ轉動シタルトキ

四 休職ト爲リタルトキ

五 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ但シ其期間四月内ニシテ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

六 甲種組合員ニ在リテハ現業員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタルトキ但シ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

七 乙種組合員ニ在リテハ加入後三年以上ヲ經過シタル者脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

〔社會一〇號〕

〔社會六號〕

八 前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ

第七條 組合員正當ノ事由ナクシテ二月分以上掛金ノ支拂ヲ遅延シタルトキハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第八條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本令ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第九條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ組合ニ支拂フヘシ但シ錢位未滿ハ之ヲ切捨ツ

甲種組合員 給料月額百分ノ五、五

乙種組合員 給料月額百分ノ十一

乙種組合員ノ掛金ハ本人ノ請求ニ依リ給料月額百分ノ七、五ニ減スルコトヲ得

掛金額ハ特別ノ勞務又ハ臨時ノ事故ニ因リ一時給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ之ヲ増減セス

掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス但シ其ノ月ノ初日ニ於テ掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 掛金額算定ノ標準タル給料ハ日給者ニ付テハ日給ノ三十倍年俸者ニ付テハ年俸ノ十二分ノ一ヲ以テ給料月額ト看做ス

第十一條 掛金ハ毎月給料受領ノ日ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

給料ヲ月數回ニ受領スル場合ハ其ノ月分第一回受領ノ日ニ於テ掛金ノ金額ヲ支拂フヘシ

給料ノ支給ヲ受ケサル月ノ掛金ハ次回給料受領ノ際ニ支拂フコトヲ得

給料ノ受領額カ掛金額ニ達セサルトキ亦同シ

第四章 給付

第六節 共済 保險 第一節 共済組合

第十二條 給付ハ左ノ七種トス

一 公傷病給付

二 私傷病給付

三 産婦給付

四 罹災給付

五 脱退給付

六 遺族給付

七 葬祭給付

給付ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ遺族給付ヲ爲ス場合ハ脱退給付ヲ爲サス

第九條第二項ノ規定ニ依リ掛金ノ減額ヲ爲シタル乙種組合員ニ對シテハ第五條乃至第七條ノ給付ニ限リ之ヲ爲ス

障害年金ト脱退年金ト併給スル場合ニ於テハ其ノ給付總額ハ給料年額ニ止ム

第十三條 給付額算定ノ標準タル給料ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ハ脱退ノ月ノ掛金ノ標準タル給料ニ依ル

組合員月ノ中途ニ於テ脱退シタルトキハ給付ノ算定ニ付テハ其ノ月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

給付ノ算定上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

ハ年金給付ノ期間ハ其ノ月ヲ以テ開始ス

第十五條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ其ノ前

三月分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ニ於テハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十六條 傷疾、疾病又ハ死亡ニ基因スル給付ハ直接ニ療養ノ給付ヲ爲ス

第十七條 給付ヲ爲ス場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ支給

第十八條 給付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由發生ノ後還滞ナク之ヲ申告ス

第十九條 本令ニ依リ給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於

一 陸海軍ニ徴集又ハ召集セラレタルトキ

二 法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養

三 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

前項第一號ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ期間公傷病手當金又ハ私傷病手

當金ヲ給付セズ

第一項第二號ニ該當スル者ニ給付スル公傷病手當金又ハ私傷病手當金ニ

付テハ療養ノ爲病院ニ收容スル場合ノ規定ヲ準用ス

第一項第三號ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ期間公傷病手當金若ハ私傷病

手當金ノ給付又ハ産婦給付ヲ爲サス

第二十條 組合ハ必要アリト認ムルトキハ給付ヲ受ケル者ノ診斷ヲ行フコ

トヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ給付ノ全部又

ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第二十一條 故意ニ組合員、年金受領者又ハ給付受領ノ先順位ニ在ル者ヲ

死ニ致シタル者ニ對シテハ給付ハ之ヲ爲サス

第二十二條 組合員又ハ組合員タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ事故

ヲ生ゼシメタルトキハ給付ヲ爲サス

組合員故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ其ノ者ニ對シ給付ヲ爲サス

第二十三條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシ

タル者ニ對シテハ組合ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メテ其ノ者ニ給付スヘ

キ私傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ給付セサル旨ノ決定ヲ

爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ経過シタ

ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ決定ハ組合ニ於テ其ノ事實ヲ知リタルトキ還滞ナク之ヲ爲シ本人

ニ通知スヘシ公傷病療養ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期

間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セズ

第二十四條 組合員間事若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫斷ニ關スル

業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ公傷

病手當金又ハ私傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ給付セサルコトヲ得

第二十五條 組合ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル

者ニ對シ之ニ給付スヘキ公傷病手當金又ハ私傷病手當金ノ一部ヲ給付セ

サルコトヲ得

第二十六條 第七條ノ規定ニ依リ脱退シタル者ニ對シテハ脱退給付ヲ

爲サス但シ情狀ニ依リ其ノ一部ヲ給付スルコトヲ得

〔社會六號〕

〔社會六號〕

第二十三條 給付ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ

受ケル權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第二十四條 年金ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ之ヲ給付セサルコ

トアルヘシ

第二十五條 年金ヲ受ケル者六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル

トキハ爾後之ヲ受ケルノ權利ヲ喪失ス

年金ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ

執行中其ノ給付ヲ停止ス

遺族年金ヲ受ケル者前項ニ該當シタルトキハ第四十二條及第四十三條ノ

規定ニ準シ其ノ期間中夫順位ノ者ニ之ヲ給付スルコトヲ得

第二節 公傷病給付

第二十六條 公傷病給付ハ左ノ四種トス

一 公傷病療養

二 公傷病手當金

三 障害年金

四 障害一時金

第二十七條 組合員ノ職務上ノ傷疾疾病ニ關シテハ公傷病療養ノ給付

ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 療養者ノ移送

婚給付受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得
第三十四條ノ六 組合員タリシ者組合ヨリ脱退シタル日後百八十日以内ニ
分娩シタルトキハ組合員トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ産婦給付ヲ受クル
コトヲ得

第五節 罹災給付
第三十五條 組合員ノ住宅水火震災其ノ他非常ノ災厄ニ罹リ財産ニ著シキ
損害ヲ受タラシキハ給料半月分乃至二月分ニ相當スル罹災金ヲ給付
ス

第六節 脱退給付
第三十六條 脱退給付ハ左ノ二種トス
一 脱退年金
二 脱退一時金

第三十七條 組合員組合加入後二十年以上ニシテ年齢五十歳ニ達シ退官退
職シ因テ脱退シタルトキハ終身間脱退年金ヲ給付ス但シ事業上ノ都合ニ
因リ又ハ傷疾疾病ノ爲職務ニ耐ヘサルニ因リ退官退職シ因テ脱退シタル
場合ニ於テハ其ノ年齢ニ拘ラス之ヲ給付ス
脱退年金ノ額ハ給料三月分トシ加入期間二十年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増
ス毎ニ給料三日分ニ相當スル金額ヲ加算ス

第三十八條 組合員脱退ノ場合ニ於テ前條第一項ニ該當セザルトキハ脱退
一時金ヲ給付ス其ノ額ハ第六條第三號乃至第八號ニ該當シ脱退シタルト
キ又ハ事業上ノ都合ニ因リ若ハ傷疾疾病ノ爲職務ニ耐ヘサルニ因リ退官
ルコトヲ得

第三十九條 遺族給付ハ左ノ二種トス
一 遺族年金
二 遺族一時金

第四十條 組合員職務上ノ傷疾疾病ニ因リ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依
ル遺族年金及給料三月分ニ相當スル遺族一時金ヲ給付ス
一 加入後二十年未滿ノトキ 給料三月分

二 加入後二十年以上ノトキ 給料四月分

前項ノ遺族一時金ハ第四十一條乃至第四十三條ノ規定ニ依リ最初遺族年
金ヲ受クヘキ者ニ限リ之ヲ給付ス

第四十二條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ終身間之ヲ給付ス但シ夫ニ之ヲ
給付スルハ不具廢疾又ハ老衰ノ爲勞務ニ耐エサル場合ニ限ル

配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻シタルトキハ年金ヲ受クル權利ヲ喪失ス
第四十三條 配偶者ナキトキ又ハ年金ヲ受クル配偶者死亡シ若ハ其ノ權利
ヲ喪失シタルトキハ年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給付ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受クヘキ遺子ハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其
ノ家ニ在ル年齢二十年未滿ノ未婚者ニ限ル但シ胎兒ハ組合員死亡ノ當時
其ノ家ニ在リタルモノト看做ス

遺子數人アルトキハ民法第九百七十條ニ定ムル順位ニ依リ之ヲ給付ス
年金ヲ受クル遺子死亡シ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ前項ノ順位ニ
依リ順次之ヲ轉給ス

第四十四條 年金ヲ受クヘキ遺子ナキトキ若ハ年金ヲ受クル遺子其ノ權利
ヲ喪失シタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父母又ハ
祖父母ニ父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給付スルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 組合員職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキハ遺族一時金ヲ給
付ス
前項遺族一時金ノ額ハ組合加入後二十年以上ノ者ニ付テハ第三十七條ノ
規定ニ準シ算出シタル年金額ノ六年分トシ組合加入後二十年未滿ノ者ニ
付テハ第三十八條ノ規定ニ準シ算出シタル金額トス但シ給料三月分ニ相
當スル金額ヲ下ラス

退職シ脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ算出シタル金額、其ノ他ノ事由
ニ依リ脱退シタルトキハ其ノ十分ノ八トス但シ私傷病療養及私傷病手當
金ノ給付(昭和三年三月以前ノ事)ノ合計額ヲ加入月數(昭和三年三月以
前ノ月數ヲ除ク)ニ依リ算出シタル額トキハ其ノ超過額ノ二分ノ一ニ相當スル
金額ヲ控除ス

一 甲種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額(昭和二年以後ノ掛金ニ付テハ)
ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘數ヲ乘シタル金額
乙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ九分ノ五(昭和二年以後ノ掛
金ノ十一)ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘數ヲ乘シ
タル金額但シ第九條第二項ニ依リ掛金ヲ減額シタル期間ハ其ノ掛金
總額ノ七十五分ノ五十分ノ割合ニ依ル

二 甲種組合員ヨリ乙種組合員ト爲リタル者又ハ乙種組合員ヨリ甲種組
合員ト爲リタル者ニ在リテハ第一號ニ依リ掛金總額ト第二號ニ依ル
掛金總額トノ合計額ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘
數ヲ乘シタル金額

三 障害年金ヲ受クヘキ資格ヲ有シ脱退シタル者ニ給付スヘキ脱退一時金ノ
額ハ給料三月分ニ相當スル金額ヲ下ラス

第七節 遺族給付
第三十九條 遺族給付ハ左ノ二種トス
一 遺族年金
二 遺族一時金

第四十條 組合員職務上ノ傷疾疾病ニ因リ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依
ル遺族年金及給料三月分ニ相當スル遺族一時金ヲ給付ス
一 加入後二十年未滿ノトキ 給料三月分

〔社會一〇號〕

シタルトキハ該年金ノ六年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額
ヲ控除シタル殘額ヲ遺族一時金トシテ給付ス但シ障害年金ヲ受クル者死
亡ノ場合ニ於ケル遺族一時金ノ額ハ給料三十月分ニ相當スル金額ヲ超
ス已ニ給付シタル年金額ト合シテ給料二十月分ニ相當スル金額ヲ下ラ
ス

障害年金又ハ脱退年金ヲ受クル權利確定シ未ダ該年金又ハ第三十八條第
二項ノ給付ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シタルトキハ前項ニ準ス

第四十六條 組合員死亡ノ日ヨリ六年内ニ遺族年金ヲ受クル者ナキニ墮リ
タルトキハ該年金六年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額ヲ控
除シタル殘額ヲ遺族一時金トシテ給付ス

組合員死亡ノ當時遺族年金ヲ受クル者ナキトキハ前項ニ準ス
第四十七條 前三條ノ遺族一時金ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ遺族ニ給
付ス其ノ範圍及順位左ノ如シ但シ第四號以下ノ者ニ給付スル場合ハ其ノ
半額トス

一 配偶者
二 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系卑屬
三 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系尊屬
四 戸主

五 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル兄弟姊妹
六 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系卑屬
七 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系尊屬
八 組合員タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者

前項第二號、第五號及第六號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百七
十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ第三號及第七號ニ該當スル者數人
アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス第八號ニ該當スル者數人

アル場合ニ於テ組合員特別ノ意思ヲ表示セザルトキハ其ノ給付ノ額ヲ均分ス

第四十八條 第四十一條乃至第四十三條及第四十七條ニ規定スル遺族ノ順位ハ組合員特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ從フコトアルヘシ

第四十九條 前二條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受クヘキ者ナキトキハ組合員ハ第四十七條第四號以下ノ者ニ給付スヘキ金額以內ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第八節 葬祭給付

第五十條 組合員死亡シタルトキハ組合員ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ其ノ葬祭ヲ行フモノニ對シ葬祭金ヲ給付ス

前項ノ葬祭金ハ左ノ區分ニ依ル但シ其ノ金額二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一 職務ノ爲死亡シタルトキ

給料二月分

二 職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキ

給料一月分

第一項ノ規定ニ依リ給付ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍內ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條ノ二 組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合員タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ其ノ葬祭ヲ行フモノニ對シ葬祭金ヲ給付ス

一 第二十六條ノ三、第二十六條ノ六、第三十條ノ六、第三十四條ノ五又ハ第三十四條ノ六ノ規定ニ依リ公傷病給付、私傷病給付又ハ産婦給付ヲ受ケル期間中ニ死亡シタルトキ

二 前號ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日以後九十日以内ニ死亡シタルトキ

三 組合員ヨリ脱退シタル日以後九十日以内ニ死亡シタルトキ前項ノ葬祭金ハ給料二十日分ニ相當スル金額トス其ノ金額二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第一項ノ規定ニ依リ給付ヲ受クヘキ者ナキ場合ニ付テハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五節 附屬事業

第五十一條 本組合ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済又ハ慰安ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第六章 會計

第五十二條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十三條 本組合ノ財産ハ郵便貯金トシ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ノ應募又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ外財産ノ管理方法ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ内務次官之ヲ定ム

第五十四條 本組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金及脱退一時金ノ給付ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五十五條 本組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得

第五十六條 本組合ハ給付ヲ爲ス爲ニ必要アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第七章 審査會

第五十七條 加入、脱退並給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ内務次官ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條 審査會ハ内務省ニ之ヲ置キ會長及審査委員十名内ヲ以テ之ヲ

〔社會六號〕

〔社會六號〕

組織ス

第五十九條 會長ハ内務次官ヲ以テ之ニ充ツ

審査委員ハ内務省高等官及判任官中ヨリ内務次官之ヲ指定ス

第六十條 審査會ハ内務次官之ヲ召集ス

第六十一條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

會長事故アルトキハ出席審査委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第六十二條 審査會ノ決議ハ審査委員半數以上出席シ出席審査委員過半數ノ同意アルコトヲ要ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六十三條 會長又ハ審査委員ハ自己ノ利害ニ關スル事項ノ議事ニ關與スルコトヲ得ス

第六十四條 審査會ノ決議ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六十五條 審査委員ハ組合ノ重要ナル事項ニ關シ内務次官ノ諮問ニ應ジ又ハ内務次官ニ對シ意見ヲ開陳ス

附則
本令ハ大正十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

加入期間	乗給數付	加入期間	乗給數付	加入期間	乗給數付
一年未滿	一、〇〇	十三年未滿	一、三二	二十五年未滿	一、七二
二年未滿	一、〇〇	十四年未滿	一、三五	二十六年未滿	一、七六
三年未滿	一、〇〇	十五年未滿	一、三八	二十七年未滿	一、八〇
四年未滿	一、〇九	十六年未滿	一、四一	二十八年未滿	一、八四
五年未滿	一、一一	十七年未滿	一、四四	二十九年未滿	一、八八

六年未滿	一、一四	十八年未滿	一、四八	三十年未滿	一、九三
七年未滿	一、一六	十九年未滿	一、五一	三十一未滿	一、九七
八年未滿	一、一九	二十年未滿	一、五四	三十二年未滿	二、〇二
九年未滿	一、二一	二十一年未滿	一、五八	三十三年未滿	二、〇六
十年未滿	一、二四	二十二年未滿	一、六一	三十四年未滿	二、一一
十一年未滿	一、二七	二十三年未滿	一、六五	三十五年未滿	二、一六
十二年未滿	一、三〇	二十四年未滿	一、六九		

陸軍作業廳現業員ノ共済組合ニ 關スル件

大正八年四月一日
勅令第八十號

陸軍作業廳現業員ノ共済組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 陸軍作業廳所屬ノ職員以下ノ現業員ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ
相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス
第二條 陸軍作業廳以外ノ陸軍部隊所屬ノ職員以下ノ現業員ハ陸軍大臣ノ
定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得
第三條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當
ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス
第四條 陸軍大臣ハ陸軍部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコト
ヲ得
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍共済組合規則

大正十五年九月十六日
陸軍省令第十八號

改正 昭和二年二月陸軍省令第三號
陸軍共済組合規則左ノ通改正ス
陸軍共済組合規則
第一章 總則
第一條 本組合ハ大正八年勅令第八十號ニ基キ之ヲ組織ス
第二條 本組合ハ陸軍共済組合ト稱ス
第三條 本規則ニ於テ廳長トハ陸軍大臣ノ直轄部隊ニ在リテハ當該長官、
第六條 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

【社會一〇號】

參謀總長又ハ教育總監ノ直轄部隊ニ在リテハ參謀總長又ハ教育總監ノ指
定スル部長、東京警備司令部ニ在リテハ當該副官、師團又ハ軍ニ在リテ
ハ當該經理部長ヲ謂フ

第四條 本組合ノ事務ハ陸軍次官之ヲ統轄シ組合員所屬ノ各廳長之ヲ掌理
ス
第五條 各廳長ハ部下職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
第六條 本規則ニ於テ期間ノ計算ハ民法第一編第五章ノ規定ニ依ル但シ組
合員ノ組合加入年月數ノ計算ニ付テハ加入ノ月ヨリ起算シ脱退ノ月ヲ以
テ終ル

第二章 組合員

第七條 組合員タルヘキ現業員ハ左ノ各號ニ依ル但シ六十日以内ノ期間ヲ
定メテ使用スル者(引續キ所定ノ期間ヲ超エテ使用スルニ至リタル者ヲ
除ク)及使用期間ノ定オク勞務供給契約ニ基キ若ハ試用シ又ハ日々
雇傭スル者(引續キ三十日ヲ超エテ使用スルニ至リタル者ヲ除ク)ハ此ノ
限ニ在ラス

一 陸軍職工規則ノ適用アル部隊及軍馬補充部所屬ノ職員、職工及傭
人

二 前號以外ノ部隊所屬ノ現業ニ從事スル職員、職工及傭人
前項第二號現業ノ種類ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 新ニ現業員ト爲リタル者ハ採用ノ當日(第九條第一項第二號ニ掲
クル事項ニ該當シ休務中ノ者ニ在リテハ出勤ヲ命セラレタル日)ヨリ當
然組合員タルモノトス

但シ戰時事變ニ際シ動員又ハ編成シタル部隊ニ採用セラレタル者ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 組合員ハ左ノ場合ニ限り組合ヨリ脱退ス

一 履備ヲ解カレタルトキ
 一 陸海軍ニ徴集セラレ又ハ戦時事變ニ際シ召集セラレ又ハ戦時事變ニ際シ動員若ハ編成シタル部隊ニ配屬セラレタルトキ
 三 死亡シタルトキ

四 第七條ニ規定スル現業員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ
 組合員ニシテ官ノ都合(處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因ルモノヲ除ク)ニ依リ履備ヲ解カレ又ハ前項第二號ニ該當シ脱退シタル者爾後再ヒ陸軍部内ノ他處ニ於テ履備セラレ又ハ徵集、召集若ハ配屬ノ事由止ミ脱退ノ當月又ハ翌月中ニ新ニ組合員タリ得ヘキトキハ本人ノ希望ニ依リ特ニ脱退者トシテ取扱ハス前後繼續シテ組合員ト爲スコトヲ得

第一項第一號又ハ第四號ニ該當シ脱退シタル者ニシテ脱退ノ日前一年内ニ於テ百八十日以上組合員タリシモノ又ハ脱退ノ際引續キ六十日以上組合員タリシモノハ本人ノ希望ニ依リ準組合員トシテ繼續シテ組合員ニ加入セシメ第四章ノ規定ニ準シ醫療ノ給付ヲ爲シ、療養給付金、分焼給付金及死亡給付金丙號ニ限リ之ヲ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ準組合員タルノ資格ヲ失フモノトス

一 準組合員トシテ繼續シテ組合員ニ加入シタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ
 二 掛金ヲ拂込ムヘキ期限後十日以内ニ拂込マサルトキ
 三 再ヒ組合員ト爲リタルトキ
 四 別ニ健康保險法ニ依ル被保險者ト爲リタルトキ
 五 死亡シタルトキ
 準組合員タラムトスル者ハ脱退ノ日(第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ脱退後尙組合員ヨリ給付ヲ受クル者ニ在リテハ該給付ヲ取クルコトナキニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ廳長ニ申請スルヲ要ス但シ廳長ニ於

テ該期間内ニ申請シ得サリシ已ムヲ得サル事由アリト認メタルモノニ付テハ該期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得
 第十條 組合員ハ本規則ニ規定スル給與ヲ受クルノ外本組合ニ對シ何等ノ給與ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 政府給與金及掛金
 第十一條 (削除)
 第十二條 組合員ハ別表第一號ニ依リ加入ノ月ヨリ脱退當月迄毎月掛金ヲ拂込ムヘシ
 準組合員ハ準組合員タル期間(療養給付金ヲ受クル期間ヲ除ク)掛金トシテ一日ニ付脱退當時ノ日給額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ拂込ムヘシ但シ掛金拂込時ニ於ケル掛金額ノ單位ハ四拾五入シ錢位ニ止ムルモノトス

第十三條 掛金ハ毎月給料支給ノトキ拂込ムヘシ但シ給料ヲ毎月數回二分チ支給スル場合ニ於テハ第一回支給ノトキ掛金ノ全額ヲ拂込ムモノトス
 給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ其ノ受ケル給料額ニシテ掛金ノ額ニ滿タサルトキハ次回支給ノトキ拂込ムヘシ但シ給料ヨリ拂込ムコト能ハサル場合ニ於テハ該給付金支給ノ際ニテ拂込ムモノトス
 給料ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金額ヲ改定ス
 準組合員ノ掛金ハ毎月末日迄ニ前月ノ分ヲ拂込ムモノトス

第四章 給付
 第十四條 給付ノ種類左ノ如シ
 障害給付金
 醫療ノ給付
 療養給付金

【社會一〇號】

【社會七號】

分焼給付金
 死亡給付金 〔甲號 乙號 丙號〕
 特症給付金
 脱退給付金
 勤續給付金
 罹災給付金
 家族弔慰金
 葬料

第十五條 給付ヲ受ケヘキ事由併發シタルトキハ當該各種ノ給付ヲ併給ス
 第十六條 組合員業務ノ爲傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ治癒後仍身體ニ障害ヲ存スルトキハ其ノ程度ニ應シ別表第二號ニ依リ障害給付金ヲ給ス
 身體ノ障害程度ニシテ恩給法施行令第二十四條ノ第二項程度以上ノ者ニ給スヘキ障害給付金ハ本人ノ選擇ニ依リ一時金又ハ終身年金ヲ給スルモノトス但シ第三項以下ノ障害程度ニ應スル障害給付金ヲ受ケタル者ニシテ第四項ノ規定ニ依リ第二項程度以上ノ項症ニ該當スルニ至リタルモノニ給スヘキ障害給付金ハ一時金トス
 障害給付金ハ脱退スル者ニ在リテハ其ノ際、引續キ加入シ居ル者ニ在リテハ症狀固定ノ際症項査定ノ上之ヲ給ス但シ脱退ノ際症項査定ノ機ニ到達セザル者ニシテ第二十一條ノ規定ニ依リ醫療ノ給付又ハ療養給付金ヲ受ケヘキモノニ在リテハ其ノ支給ヲ受クルコトナキニ至リタル際症項査定ノ上之ヲ給スルモノトス

前項ノ障害給付金ヲ受ケタル後當該傷病重症ニ趨キ又ハ當該傷病ニ基因シ既ニ受ケタル障害給付金ニ應スル項症ヨリ上級ノ項症ニ該當スルニ至リタル者ニ在リテハ脱退前又ハ脱退後一年内ノ期間ニ限リ新ニ症項査定

ノ上新項症ニ應スル給付金ト既ニ受ケタル給付金トノ差額ニ相當スル金額ヲ障害給付金トシテ給ス但シ第二項ノ規定ニ依リ年金ヲ受クル者ニ在リテハ上級ノ項症ニ該當スルニ至リタルトキ以後ニ於テ支給スヘキ分ヨリ其ノ年金額ヲ改定ス

第十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ終身年金タル障害給付金ヲ受クル者五年分ノ年金受領ニ先チ死亡シタルトキ又ハ六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ當該年金額ノ五倍ニ相當スル金額ト既ニ給シタル年金總額トノ差額ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ特ニ其ノ遺族又ハ本人ニ給シ爾後年金ノ給付ヲ打切ルモノトス但シ同條第四項ノ規定ニ依リ年金額ノ改定ヲ受ケタル者ニ付テハ死亡又ハ處刑當時ノ年金額ニ既ニ支給済ノ年數(端月數ハ之ヲ年ノ小數ニ換算ス)ト五年トノ差年數ヲ乘シタル額ニ相當スル金額トス

第十八條 第十六條ノ規定ニ依リ障害給付金ヲ給セラレヘキ者ニシテ義眼、義肢又ハ「コルセット」ヲ必要トスルモノニハ特ニ之ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ義眼、義肢又ハ「コルセット」ヲ給セラレタル者ハ脱退前又ハ脱退後一年内ノ期間ニ限リ之ヲ修理ヲ請求スルコトヲ得但シ該修理ニ要スル費用ハ總テ組合ニ於テ支辨スルヲ例トス

第十八條ノ二 組合員業務ノ爲傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ身體ニ障害ヲ貽シ職業ノ再教育ヲ要スル者ハ本人ノ希望ニ依リ銚銜ノ上往復日數ヲ除キ概ネ一年ヲ限度トシ陸軍次官ノ指定スル官又ハ公私ノ施設ニ派遣シ教育

ヲ受ケシムルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ給與スヘキ義眼、義肢等ノ製作又ハ其ノ使用法訓練ノ爲必要アル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル者ニハ其ノ往復ノ船車料及派遣期間滞在ノ食費實費並第二十條ノ規定スル療養給付金ヲ給ス但シ當該傷病ニ關シ既ニ障害給付金ヲ受ケタル者ニ付テハ療養給付金ハ之ヲ給セス

第十九條ノ規定ニ依リ給付セラルル者ニ付テハ一曆年ヲ通シ百八十日ヲ超エサル期間(百八十日ヲ超エ尙療養給付金ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケル期間)ニ限ル

前項ノ場合廳長ニ於テ醫療上必要アリト認メタルキハ陸軍職工規則第五十條及第五十一條ノ規定ニ依リ診療施設若ハ各廳監督ノ下ニ在ル之ニ準スヘキ施設又ハ組合ノ指定シタル病院ニ收容スルコトヲ得

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ本條ノ給付ハ之ヲ爲サス

第十九條ノ二 前條第一項醫療ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察
 - 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
 - 三 處置、手術其ノ他ノ治療
 - 四 看護
 - 五 組合員ノ移送
- 前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合又ハ豫メ廳長ノ承認ヲ受ケタル場合若ハ廳長ニ於テ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用ハ一回二十圓ヲ以テ限度トス
- 第一項第四號及第五號ノ給付ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第十九條ノ三 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ第十九條第二項ノ規定スル診療施設ニ就キ之ヲ受ケシムルモノトス

緊急ノ場合又ハ廳長ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師又ハ病院ノ中不人ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受ケシムルコトヲ得但シ第十九條第二項ノ規定ニ依リ病院ニ收容シタルキハ此ノ限ニ在ラス

組合員前項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ病院ヲ選定シタルキハ廳長ニ於テ承認シタル場合ヲ除クノ外同一ノ傷病又ハ疾病ノ醫治ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十九條ノ四 前條ニ規定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ於テ處方箋ヲ交付シタルキハ組合ノ指定シタル藥劑師ノ中組合員ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受ケシムルモノトス

第十九條ノ五 左ノ場合ニ於テハ醫療ノ給付ニ代ヘ醫療費ヲ給ス

- 一 組合ニ於テ醫療ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
- 二 組合員力廳長ノ承認ヲ受ケ第十九條ノ三第一項又ハ第二項ノ規定スル以外ノ醫師、齒科醫師又ハ病院ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ
- 三 組合員力緊急ノ場合ニ於テ第十九條ノ三第一項又ハ第二項ノ規定スル以外ノ醫師、齒科醫師、病院其ノ他ノモノノ應急手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請ニ對シ廳長之ヲ承認シタルトキ
- 四 前各號ノ外廳長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二十條 組合員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ休業中ノモノニハ療養給付金ヲ給ス

- 一 業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者
- 二 業務ノ爲ニ非スシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ四日

〔社會七號〕

〔社會七號〕

以上休業ヲ承認セラレタル者

- 三 分焼前後就業スルコト能ハス休業ヲ承認セラレタル者

前項ニ依リ給スヘキ療養給付金ノ支給期間及支給額ハ左ノ各號ノ區分ニ依ル

- 一 第一號該當者 休業全期間、一日ニ付給料十分ノ八
- 二 第二號該當者 三日ヲ超エタル休業期間(一曆年ヲ通シ百八十日ヲ超ユルヲ得ス)、一日ニ付給料十分ノ七
- 三 第三號該當者 分焼前四週間及分焼後六週間以内ニ於ケル休業期間、一日ニ付給料十分ノ七

休業中給料ノ全部又ハ一部ヲ受ケル者ニシテ其ノ受ケル給料額前項ノ區分ニ依リ療養給付金ノ額ヨリ多額ナルモノニハ療養給付金ハ之ヲ給セス但シ其ノ少額ナルモノニハ療養給付金ノ額ト其ノ受ケル給料額トノ差額ニ相當スル額ヲ療養給付金トシテ給ス

第二十條ノ二 前條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ニシテ第十九條第二項又ハ第二十二條第二項ノ規定ニ依リ病院又ハ産院ニ收容セラレタル場合又ハ他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル場合ニ於ケル療養給付金ノ支給額ハ前條第二項ノ規定ニ拘ラス特ニ二日ニ付給料十分ノ五トス但シ入院前ヨリ當該組合員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者三人以上アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲障害給付金ヲ受ケヘキ者ニシテ第十六條第三項ノ規定ニ依リ脱退ニ際シ障害給付金ノ支給ヲ受ケザリシ者ニ在リテハ脱退後雖モ尙勞務ニ服シ得サル期間第十九條及第二十條第一項第一號ニ該當スル者ニ給スヘキ醫療ノ給付又ハ療養給付金ヲ給スルコトヲ得但シ當該傷病ニ關シ療養開始後三年ヲ經過スルモ尙治療セサル者ニ對シテハ本條ノ給付打切時ニ於ケル症狀ニ於テ症項

査定ノ上別表第二號ニ依リ障害給付金ヲ給シ其ノ症狀尙症項査定ノ機ニ到達セサル者ニ對シテハ別表第二號ノ第二項症程度ノ者ニ給スヘキ障害給付金ヲ給シ爾後本條ノ給付ヲ打切ルモノトス

第二十條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ニシテ脱退ノ際現ニ醫療ノ給付又ハ療養給付金ヲ受ケタルモノニハ第二十條第二項各號ノ區分ニ依リ期間以内ニ於テ脱退後雖該給付ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 組合員分焼シタルトキ又ハ組合員タリシ者脱退後百八十日以内ニ分焼シタルトキハ分焼給付金トシテ二十四日ヲ給ス

廳長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ組合員又ハ組合員タリシ者テ産院ニ收容シ又ハ組合ノ費用ヲ以テ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル場合ニ於テハ第一項ノ分焼給付金ハ十圓トス

第二十三條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタルトキハ左ノ區分ニ從ヒ別表第三號ニ依リ死亡給付金ヲ給ス

- 甲 組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲死亡シタルトキ及組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ第二十一條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケル期間又ハ脱退後一年以内ノ期間ニ於テ當該業務上ノ傷病ニ基因シ死亡シタルトキ
- 乙 組合員又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケル者業務ノ爲ニ非スシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ
- 丙 組合員タリシ者脱退ノ翌日(脱退後引續キ組合ヨリ給付ヲ受ケル者ニ在リテハ該給付ヲ受ケルコトナキニ至リタル日)ヨリ九十日以内ニ死亡シ前二號ノ一ニ該當セザルトキ

障害給付金ヲ受ケタル組合員又ハ組合員タリシ者其ノ障害給付金支給ノ原因ト爲リタル當該傷病ニ基因シ前項甲號ニ該當シタルトキハ死亡給付

金ハ之ヲ給セス但シ既ニ受ケタル障害給付金ノ金額死亡給付金甲號ノ金額ヨリ少額ナルトキニ限り其ノ差額ニ相當スル金額ヲ特ニ死亡給付金トシテ給ス

第二十四條 組合員肺結核、喉頭結核又ハ癩ニ罹リ公衆衛生上ノ必要ヨリ雇傭ヲ解カレタルトキハ別表第四號ニ依リ特給給付金ヲ給ス但シ當該疾病ニ因リ障害給付金ヲ受ケル者ニハ本條ノ給付金ハ之ヲ給セス

第二十五條 組合員脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ金額ヲ脱退給付金トシテ給ス

一 加入後勤続五年以上ノ者ニハ既ニ拂込ミタル掛金總額ト其ノ五十分ノ一ニ加入後ノ勤続年數(端月數ヲ除ク)ヲ乘シタル額トノ合算額ニ相當スル金額

二 加入後勤続五年未滿ノ者ニハ既ニ拂込ミタル掛金總額ニ相當スル金額ニ依リ勤続給付金ヲ給ス

第二十六條 組合員加入後十年以上勤続シテ脱退シタルトキハ別表第五號ニ依リ勤続給付金ヲ給ス
官ノ都合ニ依リ雇傭ヲ解カレタル者(處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因ル者ヲ除ク)其ノ雇傭ヲ解カレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ組合員ト爲リタル場合ニ於テハ前項給付金ノ算出ニ關スル勤続年數ノ計算ニ付テハ前後ノ勤続年數ヲ通算スルコトヲ得但シ前ニ脱退シタル際既ニ勤続給付金ヲ受ケタル者ニ給スヘキ勤続給付金額ハ別表第五號ノ金額ヨリ前ニ給シタル勤続給付金額ヲ控除シタル額トス

前項ノ規定ハ第九條第一項第二號ニ該當スル者其ノ徵集、召集又ハ配屬ノ事由止ミタル日ヨリ一年內ニ再ヒ組合員ト爲リタル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

第二十七條 組合員ニシテ本人住家ノ火災、水災又ハ震災其ノ他非常ノ災厄ノ爲特ニ經濟上ノ扶助ヲ必要トスルトキハ罹災直後ノ經濟事情ヲ考慮

シ五十圓以内ノ罹災給付金ヲ給ス

第二十八條 組合員ニシテ其ノ配偶者又ハ直系尊屬若ハ卑屬ノ死亡シタルトキハ別表第六號ニ依リ家族弔慰金ヲ給ス

前項ノ死亡者ハ組合員ト同一ノ戸籍内ニ在ル者ニ限ル但シ同一ノ戸籍内ニ在ラサルモ其ノ死亡當時現ニ組合員ト同居シ且其ノ收入ニ依リ其ノ生計ヲ維持シタル者ハ特ニ之ヲ組合員ト同一ノ戸籍内ニ在ル者ト看做ス

第三十二條 但書ノ規定ニ依リ贈長ニ豫告シタル内職ノ夫婦關係ニ在ル者ハ第一項ノ適用ニ付テハ特ニ之ヲ組合員ノ配偶者ト看做ス

第二十九條 組合員ニシテ第二十七條ニ規定スル災厄ニ罹リタルトキ又ハ贈長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ當該組合員ノ既ニ拂込ミタル掛金總額以内ノ金額ヲ貸與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ毎年度各贈長ニ貸與シ得ヘキ總額並其ノ貸與利子ハ陸軍次官ノ之ヲ定ム

前二項ノ規定ニ依リ貸與シタル金額ハ月賦ヲ以テ二年以内ニ返済セシムルモノトス但シ脱退ニ際シ尙返済未了ノ金額アルトキハ當該組合員又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ給付金中ヨリ之ヲ控除シ返済ヲ完了セシムルモノトス

第三十條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シ第三十一條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ給付金ヲ受領スヘキ者ナキ場合又ハ給付金ノ請求ナキ場合ニ於テ葬祭ヲ行フ必要アルトキハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ本人ノ受ケヘカリシ給付金額ノ範圍内ニ於テ六十圓以内ノ葬祭料實費ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ葬祭料ヲ給シタル後正當ノ受領者ヨリ給付金ノ請求アリタルトキハ既ニ給シタル葬祭料ニ相當スル金額ヲ當該給付金中ヨリ控除シタル額ヲ給スルモノトス

第三十一條 組合員ヨリ給付金ヲ受領スヘキ資格ヲ有スル組合員又ハ組合員

〔社會七號〕

〔社會七號〕

タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付金ヲ受領スヘキ者ノ順位左ノ如シ

一 配偶者

二 子

三 父、母

四 孫

五 祖父、祖母

第三十二條 前條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲ケル順位ニ依リ其ノ一人ヲ給付金ノ受領者トス但シ組合員又ハ組合員タリシ者ハ遺言又ハ贈長ニ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲ケル者ノ中ヨリ第三十三條ニ規定スル順位ニ拘ラス特ニ其ノ一人又ハ數人ヲ指定シ(數人ヲ指定スル場合ニ於テハ其ノ代表受領者ヲ指定スヘシ)給付金ノ受領者ト爲スコトヲ得

一 家督相続人又ハ戸主

二 兄弟姉妹

三 組合員又ハ組合員タリシ者ノ收入ニ依リ其ノ生計ヲ維持シタル者ニシテ前二號ニ該當セサル者

第三十三條 第三十一條各號及前條第二號ノ一ニ該當スル者ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時之ト同一ノ戸籍内ニ在リ爾後引續キ當該戸籍内ニ在ルコトヲ要ス但シ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時胎兒タル嫡出ノ子出生シタルトキハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時之ト同一ノ戸籍内ニ在リタル者ト看做ス

第三十一條第二號、第四號及前條第二號、第三號ノ一ニ該當スル者數人アルトキハ同順位内ニ在リテハ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ但シ家督相続人ハ最先トス

第三十四條 第三十一條及第三十二條ノ規定ニ依リ給付金受領ノ順位ニ在

ル者ニシテ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ現ニ刑ノ執行中ニ在ルモノ又ハ生死不明ノモノナルトキハ給付金ハ次順位ノモノニ之ヲ給ス但シ次順位ノ者ナキトキハ現ニ刑ノ執行中ニ在ル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレ若ハ刑ノ執行ヲ停止セラレタルトキ、生死不明ノ者ハ其ノ所在分明ト爲リタルトキ之ヲ給スルコトアルヘシ

第三十五條 第十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依リ給付事由ノ生シタル者ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ニ直接關聯スル諸給付ハ之ヲ爲サス但シ脱退給付金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ給付事由ヲ生セシメタルトキ

二 處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因リ雇傭ヲ解カレ脱退シタルトキ

三 故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ給付事由ヲ生セシメタルトキ

四 第三十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘカラサルモノト雖其ノ情狀ニ因リ特ニ全部又ハ一部ノ給付ヲ爲シ又ハ給付金ヲ減額シテ給スルコトヲ得但シ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第三十六條 組合員ヨリ給與ヲ受ケヘキ者其ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ請求セザルトキハ之ヲ給セス但シ該期間内ニ請求シ得サリシバムヲ得サル事由ノ確證アル場合ニ在リテハ情狀ニ因リ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ給スルコトヲ得

第三十七條 本規則ニ規定スル諸給與及貸與金ノ貸與ハ各贈長之ヲ專行ス但シ障害給付金及死亡給付金甲號ノ給與ニ付テハ豫メ陸軍次官ノ裁定ヲ受ケヘシ

第三十八條 給付金計算上給料額ハ別表第一號備考日給額ノ例ニ依リ

考備	一	工場法ノ適用アル工場ヲ有セサル部隊所屬ノ組合員ノ掛金額ハ當分ノ内特ニ本表ニ示ス金額ノ二割二分増トス但シ雇位ハ四拾五入シ錢位ニ止ム	二一以上	二一六	九一以上	八九	四二以上	三六	〇一以上
	二	日給額ハ辭令面給額ヲ基礎トシ臨時ノ事故ニ因リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルモ之カ爲掛金額ヲ増減セス	二二以上	二二九	九七以上	九五	四四以上	三九	二一以上
	三	月給ノ者ハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ日給額トス但シ雇位ハ四拾五入シ錢位ニ止ム	二三以上	二四一	〇三以上	〇二	四七以上	四二	四以上
	四	日給額五圓十三錢以上ノトキハ本表ノ掛金額三圓一四圓ノ間ノ等差ニ依ヒテ其ノ掛金額ヲ定ム	二四以上	二六一	〇四以上	〇八	四八以上	四五	七以上
			二五以上	二六八	〇五以上	一四	四九以上	四七	八以上
			二六以上	二八一	〇六以上	一四	五〇以上	五〇	九以上
			二七以上	三一一	〇七以上	一九	五二以上	五〇	一〇以上
			二八以上	三二一	〇八以上	一九	五三以上	五〇	一一以上
			二九以上	三三一	〇九以上	一九	五四以上	五〇	一二以上
			三〇以上	三三一	一〇以上	一九	五五以上	五〇	一三以上
			三一以上	三三一	一一以上	一九	五六以上	五〇	一四以上
			三二以上	三三一	一二以上	一九	五七以上	五〇	一五以上
			三三以上	三三一	一三以上	一九	五八以上	五〇	一六以上

別表第二號

障害程度	金額
恩給法施行令第二十四條特別項症程度ノ者	給料千五百日分又ハ終身年金給料九月分
同 第一項症程度ノ者	同千三百日分又ハ終身年金給料八月分
同 第二項症程度ノ者	同千日分又ハ終身年金給料七月分

同	第三項症程度ノ者	同九百日分
同	第四項症程度ノ者	同七百日分
同	第五項症程度ノ者	同五百日分
同	第六項症程度ノ者	同三百日分
同	第三十一條第一款症程度ノ者	同二百五十日分
同	第二款症程度ノ者	同二百日分

〔社會七號〕

〔社會七號〕

同	第三款症程度ノ者	同百七十五日分
同	第四款症程度ノ者	同百五十日分
同	第五款症程度ノ者	同百二十五日分
同	第六款症程度ノ者	同百日分
同	第七款症程度ノ者	同八十五日分
同	第八款症程度ノ者	同七十五日分
同	第九款症程度ノ者	同六十五日分
同	第十款症程度ノ者	同五十五日分

別表第三號

種別	金額
甲	給料 千百分
乙	給料 百百分
丙	給料 二十五日分(二十圓ニ滿タサルトキハ二十圓)

第六節 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

三八四ノ一

別表第四號	特給給付金表
給料	九十日分
考備	給料ハ雇備ヲ解カレタル當時ノ給額ニ依ル

別表第五號	勤續給付金表	
勤續	期間	金額
十年以上	十一年未滿	給料五十日分
十一年以上	十二年未滿	同六十日分
十二年以上	十三年未滿	同七十日分
考備	一 十三年以上ハ右例ニ依ヒ一年毎二十日分ヲ加フ	
考備	二 給料ハ脱退當時ノ給額ニ依ル	

別表第六號	家族弔慰金表
死亡者	金額
配偶者又ハ直系尊屬	二十四圓
八歳以上ノ直系卑屬	十五圓
八歳未滿ノ直系卑屬	十圓

陸軍共濟組合規則施行細則

大正八年四月一日 陸軍第十號

大正九年一月陸軍第四號、一〇年七月第五四號、一二年四月第三三號、一三年四月第一六號、一五年九月第一七號、昭和二年二月第六號

陸軍共濟組合規則施行細則

第一章 總則

第一條 本細則ニ於テ支隊長トハ組合員所屬ノ部隊長ニシテ陸軍共濟組合規則以下略稱ス第三條ニ規定スル隊長ノ直轄部隊長並參謀總長、教育總監、師團長及軍司令官ノ直轄部隊長第十九條第二十又ハ廳長若ハ其ノ直轄部隊長ノ所在地ヨリ遠隔セル地ニ在ル部隊長ヲ謂フ
第二條 本細則實施上ニ關スル手續ハ各廳長適宜ニ之ヲ規定スルモノトス
第三條 廳長又ハ支隊長ハ組合員毎ニ第一號様式ノ組合員原票ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記入スヘシ
組合員所屬ヲ轉シタルトキ其ノ原票ハ之ヲ新所屬長ニ轉送スルモノトス
第四條 組合員原票ハ組合員脫退後五年間保存スヘシ但シ組合規則第九條第一項第二號ニ該當スル者ノ原票ハ十年間保存スルモノトス
第五條 政府給與金ハ月割トシ大正八年勅令第八十號ニ基クモノハ毎月一日ニ於ケル組合員總人員ニ對シテ給料總額ニ依リ、昭和元年勅令第五號ニ基クモノハ給付實施額ニ依リ之ヲ算定ス
各廳長ハ毎月十五日迄ニ大正八年勅令第八十號ニ基ク其ノ前月分ノ政府給與金計算書第二號ヲ調製シ之ニ政府給與金算出明細書第三號ヲ添附シ

陸軍省人事局長ニ送付スヘシ
陸軍省人事局長ハ前項ノ政府給與金及昭和元年勅令第五號ニ基ク前月分ノ政府給與金ヲ取纏メ毎月當該支出官ニ請求スルモノトス
第六條 掛金ハ給料支給ノ際當該支給處ニ於テ組合員ノ給料ヨリ控除徵收シ準組合員ノ掛金ハ組合規則第十三條之ヲ組合ノ出納主任ニ交付スルモノトス
第四項ニ定ムル期日迄ニ之ヲ徵收ス

第三章 給付

第七條 廳長ハ給與ニ關スル裁定ヲ支隊長ニ委任スルコトヲ得但シ障害給付金及死亡給付金甲號ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
第七條ノ二 組合規則第十六條第二項ノ年金ハ月割トシ支給事由發生ノ當月ヨリ之ヲ起算シ死亡又ハ六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル月ヲ以テ終ルモノトス
前項ノ年金額ハ之ヲ四分シ六月、九月、十二月及三月ニ於テ當月及前二月分ヲ給ス但シ死亡又ハ處刑ニ因リ年金ノ給付ヲ打切リタル場合ニ於テハ期月ニ拘ハラズ之ヲ給ス
年金受領者ニハ第十一號様式ノ障害年金證書ヲ交付ス
障害年金證書ハ必要ノ場合ニ於テハ之カ呈示ヲ爲サシムルコトアルヘシ
第八條 給付金ノ請求書ハ請求者ヨリ順序ヲ經テ組合員所屬ノ廳長又ハ支隊長ニ提出スルモノトス
組合規則第三十一條又ハ第三十二條ニ規定スル者ヨリ給付金ヲ請求スル場合ニ於テハ組合員ト請求者トノ身分關係ヲ知ルヲ得ヘキ戶籍簿本員又ハ組合員タリシ者ト同一戶籍内ニ在ラサル者ニシテ給付金受領ノ資格ヲ有スル者ニ在リテハ廳内職員又ハ警察官吏ノ身分關係證明書以下同シヲ添附スルコトヲ要ス
第九條 給付金ヲ受ケヘキ事由併發シタルトキハ各種給付金請求書ヲ同時

〔社會七號〕

〔社會七號〕

ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ戶籍簿本ハ重複添付スルコトヲ要セス
第十條 組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ之ヲ現認シタル職員ハ直ニ現認證書ヲ作り之ヲ本人又ハ其ノ遺族ニ交付スルモノトス
第十一條 障害給付金又ハ死亡給付金甲號ヲ受ケムトスル者ハ現認證書ヲ添ヘ第四號様式ノ請求書ニ提出スヘシ
廳長又ハ支隊長ハ前項ノ請求書ニ醫官又ハ組合ノ囑託シタル醫師若ハ齒科醫師ノ調製シタル診斷證書ヲ添付シテ現認證書ニ記シテ又ハ症狀經過ヲ詳記シタル死亡診斷證書ニ添付シ順序ヲ經テ陸軍次官ニ提出スヘシ
陸軍次官ハ陸軍省人事局長及醫務局長ヲシテ之ヲ審査セシメ裁定ソ上第一項ノ請求書一通ヲ廳長ニ返付スルモノトス

第十一條ノ二 組合規則第十八條ニ依リ義眼、義肢又ハ「コレセツト」ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ第四號様式ニ請求書ヲ添付シ請求書ト同時ニ提出スヘシ但シ障害給付金ト同時ニ請求シ得サル已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
第十一條ノ三 組合規則第十八條ノ二ニ依リ陸軍次官ノ指定シタル官又ハ公私ノ施設ニ就キ職業ノ再教育又ハ義眼、義肢等ノ製作又ハ其ノ使用法訓練ヲ受ケムトスル者ハ廳長ニ申出テ其ノ指示ヲ受ケルモノトス
廳長前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ其ノ要否ヲ調査シ派遣セムトスル施設ト直接協議ノ上其ノ許否ヲ決定スルモノトス但シ當該施設トノ協議ハ之ヲ陸軍省人事局長ニ委嘱スルコトヲ得

第一項ノ申出ニ對シ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ派遣ヲ受ケタル當該施設所定ノ命令規則ヲ遵守スルヲ要シ豫メ廳長ノ許可ナクシテ任意ニ其ノ課程ノ修業ヲ中止スルコトヲ得ス
第十二條 緊急ノ場合ニ非スシテ組合規則第十九條ノ三第一項ニ規定スル

診療施設以外ノモノニ付醫務ノ給付ヲ受ケムトスル者ハ廳長又ハ支隊長ノ指示ヲ受ケルモノトス
第十二條ノ二 醫務ノ給付ニ要シタル費用ハ別ニ定ムル所ニ依リ算定シ各廳又ハ各支隊長毎ニ概テ毎月一回取纏メ醫務ノ給付ヲ實施シタル當該施設又ハ醫師、齒科醫師、藥劑師若ハ病院ニ支拂フモノトス
第十二條ノ三 組合規則第十九條ノ五ノ醫療費ヲ受ケムトスル者ハ第四號様式ニ請求書ヲ提出スヘシ
前項ノ醫療費ハ實費トシ廳長ニ於テ組合規則第十九條乃至第十九條ノ四ニ依リ醫務ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシ其ノ範圍内ニ於テ支給額ヲ決定シ第十九條ニ準シ之ヲ支給スルモノトス
第十三條 療養給付金ヲ受ケムトスル者ハ第五號様式ノ請求書業務ノ爲傷病ニ罹リタル者ニ在リテ提出スヘシ
療養給付金ハ數回ニ分テ之ヲ請求スルコトヲ得
第十三條ノ二 分娩給付金ヲ受ケムトスル者ハ市町村長、醫官、醫師又ハ產婆ニ於テ出産又ハ死産ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添附シ第五號様式ニ請求書ヲ提出スヘシ
第十三條ノ三 組合規則第二十二條第二項ニ依リ助産ノ手當ヲ受ケムトスル者ハ廳長又ハ支隊長ニ申出テ其ノ指示ヲ受ケルモノトス
第十四條 死亡給付金乙號又ハ丙號ヲ受ケムトスル者ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡ヲ登記シタル戶籍簿本ヲ添附シ第六號様式ノ請求書ヲ提出スヘシ
第十五條 特定給付金ヲ受ケムトスル者ハ第七號様式請求書ヲ提出スヘシ
第十六條 脫退給付金又ハ勤續給付金ヲ受ケムトスル者ハ第八號様式ノ請求書ヲ提出スヘシ
第十六條ノ二 罹災給付金ヲ受ケムトスル者ハ第八號様式ニ請求書ヲ提

第六章 共済 保険 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

廳長(支廳長)宛

注意 醫療ノ爲メシタル費用ノ支拂ヲ證明スルニ足ル證書類ヲ添付スヘシ

(第五號様式)(半紙大)

療養給付金請求書

休業事由

休業承認日数

療養給付金請求日数

現給料額

右ニ依リ療養給付金請求ス

年月日

住所

所屬職名 氏 名

廳長(支廳長)宛

注意 一 地方醫ノ治療ヲ受ケル者ハ本請求書ニ主治醫ノ調製シタル診斷書ヲ添付スヘシ

二 病院又ハ産院等ニ收容セラレタル者等ニシテ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者三人以上アル場合ニ在リテハ當該事項ニ關シ市町村長又ハ警察官吏等ノ證明書ヲ添付スヘシ

(第五號様式)(半紙大)

分娩給付金請求書

分娩年月日

分娩ノ場所

何年何月何日

何々産院

三八四ノ一〇

何年何月何日

何年何月何日

加入年月日

(脱退年月日)

右ニ依リ分娩給付金請求ス

年月日

(元)所屬職名 氏 名

廳長(支廳長)宛

(第六號様式)(半紙大)

死亡給付金乙號請求書

死亡原因

死亡年月日

死亡當時ノ給料額

右ニ依リ死亡給付金乙號請求ス

年月日

所屬職名 氏 名

故所屬職名 氏 名

故某妻(子)(父)等

請求者 氏 名

住所

原籍地

元所屬職名 氏 名

病症確定年月日

退業年月日

退業當時ノ給料額

何年何月何日

何年何月何日

何 拾 錢

何 拾 錢

付金額ヲ記入スヘシ

(第八號様式)(半紙大)

罹災給付金請求書

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

右ニ依リ罹災給付金請求ス

年月日

所屬職名 氏 名

請求者 氏 名

住所

何 某

何 某

何 歳

父(孫)等

何年何月何日

死亡年月日

死亡者ノ組合員ニ對スル續柄

右ニ依リ家族形慰金請求ス

年月日

家族形慰金請求書

死亡者ノ氏名

死亡者ノ年齢

死亡者ノ氏名

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

罹災年月日

罹災後ノ經濟狀況

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

廳長(支廳長)宛

注意 一 組合員死亡シ遺族ヨリ請求スルトキハ請求者ノ氏名ニ「故某妻」等ト肩書スヘシ

二 組合規則第二十六條第二、第三項ニ該當スル者ニ在リテハ前同ノ加入、脱退年月日、脱退事由並前同脱退ノ際受ケタル給

右ニ依リ脱退(勤続)給付金請求ス

脱退事由

脱退當時ノ給料額

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

加入年月日

脱退年月日

脱退事由

脱退當時ノ給料額

右ニ依リ脱退(勤続)給付金請求ス

年月日

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

加入年月日

脱退年月日

脱退事由

脱退當時ノ給料額

右ニ依リ脱退(勤続)給付金請求ス

年月日

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

加入年月日

脱退年月日

脱退事由

脱退當時ノ給料額

右ニ依リ脱退(勤続)給付金請求ス

年月日

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

住所

所屬職名 氏 名

加入年月日

脱退年月日

脱退事由

脱退當時ノ給料額

右ニ依リ脱退(勤続)給付金請求ス

年月日

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

所要金額
貸與ヲ要スル理由
返済時期
右組合規則第二十九條ニ依リ貸與セラレ度
年 月 日

(第九號様式)(牛紙大)
廳長(支廳長)宛
葬祭料請求書

故所屬職名 氏
何年何月何日
死亡年月日
死亡原因
葬祭ヲ行フ事情
埋葬地
何市何區何町何寺
何 圖

(第十號様式)
廳長(支廳長)宛
葬祭料請求書

原籍地
住所
氏
名
請求者 氏
名

(取扱者印)

給付金額通知書

(故)(元)所屬職名 氏
陸軍共済組合規則ノ定ムル所ニ依リ左ノ通給付金ヲ給ス
一 陣害給付金 何 圖
一 脱退給付金 何 圖
一 勤績給付金 何 圖
一 何々 何 圖
年 月 日
陸軍共済組合

切斷線

給付金受領書
一 金 陣害給付金
一 金 脱退給付金
一 金 何々
右受領ス
年 月 日
(元)所屬職名 氏
名

陸軍共済組合御中
注意 遺族ニ於テ受領シタルトキハ受領者ノ氏名ニ「故某妻」等ト肩書ス
ハシ

(第十一號様式)表

第 號 陣害年金證書

元所屬職 氏
名
〔社會七號〕

金 圖
陸軍共済組合規則ニ依リ陣害給付金トシテ前記ノ年金ヲ終身受ク
ヘキコトヲ認メ本證書ヲ交付ス
年 月 日
陸軍次官 氏
名 圖

裏

本證書ノ年金額ハ之ヲ四分シ毎年六月、九月、十二月及三月ニ於
テ當月及前二月分ヲ支給ス但シ死亡又ハ六年ノ懲役若ハ禁錮以上
ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス
本人六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ
執行中ノ期間ニ應ズル年金ハ之ヲ給セス但シ本人ノ收入ニ依リ生
計ヲ維持スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス
本人五年分ノ年金受領ニ先チ死亡シタルトキ又ハ六年ノ懲役若ハ
禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ當該年金額ノ五倍ニ相當スル
金額ト既ニ支給シタル年金總額トノ差額ニ相當スル金額ヲ一時金
トシテ當該遺族又ハ本人ニ支給ス但シ年金額ノ改定ヲ受ケタル者
ニ在リテハ死亡又ハ處刑當時ノ年金額ニ既ニ支給済ノ年數ハ之ヲ

〔社會一〇號〕

年ノ小數ト五年トノ差年數ヲ乘シタル額トス
ニ換算スト
前項ノ一時金ハ遺族又ハ本人ノ元所屬職ヲ經テ之ヲ請求スヘシ
本證書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出テ原本ヲ請求スヘシ
本人改氏名シタルトキハ本證書及戸籍原本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ヘ
シ
本證書ハ必要ノ場合ニ於テハ何時ニテモ之カ呈示ヲ爲サシムルコ
トアルヘシ

海軍造船造兵事業現業員ノ共済組合ニ關スル件

大正十一年三月二十九日 勅令第六十號

改正 昭和三年六月勅令第一〇九號

朕明治四十五年勅令第十八號海軍造船造兵事業現業員ノ共済組合ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 海軍作業廳所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス
- 第二條 海軍作業廳以外ノ海軍各廳所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得
- 第三條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス
- 第四條 海軍大臣ハ海軍各廳職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍共済組合規則

昭和元年十二月三十日 海軍省令第一號

改正 昭和二年三月海軍省令第五號、四月第八號
海軍共済組合規則左ノ通改正ス

第一章 總則

- 第一條 本組合ハ明治四十五年勅令第十八號ニ基キ之ヲ組織ス
- 第二條 本組合ハ海軍共済組合ト稱シ海軍大臣之ヲ統轄ス
- 第三條 海軍共済組合ニ共済部及健康保險部ヲ置ク
- 第四條 海軍共済組合ニ關スル事務ハ海軍艦政本部長之ヲ掌理シ組合員所屬各廳長之ヲ分掌ス
- 第五條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ部下各廳ニ於ケル組合ノ事務ヲ監督ス
- 第六條 本則ニ於ケル期間ノ計算ニ付テハ民法第一編第五章期間ノ規定ニ依ル
- 第七條 組合員及組合員タリシ者ハ本則ノ定ムル所ニ依リ給付ヲ受ケルノ外海軍共済組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 女子組合員ニハ本則中年金ニ關スル規定ヲ適用セズ
- 第九條 鎮海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部（製圖工場ヲ除ク）、海軍航空本部（製圖工場ヲ除ク）及海軍省建築局所屬ノ組合員ニハ本則中健康保險ニ關スル規定ヲ適用セズ
- 第十條 第二章 組合員及掛金
- 第十一條 明治四十五年勅令第十八號ニ依リ組合員タルヘキ現業員ハ左ノ各廳ニ於ケル職工、傭人及雇員トス
- 第十二條 海軍工廠

【社會一〇號】

【社會八號】

- 三 海軍燃料廠
- 四 海軍艦政本部
- 五 海軍航空本部
- 六 海軍技術研究所
- 七 海軍軍需部
- 八 海軍要港部
- 九 要港部（港務部、軍需部及工作部ニ限ル）
- 十 海軍省建築局
- 十一 海軍建築部
- 十二 鐵夫、臨時使役者、試ミノ雇傭者、給料ノ支給ヲ受ケサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス
- 第十三條 前條ノ現業員ト爲ル者ハ其ノ採用ノ日ヨリ當然組合員ト爲ルモノトス
- 第十四條 組合員ハ共済部掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ支拂フヘシ
- 第十五條 鎮海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部（製圖工場ヲ除ク）、海軍航空本部（製圖工場ヲ除ク）及海軍省建築局所屬以外ノ組合員
- 第十六條 男子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ四十七
- 第十七條 女子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ二十七
- 第十八條 男子組合員掛金中千分ノ二十七ニ該ル金額ハ大正九年勅令第八十號ニ依ル年金給付ノ爲増徴スル掛金トシテ計算ス
- 第十九條 鎮海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部（製圖工場ヲ除ク）、海軍航空本部（製圖工場ヲ除ク）及海軍省建築局所屬ノ組合員
- 第二十條 男子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ五十四
- 第二十一條 女子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ二十七
- 第二十二條 男子組合員掛金中千分ノ二十七ニ該ル金額ハ大正九年勅令第八十號ニ依ル年金給付ノ爲増徴スル掛金トシテ計算ス
- 第二十三條 鎮海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部（製圖工場ヲ除ク）、海軍航空本部（製圖工場ヲ除ク）及海軍省建築局所屬ノ組合員

以外ノ組合員ハ健康保險部掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ支拂フヘシ
大正十五年勅令第二百四十三號健康保險法施行令第三條ニ定ムル標準
報酬日額ノ千分ノ十三ヲ日額トシテ給料支給期間ニ應ジ計算セル金額
但シ第十五條ノ規定ニ依リ繼續シテ組合員ト爲リタル者ニ在リテハ其
ノ倍額

第十一條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間前條ノ掛
金ヲ徵收セズ
一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受ケルトキ及第六十七條ノ規定
ニ該當スルトキ

二 海陸軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタルトキ

三 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ

四 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

五 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第十二條 掛金ハ毎月給料ノ支給ヲ受ケル際ニシテ支拂フヘシ
給料支給ヲ受ケサル月又ハ其ノ受ケル給料ニシテ掛金ノ額ニ滿チサル月
ノ掛金ハ次回支給ノ際ニ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ組合員ノ死亡又ハ脱退ノ爲終ニ支給ヲ受ケヘキ給
料ナク又ハ其ノ受ケル給料カ掛金ノ額ニ滿チサルトキハ之カ爲徵收不能
ト爲リタル掛金ハ之ヲ免除ス

掛金ノ計算ニ付テハ厘以下ハ之ヲ切捨ツ

第十三條 給料ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ共済部掛金ノ額ヲ改
定ス

第十四條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ海軍共済組合ヨリ脱退ス
一 死亡シタルトキ

二 海陸軍ニ徵集、徵募又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ但シ休
業日數十五週間ヲ超エサル場合ヲ除ク

三 第七條ニ定ムル現業員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ

第十五條 前條ノ規定ニ依リ海軍共済組合ニ脱退シタル者ニシテ脱退ノ日
前一年ニ於テ百八十日以上組合員タリシモノ又ハ脱退ノ際引續キ六十
日以上組合員タリシモノハ脱退ノ日(繼續シテ健康保險給付ヲ受ケル者
ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ申請ヲ爲
ストキハ第七條ノ規定ニ拘ラス繼續シテ組合員ト爲ルコトヲ得但シ鐵海
要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場
ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬ノ組合員
タリシ者ヲ除ク

前項ノ規定ニ依リ繼續シテ組合員ト爲リタル者ハ第十條但書ニ依リ掛金
ノミチ支拂ヒ健康保險給付ノミチ受ケルモノトス

鐵海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖
工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬ノ組
合員タリシ期間ハ第一項ニ定ムル組合員タリシ期間ニ之ヲ算入セス

第十六條 前條ノ規定ニ依リ繼續シテ組合員ト爲リタル者左ノ各號ノ一ニ
該當スルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス
一 繼續シテ組合員ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ

二 健康保險部掛金ヲ其ノ納付スヘキ月ノ末日後四十日以内ニ納付セザ
ルトキ

三 再ヒ第七條ノ組合員ト爲リタルトキ

四 別ニ健康保險給付ヲ受ケヘキ資格ヲ取得シタルトキ

五 死亡シタルトキ

第三章 共済給付
第一節 總則

第十七條 共済給付ハ左ノ四種トス
一 公傷病給付
二 私傷病給付
三 脱退給付
四 遺族給付

第十八條 給付ノ事由併發シタルトキハ當該各種ノ共済給付ヲ併給ス

第十九條 共済給付額ヲ給料ニ依リ算出スル場合ニハ給付ノ事由發生シタ
ル當時ノ掛金ノ基準タル給料ニ依リ算定ス但シ脱退直前ニ臨時昇給シタ
ル者ノ共済給付額ハ其ノ昇給前ノ額ニ依ル

第二十條 給付額算定ノ基準タル給料ハ日給ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ三
十分分ヲ以テ一箇月ノ額トシ月額ノ十二倍ヲ以テ一年ノ額トス

月給ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ一日分ノ額トシ月給ノ
十二倍ヲ以テ一年ノ額トス

給付ノ算定上順位ヲ生シタルトキハ一事項毎ニ四捨五入シテ錢位ニ止ム

第二十一條 年金ノ給付ハ脱退ノ翌月(月初日ニ於テ脱退シタルトキハ
其ノ月)ヨリ始メ給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

第二十二條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ其ノ
前三箇月分ヲ支給ス

第二十三條 年金ヲ受ケル者ニハ本人ノ請求ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ利率
年七分(複利トス)ノ割引ヲ以テ一時ニ支給スルコトアルヘシ

一 脱退年金ニ在リテハ脱退後七年以内ニ限リ年金七分以内

二 療養年金ニ在リテハ脱退後五年以内ニ限リ年金五分以内

一時ニ支給シタル年金ニ相當スル年限ヲ經過シタル後ハ前條ノ規定ニ依
リ年金ヲ支給ス但シ第二十五條第三項ニ該當シタル場合ニハ尙其ノ不給
期間ニ對應スル額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

第二十四條 年金ヲ讓渡シ又ハ質入其ノ他ノ擔保ニ供シタルトキハ其ノ支
給ヲ停止シ又ハ之ヲ給セサルコトアルヘシ

第二十五條 年金ヲ受ケル者死別又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ
刑ニ處セラレタルトキハ爾後年金ヲ受ケルノ權利消滅ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタル者ノ既ニ受ケタル年金
ノ額方第四十一條第一項ニ依リ計算シタル金額ニ滿チサルトキハ其ノ差
額ヲ一時金トシテ支給ス

年金ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ
執行中年金ヲ支給セス

第二十六條 年金ヲ受ケル者再ヒ組合員ト爲リタルトキハ其ノ間年金ヲ支
給セス

再ヒ組合ニ加入シタル者再ヒ加入後一年以上ニシテ脱退シタル場合ニ於テ
之ニ脱退給付ヲ支給スル場合ニハ其ノ加入期間ハ組合員ノ申請アリタル
トキニ限リ再加入後ノ期間ヲ從前ノ加入期間ニ加算シテ定ムルモノト
ス

再ヒ組合ニ加入シタル者死亡シタル場合ニ於ケル遺族一時金ハ所定額ノ
外脱退年金ノ七分分ニ相當スル金額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シ
タル金額トス

第二十七條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ共済給付ヲ爲サス但シ
情狀酌量スヘキ者ニ對シテハ海軍大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ
支給スルコトヲ得

一 自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ若ハ故意ニ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡
シタルトキ

二 疾病又ハ負傷ノ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ組合ノ指定シタル者
ノ臨検又ハ診察ヲ拒ミタルトキ

第二十八條 故意ニ組合員、年金受給者又ハ共済給付受給ノ先順位ニ在ル

給付停止シ又ハ之ヲ給セサルコトアルヘシ

給付ノ事由併發シタルトキハ當該各種ノ共済給付ヲ併給ス

給料ニ依リ算出スル場合ニハ給付ノ事由發生シタ
ル當時ノ掛金ノ基準タル給料ニ依リ算定ス但シ脱退直前ニ臨時昇給シタ
ル者ノ共済給付額ハ其ノ昇給前ノ額ニ依ル

給付ノ算定上順位ヲ生シタルトキハ一事項毎ニ四捨五入シテ錢位ニ止ム

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

(社會八號)

(社會六號)

者ヲ死ニ致シタル者ニ對シテハ共済給付ヲ爲サス

第二十九條 左ノ各號ノ場合ニ於ケル加入期間計算ニ付テハ其ノ前後ノ加入期間ヲ通算ス但シ脱退ニ因リ受領シタル共済給付ニ相當スル金額ヲ其ノ再加入後三箇月以内ニ完納シタル場合ニ限ル

一 海陸軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレ脱退シタル者退隊又ハ召集解除ノ日ヨリ七十日以内ニ組合員ト爲リタルトキ
二 部内生徒ヲ命セラレタル爲脱退シタル者學科ヲ終了シ又ハ生徒ヲ死セラレ復歸シタルトキ

第三十條 前條各號ニ掲ケル事由ニ因リ一時脱退スル者其ノ脱退ノ際豫メ復歸ノ意思ヲ表示シタル場合ニ限リ脱退一時金ヲ支給セズ
前項ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ際給付ヲ爲ス
一 死亡シタルトキ
二 官ニ於テ復歸ヲ許可セザルトキ
三 復歸セザル意思ヲ表示シタルトキ
四 復歸セザルコト滿五年ニ及ヒタルトキ

第三十一條 公傷病給付ハ左ノ二種トス
一 療疾年金
二 傷病一時金
第三十二條 療疾年金ハ組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ種別ニ從ヒ終身之ヲ給ス
一 第一等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者又ハ之ニ準スヘキ者
給料百五十日分乃至百八十日分

第三十三條 組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルモ前二條ノ給付ヲ受ケルニ至ラザルモ三年以内ニ當該疾病負傷ニ基圖シ前二條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各條ノ給付ヲ爲ス
前二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者當該疾病負傷ニ基圖シ三年以内ニ更ニ上級ノ給付ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ増給シ年金ニ付テハ組合ニ於テ其ノ事由ヲ認定シタル月ノ翌月(月)初日ニ於テ事由ヲ認めタルトキハ其ノ月)ヨリ増給ス
前項ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ハ脱退ノ翌月(月)初日ニ於テ事由ヲ認めタルトキハ其ノ月)ヨリ之ヲ計算シ該一時金ノ額ニ連スル迄其ノ支給ヲ停止ス

第三十四條 組合員ニシテ職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルモ前二條ノ給付ヲ受ケルニ至ラザルモ三年以内ニ當該疾病負傷ニ基圖シ前二條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各條ノ給付ヲ爲ス
前二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者當該疾病負傷ニ基圖シ三年以内ニ更ニ上級ノ給付ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ増給シ年金ニ付テハ組合ニ於テ其ノ事由ヲ認定シタル月ノ翌月(月)初日ニ於テ事由ヲ認めタルトキハ其ノ月)ヨリ増給ス
前項ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ハ脱退ノ翌月(月)初日ニ於テ事由ヲ認めタルトキハ其ノ月)ヨリ之ヲ計算シ該一時金ノ額ニ連スル迄其ノ支給ヲ停止ス

〔社會八條〕

〔社會六條〕

第三十七條 組合員職務ニ因リニ非スシテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ實際就業スルコト能ハス療養ノ爲八日以上ノ休業ヲ承認セラレ給料ヲ受ケザルトキハ一日ニ付給料日額二分ノ一ニ相當スル療養金ヲ給ス
前項ノ療養金ハ休業八日目ヨリ之ヲ給シ一事業年度ヲ通シ六十三日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 前條ノ規定ノ外海軍要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬以外ノ組合員ニ之ヲ適用セズ

第三十九條 脱退給付ハ左ノ二種トス
一 脱退年金
二 脱退一時金
第四十條 脱退年金ハ組合員組合加入後二十年以上ニシテ年齢四十歳ヲ超エ脱退シタルトキ終身之ヲ給ス但シ不具又ハ重症ノ爲職務ニ堪ヘザルニ因リ脱退シタル場合ニ於テハ其ノ年齢ニ拘ラス之ヲ給ス
脱退年金ノ基準額ハ給料九十日分トシ加入期間二十年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料三日分ヲ加算シタル金額トス

第四十一條 組合員前條ノ年金ヲ受ケルニ至ラスシテ脱退(死亡脱退ヲ含ム)シタルトキハ其ノ共済部掛金總額ニ對シ別表第一號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付率ヲ乘シタル脱退一時金ヲ給ス
加入期間十年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ若ハ職務上以外ノ事由ニ依リ疾病(肺結核又ハ喉頭結核ヲ除ク)負傷ニ因リ脱退シタル者又ハ職務ニ因リニ非スシテ死亡シタル者ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ額トス
一 加入期間三年未滿ノ者 共済部掛金總額ノ十分ノ八

第四十二條 遺族扶助金ハ左ノ四種トス
一 遺族扶助金
二 公傷病遺族一時金
三 私傷病遺族一時金
四 公傷病埋葬金
第四十三條 遺族扶助金ハ療疾年金ノ給付ヲ受ケル者脱退後五年以内ニ死亡シタルトキ又ハ脱退年金ノ給付ヲ受ケル者脱退後七年以内ニ死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給ス
一 療疾年金 年金五年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル殘額
二 脱退年金 年金七年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル殘額

第四十四條 組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキハ給料二年三箇月分乃至二年六箇月分ニ相當スル額ヲ公傷病遺族一時金トシテ遺族ニ給ス
第四十五條 組合員前條以外ノ事由ニ依リ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ私傷病遺族一時金ヲ遺族ニ給ス
一 加入期間一年未滿ナルトキハ給料九十日分

第六節 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

二 加入期間一年以上二年未満ナルトキハ給料百五分
三 加入期間一年以上一年ヲ増ス毎ニ給料十五分ヲ第二號ノ額ニ加算ス

第四十六條 組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキハ給料三十日分ヲ公傷病埋葬金トシテ遺族ニ給ス但シ其ノ金額二十圓ニ滿テサルトキハ二十圓トス

第四十七條 前四條ノ規定ニ依ル遺族給付ヲ受クヘキモノナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ給料二十日分(其ノ金額二十圓ニ滿テサルトキハ二十圓トス)ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其額ハ百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 前二條ノ規定ハ領海要港部、馬公要港部、海軍燃料廠平壤鎮、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬以外ノ組合員ニ之ヲ適用セス

第四十九條 健康保險給付ハ左ノ五種トス

- 一 療養ノ給付
 - 二 傷病手当金給付
 - 三 埋葬料給付
 - 四 分娩費給付
 - 五 出産手当金給付
- 第五十條 組合員ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス但シ官費療養ヲ受ケ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ場合ニ於テ療養上必要アルトキハ組合員ヲ海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ收容スルモノトス但シ海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ收容力ナキ場合又ハ其ノ設置ナキ地ニ於テハ之ヲ他ノ病院ニ委託收容スルモノトス

ノトス

第五十一條 前條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察(往診、處方箋ノ交付ヲ含ム但シ健康診断ヲ含マズ)
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給(治療材料中矯正眼鏡以外ノ眼鏡、松葉杖ノ類ヲ含ム)
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療
- 四 看護
- 五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他海軍共済組合病院長又ハ同診療所長ニ於テ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一圓二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ海軍共済組合病院長又ハ同診療所長必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第五十二條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ組合員ハ海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ就キ之ヲ受ケルモノトス

緊急ノ場合又ハ海軍共済組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ組合員ハ海軍共済組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受ケルコトヲ得但シ第五十條第二項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合員前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ海軍共済組合ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十三條 前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ組合員ハ海軍共済組合ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受ケルコトヲ得

〔社會八號〕

第五十四條 左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

- 一 海軍共済組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
- 二 組合員カ海軍共済組合病院長又ハ同診療所長ノ承認ヲ受ケ醫師又ハ齒科醫師ノ指定ナキ地方ニ於テ指定セラレサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ
- 三 組合員カ緊急ノ場合ニ於テ海軍共済組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ應急手当ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請ニ對シ組合員所屬ノ廳長ノ承認アリタルトキ
- 四 前各號ノ外特ニ必要ナル場合

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ海軍共済組合病院長又ハ同診療所長之ヲ定付テ受ケ

第五十六條 組合員療養ノ爲就業スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手当金トシテ一日ニ付標準報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ職務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ就業スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第五十七條 病院ニ收容シタル組合員ニ對シテ支給スヘキ傷病手当金ハ左ノ額トス他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シ亦同シ

- 一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
標準報酬日額ノ百分ノ二十
- 二 前號ニ掲ケル者二人以内ナル場合
標準報酬日額ノ百分ノ四十
- 三 第一號ニ掲ケル者三人以上ナル場合

〔社會六號〕

標準報酬日額ノ百分ノ六十

主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者トハ組合員ノ家ニ在ル直系尊屬又ハ直系尊屬ニシテ其ノ扶養ヲ受ケル者及妻ヲ謂フ

組合員ノ扶養ヲ受ケル前項以外ノ者ニシテ組合員所屬ノ廳長ノ承認ヲ受ケタルモノハ之ヲ主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ト看做ス

第五十八條 療養ノ給付及傷病手当金ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

職務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ハ曆年一年内百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

組合員ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手当金ノ支給ヲ受ケル期間療養ノ給付ヲ受ケ

第五十九條 組合員死亡シタルトキハ遺族ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ組合員ノ標準報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額二十圓ニ滿テサルトキハ之ヲ二十圓トス

組合員死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキ第一項ノ金額第四十六條ニ定ムル金額ヨリ少キトキハ第四十六條ニ依リ算出シタル金額ヲ支給ス

第六十條 組合員分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス

第六十一條 出産手当金ハ組合員カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ就業セザリシ期間一日ニ付標準報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

分焼ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ海軍共濟組合ハ前項ノ分焼ノ
日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セ
ス

第六十二條 分焼ニ關スル給付ハ分焼前一年内ニ於テ百八十日以上組合員
タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上組合員タリシ者ニ對シテ
ハ分焼費ヲ支給ス

第六十三條 組合員ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分焼ニ關シ保險
給付ヲ受クル者ニハ組合員トシテ保險給付ヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其
ノ給付ヲ爲ス

第六十四條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條
ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日從
九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ組合員タリシ者組合員ノ資格
ヲ喪失シタル日從九十日以内ニ死亡シタルトキハ第五十九條ニ準シ埋葬
料又ハ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第六十五條 組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日從百八十日以内ニ分
焼シタルトキハ分焼ニ關シ組合員トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ給付ヲ
爲ス

第六十六條 前二條ノ規定ハ健康保險法第五十六條又ハ第五十七條ノ規定
ニ依リ給付ヲ爲スヘキ保險者アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十七條 疾病ニ罹リ負傷シ又ハ分焼シタル場合ニ於テ繼續シテ給料ノ
全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘ
キ期間傷病手當金又ハ出產手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘ
キ額力傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給
ス

之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ
組合員職務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第五
十六條ニ定ムル傷病手當金ヲ受クヘキ期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ
計算ニ付キ之ヲ算入セス

第七十二條 傷病手當金及出產手當金ハ給料支拂ノ日ニ於テ之ヲ支給ス
療養費、埋葬料及分焼費ハ其ノ都度之ヲ支給ス第五十九條又ハ第六十四
條ノ規定ニ依リ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給スル場合亦同
シ

第五章 給付ノ受領

第七十三條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付ヲ受ケ
ヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 直系尊屬

第四 家督相續人又ハ戸主

第五 兄弟姉妹

第六 死者ノ扶養ヲ受ケタル者

第七 他家ニ在ル直系尊屬

第八 他家ニ在ル直系尊屬

前項第二號、第五號及第七號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付
テハ民法第九百七十條ノ規定ニ依リ第三號及第八號ニ該當スル者數人ア
ルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ニ依ル

第一項第四號乃至第六號ニ該當スル者ノ順位ニ關シ組合員又ハ組合員タ
リシ者ノ遺言若ハ海軍共濟組合ニ對スル豫告アリタルトキハ前二項ノ規
定ニ拘ラス其ノ内一人ヲ特ニ指定スルコトヲ得

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

第六十八條 保險給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ
其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一 海陸軍ニ徵集、徵募又ハ召集セラレタルトキ

二 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第六十九條 他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病
舍又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

第七十條 組合員又ハ組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ各定
メタル給付ヲ爲サス但シ第二號、第三號ニ該當スル場合情狀酌量スヘキ
者ニ對シテハ海軍大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ支給スルコトヲ
得

一 自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ
總テノ給付

二 組合員間爭若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危險豫防ニ關スル職務上ノ監
督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當
金

三 正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ傷病手當
金ノ一部

第七十一條 詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシ
タル者ニ對シテハ組合員所屬ノ廳長ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メテ其ノ
者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル
旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行為アリタル日ヨリ一年
ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項第二號、第三號、第五號及第六號ニ該當スル者ハ組合員又ハ組合
員タリシ者死亡ノ時其ノ家ニ在ルトコトヲ要ス

第七十四條 前條第一項第五號乃至第八號ノ者ニ對シテハ健康保險給付ヲ
除クノ外所定額ノ二分ノ一ヲ給ス但シ職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡
シタル場合ニ於テ前條第一項第五號又ハ第六號ノ者ニ對シテ給スル遺族
一時金ハ所定額ノ全額トス

第七十五條 給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由發生ノ時速ニ本人又ハ相
當權利者ヨリ海軍共濟組合規則施行細則ニ依リ請求スヘシ

前項ノ請求ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ爲ササルトキハ給付
ヲ受クルノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第六章 會計

第七十六條 海軍共濟組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第七十七條 健康保險部ノ會計ハ別會計トシ第十條ニ依ル掛金及之ニ對ス
ル政府給與金ヲ以テ保險給付及之ニ必要ナル費途ニ充ツ

第七十八條 海軍共濟組合ノ財產ハ利殖ノ目的ヲ以テ銀行預金、信託預金
若ハ郵便貯金トシ又ハ之ヲ以テ國債、地方債證券ヲ買入ルルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルノ外組合財產ノ管理方法ハ海軍大臣ノ認可ヲ經ルヲ要
ス

第七十九條 海軍共濟組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得

用途ヲ指定シタル寄附ハ其ノ目的ノ限リ之ヲ使用ス

第八十條 海軍共濟組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ年金、退還一時金及遺族
扶助金ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第七節 特別施設

第八十一條 海軍共濟組合ハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ組合員及其ノ家族ノ保
險、福祉ノ増進ノ爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 前條施設ノ創設維持經營ニ要スル費用ハ指定寄附財産及之ヨリ生スル利益當該事業上生スル收入ニ依ルモノトス但シ海軍大臣ノ承認ヲ經テ海軍共済組合ノ財産又ハ他ノ特別施設ヨリ生スル利益ヲ使用スルコトヲ得

第八十三條 特別施設カ前條ノ規定ニ依リ維持經營スルコト能ハサルニ至リタルトキハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ一時之ヲ閉鎖シ又ハ賣却其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第八章 審査會

第八十四條 加入、脱退、給付金額決定其ノ他支給ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ所屬廳長ヲ經由シ海軍大臣ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第八十五條 審査會ハ議長一人委員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十六條 議長及委員ハ海軍大臣之ヲ指定ス

第八十七條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ委員中議長指定ノ者之ヲ代理ス

第八十八條 審査會ハ委員半数以上出席シ出席員ノ過半数ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第八十九條 議長又ハ委員ハ特別ノ利害關係ヲ有スル事件ノ審査ニ與ルコトヲ得ス

第九十條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ海軍大臣ニ報告シ當該事項所管ノ廳長及審査請求者ニ通知スヘシ

第九十一條 審査會ノ決議ハ海軍共済組合及審査請求者ヲ福束ス

第九十二條 審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ海軍大臣ニ於テ審査會ノ審査ニ付スルノ必要ナシト認メタルトキハ其ノ請求ヲ却下ス

附則

三年未滿	一・〇〇	二十年未滿	一・五四
四年未滿	一・〇九	二十一年未滿	一・五八
五年未滿	一・一一	二十二年未滿	一・六一
六年未滿	一・一四	二十三年未滿	一・六五
七年未滿	一・一六	二十四年未滿	一・六八
八年未滿	一・一九	二十五年未滿	一・七二
九年未滿	一・二一	二十六年未滿	一・七六
十年未滿	一・二四	二十七年未滿	一・八〇
十一年未滿	一・二七	二十八年未滿	一・八四
十二年未滿	一・三〇	二十九年未滿	一・八八
十三年未滿	一・三二	三十年未滿	一・九二
十四年未滿	一・三五	三十一年未滿	一・九七
十五年未滿	一・三八	三十二年未滿	二・〇二
十六年未滿	一・四一	三十三年未滿	二・〇六
十七年未滿	一・四四	三十四年未滿	二・一一
十八年未滿	一・四八	三十五年未滿	二・一六
十九年未滿	一・五一		

第九十三條 出征地ニ於ケル艦船其ノ他ニ配屬セラレタル組合員ノ掛金及給付ノ額ハ別ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第九十四條 大正十年四月一日以前ニ加入シタル組合員ニ對スル本則ニ依リ脱退年金ハ第四十條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ給料一日半分ヲ控除シタル金額トス

第九十五條 明治四十五年四月一日ヨリ大正十五年三月三十一日迄ニ加入シタル組合員ニシテ脱退一時金ヲ受ケル場合其ノ脱退一時金別表第三號ニ依リ額ヨリ少キトキハ其ノ多額ニ付給ス

第九十六條 大正十五年三月三十一日以前ニ於テ第二十九條ノ規定ニ該當スル者ニハ同條但書ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル脱退給付ハ左ノ各號ニ依リ但シ給付金ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

一 脱退年金ニ付テハ一時脱退ノ爲既ニ受領シタル給付ニ相當スル金額ヲ將來脱退ノ際支給スヘキ給付金ヨリ之ヲ控除ス

二 脱退一時金ニ付テハ其ノ再加入ノ時ヨリ加入期間ヲ起算ス但シ前條ニ依リ別表第三號ニ依リ額ヲ受ケル者ニ在リテハ前號ニ依ル

第九十七條 本則施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表第一號

加入期間	給付乘率	加入期間	給付乘率
一年未滿	一・〇〇	二年未滿	一・〇〇

〔社會七號〕

備考

加入期間三十五年以上ハ一年ヲ加フル毎ニ〇・〇五ヲ加フ

別表第二號

傷病一時金表

等級	事項	金額
第一等	兩眼ヲ盲シ又ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自者ヲ辨スルコト能ハサル者及之ニ準スヘキ者	給料二年分以分以内
第二等	一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖モ終身業務ニ就クコト能ハサル者及之ニ準スヘキ者	給料一年二箇月分以分以内
第三等	自用ヲ辨シ及業務ニ就クコトヲ得ト雖モ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ履修ヲ解カレタル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ遺シタル者	給料六箇月分以分以内
第四等	身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ト雖モ同職ニ於テ引續キ業務ニ服スルコトヲ得ル者	給料一年分以内
備考一	第一等及第二等ハ女子組合員ニ限リ給與ス	
備考二	給付金額輕重ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム	

別表第三號

海軍共済組合規則第九十五條ニ依リ給付スル場合ニ於ケル脱退一時金表

加入期間	甲額(男子ニ限ル)	乙額(女子ニ限ル)
十一年以上	給料百七十日分	給料百六十日分
十一年未滿	給料百七十日分	給料百五十日分

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

三九六ノ二

- 一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一
- 二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一
- 三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
- 四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前(賃金締切日)アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三箇月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三箇月ニ滿チサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ従事シ同様ノ報酬ヲ受ケル者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リ算定シタル額
- 五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額
- 六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額
- 七 組合員ノ報酬日額方前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ニ依リ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス各廳長ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ
- 第十條 健康保險部掛金ハ給料支拂切期間ニ應ジ其ノ月ノ日數ヨリ海軍共済組合規則第十一條ニ定ムル健康保險部掛金ヲ徵收セラレサル分ノ日數ヲ控除シタル日數ニ標準報酬日額千分ノ十三ヲ乘シテ之ヲ算出ス

〔社會八號〕

- 海軍共済組合規則第十一條第一項第三號ニ該當シ掛金ヲ徵收セサル期間ハ健康保險法施行區域外ノ土地ニ到著ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄トス
- 第三章 共済給付
- 第十一條 海軍共済組合規則第三十二條ノ廢疾年金ハ別表第一號、海軍共済組合規則第三十三條ノ傷病一時金ハ別表第二號、海軍共済組合規則第四十四條ノ公傷病遺族一時金ハ別表第三號ノ區分ニ依ル
- 第十二條 組合員ノ直屬スル部長又ハ掛長(キ者ヲ含ム)ハ部下組合員ニシテ職務上疾病ニ罹リ負傷シ又ハ死亡シタルトキハ直ニ現認證(第四號書式)及診斷證書(軍醫科士官服務規則)ヲ添附シ申告書(第六號書式)ヲ所屬廳長ニ提出スヘシ
- 第十三條 共済給付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ書類ヲ年金ニ付テハ所屬廳長ヲ經テ海軍大臣ニ、其ノ他ニ付テハ所屬廳長ニ提出スヘシ但シ療養金請求書ニ付テハ直屬部長又ハ掛長(キ者ヲ含ム)ヲ經由スルヲ要ス
- 一 廢疾年金ニ付テハ第七號書式ノ請求書及海軍病院又ハ當該廳軍醫科士官(燃料廠探炭部及同平壤鑛業部)ノ診斷證書(軍醫科士官服務規則)ノ書式ヲ準用ス
- 二 傷病一時金又ハ特症一時金ニ付テハ第八號書式又ハ第九號書式ノ請求書及海軍病院又ハ當該廳軍醫科士官(燃料廠探炭部及同平壤鑛業部)ニ在リテハ囑託書)ノ診斷證書(已ムテ得サル事由アル場合ニ限リ組合指定ノ醫師又ハ指定外主治醫師ノ診斷書(症歴症狀ヲ詳記セ))
- 三 療養金ニ付テハ第十號書式ノ請求書及組合指定ノ醫師ノ診斷書(已ムテ得サル事由アル場合ニ限リ指定外主治醫師ノ診斷書(症歴症狀ヲ詳記セ))ノ書式ヲ準用ス
- 第十四條 海軍共済組合規則第三十四條ニ依リ年金ノ額ヲ改定スルトキハ前二交付シタル年金證書ヲ返納スヘシ
- 第二十六條 年金受領者年金證書ヲ亡失シタルトキハ速ニ所屬廳長ヲ經テ海軍大臣ニ届出シヘシ亡失シタル年金證書ヲ發見シタル場合亦同シ
- 年金證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ贖本ヲ作製シ本人ニ之ヲ交付シ發見シタル場合ニハ該贖本ヲ返納セシム
- 第二十七條 年金ヲ受ケル者改氏名シタルトキハ其ノ届書ニ年金證書及戶籍簿本ヲ添附シ最後ニ屬シタル廳長ヲ經テ海軍大臣ニ提出スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ本人ニ之ヲ交付ス
- 第二十八條 年金ヲ受ケル者死亡又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ本人、戶主又ハ其ノ家族ヨリ其ノ旨所屬廳長ヲ

- 五 脫退一時金ニ付テハ第十二號書式ノ請求書
- 六 遺族扶助金ニ付テハ第十三號書式ノ請求書並死亡診斷書及海軍共済組合規則第四十三條ニ依リ給付ヲ受領スヘキ者ナルコトヲ證明シ得ヘキ戶籍簿本及年金證書
- 海軍共済組合規則第七十三條第一項第六ニ該當スル者請求ノ場合ハ地方警察官又ハ市區町村長(キ者ヲ含ム)ノ事實證明書
- 七 公傷病又ハ私傷病遺族一時金ニ付テハ第十四號書式ノ請求書並戶籍簿本及主治醫師ノ作製セル死亡診斷書
- 海軍共済組合規則第七十三條第一項第六ニ該當スル者請求ノ場合ハ前號第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第十四條 各廳長ハ前條ニ定ムルモノノ外給付ニ關シ必要ナリト認ムル書類ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第十五條 各廳長給付ノ請求ヲ受ケタルトキハ調査ノ上出納主任ヲシテ之ヲ支給セシムヘシ但シ廢疾年金(傷病一時金)請求書ヲ受ケタルトキハ先ヅ軍醫科士官(燃料廠探炭部及同平壤鑛業部)ニ在リテハ囑託書)ヲシテ廢疾年金(傷病一時金)策定書(第五號書式)ヲ作製セシムルコトヲ要ス
- 第十六條 各廳長年金ノ請求書ヲ受理シタルトキハ給付金額ニ關スル意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ廢疾年金請求書ヲ進達スルトキハ第十二條ノ現認證、申告書及廢疾年金策定書(第五號書式)ヲ添附スヘシ
- 第十七條 年金受領者ニハ年金證書(第十六號書式)ヲ交付スル年金證書ハ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ呈示セシムルコトアルヘシ
- 第十八條 海軍共済組合規則第十八條ニ依リ廢疾年金ト脱退年金トヲ併給スル場合ニ於テハ廢疾年金證書ニ其ノ旨ヲ記載シテ交付ス
- 第十九條 療養金ヲ受ケヘキ者ハ毎月一回限り之ヲ請求スヘシ但シ已ムテ得サル理由アル者ハ此ノ限ニ在ラス

三九六ノ三

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

- 海軍共済組合規則第七十三條第一項第六ニ該當スル者請求ノ場合ハ地方警察官又ハ市區町村長(キ者ヲ含ム)ノ事實證明書
- 公傷病又ハ私傷病遺族一時金ニ付テハ第十四號書式ノ請求書並戶籍簿本及主治醫師ノ作製セル死亡診斷書
- 海軍共済組合規則第七十三條第一項第六ニ該當スル者請求ノ場合ハ前號第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第十四條 各廳長ハ前條ニ定ムルモノノ外給付ニ關シ必要ナリト認ムル書類ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第十五條 各廳長給付ノ請求ヲ受ケタルトキハ調査ノ上出納主任ヲシテ之ヲ支給セシムヘシ但シ廢疾年金(傷病一時金)請求書ヲ受ケタルトキハ先ヅ軍醫科士官(燃料廠探炭部及同平壤鑛業部)ニ在リテハ囑託書)ヲシテ廢疾年金(傷病一時金)策定書(第五號書式)ヲ作製セシムルコトヲ要ス
- 第十六條 各廳長年金ノ請求書ヲ受理シタルトキハ給付金額ニ關スル意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ廢疾年金請求書ヲ進達スルトキハ第十二條ノ現認證、申告書及廢疾年金策定書(第五號書式)ヲ添附スヘシ
- 第十七條 年金受領者ニハ年金證書(第十六號書式)ヲ交付スル年金證書ハ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ呈示セシムルコトアルヘシ
- 第十八條 海軍共済組合規則第十八條ニ依リ廢疾年金ト脱退年金トヲ併給スル場合ニ於テハ廢疾年金證書ニ其ノ旨ヲ記載シテ交付ス
- 第十九條 療養金ヲ受ケヘキ者ハ毎月一回限り之ヲ請求スヘシ但シ已ムテ得サル理由アル者ハ此ノ限ニ在ラス

體テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

年金ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ亦前項ニ準ス

第二十九條 年金ヲ受クル者再ヒ組合員ト爲リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨所屬廳長ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ者組合員トシテ加入後ノ期間ニ從前ノ加入期間ノ加算ノ申請ヲ爲サムトスルニ付キハ脱退ノ日ヨリ一箇月以内ニ所屬廳長ヲ經テ海軍大臣ニ申請スヘシ

第三十條 給付金ノ受領者ハ豫メ受取地ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ給付ノ請求書ニ明記スルコトヲ要ス

第四節 健康保險給付 第三十一條 組合員療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ海軍共済組合病院、同診療所又ハ組合ノ指定シタル醫師若ハ商科醫師(以下保險醫ト稱ス)ニ之ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テハ組合員ハ健康保險需療書ヲ提出スヘシ但シ已ムテ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク健康保險需療書ヲ提出スヘシ

第三十二條 (削除) 第三十三條 (削除) 第三十四條 組合員海軍共済組合規則第五十條第一項ノ規定ニ依リ片道半里以上ノ往診ヲ受ケル場合ハ左ノ各號ニ依リ車馬賃ヲ支拂フヘシ

一 保險醫ニ就キ受ケル場合ハ保險醫ノ請求額 二 海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ就キ受ケル場合ハ金三十錢以上金五十錢以内

前項第二號ノ車馬賃ノ額ハ前項ノ範圍内ニ於テ海軍共済組合病院長又ハ同診療所長ノ決定ス

第三十五條 (削除) 第三十六條 (削除) 第三十七條 海軍共済組合病院若ハ同診療所又ハ保險醫(以上三者ヲ總稱シテ診療擔當者ト稱ス)ノ療養ヲ受ケル組合員同時ニ他ノ診療擔當者ニ就キ療養ヲ受ケル必要アルトキハ健康保險需療書ヲ保管スル診療擔當者ニ付キ療養證明書(第十九號書式)ノ交付ヲ受ケヘシ

前項ノ療養證明書ハ之ヲ健康保險需療書ニ準テ取扱フモノトス 組合員療養證明書ニ依リ診療擔當者ヨリ療養證明書ヲ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付シタル診療擔當者ニ遲滞ナク之ヲ返納スヘシ

第三十八條 組合員診療擔當者變更ノ爲健康保險需療書又ハ療養證明書ノ返還ヲ受ケムトスルトキハ海軍共済組合ノ承認アリタルコトヲ證スル書面ヲ當該診療擔當者ニ提示スヘシ

第三十九條 組合員處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ處方箋ヲ交付シタル診療擔當者ニ就キ療養證明書ノ交付ヲ受ケヘシ 組合員海軍共済組合ノ指定シタル藥劑師(以下保險藥劑師ト稱ス)ニ就キ處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ療養證明書ヲ提示シ必要ナル記入ヲ受ケヘシ

第四十條 療養ノ給付ヲ受ケル疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ組合員ハ其ノ事實第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不明ナルトキハ其ノ旨)並疾病又ハ負傷ノ狀況ヲ遲滞ナク所屬廳長ニ届出ツヘシ

第四十一條 海軍共済組合病院長又ハ同診療所長組合員出張其ノ他ノ爲療養ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキハ豫メ療養費ヲ支給スヘキ場合ヲ定ムルコトヲ得

第四十二條 (削除) 第四十三條 組合員海軍共済組合規則第五十四條第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲ケル事項ヲ届出ツヘシ

〔社會七號〕

〔社會八號〕

一 組合員證ノ記號番號 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因 三 疾病又ハ負傷ノ經過 四 疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不明ナルトキハ其ノ旨)

五 療養ノ給付ヲ受ケルコト困難ナル事由 第四十四條 海軍共済組合規則第五十四條第二號ノ承認ノ申請書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

一 前條第一號乃至第四號ニ掲ケル事項 二 診療ヲ受ケムトスル醫師又ハ商科醫師ノ氏名及住所並其ノ診療ヲ受ケムトスル事由

第四十五條 海軍共済組合規則第五十四條第四號ニ依リ療養費ヲ支給セムトスル場合ニハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケヘシ

第四十六條 健康保險給付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ書類ヲ直屬部長又ハ掛長(キ者ヲ含ム)ヲ經テ所屬廳長ニ提出スヘシ

一 海軍共済組合規則第五十四條第一號及第二號ニ依リ療養費ニ付テハ第二十號甲書式ノ請求書及診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類 二 海軍共済組合規則第五十四條第三號及第四號ニ依リ療養費ニ付テハ第二十號乙書式ノ請求書及診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類

三 傷病手當金ニ付テハ第二十一號甲書式又ハ第二十一號乙書式ノ請求書ニ勞務ニ關スルコト能ハサシ期間ニ關スル醫師又ハ商科醫師ノ意見書(海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ於テ療養ヲ受ケタルトキハ添附ヲ要セス) 四 埋葬料ニ付テハ第二十二號書式ノ請求書ニ市町村長ノ埋火葬認許證

五 海軍共済組合規則第五十九條第二項又ハ同第六十四條ノ埋葬費ニ付テハ第二十二號書式(書式名ヲ埋葬費請求書トシ組合員ト請求者トノ續柄ヲ削除シ埋葬ヲ行ヒタル年月日及埋葬ニ要シタル費用ノ額ヲ記載シタルモノ)ノ請求書ニ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類

六 分焼費ニ付テハ第二十三號書式ノ請求書ニ市町村長、醫師又ハ產婆ニ於テ出產又ハ死産ノ事實ヲ證明シタル書類 七 出產手當金ニ付テハ第二十四號書式ノ請求書ニ勞務ニ關スルコト能ハサシ期間ニ關スル醫師又ハ產婆ノ意見書(海軍共済組合病院又ハ同診療所ニ於テ助産ヲ手當テ受ケタルトキハ添付ヲ要セス)及分焼ノ豫定年月日ニ關スル醫師又ハ產婆ノ意見書(初回請求ノトキニ限ル)

第四十七條 毎支給期日ニ於テ支給スル傷病手當金又ハ出產手當金ハ其ノ支給期日ノ五日前迄ニ請求アリタル分トス

第四十八條 本章ニ於テ組合員トアルハ組合員ノ資格喪失後健康保險給付ヲ受ケル者ヲ含ムモノトス

第四十九條 第十四條、第十五條及第二十條ノ規定ハ健康保險給付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五節 財產及寄附 第五十條 海軍共済組合財產ハ海軍艦政本部長ヲシテ管理セシメ且確實ナル利殖ヲ圖ラシム

海軍共済組合ニ屬スル不動産ノ登記ノ囑託ニ付テハ其ノ不動産ヲ管理スル各廳長ヲ指定ス

- 第五十一條 各廳長ハ組合現金ノ收支ヲ分掌ス
共濟部及健康保險部ニ屬スル現金ニシテ各廳長ノ常時保管シ得ヘキ金額ハ別ニ之ヲ定ム
- 前項ノ現金ニシテ保管金額ヲ超過シタル場合ハ直チニ海軍艦政本部長ニ送付シ不足スル場合ハ艦政本部長ニ請求スヘシ
- 共濟部及健康保險部ニ屬スル現金ハ支拂ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ相互融通スルコトヲ得但シ速ニ之ヲ返還スヘキモノトス
- 第五十二條 各廳長現金ヲ收入保管スル場合ニハ確實ナル銀行又ハ郵便貯金ニ預入スヘシ但シ銀行ニ預入セントスルキハ其ノ商號、創立年月、本支店所在地、役員ノ氏名等ヲ明記シ財産目録及貸借對照表ヲ掲ケタル最近營業報告ヲ添附シ豫メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第五十三條 前條ニ定ムル共濟部及健康保險部ノ預金ヨリ生シタル利子ハ總テ共濟部ノ收入ニ立ツヘシ
- 第五十四條 寄附金ヲ爲サムコトヲ申出ル者アルトキ各廳長ハ土地營造物ニ在リテハ海軍艦政本部長ノ指揮ヲ受クヘシ其ノ他ノ物件又ハ現金ニ在リテハ直ニ之ヲ受取スルコトヲ得
- 第五十五條 寄附金品ヲ受ケタルトキ各廳長ハ之ニ對シ感謝狀ヲ交付スヘシ
- 第五十六條 寄附金品ヲ受取シタルトキハ寄附金品報告書(第二十五號書式)ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
- 第五十七條 寄附ニ係ル現金、公債、地方債其ノ他證券及土地營造物ハ之ヲ海軍共濟組合財産ニ編入ス其ノ他ノ備品及消耗品類ハ海軍共濟組合財産ニ編入セス別ニ之ヲ保管整理スヘシ
- 第五十八條 海軍共濟組合ニ屬スル不動産ハ各廳長ヲシテ保管セシムルコトヲ得

第六章 出納

- 第五十九條 海軍艦政本部長ハ海軍艦政本部總務部第三課長ヲ出納主任トシテ海軍共濟組合財産ノ出納事務ヲ掌ラシム
- 第六十條 各廳長ハ部下首席主計科士官ヲ出納主任トシテ各廳ニ於ケル出納事務ヲ掌ラシム
- 前項ノ主計科士官アラザルトキハ所屬長官ハ部下主計科士官中ヨリ出納主任ヲ命ジ其ノ事務ヲ掌ラシムヘシ
- 第六十一條 各廳長ハ必要ニ應ジ分任出納主任ヲ置キ出納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第六十二條 海軍共濟組合財産ノ出納ハ海軍省經理局長及所管經理部長(海軍省經理部長以下皆同シ)ヲシテ監督セシム
- 第六十三條 出納主任組合財産ノ出納ヲ爲サムトキハ證憑書類ヲ添附シテ受入傳票又ハ拂出傳票(第二十六號書式)ヲ作リ海軍艦政本部長又ハ各廳長ノ承認ヲ經テ海軍省經理局長又ハ所管經理部長ノ檢査ヲ受クヘシ但シ金額五百圓未満ノ出納並ニ要港部(舞鶴要港)及燃料廠(採炭部及同平)ニ在リテハ此ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得
- 第六十四條 給付ヲ支給スルニ當リ至急ヲ要スルトキハ之ヲ支給シタル後前條ノ檢査ヲ受クルコトヲ得
- 第七章 帳簿及報告
- 第六十五條 海軍艦政本部ニ於テハ左ノ帳簿ヲ備ヘ海軍共濟組合財産ヲ整理ス
 - 一 海軍共濟組合共濟部現金收支原簿 (附錄第一號)
 - 二 海軍共濟組合共濟部現金出納簿 (附錄第二號)
 - 三 海軍共濟組合共濟部現金內譯簿 (附錄第三號)
 - 四 海軍共濟組合共濟部現金收入明細簿 (附錄第四號)
 - 五 海軍共濟組合共濟部現金支出明細簿 (附錄第五號)
 - 六 海軍共濟組合共濟部證券原簿 (附錄第六號)

〔社會一〇號〕

- 七 海軍共濟組合共濟部證券內譯簿 (附錄第七號)
- 八 海軍共濟組合共濟部土地原簿
- 九 海軍共濟組合共濟部營造物原簿
- 十 海軍共濟組合共濟部證券發行原簿 (附錄第八號)
- 十一 海軍共濟組合健康保險部歳入歳出原簿 (附錄第一號二同シ)
- 十二 海軍共濟組合健康保險部現金出納簿 (附錄第二號二同シ)
- 十三 海軍共濟組合健康保險部現金內譯簿 (附錄第三號二同シ)
- 十四 海軍共濟組合健康保險部歳入明細簿 (附錄第四號二同シ)
- 十五 海軍共濟組合健康保險部歳出明細簿 (附錄第五號二同シ)
- 第六十六條 各廳ニ於テハ左ノ帳簿ヲ備ヘ海軍共濟組合財産ヲ整理ス
 - 一 何廳共濟部現金出納簿 (附錄第九號)
 - 二 何廳共濟部現金內譯簿 (附錄第十號)
 - 三 何廳共濟部現金收入簿 (附錄第十一號)
 - 四 何廳共濟部現金支出簿 (附錄第十二號)
 - 五 何廳共濟部給付金明細簿 (附錄第十三號)
 - 六 何廳共濟部土地明細簿 (保管アルトキ之ヲ備フ様式海軍共濟組合共濟部土地原簿ニ依リテ之ヲ記ス)
 - 七 何廳營造物明細簿 (記事右同)
 - 八 何廳退年金受給者原簿 (附錄第十三號)
 - 九 何廳健康保險部現金出納簿 (附錄第九號二同シ)
 - 十 何廳健康保險部現金內譯簿 (附錄第十號二同シ)
 - 十一 何廳健康保險部歳入簿 (附錄第十四號)
 - 十二 何廳健康保險部歳出簿 (附錄第十五號)
 - 十三 何廳健康保險部給付金明細簿 (附錄第十六號)
- 第六十七條 各廳ニ於テ海軍共濟組合ニ屬スル備品消耗品類ノ保管ヲ爲スニハ共濟部、健康保險部各別ニ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

- 第六十八條 各廳長ハ毎月海軍共濟組合共濟部現金受拂現計書(第二十七號書式)及海軍共濟組合健康保險部現金受拂現計書(第二十八號書式)ヲ作製シ翌月五日迄ニ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
- 第六十九條 各廳長ハ毎六箇月(九月、三月)ニ一回海軍共濟組合共濟部及健康保險部歳入支出計算書(第二十九號書式)ヲ各別ニ作製シ證憑書類ヲ添ヘ當該月經過後三箇月以内ニ所管經理部長ヲ經テ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ但シ最終ノ歳入支出計算書ニハ年度末日現在ニ於テ調整シタル各保管財産明細書(第三十號書式)ヲ添附スヘシ
- 前項歳入支出證明上ニ保ル證憑書類ノ様式ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 第七十條 各廳長ハ不動産ヲ保管スル場合ニハ毎年度共濟部、健康保險部各別ニ海軍共濟組合財産増減異動報告書(第三十一號書式)ヲ作製シ翌年度四月三十日迄ニ所管經理部長ヲ經テ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
- 第七十一條 海軍艦政本部長ハ毎六箇月(九月、三月)ニ一回海軍共濟組合共濟部及健康保險部歳入支出計算書(第二十九號書式)ヲ各別ニ作製シ證憑書類ヲ添ヘ當該月經過後四箇月以内ニ海軍省經理局長ヲ經テ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ但シ最終ノ海軍共濟組合共濟部及健康保險部歳入支出計算書ニハ年度末日現在ニ於テ調整シタル各保管財産明細書(第三十號書式)ヲ添附スヘシ
- 第七十二條 各廳長ハ毎月第三十二號書式乃至第三十六號書式ニ依リ共濟部組合員ニ對スル諸報告ヲ、第三十七號書式及第三十八號書式ニ依リ健康保險部組合員ニ對スル諸報告ヲ各作製シ翌月五日迄ニ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
- 第七十三條 各廳長ハ毎年度共濟部組合員ニ對スル諸報告ヲ第三十九號書式ニ依リ提出スヘシ

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

式乃至第四十三號書式ニ依リ、健康保險部組合員ニ對スル諸報告ヲ第四十四號書式乃至第四十八號書式ニ依リ各作製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
第七十四條 各處長ハ第四十九號書式ニ依リ毎年三月末日現在ニ於ケル共済部組合員ニ對スル責任準備金調査票ヲ組合員毎ニ調製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

第八章 事務引繼

第七十五條 出納主任交替ノトキハ事務引繼ノ日ヲ以テ共済部及健康保險部各別ニ諸帳簿ヲ區分シ現在高ト帳簿トテ對照シテ其ノ事務ヲ引繼クヘシ其ノ他引繼手續ニ關シテハ大正十一年一月大藏省令第二號及計算證明規程ヲ準用ス但シ同規程第五十條ニ依リ作製スル計算書ハ海軍艦政本部長又ハ各處長ニ提出スヘシ
第七十六條 定期ノ報告及計算書類ハ事務引繼ノ日ヲ以テ打切ラス後任者ニ於テ一併ニ作製スルモノトス

附則

第七十七條 本達ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ何處共済部現金收入簿、何處共済部現金支出簿及何處共済部給付金明細簿ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第七十八條 本達施行ノ日ヨリ昭和二年六月三十日迄ノ標準報酬ハ大正十五年十一月一日現在ニ依リ定メタルモノトス但シ其ノ算定ニ關シテハ第九條ヲ準用ス
第七十九條 大正十五年六月達第五十五號ハ之ヲ廢止ス

癩疾年金區分表

等	第一等		第二等			
	級一	級二	級一	級二	級三	級四
區	兩眼ヲ盲シタル者 咀嚙、言語機能ヲ併セ癩シタル者	内臟ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタル者	一肢ヲ亡シタル者 不具癩疾ト爲リ時々介護ヲ要スル者	咀嚙、言語機能ヲ妨クルニ至リタル者	内臟ノ機能ヲ妨クルニ至リタル者	一肢ノ用ヲ癩シタル者 内臟ノ一個又ハ一部ヲ亡シタル者 不具癩疾ト爲リ介護ヲ要セサル者
分	給料百八十分	給料百五十分	給料百二十十分	給料百十分	給料百十分	給料九十分
金						

〔社會八號〕

別表第二號

四、本表中某部ヲ亡ストアルハ其ノ一部ヲ失ヒタルモノヲ包含シ某部ノ用ヲ癩ストアルハ僅ニ其ノ機能ヲ存スルモ作用上之ヲ癩スルニ等シキモノヲ包含ス又本表ニ掲クル以外ノ疾病負

傷病一時金區分表

等	第一等		第二等			
	級一	級二	級一	級二	級三	級四
區	兩眼ヲ盲シタル者 咀嚙、言語機能ヲ併セ癩シタル者	二肢以上ノ用ヲ癩シタル者 内臟ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタル者 不具癩疾ト爲リ常ニ介護ヲ要スル者	一肢ヲ亡シタル者 不具癩疾ト爲リ時々介護ヲ要スル者	咀嚙、言語機能ヲ妨クルニ至リタル者	内臟ノ機能ヲ妨クルニ至リタル者	一肢ノ用ヲ癩シタル者 内臟ノ一個又ハ一部ヲ亡シタル者 不具癩疾ト爲リ介護ヲ要セサル者
分	給料二年六箇月分	給料二年三箇月分	給料二箇年分	給料一年六箇月分	給料一年五箇月分	給料一年四箇月分
金						

〔社會七號〕

傷ハ各部ニ準シテ其ノ金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ癩症アルトキハ第一號ヲ準用スルコトヲ得

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

第三等		第二等		第一等		第一等	
ハ	ニ	ホ	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
一眼ヲ盲シタル者	頭若ハ腰ノ運動ヲ大ニ妨クルニ至リタル者	頭蓋骨ノ欠損ヲ胎シタル者	第一指ノ指節ヲ失シタル者	第一指ノ指節ヲ失シタル者	第一指ノ指節ヲ失シタル者	第一指ノ指節ヲ失シタル者	第一指ノ指節ヲ失シタル者
給料十箇月分	給料十箇月分	給料九箇月分	給料七箇月分	給料七箇月分	給料七箇月分	給料七箇月分	給料七箇月分

〔社會七號〕

第四等		第三等		第二等		第一等		第一等	
メ	リ	チ	ト	ハ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
第三等	第三等	第三等	第三等	第三等	第三等	第二等	第二等	第二等	第二等
給料二箇月分	給料三箇月分	給料四箇月分	給料五箇月分	給料六箇月分	給料七箇月分	給料八箇月分	給料九箇月分	給料十箇月分	給料十一箇月分

〔社會七號〕

備考

- 一、本表中甲乙ノ区分左ノ如シ
 - 甲 自己ノ過失ニ因ラサルモノ
 - 乙 自己ノ過失ニ因ルモノ
- 二、各等ノ一ニ兼テ其ノ一若ハ二以上ニ當ル疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ其ノ原因及兼症ノ程度ニ應シ主症タル疾病負傷ニ對スル相當

金額ノ外尙給料二箇月分以内ヲ増給ス
 三、各等ノ一ニ該ルモ其ノ症狀ノ輕キトキ又ハ上肢ノ左側ナルトキハ相當金額ノ内ヨリ給料四十日分以内ヲ減給ス
 四、前二號ニ依リ増減スルモ海軍共済組合規則別表第二號ニ掲ケル各等最上限ヲ超ヘ又ハ最下限ヨリ減スルコトヲ得ス
 五、齒牙一個以上ヲ亡スルモ其ノ重要ナル齒牙ナラザルトキ若ハ官ニ於テ義齒ヲ填充シ咀嚼言語ニ差支ナキニ至リタルトキハ相當金額ノ中ヨリ給料六十日分以内ヲ減給ス
 六、本表中某部ヲ亡ストアルハ其ノ一部ヲ失ヒタルモノヲ包含シ某部ノ用ヲ盡ストアルハ僅ニ其ノ機能ヲ存スルモ作用上之ヲ盡スルニ等シキモノヲ包含ス又本表ニ掲ケル以外ノ疾病負傷ハ各部ニ準シテ其ノ金額ヲ定ム此ノ場合ニ於テ兼症アルトキハ第二號ヲ準用スルコトヲ得

別表第三號

公傷病遺族一時金區分表		分	金額
種別	區		
甲	自己ノ過失ニ因ラサル者		給料二年六箇月分
乙	自己ノ過失ニ因ル者		給料二年三箇月分

〔社會七號〕

●專賣局現業員ノ共済組合ニ關スル件

明治四十一年六月十九日 勅令第五百五十七號

改正 大正九年四月勅令第八一號

專賣局現業員ノ共済組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治四十年勅令第二百二十七號ハ專賣局所屬雇員以下ノ現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス但シ政府ノ給與額ハ組合員ノ給料總額ノ千分ノ二十ニ當ル金額ヲ限度トス

附則

本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔社會七號〕

●專賣局共済組合規則

昭和元年十二月三十日
大藏省令第四號

專賣局共済組合規則左ノ通相定ム

專賣局共済組合規則

第一章 總則

第一條 本組合ハ專賣局共済組合ト稱ス

第二條 本組合ハ本部ヲ專賣局ニ支部ヲ專賣局所屬支部局ニ置ク
專賣局長官ハ特ニ必要ト認メタルトキハ專賣局所屬支署ニ支部ヲ置ク
ト得

第三條 本組合ノ事務ハ專賣局長官之ヲ統理ス

第二章 組合員

第四條 明治四十一年勅令第五十七號ニ依リ組合員タルヘキ現業員ハ煙
草、鹽、樟腦ノ製造作業及其ノ製造用材料品、器具、機械ノ製作修理ニ
従事スル雇員、工師及職工トス

第五條 臨時ニ使用セラルル者ハ組合員タルコトヲ得ス但シ三十日ヲ超エ
テ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第四條ノ現業員ハ其ノ就職ノ日ニ於テ當然組合員トナル但シ職工
ニシテ其ノ就職ノ日ト就業ノ日ト異ルトキハ就業ノ日ヨリ組合員トナル
臨時ニ使用セラルル者ニシテ前條但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ
ハ其ノ該當スルニ至リタル日ヨリ組合員トナル

第七條 組合員タル期間ハ月ヲ以テ計算シ加入ノ日ノ屬スル月ニ始マリ脫
退ノ日ノ屬スル月ニ終ル

第八條 組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脫退ス

- 一 死亡シタルトキ
 - 二 退職シタルトキ
 - 三 現業ニ非サル職ニ轉シタルトキ
 - 四 他ノ官廳ニ轉動シタルトキ
 - 五 解職セラレタルトキ
 - 六 休職トナリタルトキ
- 第九條 組合員ニシテ陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル爲退職シ因テ組合

〔社會七號〕

ヲ脫退シタル者徵集又ハ召集ヲ解除セラレタル日ヨリ十四日以内ニ再ヒ
組合員トナリタルトキハ其ノ前後ノ加入期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得
前項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ再ヒ組合員トナリタル日ヨリ三十日以内
ニ其ノ意思ヲ表示シ且前加入期間ニ對スル退職給付ニ相當スル金額ヲ返
還スルコトヲ要ス但シ再加入後六箇月以内ニ月賦ニ依リ返還スルコトヲ
得

第十條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ給付ニ關シ本規則ニ定ムルモノノ外
組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第十一條 組合員ハ毎月別表第一號ノ給料日額ニ依リ掛金ヲ支拂フヘシ

第二十一條 第一項但書ニ依リ女子組合員ハ加入ノ日ニ週リ男子組合員ノ
例ニ依リ其ノ掛金ヲ支拂フヘシ

第四十一條 適用ヲ受ケル者ハ毎月末日迄ニ組合員タリシ最後ノ給料日
額ヲ三十倍シ其ノ千分ノ三十二ニ相當スル掛金ヲ支拂フヘシ但シ組合員
トシテ掛金ヲ支拂フヘキ月ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 前條ノ給料日額ノ掛金額ノ改定ヲ爲ス月ノ初日ニ於ケル給料ニ
基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 月俸ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ一
 - 二 日給ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ二十五但シ休日ニ給料ヲ受
ケル者ニ在リテハ其ノ日給額
 - 三 功程賃金ヲ受ケル者ニ在リテハ專賣局職工人夫給料工賃支給例第十
條ニ依リ査定工賃日額ノ三十分ノ二十五
 - 四 日給及功程賃金ヲ併給スル特殊賃金ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ各ニ
付前二號ニ依リ算定シタル額ノ合算額
- 新ニ加入シタル者ノ給料日額ハ加入當日ニ於ケル給料ニ基キ前項ノ區分

〔社會六號〕

ニ依リ之ヲ算定ス

第十三條 組合員ノ掛金額ハ毎年一四十月之ヲ改定ス但シ組合員全部ニ互
リ給料更定セラレタルトキハ其ノ翌月之ヲ改定ス

第十四條 第十一條第三項ニ依リ掛金額及第十二條ニ依リ給料日額ノ算定
ニ付錢位未滿チ生シタルトキハ四捨五入トス

第十五條 組合員ハ月ノ中途ニ於テ加入シ又ハ脫退シタル場合ト雖掛金ノ
全額ヲ支拂フモノトス

第十六條 組合員ノ掛金ハ毎月其ノ給料ヨリ之ヲ控除徵收スルコトヲ得
給料ヲ毎月數回ニ分テ支給スル場合ニ於テハ其ノ月分ノ最初ノ支給ノ
トキ掛金ノ全額ヲ徵收スヘシ但シ其ノ支給スヘキ額カ掛金ノ全額ニ滿チ
サルトキハ次回支給ノトキ之ヲ徵收ス

第十七條 給料ノ支給ヲ受ケサル月、給料ノ支給ヲ受ケルモ掛金額ニ滿チ
サル月若ハ毎月數回ニ分テ支給ヲ受領スル場合ニ於テ毎回ノ受領額カ
掛金額ニ滿チサルトキハ其ノ月ニ於ケル組合員ノ掛金ハ之ヲ免除ス

第四章 給付

第十八條 給付ノ種類左ノ如ク

- 一 公傷病年金
- 二 公傷病一時金
- 療養給付
- 傷病給付
- 一 傷病手當金
- 二 特症金
- 産婦給付

一 分給費
二 出產手當金

- 一 退職年金
 - 二 年功一時金
 - 三 既退一時金
- 遺族給付
- 一 遺族扶助金
 - 二 殉職金
 - 三 死亡金
 - 四 埋葬料

第十九條 標準日額ニ依リ給付額ヲ算定スル場合ニ於テハ給付ノ事由發生シタルトキノ標準日額ニ依ル

前項ノ標準日額ハ第十二條ニ依リ算定シタル給料日額ニ基キ別表第二號ニ依リ之ヲ定ム

退職掛金額ニ依リ給付額ヲ算定スル場合ニ於テハ別表第二號ノ退職掛金ニ依ル

第二十條 第十八條ノ給付ハ當該各條ノ規定ニ依リ之ヲ併給ス但シ出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ給セス

公傷病年金ト退職年金トノ併給額カ標準日額ノ三百六十日分ヲ超ユル場合ハ三百六十日分ニ止メ各年金額ハ按分シテ之ヲ定ム

第二十一條 女子組合員ニ對シテハ退職年金ニ關スル規定ヲ適用セス但シ加入後九十日以内ニ退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケムトスルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ意思表示ヲ爲シタル者爾後其ノ適用ヲ受ケサルノ意思ヲ表示

シタルトキハ退職年金ノ爲數シタル額ニ相當スル掛金ニ對シテハ何等ノ給付ヲ爲サズ

第二十二條 既退ノ際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ給付ヲ受ケル者ハ組合員トシテ當該給付ヲ受ケルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ規定ハ第四十一條ノ適用ヲ受ケル者ニシテ第四十二條第一號又ハ第三號ニ該當シ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル際現ニ給付ヲ受ケル者ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 給付ノ支給期日ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外專賣局長官之ヲ定ム

第二十四條 年金ノ支給ハ退職ノ月ノ翌月ヨリ開始シ死亡又ハ權利喪失ノ月ヲ以テ終了ス

第二十五條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ給ス但シ死亡又ハ權利喪失ノ場合ハ期月ニ拘ラス之ヲ給ス

第二十六條 年金ヲ受ケル者既退ノ翌月ヨリ公傷病年金ニ在リテハ五年以内、退職年金ニ在リテハ七年以内ニ年金ノ前渡ヲ申請スルトキハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ公傷病年金ニ在リテハ五年分、退職年金ニ在リテハ七年分ヲ限度トシ既ニ支給シタル金額ヲ控除シタル額ヲ利率年六分五厘ノ複利ヲ以テ割引キ前渡ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 年金ヲ受ケル者再ニ組合員トナリタルトキハ其ノ期間年金ノ支給ヲ停止ス

第二十八條 退職給付及遺族扶助金ノ支給ニ關シテハ第十七條ノ規定ニ該當スル期間ハ之ヲ組合員トシ期間ニ算入セス

第二十九條 給付ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲ササルトキ

〔社會六號〕

ハ之ヲ給セス但シ療養費ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ一年以内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ年金ノ每期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス

第三十條 組合員又ハ組合員タリシ者故意ノ犯罪ニ因リ若ハ故意ニ給付ノ事由トナルヘキ事故ヲ生セシメタルトキハ當該ノ給付ヲ爲サズ

組合員ニシテ前項ニ該當スル場合ヲ除クノ外懲戒處分ニ因リ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル爲解職セラレタルトキハ給付ノ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十一條 組合員又ハ組合員タリシ者闘争若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル職務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第三十二條 組合員又ハ組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間傷病、分娩又ハ埋葬ニ關スル給付ヲ爲サズ

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第三十三條 組合員又ハ組合員タリシ者正當ノ事由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサルトキハ之ニ給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第三十四條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ傷病、分娩又ハ埋葬ニ關スル給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル組合員又ハ組合員タリシ者ニ對シテハ本組合ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メテ其ノ者ニ給スヘキ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ給セザル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔社會六號〕

第三十五條 年金ヲ受ケル者死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ爾後之ヲ受ケルノ權利ヲ喪失ス

年金ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ執行中年金ノ支給ヲ停止ス

第三十六條 故意ニ組合ニ對シ重大ナル損害ヲ與ヘ若ハ與ヘムトシタル者又ハ給付ヲ得ムトスルノ目的ヲ以テ組合員、年金受領者若ハ給付受領ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ若ハ致サムトシタル者ニ對シテハ給付ヲ爲サス

第三十七條 年金ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ年金ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十八條 公傷病年金ヲ受ケル者組合ヨリ要求アリタルトキハ其ノ指定ノ場所ニ於テ健康診斷ヲ受ケ又ハ醫師ノ診斷書ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ公傷病年金ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十九條 組合員死亡シ、負傷シ、疾病ニ罹リ若ハ分娩シタル場合又ハ年金ヲ受ケル者死亡シタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ハ直ニ之ヲ組合ニ申告スヘシ

組合員死亡シ、負傷シ、疾病ニ罹リ若ハ分娩シタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ハ正當ノ事由ナクシテ組合ヨリ指定シタル者ノ臨檢又ハ診療ヲ拒ムコトヲ得ス

組合員若ハ其ノ家族前二項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ年金受領者タリシ者ノ家族第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ當該給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第二十二條及第四十一條ノ適用ヲ受ケル者ニ付之ヲ準用ス

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第四十條 年金額ハ四位未滿チ、支給金額ハ錢位未滿チ四拾五入トス

第四十一條 脱退ノ日前一年以内ニ於テ百八十日以上又ハ脱退ノ際引續キ六十日以上組合員タリシ者繼續シテ健康保險法ニ依ル被保險者ヲラムトスルノ意思ヲ表示シタルトキハ療養ノ給付、傷病手當金、産婦給付及埋葬料ニ關スル規定ニ限リ組合員ノ例ニ準シ繼續シテ之カ適用ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ意思表示ハ脱退ノ日ヨリ又ハ第二十二條第一項ニ依リ繼續シテ給付ヲ受ケル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ正當ノ事由アリト認メラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者タリシ期間ハ第一項ノ期間ニ之ヲ通算ス

第四十二條 前條ノ適用ヲ受ケル者左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ爾後其ノ適用ヲ受ケルコトヲ得ス

一 脱退ノ翌日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ

二 再ヒ組合員トナリ若ハ他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者トナリタルトキ

三 十日以上掛金ノ支拂ヲ遅延シタルトキ

第四十三條 組合員若ハ組合員タリシ者第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル事故ニ付給付ヲ受ケタルトキハ其ノ受ケタル給付ノ價額ノ限度ニ於テ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ組合ニ讓渡スヘシ

第二節 公傷病給付

第四十四條 組合員職務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各級ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ公傷病給付トシテ各其ノ等級ニ從ヒ當該金額ヲ給ス

一級 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサ

トキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 療養ノ給付ハ專賣局ノ醫療施設ニ依ルノ外組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師ニ託シ之ヲ爲ス

療養上必要アリト認ムルトキハ組合員ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十九條 療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第五十條 左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ給ス

一 組合ニ於テ第四十八條ノ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 組合ノ承認ヲ受ケ專賣局ノ醫療施設又ハ組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師以外ノ者ニ就キ診療ヲ受ケタルトキ

三 緊急已ムテ得サル場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テ支給スヘキ療養費ノ額ハ組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル費用ノ額ヲ標準トシテ專賣局長官之ヲ定ム

第五十一條 療養ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日、職務上ノ事由ニ因ル場合ヲ除クノ外同一年度ヲ通シ百八十

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

ルトキ並之ニ準スヘキトキ

公傷病年金 標準日額ノ二百十分乃至二百七十分

二級 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ヲ營ムコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキトキ

公傷病年金 標準日額ノ百二十十分乃至百八十分

三級 自用ヲ辨シ並業務ヲ營ムコトヲ得ルト雖身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退職シタルトキ

公傷病一時金 標準日額ノ五百日分以内

四級 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖引續キ其ノ職務ニ服スルトキ

公傷病一時金 標準日額ノ二百五十日分以内

第四十五條 職務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ前條ノ給付ヲ受ケルニ至ラザリシ者當該負傷又ハ疾病ニ基因スル障害ノ程度増進シ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ當該等級ノ給付ヲ爲ス

前條ノ給付ヲ受ケタル者當該負傷又ハ疾病ニ基因シ更ニ上級ノ給付ヲ受ケヘキモノト決定セラレタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ給シ、年金ニ付テハ其ノ翌月ヨリ増額シ、一時金ヲ年金ニ改定スルモノニ付テハ當該年金ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄之ヲ停止ス

前二項ノ規定ハ退職ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル者ニ付之ヲ適用セス

第四十六條 公傷病年金ヲ受ケル者當該負傷又ハ疾病ニ基因スル障害ノ程度輕減シタルトキハ該年金ノ全部又ハ一部ノ給付ヲ爲ササルコトヲ得

第三節 療養給付

第四十七條 組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ療養ノ給付ヲ爲ス但シ法令其ノ他ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ療養ヲ受ケタル

日ヲ超エテ之ヲ爲サス

前項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ給スヘキ期間ハ療養ノ給付ヲ爲ス

第五十二條 組合員前條ニ規定スル期間ヲ超エ療養ヲ必要トスル場合ニ於テ之ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人若ハ第三者ヨリ申請ヲ爲ストキハ本組合ハ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ擔保ノ種類、數量及價格並費用ノ償還ノ方法ハ專賣局長官之ヲ定ム

第四節 傷病給付

第五十三條 組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲職務ニ服スルコト能ハサルトキハ傷病手當金トシテ其ノ期間一日ニ付標準日額ノ百分ノ六十二相當スル額ヲ給ス

前項ノ手當金ハ職務上ノ事由ニ因ル場合ヲ除クノ外職務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ給ス

第一項ノ給付ニ付テハ第五十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 病院ニ收容シタル組合員ニ對シ給スヘキ傷病手當金ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラス左ノ額トス

一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキ

標準日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲ケル者二人以内ナルトキ

標準日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲ケル者三人以上ナルトキ

標準日額ノ百分ノ六十

第五十五條 傷病手當金ハ之ヲ受ケヘキ期間中給料ノ支給ヲ受ケルコトヲ得ヘキ期間ハ之ヲ給セス但シ其ノ給料ノ額カ傷病手當金ノ額ニ達セサル

〔社會六號〕

〔社會六號〕

トキハ其ノ差額ヲ給ス

第五十六條 組合員病毒傳播ノ虞アル結核性疾患ニ因リ解職セラレタルトキハ加入後一年ヲ經過シタル者ニ限リ特種金ヲ給ス
前項特種金ノ額ハ加入後一年ヲ經過シタルトキ標準日額ノ三十日分、爾後一年ヲ増ス毎ニ之ニ標準日額ノ十日分ヲ加ヘタルモノトス

第五節 産婦給付

第五十七條 組合員分産シタルトキハ分産費トシテ二十圓ヲ給ス但シ分産前一年内ニ於テ九十日以上組合員タラサリシ者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十八條 組合員分産ノ爲職務ニ服セザルトキハ分産ノ日前二十八日、分産ノ日以後四十二日以内ニ於テ職務ニ服セザリシ期間出產手當金トシテ一日ニ付標準日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額ヲ給ス但シ分産前一年内ニ於テ百八十日以上組合員タラサリシ者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 規定ハ出產手當金ノ支給ニ付テハ分産ノ日以前ノ期間ヲ分産ノ日力其ノ豫定日ヨリ後シタルトキハ第一項ノ分産ノ日以前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第六十條 組合員分産シタルトキハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得
産院ニ收容セラレ又ハ助産ノ手當ヲ受ケタル組合員ニ對シ給スヘキ分産費ノ額ハ十圓トス

第六十一條 第五十七條及第五十八條ノ規定ハ妊娠四箇月ニ滿テシテ流産シタル組合員ニ之ヲ適用セス

第六十二條 組合員タリシ者既退後百八十日以内ニ分産シタルトキハ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ヲ準用ス第四十一條ノ適用ヲ受ケル者第四十二條第一號又ハ第三號ニ該當シ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル日後百八十日以内ニ分産シタルトキ亦同シ

第六十三條 組合員加入前又ハ既退後他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者ナルトキ其ノ分産ニ關スル給付ニ付テハ同法第五十三條ノ定ムル所ニ依ル

第六節 退職給付

第六十四條 組合員加入後二十年ヲ經過シ年齡四十五歳ヲ超エ既退シタルトキハ退職年金ヲ給ス但シ工場ノ廢止其ノ他事業上ノ都合ニ依リ解職セラレ又ハ負傷若ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘスシテ退職シタルトキハ年齡ニ拘ラス之ヲ給ス

第六十五條 組合員加入後五年ヲ經過シ既退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ前項退職年金ノ額ハ加入後二十年ヲ經過シタルトキ標準日額ノ九十日分、爾後一年ヲ増ス毎コ之ニ標準日額ノ三日半分ヲ加ヘタルモノトス

第六十六條 組合員加入後五年ヲ經過シ既退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ前項一時金ヲ給ス但シ前條ニ依リ退職年金ヲ給スヘキ場合又ハ第六十七條第二項後段ニ依リ遺族扶助金ヲ給スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

金總額ノ百分ノ四ヲ累加シタルモノノ合計金額

女子組合員
一 加入後六年以内ナルトキハ五年間ニ徴收シタル退職掛金總額ノ百分ノ二百七十二第六年ニ徴收シタル退職掛金額ノ百分ノ二十ヲ加ヘタル金額

二 加入後六年ヲ經過シタルトキハ五年間ニ徴收シタル退職掛金總額ノ百分ノ二百七十二五年經過後ニ徴收シタル退職掛金總額ノ百分ノ二十及六年經過後一年以内ヲ増ス毎ニ五年經過後ニ徴收シタル退職掛金總額ノ百分ノ五ヲ累加シタルモノノ合計金額

第二十一條第一項但書ニ依ル女子組合員ニ對スル年功一時金ハ男子組合員ノ例ニ依リ之ヲ算定ス但シ同條第二項ノ意思ヲ表示シタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 組合員加入後六箇月ヲ經過シ五年以内ニ既退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ既退一時金ヲ給ス

一 加入後三年以内ナルトキハ徴收シタル退職掛金ノ總額
二 加入後四年以内ナルトキハ徴收シタル退職掛金ノ總額ニ其ノ百分ノ十ヲ加ヘタル金額
三 加入後五年以内ナルトキハ徴收シタル退職掛金ノ總額ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額

第七節 遺族給付

第六十七條 年金ヲ受ケル者年金ノ支給開始後公傷病年金ニ在リテハ五年以内、退職年金ニ在リテハ七年以内ニ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依リ遺族扶助金トシテ遺族ニ之ヲ給ス

一 公傷病年金ヲ受ケル者ニ在リテハ五年分ニ相當スル額ヨリ既ニ給シタル年金ヲ控除シタル額

二 退職年金ヲ受ケル者ニ在リテハ七年分ニ相當スル額ヨリ既ニ給シタル年金ヲ控除シタル額

前項ノ規定ハ年金ヲ受ケルノ權利發生シタル者其ノ支給開始ニ至ラスシテ死亡シタル場合又ハ退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケル者加入後二十年ヲ經過シ年齡四十五歳ヲ超エ在職中死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 組合員職務ノ爲死亡シタルトキハ殉職金トシテ標準日額ノ千二百日分以内ヲ遺族ニ給ス但シ其ノ死亡カ公傷病一時金ノ支給ヲ受ケタル傷病ニ基因スルモノナルトキハ其ノ殉職金ノ額ハ當該一時金ノ額ヲ控除シタル額トス

公傷病一時金ノ支給ヲ受ケタル者退職ノ日ヨリ一年以内ニ當該一時金ノ支給ヲ受ケタル傷病ニ基因シ死亡シタルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用シ殉職金ヲ給ス

第六十九條 組合員死亡シタルトキハ遺族ニ死亡金ヲ給ス

前項死亡金ノ額ハ加入後一年以内ナルトキ標準日額ノ四十日分、一年ヲ經過シタルトキ標準日額ノ五十日分、爾後一年ヲ増ス毎ニ之ニ標準日額ノ十日分ヲ加ヘタルモノトス

第七十條 左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ埋葬料トシテ其ノ埋葬ヲ行フ遺族ニ之ヲ給ス

一 組合員死亡シタルトキ
二 第二十二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケル者死亡シタルトキ
三 第二十二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ
四 第四十一條ノ適用ヲ受ケル者其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ
五 前三號以外ノ組合員タリシ者既退ノ日後九十日以内ニ死亡シタルトキ

前項ノ金額ハ標準日額ノ二十日分トス其ノ算出額ニシテ二十圓ニ滿チサルトキハ之ヲ二十圓トス
 埋葬ナ行フ遺族ナキトキハ其ノ埋葬ナ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ給ス
第七十一條 前條ノ給付ハ脱退後他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者トナリタル者ニ付テハ之ヲ給セス

第八節 給付ノ受領

第七十二條 組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡ニ基因スル給付ニ付テハ埋葬料ヲ除ク外之ヲ受クヘキ遺族ノ範圍及順位左ノ如シ但シ組合員又ハ組合員タリシ者死亡前其ノ順位ニ關シ特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

- 一 配偶者
- 二 直系卑屬
- 三 直系尊屬
- 四 戸主
- 五 兄弟姊妹
- 六 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者
- 七 他家ニ在ル直系卑屬
- 八 他家ニ在ル直系尊屬

前項第一號ノ適用ニ付テハ内縁ノ夫婦關係ニ在ル者ハ之ヲ配偶者ト看做シ第二號、第三號、第五號、第七號又ハ第八號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 前條第一項第二號、第三號及第五號ノ場合ニ於テ給付ヲ受クヘキ者ハ死亡者ノ死亡當時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

第七十四條 第七十二條第一項第七號及第八號ニ該當スル者ニ對シテハ同條第一項第一號乃至第六號ニ該當スル者ニ對スル給付額ノ二分ノ一ヲ給ス

第七十五條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付ノ受領者ナキトキハ組合員前條ノ給付額以内ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第五章 評議會

第七十六條 組合員ヲ有スル專賣局所屬各支部局、支署及分工場ニ評議會ヲ置ク

第七十七條 評議會ハ本組合ノ事務ニ關シ支部ヲ置ケル局署長ニ對シ其ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルモノトス

第七十八條 評議會ハ支部ヲ置ケル局署長ノ指定シタル會長、役員及組合員ノ互選シタル評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

評議員ノ數、任期、選舉ノ期日及方法ハ專賣局長官之ヲ定ム

第七十九條 會長ハ評議會ノ議事ヲ整理ス役員ハ會長ノ指揮ニ從ヒ議事ニ參與シ會務ヲ處理ス

第八十條 評議會ハ毎年一回之ヲ開ク但シ支部ヲ置ケル局署長必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第八十一條 評議會ハ二分ノ一以上ノ評議員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

決議ハ出席評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第六章 審査會
第八十二條 加入、脱退、掛金及給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ專賣局長官ニ其ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 專賣局長官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ審査會ヲ開キ其ノ決

〔社會六號〕

〔社會六號〕

第九十三條 明治四十一年大藏省令第三十五號專賣局現業員共済組合規則ニ依ル組合及組合員ハ本令施行ト同時ニ本令ニ依ル組合及組合員ト爲ル

第九十四條 本令施行前給付ノ事由トナルヘキ事故發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ其ノ事故ニシテ本令施行後ニ繼續シタルトキハ其ノ繼續シタル部分ニ付テハ本令ニ依ル

前項但書ノ場合ニ於ケル給付期間ノ計算ニ付テハ本令施行前後ノ期間ヲ通算ス

第九十五條 本令施行ノ際ニ於ケル組合員ノ給料日額ハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十六條 本令施行ノ日前加入シタル組合員ニ對スル年功一時金及脱退一時金ノ計算ニ付テハ本令施行前ノ掛金ハ之ヲ別表第二號ノ退職掛金ト看做ス

第九十七條 大正十五年三月一日前ニ加入シタル組合員中退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケル者ニ對スル退職年金又ハ年功一時金ノ額ハ左ノ各號ニ依リ算定ス

一 退職年金ハ第六十四條第二項ニ依リ算出シタル額ヨリ其ノ標準日額ノ一日半分ニ大正十五年三月一日前ノ加入年數(一年未満切捨)ヲ乘シタル額ヲ控除シタルモノトス

二 年功一時金ハ當該組合員ノ退職掛金總額ヨリ退職年金ノ爲數シタル掛金額(男子組合員ノ掛金額ト女子組合員ノ掛金額トノ差額)ヲ控除シタルモノニ對シ第六十五條第一項女子組合員ノ例ニ依リ算出シタル額ト退職年金ノ爲數シタル掛金額ニ對シ別表第三號ニ依リ各年毎ニ算出シタル給付額ノ總和ト合計シタルモノトス

別表第一號(掛金表)

キ

前項ノ金額ハ標準日額ノ二十日分トス其ノ算出額ニシテ二十圓ニ滿チサルトキハ之ヲ二十圓トス

埋葬ナ行フ遺族ナキトキハ其ノ埋葬ナ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ給ス

第七十一條 前條ノ給付ハ脱退後他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者トナリタル者ニ付テハ之ヲ給セス

第八節 給付ノ受領

第七十二條 組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡ニ基因スル給付ニ付テハ埋葬料ヲ除ク外之ヲ受クヘキ遺族ノ範圍及順位左ノ如シ但シ組合員又ハ組合員タリシ者死亡前其ノ順位ニ關シ特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

- 一 配偶者
- 二 直系卑屬
- 三 直系尊屬
- 四 戸主
- 五 兄弟姊妹
- 六 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者
- 七 他家ニ在ル直系卑屬
- 八 他家ニ在ル直系尊屬

前項第一號ノ適用ニ付テハ内縁ノ夫婦關係ニ在ル者ハ之ヲ配偶者ト看做シ第二號、第三號、第五號、第七號又ハ第八號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 前條第一項第二號、第三號及第五號ノ場合ニ於テ給付ヲ受クヘキ者ハ死亡者ノ死亡當時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

議ニ依リ之ヲ決定シ審査請求者ニ通知スヘシ

第八十四條 審査會ハ議長一名及審査委員六名ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十五條 議長ハ專賣局長官ヲ以テ之ニ充テ審査委員ハ專賣局高等官中ヨリ之ヲ指定ス

第八十六條 議長ハ審査會ノ議事ヲ整理ス

第八十七條 審査會ハ二分ノ一以上ノ審査委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

決議ハ出席審査委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第七章 附屬施設

第八十八條 本組合ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済ノ爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第九十條 本組合ノ財産ハ專賣局長官ノ定ムル所ニ依リ利殖ノ目的ヲ以テ銀行若ハ郵便官署ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債地方債證券ヲ買入ルルコトヲ得

專賣局長官ハ組合員ノ利益ノ爲ニ必要ト認メタル事業ニ對シ組合財産ノ一部ヲ運用スルコトヲ得

第九十一條 本組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得

第九十二條 本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十一年大藏省令第三十五號專賣局現業員共済組合規則ハ之ヲ廢止ス

等級	給料日額	掛金額	
		男子組合員	女子組合員
一等	五・〇〇以上	八・八〇	六・五五
二等	四・五〇以上	七・九〇	五・八五
三等	四・〇〇以上	七・〇〇	五・二〇
四等	三・五〇以上	六・一五	四・五五
五等	三・〇〇以上	五・二五	三・九〇
六等	二・八〇以上	四・九〇	三・六五
七等	二・六〇以上	四・五五	三・四〇
八等	二・四〇以上	四・二〇	三・一五
九等	二・二〇以上	三・八五	二・八五
十等	二・〇〇以上	三・五〇	二・六〇
十一等	一・九〇以上	三・三五	二・五〇
十二等	一・八〇以上	三・一五	二・三五
十三等	一・七〇以上	三・〇〇	二・二〇
十四等	一・六〇以上	二・八〇	二・一〇
十五等	一・五〇以上	二・六五	一・九五

別表第二號(標準日額及退職掛金表)

等級	給料日額	標準日額	退職掛金	
			男子組合員	女子組合員
十六等	一・四〇以上	一・五〇未満	二・四五	一・八五
十七等	一・三〇以上	一・四〇未満	二・三〇	一・七〇
十八等	一・二〇以上	一・三〇未満	二・一〇	一・五五
十九等	一・一〇以上	一・二〇未満	一・九五	一・四五
二十等	一・〇〇以上	一・一〇未満	一・七五	一・三〇
二十一等	九〇以上	一・〇〇未満	一・六〇	一・一五
二十二等	八〇以上	九〇未満	一・四〇	一・〇五
二十三等	七〇以上	八〇未満	一・二五	九〇
二十四等	六〇以上	七〇未満	一・〇五	八〇
二十五等	五〇以上	六〇未満	八五	六〇
二十六等	四〇以上	五〇未満	六〇	四〇
二十七等	四〇未満		四〇	二五

等級	給料日額	掛金額
三等	四・五〇以上	四・〇〇
四等	四・〇〇以上	三・五〇
五等	三・五〇以上	三・〇〇
六等	三・〇〇以上	二・五〇
七等	二・六〇以上	二・〇〇
八等	二・四〇以上	二・〇〇
九等	二・二〇以上	二・〇〇
十等	二・〇〇以上	二・〇〇
十一等	一・九〇以上	一・九〇
十二等	一・八〇以上	一・八〇
十三等	一・七〇以上	一・七〇
十四等	一・六〇以上	一・六〇
十五等	一・五〇以上	一・五〇
十六等	一・四〇以上	一・四〇
十七等	一・三〇以上	一・三〇
十八等	一・二〇以上	一・二〇
十九等	一・一〇以上	一・一〇

等級	給料日額	標準日額	退職掛金
二十等	一・〇〇以上	一・〇〇	一・三五
二十一等	九〇以上	九〇	一・二〇
二十二等	八〇以上	八〇	一・一〇
二十三等	七〇以上	七〇	一・〇〇
二十四等	六〇以上	六〇	九〇
二十五等	五〇以上	五〇	八〇
二十六等	四〇以上	四〇	七〇
二十七等	四〇未満	三〇	六〇

別表第三號(附則第九十七條第二號後段)

經過年數	各年ノ掛金一圓ニ對スル給額	
	一年以内	五年以内
一年以内	一・〇〇	一・〇〇
二年以内	一・〇五	一・〇五
三年以内	一・一〇	一・一〇
四年以内	一・一六	一・一六
五年以内	一・二二	一・二二
六年以内	一・二八	一・二八
七年以内	一・三四	一・三四
八年以内	一・四一	一・四一

退職掛金ハ年功一時金及脱退一時金算定ノ基礎トナルモノニシテ別表第一號ニ依リ徴收シタル掛金中ニ包含セルモノトス

九年以内	一・四八	二十三年以内	二・九三
十年以内	一・五五	二十四年以内	三・〇七
十一年以内	一・六三	二十五年以内	三・二三
十二年以内	一・七一	二十六年以内	三・三九
十三年以内	一・八〇	二十七年以内	三・五六
十四年以内	一・八九	二十八年以内	三・七三
十五年以内	一・九八	二十九年以内	三・九二
十六年以内	二・〇八	三十年以内	四・一二
十七年以内	二・一八	三十一以内	四・三二
十八年以内	二・二九	三十二年以内	四・五四
十九年以内	二・四一	三十三年以内	四・七六
二十年以内	二・五三	三十四年以内	五・〇〇
二十一年以内	二・六五	三十五年以内	五・二五
二十二年以内	二・七九		

備考 經過年數ハ既退ノ月ヨリ過リ計算スルモノトス

●造幣局現業員ノ共濟組合ニ關ス

ル件 大正十二年一月二十二日 勅令第十九號

朕造幣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十年勅令第百二十七號ハ造幣局所屬雇員以下ノ現業員相互ノ救濟ヲ
目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則
本令ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●造幣局共濟組合規則

大正十二年一月二十三日
大藏省令第三號

改正 昭和元年大藏省令第五號、二年六月第一九號、三年四月第六號
造幣局共濟組合規則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 本組合ハ之ヲ造幣局共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ハ事務所ヲ造幣局内ニ置ク

第三條 本組合ノ事務ハ造幣局長之ヲ管理ス

第四條 本組合ハ組合員ノ相互救濟ヲ爲スヲ以テ其ノ目的トス

第五條 掛金額又ハ給付額算定ノ標準タル給料ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ二十六日分ヲ以テ一月ノ額トシ其ノ十二倍ヲ以テ一年ノ額トス給付額算定ノ標準タル給料ハ月給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ二十六分ノ一ヲ以テ一日ノ額トス

第六條 (前除)

第七條 掛金額又ハ給付額ニシテ算出上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

〔社會一〇號〕

第二章 組合員及掛金

第八條 組合員ヲ分チテ甲種組合員、乙種組合員、丙種組合員及丁種組合員ノ四種トス

甲種組合員トハ雇員以下ノ現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タル者ヲ謂フ

乙種組合員トハ雇員タル現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タラサル者ヲ謂フ

丙種組合員トハ前二項ノ現業員ニ非スシテ組合ニ加入シタル者又ハ第十四條第三號及第四號ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

丁種組合員トハ甲種組合員タリシ者局員タル資格及健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シタル後繼續シテ健康保險ノ被保險者タル者又ハ甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當シタル者ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ雇員以下ノ現業員ト稱スルハ職工、定備及工場勤務ノ雇員ヲ謂フ

第十條 本令施行ノ際雇員以下ノ現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タル者ハ即日ヨリ、新ニ雇員以下ノ現業員ニ採用セラレ健康保險ノ被保險者タル資格ヲ有スル者ハ其ノ就職ノ日ヨリ當然甲種組合員ト爲ル

本令施行ノ際雇員以下ノ現業員ニシテ年收千二百圓ヲ超ユル職員ハ即日ヨリ、新ニ年收千二百圓ヲ超ユル雇員タル現業員ニ採用セラレタル者ハ其ノ就職ノ日ヨリ、甲種組合員ニシテ年收千二百圓ヲ超ユル職員ニナリタルトキハ其ノ翌日ヨリ當然乙種組合員ト爲ル

從來乙種組合員タリシ者ハ本令施行ノ日ヨリ、雇員以下ノ現業員ニ非スシテ六月以上在職シ造幣局長ニ於テ加入ヲ承認シタル者ハ其ノ日ヨリ丙種組合員ト爲ル

〔社會八號〕

甲種組合員タリシ者局員タル資格及健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ資格喪失ノ日前一年内ニ於テ百八十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者又ハ資格喪失ノ際引續キ六十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニシテ資格喪失ノ日(繼續シテ健康保險給付ニ相當スル給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ繼續シテ健康保險ノ被保險者タルノ意思表示ヲ爲シタルトキハ資格喪失ノ日ヨリ、甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ翌日ヨリ丁種組合員ト爲ル

臨時ニ使用スル者、給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ支拂フヘシ

甲種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ六・二

乙種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ五

丙種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ九

丁種組合員 一月ニ付退職當時ノ給料月額ノ百分ノ四

掛金額ハ特別ノ勞務又ハ臨時ノ事故ニ因リ一時給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ之ヲ増減セズ

第十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間中甲種組合員ニ對シテハ其ノ掛金中ヨリ其ノ期間ニ對シテ給料月額千分ノ十二ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ減シ丁種組合員ニ對シテハ其ノ期間ニ對スル掛金全額ヲ免除ス

一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第二十五條ノ五ニ該當スルトキ

第十二條 掛金ハ毎月給料受領ノ際之ヲ支拂フヘシ

給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ掛金額ニ滿タサル給料ノ支給ヲ受ケサル月ノ掛金ハ次回給料受領ノ際ニテ支拂フコトヲ得

第十三條 掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス

第十四條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ脱退ス

一 死亡シタルトキ
二 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル場合ニ於テ其ノ期間四月ヲ超ユルトキ又ハ其ノ期間四月以内ニシテ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

三 甲種組合員ニ在リテハ退職シ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタル場合ニ於テ繼續シテ健康保險ノ被保險者タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ又ハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ繼續シテ組合員タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

四 乙種組合員ニ在リテハ退職シ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ又ハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ繼續シテ組合員タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

五 丙種組合員ニ在リテハ退官又ハ退職シ若シ休職ト爲リ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ又ハ加入後三年以上ヲ經過シ脱退ノ意思表示ヲ爲シタルトキ

六 甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當シ丁種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ局員タル資格ヲ喪失シタルトキ、其ノ他ノ丁種組合員ニ在リテハ健康保險ノ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、掛金支拂期日ヨリ四十日ヲ經過スルモ掛金ヲ納付セサルトキ又ハ健康保險

合ニ於テハ傷病手當金ヲ、遺族給付ヲ爲ス場合ニ於テハ脱退給付ヲ爲ス

公傷年金ト脱退年金トヲ併給スル場合ニ於テハ其ノ併給金額ハ給料年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 給付ノ額ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リテ算定ス

第二十條 年金給與ノ期間ハ給與ノ事由發生ノ翌月ヲ以テ開始シ給與ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

第二十一條 規定ハ遺族年金給與ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前三分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ニ於テハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第二十三條 傷病手當金及出產手當金ハ繼續シテ給料ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間ニテ支給セズ但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ給料ノ額カ傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第二十四條 傷病手當金又ハ出產手當金ハ給料支給日ニ之ヲ支給ス

第二十五條 傷疾、疾病又ハ死亡ニ基因スル給付ハ組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ニ基キ之ヲ決定ス但シ已ムテ得サル事由ニ因リ組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 組合員タリシ者ニ對シ組合脱退ノ際傷疾、疾病又ハ分娩ニ關スル給付中ナルトキハ組合員タル場合ニ於テ之カ給付ヲ爲ササルヘカラサリシ期間引續キ之カ給付ヲ爲ス

第二十七條 金錢給付ヲ爲ス場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ支給額ニ加ヘ又ハ支給額ヨリ控除ス

第二十八條 給付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由發生ノ後直ニ之ヲ申告スヘシ

除法第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキ

第七 第十條第五項ニ該當スルニ至リタルトキ
第十五條 甲種組合員、乙種組合員及丙種組合員正當ノ事由ナクシテ二月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ甲種組合員ハ丁種組合員ト爲リ乙種組合員及丙種組合員ハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第十六條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本令ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 給付

第一節 總則

第十七條 給付ハ左ノ九種トス

公傷給付

療養給付

傷病給付

分娩給付

罹災給付

脱退給付

遺族給付

埋葬給付

弔慰給付

第十七條ノ二 本令中公傷給付、特症給與金、罹災給付、脱退給付及遺族給付ニ關スル規定ハ丁種組合員ニ、職務ニ基因セサル傷病ニ對スル療養給付、傷病手當金、分娩給付ニ關スル規定ハ乙種組合員及丙種組合員ニ之ヲ適用セス

第十八條 給付ヲ爲スヘキ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ公傷給付ヲ爲ス場合ニ於テハ特症給與金ヲ出產手當金ヲ支給スル場

〔社會一〇號〕

〔社會八號〕

前項ノ申告ヲ怠リタルトキハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十五條 組合員自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ一部ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第二十六條 組合員第十五條ノ規定ニ依リ組合員ノ種別ヲ變更セラレ又ハ第十五條ノ規定ニ依リ組合員脱退シタルトキハ給付ヲ爲サス但シ組合員タル種別ヲ變更セラレタル場合ニ於テハ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 前項ノ場合ニ於テ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス情狀ニ因リ其ノ一部ヲ爲スコトアルヘシ

第二十八條 組合員懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ一部ヲ爲スコトアルヘシ

第二十九條 失官又ハ免官ト爲リタルトキ

第三十條 解職セラレタルトキ但シ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 組合員傷疾又ハ疾病ノ場合ニ於テ組合ヨリ指定シタル者ノ臨檢又ハ診察ヲ拒絶シタルトキハ給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十二條 療養給付、傷病手當金又ハ分娩給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間ニテ之カ給付ヲ爲サス

第三十三條 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

第三十四條 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ

第三十五條 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

第三十六條 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第三十七條 組合員詐欺其ノ他不正ノ行為ニ因リ療養給付、傷病手當

金、分給給付又ハ埋葬給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタルトキハ百八十日以内ノ期間ニ限リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ経過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ傷病手當金ヲ支給ス
前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第二十六條 組合員傷病、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於テ其ノ家族組合ヨリ指定シタル者ノ臨檢又ハ診察ヲ拒絶シタルトキハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十七條 故意ニ組合員、年金受領者又ハ給付受領ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シタル者ニハ給付ヲ爲サス

第二十八條 組合員刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキハ裁判確定ニ至ル迄給付ヲ停止シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレルニ至リタルトキハ之カ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ第二十五條ニ該當スル事件ノ爲告訴又ハ告發セラレタル場合ノ外之カ給付ヲ爲スモノトス

第二十九條 給付ハ給付ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲ササルトキハ給付ヲ受ケル權利ヲ放棄シタルモノト看做ス

第三十條 年金其他給付ヲ受ケル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十一條 年金ヲ受ケル者死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處

セラレタルトキハ爾後之ヲ受ケルノ權利ヲ喪失ス
年金ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ執行中ニテ給與セス

遺族年金ヲ受ケル者前項ニ該當シタルトキハ其ノ期間中第四十六條及第四十七條ノ規定ニ準シ次順位ノ者ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第三十一條ノ二 組合ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ組合員又ハ組合員ヨリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二節 公傷給付
第三十二條 公傷給付ハ左ノ二種トス
一 公傷年金
二 公傷一時金

第三十三條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各號ノ一ニ該當シ因テ脱退シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ終身間公傷年金ヲ給與ス
一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨シ得サルトキ並之ニ準スヘキトキ 給料六月分乃至八月分
二 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキトキ 給料三月分乃至五月分

第三十四條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ公傷一時金ヲ給與ス
一 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得サルトキ 給料八月分乃至一年六月分
二 身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得ルトキ 給料二月分乃至七月分

第三十五條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前二條ノ給與金ヲ
〔社會一〇號〕

受ケルニ至ラサル者當該傷病又ハ疾病ニ基因シ前二條ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各條ノ給與金ヲ給與ス

公傷給付ヲ受ケタル者ト雖當該傷病又ハ疾病ニ基因シ更ニ上級ノ給與金ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ給與ス此ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ノ支給額ハ脱退ノ翌月ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル組合員ニシテ脱退ノ日ヨリ一年以内ニ前二條ニ該當スルニ至リタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 公傷年金ヲ受ケル者ニシテ傷病又ハ疾病ノ程度輕減シタルトキハ該年金ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ爲ササルコトヲ得

第三節 療養給付

第三十七條 組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ療養ノ給付ヲ爲ス但シ他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

療養ノ給付ハ同一ノ傷病又ハ疾病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日、職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合以外ノ場合ニ於テハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

組合員ハ前項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ノ支給ヲ受ケル期間療養ノ給付ヲ受ケ
前各項ノ場合ニ於テ治療上必要アリト認ムルトキハ組合員ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

組合員第二項ノ期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル場合ニ於テ之ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキハ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第三十七條ノ二 前條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ
第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
三 處置、手術又ハ其ノ他ノ治療
四 看護
五 患者ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一同二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ限ル

第三十七條ノ三 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ組合員ハ組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタル者ニ付之ヲ受ケルコトヲ得但シ第三十七條第四項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合員前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ組合ノ承認アリタル場合ノ外同一ノ傷病又ハ疾病ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十七條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得
一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
二 組合員カ組合ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セザル醫師又ハ齒科醫師ノ診察ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ

三 組合員カ緊急ノ場合ニ於テ組合ノ指定セザル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ

第三十七條ノ五 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ組合之ヲ定ム
第四節 傷病給付

第三十七條ノ六 傷病給付ハ左ノ二種トス

- 一 傷病手當金
- 二 特症給與金

第三十七條ノ七 組合員療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付給料日額百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ傷病又ハ疾病カ職務ニ基因セサル場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

傷病手當金ノ支給ハ同一ノ傷病又ハ疾病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日、職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合以外ノ場合ニ於テハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

- 一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
 - 給料日額ノ百分ノ二十
- 二 前號ニ掲ケル者二人以内ナル場合
 - 給料日額ノ百分ノ四十
- 三 第一號ニ掲ケル者三人以上ナル場合
 - 給料日額ノ百分ノ六十

第三十七條ノ八 組合員闘争若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ依リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

組合員正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサルトキハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

第三十八條 組合員加入後一年以上ニシテ肺結核其ノ他ノ傳染性疾患ニ因リ解職セラレタルトキハ給料二月分ニ相當スル特症給與金ヲ給與ス

第五節 分娩給付

第三十八條ノ二 分娩給付ハ左ノ二種トス

- 一 分娩費
- 二 出産手當金

第三十八條ノ三 組合員分娩シタルトキハ分娩前一年內ニ於テ九十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス

組合員タリシ者健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シ以後其ノ資格ヲ取得スルコトナク百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩前一年內ニ於テ九十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス

第三十八條ノ四 規定ニ依リ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルトキハ分娩費ノ額ハ十圓トス

第三十八條ノ五 組合員分娩ノ爲分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシトキハ分娩前一年內ニ於テ百八十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル出産手當金ヲ支給ス

組合員タリシ者健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シ以後其ノ資格ヲ取得スルコトナク百八十日以内ニ分娩シタル場合分娩ノ爲分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシトキハ分娩前一年內ニ於テ百八十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ一日ニ付分娩費ノ給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル出産手當金ヲ支給ス

分産ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ前各項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第三十八條ノ四ノ規定ニ依リ産院ニ收容シタル組合員ニ對シ支給スル出

〔社會一〇號〕

產手當金ニ付テハ第三十七條ノ七第三項ノ規定ヲ準用ス

第六節 罹災給付

第三十九條 組合員ノ住宅水火震災其ノ他非常ノ災厄ニ罹リ財產ニ著シキ損害ヲ受ケタルトキハ給料二月分以内ニ相當スル罹災給與金ヲ給與ス

第七節 脱退給付

第四十條 脱退給付ハ左ノ二種トス

- 一 脱退年金
- 二 脱退一時金

第四十一條 組合員加入後二十年以上ニシテ傷病若ハ疾病ノ爲從來ノ勞務ニ從フコト能ハス又ハ加入後二十年以上ニシテ年齢四十五年ニ達シ脱退シタルトキハ別表第一號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ終身間脱退年金ヲ給ス

第四十二條 組合員前條ノ年金ヲ受ケルニ至ラズシテ脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ算出シタル脱退一時金ヲ給與ス但シ自己ノ便宜ニ依リ脱退シタルトキハ其ノ十分ノ八トス

- 一 甲種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ六十二分ノ五十二ニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額
- 二 乙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額
- 三 丙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ九分ノ五ニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額

第四十三條 甲種組合員若ハ乙種組合員ヨリ丙種組合員ト爲リタル者又ハ丙種組合員ヨリ甲種組合員若ハ乙種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ甲種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ六十二分ノ五十二又ハ乙種組合員トシテ爲シタル掛金總額及丙種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ九分ノ五ヲ合

〔社會一〇號〕

算シタルモノニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額

第八節 遺族給付

第四十三條 遺族給付ハ左ノ二種トス

- 一 遺族年金
- 二 遺族一時金

第四十四條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依リ遺族年金ヲ給與ス

- 一 加入後二十年未滿ノトキ
 - 給料三月分
- 二 加入後二十年以上ノトキ
 - 給料四月分

第四十五條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ終身間之ヲ給與ス但シ夫ニ之ヲ給與スルハ不具養疾者又ハ老衰者ニシテ勞務ニ耐エサル場合ニ限ル

配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻シタルトキハ年金ヲ受ケル權利ヲ喪失ス

前二項ノ適用ニ付テハ事實上配偶者ト認メ得ヘキ者ハ之ヲ配偶者ト看做ス

第四十六條 配偶者ナキトキ又ハ年金ヲ受ケル配偶者死亡シ若ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給與ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受ケヘキ遺子ハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル年齢二十年未滿ノ未タ婚姻セサル者ニ限ル但シ胎兒ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在リタルモノト看做ス

遺子數人アルトキハ民法第九百七十條ニ定ムル順位ニ依リ之ヲ給與ス

年金ヲ受ケル遺子死亡シ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ前項ノ順位ニ依リ順次之ヲ轉給ス

第四十七條 年金ヲ受ケヘキ遺子ナキトキ若ハ年金ヲ受ケル遺子其ノ權利

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

ヲ喪失シタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父母又ハ祖父母ニ父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給與スルコトヲ得
第四十八條 組合員職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキハ給料六月分ニ相當スル遺族一時金ヲ給與ス
第四十九條 公傷年金又ハ脱退年金ヲ受ケル者脱退ノ日ヨリ公傷年金ヲ受ケル者ニ在リテハ七年以内脱退年金ヲ受ケル者ニ在リテハ六年以内ニ死亡シタルトキハ遺族一時金ヲ給與ス
第五十條 組合員死亡ノ日ヨリ七年以内ニ遺族年金ヲ受ケル者ナキニ至リタルトキハ年金七年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給與シタル年金額ヲ控除シタル金額ヲ遺族一時金トシテ給與ス
第五十一條 遺族一時金ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ遺族ニ給與ス其ノ範圍及順位左ノ如シ但シ第四號以下ノ者ニ給與スル場合ハ其ノ半額トス
第一 配偶者
第二 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系尊屬
第三 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系尊屬ノ戸主
第五 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル兄弟姉妹

第六 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系尊屬
第七 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系尊屬ノ前項第一號ノ適用ニ付テハ第四十五條第三項ノ規定ヲ準用シ第二號、第五號及第六號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ、第三號及第七號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス
第五十二條 第四十五條乃至第四十七條及第五十一條ニ規定スル順位ハ組合員特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ從フコトアルヘシ
第五十三條 第五十一條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受ケルヘキ遺族ナキトキハ組合員第五十一條第四號以下ノ者ニ給與スヘキ金額以内ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得
第九節 埋葬給付
第五十四條 組合員死亡シタルトキハ其ノ埋葬ヲ營ミタル者ニ給料日額二十日分ニ相當スル金額ヲ埋葬料トシテ支給ス但シ其ノ金額二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス
第五十四條ノ二 甲種組合員又ハ丁種組合員タリシ者脱退ノ日ヨリ九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケル者死亡シタルトキ又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル後九十日以内ニ死亡シタルトキハ其ノ埋葬ヲ營ミタル者ニ對シ脱退當時ニ於ケル給料日額二十日分ニ相當スル埋葬料ヲ支給ス
前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五十四條ノ三 前條ノ規定ハ健康保險法第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者ニ之ヲ適用セス
第十節 弔慰給付
第五十四條ノ四 甲種組合員、乙種組合員又ハ丙種組合員死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依リ弔慰金ヲ其ノ遺族ニ支給ス
一 職務ノ爲死亡シタルトキ 給料日額 三十日分

〔社會一〇號〕

〔社會一〇號〕

二 前號以外ノ原因ニ因リ死亡シタルトキ 給料日額 十日分
前項遺族ノ範圍及順位ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス
第四章 附屬事業
第五十五條 本組合ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
第五章 會計
第五十六條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
第五十七條 本組合ノ財産ハ造幣局長ノ定ムル所ニ依リ利殖ノ目的ヲ以テ銀行若ハ郵便局ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債、地方債證券ノ應募若ハ買入ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ外財産ノ管理方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ造幣局長ノ之ヲ定ム
第五十八條 本組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金、特種給與金、脱退一時金及第四十八條ノ規定ニ依リ遺族一時金ノ給與ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス
第五十九條 本組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得
第六十條 本組合ハ救済金支拂ノ爲ニ必要アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ一時借入金ヲ爲スコトヲ得
第六章 審査會
第六十一條 加入、脱退並救済金ノ給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ造幣局長ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第六十二條 審査會ハ造幣局長及審査委員八名ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員ハ造幣局長及列任官中ヨリ造幣局長之ヲ指定ス
第六十三條 審査會ハ造幣局長之ヲ召集ス
第六十四條 審査會ノ議長ハ造幣局長ヲ以テ之ニ充ツ
議長事故アルトキハ審査委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

第六十五條 審査會ハ審査委員半數以上出席シ出席審査委員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス
第六十六條 議長又ハ審査委員ハ自己ノ利害ニ關スル事項ノ議事ニ關與スルコトヲ得ス
第六十七條 審査會ノ爲シタル決議ニ對シテハ更ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第七章 評議會
第六十八條 評議會ハ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス
一 造幣局各部局長
二 組合員ノ互選シタル者 八名
前項第二號ニ掲ケル議員ノ選舉方法及其ノ任期ハ造幣局長之ヲ定ム
第六十九條 評議會ハ組合ノ重要ナル事項ニ關シ造幣局長ノ諮問ニ應ジ又ハ造幣局長ニ對シ意見ヲ開陳ス
第七十條 評議會ハ毎年一回造幣局長之ヲ召集ス
臨時必要アルトキ又ハ議員三分ノ一以上ノ者會議ノ目的タル事項ヲ明示シテ評議會ノ召集ヲ請求シタルトキハ臨時評議會ヲ召集ス
第七十一條 評議會ノ議長ハ造幣局總務部長ヲ以テ之ニ充ツ
第七十二條 第六十四條第二項、第六十五條及第六十六條ノ規定ハ評議會ニ之ヲ準用ス
附則
本令ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年大藏省令第十九號)
本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
脱退一時金ノ計算ニ付從來甲種組合員タリシ者カ本令施行前ニ爲シタル掛金ヲ算入スル場合ハ左ノ區分ニ依ル
一 昭和元年十二月三十一日以前ノ掛金ニ付テハ其ノ總額
二 昭和二年一月一日ヨリ同年六月末日迄ノ掛金ニ付テハ其ノ五十八分

ノ五十

別表第一號

加入期間	年金額	加入期間	年金額	加入期間	年金額
二十年以上	給料 日分 七〇	三十一年以上	給料 日分 一一三	四十一年以上	給料 日分 一八六
二十一年以上	七三	三十二年以上	一一八	四十二年以上	一九四
二十二年以上	七六	三十三年以上	一二四	四十三年以上	一九四
二十三年以上	七九	三十四年以上	一三〇	四十四年以上	二〇二
二十四年以上	八二	三十五年以上	一三六	四十五年以上	三一〇
二十五年以上	八六	三十六年以上	一四二	四十六年以上	三二〇
二十六年以上	九〇	三十七年以上	一四九	四十七年以上	三二九
二十七年以上	九四	三十八年以上	一五六	四十八年以上	三三八
二十八年以上	九八	三十九年以上	一六三	四十九年以上	三三八
二十九年以上	一〇三	四十一年以上	一七〇	五十年以上	二五八
三十年以上	一〇八	四十一年以上	一七八	五十一年以上	二六八
		五十二年以上	二七八		

別表第二號

加入期間	給與乘數	加入期間	給與乘數	加入期間	給與乘數
一年未滿	一、〇〇	二年未滿	一、〇〇	三年未滿	一、〇〇

林野現業員共済組合令

大正八年六月二十五日 勅令第三百六號

農商務省令第五七八號、昭和三年六月第一〇九號、農商務省令第二十五號、農商務省令第二十五號

林野現業員共済組合令

第一條 農商務省所管國有林野ノ事業及公有林野官行造林事業ニ從事スル職員以下ノ現業員ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當

四年未滿	一、〇九	十五年未滿	一、三八	二十六年未滿	一、七六
五年未滿	一、一一	十六年未滿	一、四一	二十七年未滿	一、八〇
六年未滿	一、一四	十七年未滿	一、四四	二十八年未滿	一、八四
七年未滿	一、一六	十八年未滿	一、四八	二十九年未滿	一、八八
八年未滿	一、一九	十九年未滿	一、五一	三十年未滿	一、九三
九年未滿	一、二一	二十年未滿	一、五四	三十一未滿	一、九七
十年未滿	一、二四	二十一年未滿	一、五八	三十二年未滿	二、〇二
十一年未滿	一、二七	二十二年未滿	一、六一	三十三年未滿	二、〇六
十二年未滿	一、三〇	二十三年未滿	一、六五	三十四年未滿	二、一一
十三年未滿	一、三二	二十四年未滿	一、六八	三十五年未滿	二、一六
十四年未滿	一、三五	二十五年未滿	一、七二		

〔社會一〇號〕

〔社會一〇號〕

ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス
 第三條 農商務大臣ハ農商務部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
 第四條 第一條ノ事業ニ從事スル職員ハ同條ノ現業員ニ非サルモ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

本令ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

林野現業員共済組合規則

大正八年六月二十八日 農商務省令第二十五號

農商務省令第五七八號、昭和三年六月第一〇九號、農商務省令第二十五號、農商務省令第二十五號

林野現業員共済組合規則

第一章 總則

- 第一條 本組合ハ林野現業員共済組合ト稱ス
- 第二條 本組合ノ事務ハ農林大臣ノ統理シ林野局長之ヲ執行ス
- 第三條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
- 第四條 計算上繰位未滿ノ端數ヲ生シタル場合ノ取扱ニ付テハ國庫出納金總數計算法ヲ準用ス
- 第五條 組合員ヨリ林野局長又ハ審査會ニ提出スル文書ハ各其ノ關係林野局長ヲ經由ス
- 第六條 本組合ノ事務取扱ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 林野局長ノ職員、巡視、給仕、小使、職工、定夫及一年以上又ハ

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

第十條 組合員組合が脱退シタルトキハ本則ノ定ムル救済金ノ給與ヲ受ケルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 日給ヲ受ケル組合員ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ以テ給料月額トシ月給ヲ受ケル組合員ニ在リテハ月給ノ三十分ノ一ヲ以テ給料月額トス

稼高又ハ就業時間ニ依リ給料ヲ定ムル組合員ニ在リテハ前就業日數三十日分、前就業日數三十日ニ滿タサルトキハ就業全日數ノ給料日額ノ平均ヲ以テ其ノ日給トス

共同作業ヲ爲スニ依リ各自ノ給料ノ割合不明ナルモノ其ノ他前項ニ依リ給料日額ヲ定ムルコト能ハサルモノニ付テハ營林局長之ヲ定ム

第三章 救済

第十二條 救済金ハ左ノ五種トス

- 一 公傷給與金
- 二 疾病給與金
- 三 死亡給與金
- 四 脱退給與金
- 五 年功給與金

前項第一號ノ救済金ハ第七條第二項ニ依リ組合員ニ之ヲ給與セス

第十三條 公傷給與金ハ組合員業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ之ヲ給與ス

公傷給與金ハ組合員脱退スルモ仍之ヲ給與ス但シ療養開始後三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 公傷給與金ハ療養料、休業扶助料、障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ第一號表ニ依リ之ヲ給與ス

〔社會六號〕

第十六條 死亡給與金ハ第十三條ニ依リ給與ヲ受ケヘキ場合ヲ除クノ外組合員死亡シタルトキ之ヲ給與ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第十七條 前二條ノ給與金ハ毎年一定期間勤務スル組合員ニ付テハ疾病給與金ニ在リテハ疾病又ハ負傷カ勤務期間内ニ生シ之カ爲勤務期間内ニ休業ヲ始メタルトキニ限リ之ヲ給與シ死亡給與金ニ在リテハ死亡カ勤務期間内ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因リ勤務期間内又ハ勤務期間内休業ノ初日、休業セサルトキハ發病又ハ負傷ノ日ヨリ起算シテ六十日以内ニ生シタルトキニ限リ之ヲ給與ス

第十八條 脱退給與金ハ組合員組合が脱退シタルトキ之ヲ給與ス

脱退給與金ハ加入後ノ各年ノ給料ノ千分ノ二十二ニ相當スル金額ニ付年利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第十九條 年功給與金ハ三年以上繼續シテ組合員タル者組合員脱退シタルトキ之ヲ給與ス但シ犯罪又ハ懲戒處分ニ因リ脱退シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

年功給與金ハ加入後ノ各年ノ給料ノ千分ノ六ニ相當スル金額ニ付年利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ給與金ノ計算方法ハ第二號表ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 營林局長ハ負傷又ハ疾病ノ療養ニ關シ豫メ醫師ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ指定以外ノ醫師ニ付治療ヲ受ケル必要アルトキハ營林局長ノ承認ヲ受ケヘシ

前項ノ承認ヲ受ケスシテ他ノ醫師ニ付治療ヲ受ケタルトキハ營林局長ハ救済金ノ給與ニ關シ適當ナル療養費ヲ定ムルコトヲ得

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第一節 共済組合

一 療養料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ組合ニ於テ直接治療ヲ施ササル者ニ之ヲ給與ス

二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル者ニ之ヲ給與ス

三 障害扶助料ハ傷病又ハ疾病治療シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給與ス但シ次號ニ該當スル場合ニ於テ治療後障害ヲ存スヘシト認メタルトキハ一時扶助料ト併テ之ヲ給與スルコトヲ得

四 一時扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ仍治療セサル者ニ之ヲ給與ス

五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス

六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ之ヲ給與ス

第十五條 疾病給與金ハ療養料及休業扶助料ノ二種トシ第十三條ニ依リ給與ヲ受ケヘキ場合ヲ除クノ外組合員疾病ニ罹リ又ハ負傷シ引續キ六日以上勞務ニ服スルコト能ハサルトキ之ヲ給與ス但シ陸海軍ニ召集中ノ疾病若ハ負傷又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因リ疾病若ハ負傷ニ付テハ之ヲ給與セス

組合員加入後三箇月ヲ經過セサル期間内ニ在リテハ本條ノ給與金ハ加入後生シタル疾病又ハ負傷ニ對シテノミ之ヲ給與ス

療養料ハ療養ノ實費、休業扶助料ハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル期間ノ給料ノ三分ノ一トシ休業ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ超エス一箇年ヲ通シテ九十日ヲ超エサル期間之ヲ給與ス但シ休業扶助料ハ休業ノ日ヨリ起算シテ五日ヲ超エサル期間之ヲ給與セス

〔社會六號〕

第二十二條 救済金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ救済金額ニ加ヘ又ハ之ヲ救済金額ヨリ減ス

第二十三條 組合員死亡シ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族其ノ他之ニ代ルヘキ者ヨリ遲滞ナク之ヲ營林局長ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サスシテ一箇月ヲ經過シタルトキハ其ノ事實ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十四條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救済金ヲ受領スヘキ者其ノ順位ニ關シテハ本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ死亡給與金ニ在リテハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ其ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第二十四條ノ二 組合員若ハ家族ノ疾病若ハ不慮ノ災厄又ハ家族ノ死亡ニ因リ生計上困難アル場合ニ於テハ組合ハ當該組合員ノ爲ニ積立テタル脱退給與金ノ十分ノ八迄ヲ限リ百圓ニ付日歩二錢ノ利率ヲ以テ相當期間ヲ定メ組合員ニ貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付金ハ分割辨済ニ依リ償還セシムルコトヲ得

組合員脱退ノ際第一項ノ規定ニ依リ貸付ヲ受ケタル金額及利息ノ償還未済金アルトキハ當該組合員ノ受ケヘキ脱退給與金ハ第十八條第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ未済金額ヲ減シタルモノトス

第二十四條ノ三 組合員業務上ノ事由ニ因ラサル疾病、負傷又ハ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ保險給付ヲ受ケヘキトキハ之ニ代ヘ之ニ相當スル給付ヲ爲ス

組合員健康保險法ニ依リ分擔ニ關シ保險給付ヲ受ケヘキトキハ之ニ代ヘ分擔費及出產手當金ヲ給與ス

健康保險法第四章(第四十八條、第五十三條、第五十九條及第六十七條

乃至第六十九條ヲ除ク)及健康保險法施行令第四條第八十三條及第八十六條ヲ除ク)ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 前項ニ依リ準用シタル健康保險法第四十九條ニ依リ金額第十六條ニ依リ給與スヘキ金額ヨリ小ナルトキハ第十六條ニ依リ給與スヘキ金額ヲ給與ス
第四章 審査會
第二十五條 加入、脱退又ハ救済金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得
第二十六條 審査會ハ之ヲ農林省ニ置キ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス
第二十七條 會長ハ農林次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ農林省高等官中ヨリ之ヲ命ス
第二十八條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス
 會長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス
第二十九條 審査會ニ幹事一人書記二人ヲ置キ記録ヲ整理シ庶務ニ從事セ
 第一號表

第三十條 審査會ハ半數以上ノ委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
第三十一條 審査會ノ決議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス
 審査會ノ決議ハ當該管林局長及審査請求者ヲ驅逐ス
附則
 本則ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (大正十二年農商務省令第十號)
 本令ハ大正十二年五月十日ヨリ之ヲ施行ス
 第七條第二項ノ規定ニ該當スル組合員ハ本令施行後一箇月以内ニ限り第九條第七號ノ規定ニ拘ラス脱退スルコトヲ得
 本令施行ノ際現ニ組合員タル者ニ付テハ第十五條第二項及第四項ノ規定ハ之ヲ適用セス

種別	實額	種別		實額
		療養料	休業扶助料	
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付休業百八十日以内ナルトキ	一日ニ付 百分ノ六十	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ	一日ニ付 百分ノ四十	給料日額
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ	給料日額 百分ノ四十	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	給料日額 七百日分	給料日額
終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	給料日額 七百日分	終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	給料日額 五百日分	給料日額
終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	給料日額 五百日分	從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者、健康ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	給料日額 二百日分以上 四百日分以下	給料日額
從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者、健康ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	給料日額 二百日分以上 四百日分以下	身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	給料日額 四十日分以上 二百日分以下	給料日額
身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	給料日額 四十日分以上 二百日分以下		給料日額 五百日分以上 七百日分以下	給料日額
			給料日額 六百日分	給料日額
			給料日額 三十日分(但シ二十四ニ滿タサルトキハ二十四) 以上百日分以下	給料日額

〔社會六號〕

種別	實額	種別	實額
一時扶助料	給料日額 四十日分以上 二百日分以下	遺族扶助料	給料日額 五百日分以上 七百日分以下
遺族扶助料	給料日額 五百日分以上 七百日分以下	葬祭料	給料日額 六十日分
葬祭料	給料日額 六十日分		給料日額 三十日分(但シ二十四ニ滿タサルトキハ二十四) 以上百日分以下

〔社會七號〕

第二號表

年數	係數	年數	係數	年數	係數	年數	係數
一	一、〇五〇〇	一	一一	一	一、七一〇三	一	二、七八六〇
二	一、一〇二五	二	一二	二	一、七九五九	二	二、九二五三
三	一、一五七六	三	一三	三	一、八八五六	三	三、〇七一五
四	一、二一五五	四	一四	四	一、九七九九	四	三、二二五一
五	一、二七六三	五	一五	五	二、〇七八九	五	三、三八六四
六	一、三四〇一	六	一六	六	二、一八二九	六	三、五五五七
七	一、四〇七一	七	一七	七	二、二九二〇	七	三、七三三五
八	一、四七七五	八	一八	八	二、四〇六六	八	三、九二〇一
九	一、五五一一	九	一九	九	二、五二七〇	九	四、一一六一
一〇	一、六二八九	一〇	二〇	一〇	二、六五三三	一〇	四、三二一九

本表ニ依リ $(n+1)$ 年ノ給與金ヲ計算スル方式左ノ如ク定ム

$$\{C_1K(n-1) + C_2K(n-2) + C_3K(n-3) + \dots + C_n\} (1 + \frac{0.015}{12}m) + C(n-1)$$

C_1 ノ加入ヨリ滿一年迄ノ元金合計 C_2 ノ滿一年ヨリ滿二年迄ノ元金合計 C_3 ノ滿二年ヨリ滿三年迄ノ元金合計 C_n ノ滿 n 年迄ノ元金合計ノ總數ヲ除キタル滿年數、 m ノ滿年數ニ總數アル場合ノ總數ノ月數

$K(n-1)$ 前表ニ於ケル $(n-1)$ 年ノ係數 $K(n-1)$ 前表ニ於ケル $(n-2)$ 年ノ係數以下之ニ準ス

滿年數ノ加入ノ月ヨリ起算シ脱退ノ月ヲ以テ終トス

●製鐵所現業員共濟組合ニ關スル件

大正十一年十一月十八日
勅令第四百九十五號

製鐵所現業員共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十年勅令第二百二十七號ハ製鐵所ノ事業ニ従事スル製鐵手及雇員以下ノ現業員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●製鐵所共濟組合規則

大正十一年十一月十八日
農商務省令第二十一號

改正 大正十二年六月農商務省令第一三號、四年一月農工商省令第一四號、昭和元年一月第一號、二年三月第一號

製鐵所共濟組合規則左ノ通定ム

製鐵所共濟組合規則

第一章 總則

第一條 本組合ハ製鐵所共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ハ組合員ノ相互救濟ヲ爲スヲ以テ其ノ目的トス

〔社會七號〕

- 第三條 本組合ノ事務ハ製鐵所長官之ヲ統理ス
- 第四條 本則施行ニ關スル細則ハ製鐵所長官之ヲ定ム
- 第二章 組合員及掛金
- 第五條 組合ハ左ニ掲ケル者ヲ以テ之ヲ組織ス但シ續夫、外國人及臨時ニ使用スル者ハ之ヲ除ク
- 一 製鐵手及雇員以下ノ現業員
- 二 前條ノ現業員ニ非サル職員ニシテ製鐵所長官ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入シタル者及第七條第二項ノ規定ニ依リ別段ノ意思ヲ表示セザル者
- 前項第一號ノ現業員ノ範圍ハ製鐵所長官之ヲ定ム
- 第六條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス
- 甲種組合員トハ前條第一項第一號ニ該當スル者ヲ謂ヒ乙種組合員トハ前條第二號ニ該當スル者ヲ謂フ
- 第七條 組合員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ組合ヨリ脱退ス
- 一 死亡シタルトキ
- 二 退官又ハ退職シタルトキ
- 三 他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 四 甲種組合員ニ在リテハ第五條第一項第一號ノ現業員以外ノ職務ニ轉

シタルトキ

五 乙種組合員ニ在リテハ乙種組合員トナリタルトキヨリ一年ヲ經過シ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

六 續夫若ハ臨時ニ使用スル者トナリ又ハ国籍ヲ失ヒタルトキ

前項第四號ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタル者ハ引續キ組合員タルコトヲ得

第八條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本則ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 組合員ハ毎月給料受領ノトキ掛金トシテ甲種組合員ニ在リテハ給料月額百分ノ五・一六、乙種組合員ニ在リテハ給料月額百分ノ九・四四ニ相當スル金額ヲ支拂フヘシ但シ乙種組合員ニシテ其ノ受ケルコトヲ得ヘキ給付ノ種類ヲ發給給付、特症給付、脱退給付及遺族一時金ニ限定シタル者ニ在リテハ給料月額百分ノ八ニ相當スル金額トス

給料ヲ受ケサル爲又ハ給料ヲ受ケルモ其ノ受領額カ掛金額ニ滿タサル爲未拂ノ掛金アルトキハ爾後給料受領ノ際又ハ給付受領ノ際之ヲ支拂ハシタルモノトス

第九條ノ二 給付金支給ノトキ組合員カ組合ニ對シ支拂フヘキ金額アルトキハ脱退ノ場合ニ限リ之ヲ支給額ヨリ控除ス

第十條 掛金額ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金額ヲ改定ス

第三章 給付

第十一條 給付ハ左ノ六種トス

一 公傷病給付

二 發疾給付

三 特症給付

第六章 共濟 保險 第一節 共濟組合

〔社會六號〕

四 脱退給付

五 遺族給付

六 災厄給付

第十二條 公傷病給付ハ公傷病年金及公傷病一時金トシ組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ等級ニ從ヒ當該金額ヲ給ス但シ公傷病年金ヲ給スルハ組合員其ノ傷病又ハ疾病ノ爲退官退職ニ因テ脱退シタル場合ニ限ル

一等 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ

二等 公傷病年金給料七月分乃至九月分

三等 終身勞務ニ服スルコト能ハサルトキ

四等 公傷病年金給料四月分乃至六月分

從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキ又ハ健康舊ニ復スルコト能ハサルトキ

公傷病一時金給料八月分乃至一年六月分

身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルトキ

第十三條 組合員ニシテ職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前條ノ給付ヲ受ケルニ至ラサル者當該傷病又ハ疾病ニ起因シ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各等ノ給付ヲ爲ス

前條及前項ノ給付ヲ受ケタル組合員當該傷病又ハ疾病ニ起因シ更ニ上級ノ給付ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ加給ス此ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スル必要アルトキハ年金ヲ受ケヘキ月ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄其ノ年金ノ支給ヲ爲ササルコトヲ得職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル組合員脱退ノ日ヨリ一年以内ニ前

四二二〇三

二項ノ場合ニ準スルニ至リタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第十四條 癩疾給付ハ組合員職務ニ因ルニ非スシテ傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ
罹リ症狀殆ト變化ナク多年生存ノ見込アリテ終身自用ヲ辨シ又ハ勞務ニ
服スルコト能ハサル爲退官退職シテ脱退シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ
之ヲ給ス但シ自己ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ス

一 癩疾年金

二 癩疾一時金

第十五條 癩疾年金ハ加入期間十年以上ノ者ニ左ノ等級ニ從ヒ當該金額ヲ
給ス

- 一等 終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者
給料五月分乃至六月分
- 二等 終身勞務ニ服スルコト能ハサル者
給料三月分乃至四月分

第十六條 癩疾一時金ハ加入期間十年未滿ノ者ニ左ノ種別ニ從ヒ當該金額
ヲ給ス

加入期間	癩疾等級	
	一等 終身自用ヲ 辨スルコト 能ハサルモ	二等 終身勞務ニ 服スルコト 能ハサルモ
六月未滿	給料三月分	給料二月分
六月以上一年未滿	給料四月分	給料三月分
一年以上二年未滿	給料五月分	給料四月分
二年以上三年未滿	給料六月分	給料五月分

三年以上四年未滿	給料七月分	給料六月分
四年以上五年未滿	給料八月分	給料七月分
五年以上六年未滿	給料九月份	給料八月份
六年以上七年未滿	給料十月分	給料九月份
七年以上八年六月未滿	給料十一月分	給料十月分
八年六月以上十年未滿	給料十二月分	給料十一月分

癩患者ニハ其ノ症狀ニ依リ第一項ノ金額ニ給料五月分以下ニ相當スル金
額ヲ加給ス

第十六條ノ二 特症給付ハ組合員職務ニ因ルニ非スシテ病毒傳播ノ危險
アル結核病ニ罹リ退官退職シテ脱退シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給
ス

- 一 特症年金
- 二 特症一時金甲種
- 三 特症一時金乙種

第十七條ノ三 特症年金ハ加入期間十年以上ノ者重症ニシテ脱退シタルト
キ本人ノ終身間其ノ加入期間ノ長短ニ依リ給料百二十日分乃至百八十日
分ヲ給ス

特症年金ヲ受ケル者死亡シタル場合ニシテ既ニ給シタル金額カ脱退給付
トシテ給スヘキ金額ニ給料百七十日分ヲ加ヘタル金額ヨリ少額ナルトキ
ハ其ノ差額ヲ一時限リ其ノ遺族ニ給ス但シ脱退給付トシテ給スヘキ金額
ニ給料百七十日分ヲ加ヘタル金額カ遺族給付トシテ給スヘキ金額ヨリ少
額ナルトキハ遺族給付トシテ給スヘキ金額ヨリ既ニ給シタル金額ヲ控
除シ其ノ差額ヲ一時限リ其ノ遺族ニ給ス
第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ四 特症年金ノ事由發生シタルトキハ給付ヲ受ケル者ノ選擇ニ
依リ特症年金ニ代ヘ脱退給付トシテ給スヘキ金額ニ給料百七十日分ヲ加
算シタルモノヲ給ス

第十六條ノ五 特症一時金甲種ハ加入期間十年未滿ノ者重症ニシテ脱退シ
タルトキ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス

- 加入期間六月未滿 給料七十日分
- 加入期間六月以上一年未滿 給料八十日分
- 加入期間一年以上二年未滿 給料九十日分
- 加入期間二年 給料百日分
- 加入期間二年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料十日分ヲ加フ

第十六條ノ六 特症一時金乙種ハ組合員輕症ニシテ脱退シタルトキ左ノ種
別ニ從ヒ之ヲ給ス

- 加入期間六月未滿 給料四十日分
- 加入期間六月以上一年未滿 給料五十日分
- 加入期間一年以上二年未滿 給料六十日分
- 加入期間二年 給料七十日分
- 加入期間二年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料十日分ヲ加フ但シ百四
十日分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 公傷病年金、癩疾年金又ハ特症年金ヲ受ケル者ニシテ傷損又ハ
疾病ノ程度輕減シタルトキハ當該年金ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ爲ササル
コトアルヘシ

第十八條 公傷病年金、癩疾年金又ハ特症年金ヲ受ケル者組合ヨリ要求ア
リタルトキハ其ノ指定ニ從ヒ健康診斷ヲ受ケルコトヲ要ス

前項ノ要求ニ應セザル者ニハ年金ノ支給ヲ爲ササルコトアルヘシ
第十九條 (削除)

第二十條 脱退給付ハ組合員第七條第二號乃至第六號ノ事由ニ因リ脱退シ
タル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス

- 一 脱退年金
- 二 脱退一時金

第二十一條 脱退年金ハ組合員加入後二十年ヲ經過シ年齢五十歳ヲ超エ脱
退シタルトキ之ヲ給ス但シ事業上ノ都合ニ因リ又ハ傷病ノ爲職務ニ耐ヘ
サルニ因リ退官退職シテ脱退シタル場合ニ於テハ其ノ年齢ニ拘ラス之
ヲ給ス

脱退年金ノ額ハ給料三月分トシ加入期間二十年ヲ超ユルトキ一年ヲ増ス
毎ニ給料三日分ヲ加算ス

第二十二條 脱退一時金ハ組合員事業上ノ都合ニ因リ兵役ニ召集セラレタ
ルニ因リ若ハ傷病ノ爲職務ニ耐ヘサルニ因リ退官退職シテ脱退シタルト
キハ甲種組合員ニシテ第五條第一項第一號ノ現業員以外ノ職務ニ轉シタルニ
因リ脱退シ前條ノ年金ヲ受ケサル場合ニ於テ加入期間五年未滿ノ者ニ付
テハ掛金ノ總額ヲ、加入期間五年以上ノ者ニ付テハ其ノ總額ニ別表ノ率
ヲ乘シタルモノヲ給ス年齢五十歳ヲ超エ脱退スル者ニ付亦同シ

前項ノ事由ニ因リ退官退職シテ脱退シタル者ニ付加入期間十八年以
上二十年未滿ノ者ニ對シテハ前項ノ規定ニヨリ計算シタル金額カ左記各
號ノ金額ヨリ少額ナルトキハ左記各號ノ金額ヲ給ス

- 加入期間十八年以上十八年三月未滿 給料六月分
- 加入期間十八年三月以上十八年六月未滿 給料七月分
- 加入期間十八年六月以上十八年九月未滿 給料八月份
- 加入期間十八年九月以上十九年未滿 給料九月份
- 加入期間十九年以上十九年三月未滿 給料十月半分

加入期間十九年三月以上十九年六月未滿 給料十二月分
 加入期間十九年六月以上十九年九月未滿 給料十三月半分
 加入期間十九年九月以上二十年未滿 給料十五月分
 組合員加入後一年以上ニシテ第一項以外ノ事由ニ因リ脱退シ前條ノ年金ヲ受ケサル場合ニ於ケル脱退一時金ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス
 加入期間二年未滿 掛金總額ノ三分ノ一
 加入期間二年以上五年未滿 掛金總額ノ二分ノ一
 加入期間五年以上十年未滿 掛金總額ノ十分ノ八
 加入期間十年以上 掛金總額

乙種組合員、乙種組合員ヨリ甲種組合員ニ轉シタル者及甲種組合員ヨリ乙種組合員ニ轉シタル者ニ在リテハ其ノ乙種組合員タリシ期間ノ掛金額ノ百分ノ四十五ニ相當スル金額ハ第一項及第三項ノ掛金總額ノ算出ニ關シテハ之ヲ除算ス但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ其ノ受ケルコトヲ得ヘキ給與ノ種類ヲ特ニ限定シタル者ニ在リテハ其ノ除算額ハ其ノ期間ノ掛金額ノ十分ノ二十五ニ相當スル金額トス

第二十三條 遺族給付ハ左ノ二種トシ組合員死亡シタル場合ニ於テ其ノ遺族ニ之ヲ給ス
 一 遺族年金
 二 遺族一時金

第二十四條 遺族年金ハ組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ之ヲ給ス
 遺族年金ノ額ハ給料三月分トス
 第二十五條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ其ノ終身間之ヲ給ス但シ夫ニ之ヲ給スルハ不具癡疾者又ハ老衰者ニシテ勞務ニ耐ヘサル者ニ限ル
 遺族年金ヲ受ケル配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻シタルトキハ其ノ年金ヲ

受ケル權利ヲ失フ
 第二十六條 遺族年金ヲ受ケル配偶者ナキトキ又ハ遺族年金ヲ受ケル配偶者死亡シ若ハ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ遺族年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給ス
 前項ノ規定ニ依リ遺族年金ヲ受ケル遺子ハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル年齢二十歳未滿ノ未婚者ニ限ル但シ胎兒ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在リタル者ト看做ス
 前二項ノ遺子數人アルトキハ民法第九百七十條ニ定ムル順位ニ依リ之ヲ給ス
 遺族年金ヲ受ケル遺子死亡シ又ハ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ前項ノ順位ニ依リ順次之ヲ轉給ス
 第二十七條 前二條ノ規定ニ依リ遺族年金ヲ受ケル者ナキ場合又ハナキニ至リタル場合ニ於テハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父、母、祖父又ハ祖母ニ其ノ順位ニ依リ其ノ終身間之ヲ給スルコトヲ得但シ遺族年金ヲ受ケル者死亡シ又ハ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ情狀ニ依リ順次轉給スルコトヲ妨ケス
 前項ノ者其ノ家ヲ去リタルトキハ遺族年金ヲ受ケル權利ヲ失フ
 第二十八條 遺族一時金ハ組合員死亡シタルトキ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス
 加入期間一年未滿 給料四月分
 加入期間一年以上三年未滿 給料五月分
 加入期間三年以上五年未滿 給料六月分
 加入期間五年以上七年未滿 給料七月分
 加入期間七年以上九年未滿 給料八月分
 加入期間九年以上十一年未滿 給料九月分

〔社會六號〕

加入期間十一年以上十三年未滿 給料十月分
 加入期間十三年以上十五年未滿 給料十一月分
 加入期間十五年以上十六年未滿 給料十二月分
 加入期間十六年以上十七年未滿 給料十三月分
 加入期間十七年以上十八年未滿 給料十四月分
 加入期間十八年以上十九年未滿 給料十五月分
 加入期間十九年以上二十年未滿 給料十六月分
 加入後二十年ヲ經過セル者在職中死亡シタルトキハ第二十一條第二項ノ規定ニ依リ算定シタル年金ノ六分ニ相當スル金額ヲ給ス
 組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタル場合ニ於ケル遺族一時金ノ額ハ第一項又ハ第二項ノ金額ニ給料五月分ヲ加算シタルモノトス
 第二十九條 前條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受ケヘキ遺族及其ノ順位左ノ如シ但シ第四號乃至第六號ノ者ニ付テハ組合員ノ遺言又ハ組合ニ對シ爲シタル豫告ニ依リ其ノ内ノ一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ依ル
 一 配偶者
 二 直系尊屬
 三 直系尊屬
 四 戸主
 五 兄弟姊妹
 六 死者ノ扶養ヲ受ケタル者
 前項第二號及第五號ノ遺族數人アル場合ニ於テハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ第三號ニ該當スル者數人アル場合ニ於テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス
 第一項第二號、第三號及第五號ノ遺族ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在ル者ニ限ル

〔社會六號〕

第三十條 前條第一項第四號乃至第六號ノ遺族ニ給スヘキ遺族一時金ノ額ハ所定額ノ二分ノ一トス但シ職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺族一時金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第三十一條 前二條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受ケヘキ遺族ナキトキハ組合員第二十八條ノ遺族一時金ノ二分ノ一以內ニ相當スル金額ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得
 第三十二條 (削除)
 第三十三條 災厄給付ハ組合員災厄ニ罹リタル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス
 一 災害見舞金
 二 家族弔慰金
 第三十四條 災害見舞金ハ組合員ノ住宅水火震災其ノ他非常ノ災害ニ罹リ財產ニ著シキ損失ヲ受ケタルトキ之ヲ給ス
 災害見舞金ノ額ハ給料二月分以內トス
 第三十五條 家族弔慰金ハ組合員ノ配偶者、同一ノ家ニ在ル直系尊屬又ハ直系尊屬死亡シタルトキ之ヲ給ス但シ其ノ家族自己又ハ當該組合員ノ犯罪ニ因リ死亡シタル場合ハ之ヲ給セス
 家族弔慰金ノ額ハ給料十日分以內トス
 第三十六條 (削除)
 第三十七條 公傷病年金、癡疾年金及脱退年金ハ本人ノ終身間之ヲ給ス
 公傷病年金、脱退年金又ハ加入期間二十年以上ノ者ニ對スル癡疾年金ヲ受ケル者死亡シタル場合ニ於テ既ニ給シタル金額力當該年金ノ六分分ニ相當スル金額ヨリ少額ナルトキハ其ノ差額ヲ一時限リ其ノ遺族ニ給ス加入期間二十年未滿ノ者ニ對スル癡疾年金ヲ受ケル者死亡シタル場合ニ於テ既ニ給シタル金額力當該年金ノ五分分ニ相當スル金額ヨリ少額ナルト

キ其差額ニ付亦同シ
 第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十七條ノ二 公傷病年金、癡疾年金又ハ脱退年金ヲ受ケル者ニシテ脱退ノ日ヨリ五年以内ニ請求スルトキハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ年金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ加入期間二十年未滿ノ者ニ對スル癡疾年金ニ付テハ其ノ五分分、其ノ他ノ年金ニ付テハ其ノ六分分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給シタル金額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス
 前項ノ前渡金ニ對シテハ年七分ノ利率ヲ以テ割引スルモノトス
 第三十八條 給付ノ事由併發シタルトキハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當該給付ヲ併給ス但シ公傷病年金ト脱退年金トノ併給額ハ給料年額ヲ限度トス
 第三十九條 癡疾給付ト脱退給付トノ事由併發シタルトキハ給付ノ多額ナルモノヲ給ス但シ癡疾年金ト脱退一時金トノ事由併發シタル場合ニ於テハ給付ヲ受ケル者ノ選擇シタルモノヲ給ス
 第三十九條ノ二 特症年金ト脱退給付トハ之ヲ併給セズ
 第三十九條ノ三 特症給付ト癡疾給付トハ之ヲ併給セズ
 第四十條 給付ノ額ハ給付ノ事由發生シタルトキハ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス
 第四十一條 年金ノ支給又ハ轉給ハ其ノ事由發生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス
 第四十二條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ四月、七月、十月及一月ニ於テ各其ノ前月迄ノ分ヲ給ス但シ年金ヲ受ケル權利消滅シタル場合ニ於テハ前月ニ拘ラス各其ノ當月迄ノ分ヲ給ス
 第四十三條 給付ハ其ノ事由發生シタル日ヨリ起算シ三年以内ニ請求セザルトキハ之ヲ給セズ

前條ノ各期月ニ支給テ受ケヘキ年金ノ給付ハ其ノ月ノ朔日ヨリ起算シ三年以内ニ請求セザルトキハ之ヲ給セズ
 第四十四條 組合員自己ノ犯罪ニ因リ死亡シタル場合ニ於テハ給付ハ之ヲ爲サス但シ情狀ニ依リ其ノ一部ヲ給スルコトアルヘシ
 刑事裁判ニ依リ官職ヲ免セラレタル爲脱退シタル場合ニ於テハ脱退給付ニ付亦前項ニ同シ
 第四十五條 故意ニ組合員、年金受領者又ハ給付ノ受領ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シタル者ニ支給スヘキ當該給付ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第四十六條 給付ヲ受ケル者監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキハ其ノ期間給付ハ之ヲ爲サス
 遺族年金ヲ受ケル者前項ノ規定ニ依リ年金ノ支給ヲ受ケザルトキハ其ノ期間第二十六條及第二十七條ノ規定ニ準シ次順位ノ者ニ之ヲ給スルコトヲ得
 第四十七條 脱退年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者製鐵所ニ勤務スルトキハ其ノ期間年金ハ之ヲ給セズ
 前項ノ者再ヒ組合ニ加入シ一年ヲ經過シタル後退官退職シ因テ脱退シタル場合ニ於テハ脱退給付ニ付テハ其ノ加入期間ハ組合員ノ申請アリタルトキニ限リ加入後ノ期間ニ從前ノ加入期間ヲ加算シタルモノトス
 第一項ノ者再ヒ組合ニ加入シ死亡シタル場合ニ於テハ遺族一時金ハ所定額ノ外脱退年金ノ六分分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給シタル年金額ヲ控除シタル金額ヲ給ス但シ此ノ場合ニ於テハ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
 第四十八條 給付ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供シタルトキハ其ノ支給ヲ爲サザルコトアルヘシ

〔社會六號〕

〔社會七號〕

第四十九條 給付ノ支給ニ關シ必要ト認ムルトキハ組合員ヲシテ醫師ノ診斷又ハ認定ヲ受ケシムルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ診斷又ハ認定ハ製鐵所病院之ヲ行フ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ製鐵所長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 醫師ノ診斷ヲ拒絶シタル者ニハ給付ハ之ヲ爲サザルコトアルヘシ
 第五十條 給付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由發生ノ後直チニ之ヲ申告スヘシ
 前項ノ申告ヲ怠リタルトキハ給付ヲ爲サザルコトアルヘシ
 第五十一條 組合員製鐵所ニ在職ノ僱兵役ニ召集セラレタルトキハ演習召集ノ場合ヲ除クノ外脱退シタルモノト看做ス但シ引續キ組合員タル意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ場合ニ於テハ應召ノ日ヨリ再ヒ製鐵所ニ就業スル迄組合員タル權利義務ヲ停止ス但シ遺族一時金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ給付ノ額ハ應召當時ニ死亡シタルモノトシテ之ヲ算定ス
 前項ノ停止期間ハ加入期間ニ之ヲ加算セズ
 第一項但書ニ該當スル者除隊又ハ召集解除ノ日後二月以内ニ再ヒ製鐵所ニ就業セザル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノトキニ脱退シタルモノト看做ス
 第五十二條 兵役ニ召集セラレ脱退シタル者除隊又ハ召集解除ノ日後二月以内ニ組合ニ加入シタル場合ニ於テハ脱退前ノ加入期間ハ之ヲ加入期間ニ加算ス但シ脱退ニ因リ受領シタル給付ニ相當スル金額ヲ其ノ再加入後三月以内ニ完納シタル場合ニ限ル
 第五十三條 組合員休職トナリタルトキハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス
 第五十四條 組合員製鐵所ノ承認ヲ受ケ在職ノ僱他ニ就職シタルトキハ其ノ期間組合員タル權利義務ヲ停止ス但シ組合員引續キ掛金ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 前項本文ノ場合ニ於テハ第五十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス
 第五十五條 組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
 第五十六條 組合ノ財産管理方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ製鐵所長官之ヲ定ム
 第五十七條 組合ハ製鐵所長官ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金額、遺族一時金、癡疾一時金、特症一時金及脱退一時金ノ給付ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス
 第五十八條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
 第五十九條 掛金又ハ給付ノ算定ニ關シテハ日給者ニ在リテハ其ノ本給付額ヲ以テ日額、其ノ三十日分ヲ以テ月額、其ノ十二倍ヲ以テ年額トシ月給者ニ在リテハ其ノ本給付額ヲ以テ月額、其ノ三十分ノ一ヲ以テ日額、月額ノ十二倍ヲ以テ年額トシ年俸者ニ在リテハ其ノ本俸額ヲ以テ年額、其ノ十二分ノ一ヲ以テ月額、其ノ三十分ノ一ヲ以テ日額トス但シ日額未滿ノ額數ヲ生シタルトキハ四捨五入ス
 第五節 審査會
 第六十條 組合ニ審査會ヲ置ク
 審査會ハ議長一人及審査員十五人ヲ以テ之ヲ組織ス
 第六十一條 議長及審査員ハ製鐵所高等會中ヨリ製鐵所長官之ヲ指定ス
 第六十二條 加入、脱退、掛金又ハ給付ニ關スル處分ニ對シ製鐵所長官ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ製鐵所長官ニ審査會ノ審查ヲ請求スルコトヲ得
 第六十三條 製鐵所長官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査會ノ議ニ付

第六章 共済 保險 郵便年金 第一節 共済組合

第六十四條 議長ハ審査會ヲ招集シ議事ヲ整理ス
 議長事故アルトキハ製鐵所長官ノ指定シタル審査員之ヲ代理ス
 第六十五條 議長及審査員ハ自己又ハ其ノ親族ニ利害關係アル事件ノ審査ニ與ルコトヲ得ス
 第六十六條 審査會ハ審査員半数以上出席シ出席者ノ過半数ヲ以テ議決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
 第六十七條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ製鐵所長官ニ報告スヘシ
 製鐵所長官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査請求者ニ通知スヘシ
 第六十八條 組合ニ評議會ヲ置ク
 第六十九條 評議會ハ製鐵所長官ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ製鐵所長官ニ其ノ意見ヲ開陳スルコトヲ得
 第七十條 評議會ハ議長一人及評議員四十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 第七十一條 議長ハ製鐵所事務部長ヲ以テ之ニ充ツ
 議長ハ評議會ヲ招集シ議事ヲ整理ス
 議長事故アルトキハ製鐵所長官ノ指定シタル製鐵所高等官之ヲ代理ス
 第七十二條 評議員ハ製鐵所長官ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ選出シタル者及組合員中ヨリ製鐵所長官ノ指定シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 第七十三條 評議員ノ任期ハ製鐵所長官之ヲ定ム
 第七十四條 評議會ハ毎年一回之ヲ開ク
 臨時必要アルトキ又ハ評議員二分ノ一以上ノ同意ヲ以テ會議ノ目的タル事項ヲ明示シ評議會ヲ招集シ希望ヲ議長ニ申出タルトキハ議長ハ臨時評議會ヲ招集ス
 第七十五條 評議會ノ議決ハ出席シタル評議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可

ルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ給ス
 製鐵所長官ヨリ出勤ヲ差止メラレタル場合ニ於ケル療養給付ノ金額ハ給料日額ノ百分ノ八十トス
 病院ニ收容シタル組合員ニ對シ給スヘキ療養給付ハ左ノ額トス
 一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
 給料日額ノ百分ノ二十三
 二 前號ニ掲グル者二人以内ナル場合
 給料日額ノ百分ノ四十五
 三 第一號ニ掲グル者三人以上ナル場合
 給料日額ノ百分ノ六十八
 第五條 組合員死亡シタルトキハ組合員ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ葬祭金トシテ組合員ノ給料日額ノ二十三分ニ相當スル金額ヲ給ス但シ其ノ金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス
 組合員死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ葬祭金ノ支給ヲ受ケヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ給ス
 第六條 組合員分焼シタルトキハ分焼費トシテ二十圓ヲ給ス
 第七條 組合員分焼シタルトキハ分焼ノ日前二十八日以内、分焼ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間產婦給付トシテ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十八ニ相當スル金額ヲ給ス
 分焼ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ前項ノ分焼ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得
 産院ニ收容シタル組合員ニ對シ給スヘキ產婦給付ニ付テハ附則第四條第三項ノ規定ヲ準用ス
 第八條 健康保險法第四十三條第三項、第四十四條、第四十七條、第五十一

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

四二二ノ一〇

否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
 第七十六條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第七十七條 本則施行前ニ於テ製鐵所共済會規約ニ依リ救済金ヲ受ケヘキ事由發生シタルモノニ付テハ仍舊前ノ例ニ依ル
 附則 (大正十四年商工省令第十四號)
 昭和三十二年三月商工省令第一號
 本令ハ大正十四年十一月十九日ヨリ之ヲ施行ス
 大正十四年十一月十九日以前ニ發疾平金ノ事由發生シタル者ニシテ加入期間二十年未滿ノ者ニ對スル第三十七條第二項後段及第三十七條ノ二第一項但書ノ規定ノ適用ニ付テハ五年ヲ六年トス
 附則 (昭和元年商工省令第一號)
 昭和三十二年三月商工省令第一號
 第一條 本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二條 健康保險法第十三條ノ被保險者タルヘキ組合員ニ對シテハ當分ノ内第十一條ニ掲グル給付ノ外後六條ニ規定スル給付ヲ爲スモノトス
 第三條 組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ療養ノ給付ヲ爲ス但シ職務上ノ事由ニ因ル場合ニ於テ製鐵所ヨリ治療ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項療養ノ給付ニ付テハ組合員ハ製鐵所病院、組合囑託ノ醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受ケルコトヲ得
 第四條 組合員療養ノ爲メ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間療養給付トシテ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十八ニ相當スル金額ヲ給ス但シ職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服ス

〔社會七號〕

〔社會六號〕
 條乃至第五十八條、第六十條乃至第六十四條並健康保險法施行令第七十四條乃至第七十八條、第八十一條第一項、第八十二條乃至第八十五條、第八十七條及第八十八條ノ規定ハ前項ノ給付ニ關シ之ヲ準用ス但シ傷病手當金トアルハ療養給付、埋葬料トアルハ葬祭金及出產手當金トアルハ產婦給付トス
 第九條 附則第二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケヘキ組合員ハ第九條ニ定ムル掛金ノ外給料月額百分ノ一・七ニ相當スル金額ヲ掛金トシテ支拂フモノトス
 療養給付又ハ產婦給付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ期間前項ノ掛金ヲ徴收セス
 第一項ノ掛金ハ脱退一時金ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス
 (別表) (第二十二條ノ掛金ノ總額ニ乘スヘキ率)
 加入期間 乘 率 加入期間 乘 率
 五年以上 一、一三 十三年以上 一、四〇
 六年以上 一、一六 十四年以上 一、四四
 七年以上 一、一九 十五年以上 一、四八
 八年以上 一、二二 十六年以上 一、五二
 九年以上 一、二六 十七年以上 一、五六
 十年以上 一、二九 十八年以上 一、六〇
 十一年以上 一、三三 十九年以上 一、六五
 十二年以上 一、三六 二十年 一、七〇

四二二ノ一一

加入期間二十年以上ハ一年ヲ加フル毎ニ、〇五ヲ加フ

●通信官署現業員共濟組合ニ關スル件

明治四十二年五月二十六日 勅令第五百一十一號

明治四十二年七月勅令第二〇〇號、四十二年三月第一六〇號、大正二年六月第二二二號、七年一月第一五號、九年一〇月第四七號、昭和三年六月第一〇九號

朕通信官署現業員共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 通信部内ノ通信手及雇員以下ノ現業員ニシテ通信大臣ノ指定スルモノハ通信大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス
- 第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員掛金總額ノ三分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス但シ組合員給料總額ノ千分ノ二十四ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 通信大臣ハ通信部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第四條 通信部内ノ職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ通信大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ掛金及給料ハ第二條ノ掛金總額及給料總額ニ之ヲ算入セス

附則 本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●遞信部内職員共濟組合規則

大正九年十月四日 遞信省令第七號

大正十一年二月遞信省令第七號、一十三年一〇月第四號、一十四年八月第五號

人ハ組合員タルコトヲ得ス

- 第五條 組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脫退ス
 - 一 死亡シタルトキ
 - 二 退職シタルトキ
 - 三 遞信部外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
 - 四 甲種組合員ニ在リテハ第三條第二項ニ依リ指定スル職員以外ノ遞信部内ノ職員トナリタルトキ但シ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 五 乙種組合員ニ在リテハ加入後三年以上ヲ經過シタル者脫退ノ意思表示ヲ爲シタルトキ
 - 六 第四條ニ該當スルニ至リタルトキ
- 廢職、廢職其ノ他官署ノ都合ニ依リ又ハ兵役ニ服スル爲メ退職シタル者退職シ又ハ兵役ヲ終リタル日ヨリ三十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退職ノ際反對ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 遞信官吏練習所又ハ遞信講習所へ入所シタル者退所後再採用セラレ又ハ復職シタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス
- 遞信部外ニ於テ臨時遞信ノ業務ニ從事スル爲メ第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタル者元所屬ノ遞信官署ニ歸還シタル後六十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス
- 第二項但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 組合員及組合員タリシ者ハ本令ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金 第六章 共濟 保險 第一節 共濟組合

號、一十五年二月編五五號、昭和元年一二月編三號

遞信部内職員共濟組合規則左ノ通定ス

- 第一章 總則
 - 第一條 本組合ハ遞信部内職員共濟組合ト稱シ通信大臣之ヲ監督ス
 - 第二條 本組合ノ事務ハ遞信次官之ヲ統理ス
- 第二章 組合員
 - 第三條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス
 - 甲種組合員ハ明治四十二年勅令第五百一十一號第一條ノ現業員ヲ謂フ其ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム
 - 乙種組合員ハ甲種組合員タル職員以外ノ遞信部内ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第一項第四號ノ場合ニ於テ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル者ヲ謂フ
 - 甲種組合員ハ第二項ノ職員ニ採用セラレタル時、乙種組合員ハ加入ヲ承認セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス但シ三等郵便局郵便局ヲ除ク以下之ニ該當スル所屬ノ職員ハ甲種組合員トシテ指定セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス
- 第三章 甲種組合員ニシテ別ニ定ムル範圍ノ職務ニ從事スル者ヲ甲種特別組合員ト謂フ
- 甲種特別組合員タル資格ハ前項ノ職務ニ從事スルニ至リタルトキヲ以テ之ヲ取得ス
- 甲種特別組合員タル資格ハ第一項ニ定ムル範圍ノ職務ニ從事セザルニ至リタルトキヲ以テ之ヲ喪失ス
- 第四條 臨時ニ使役スル者、遞信官署ノ事務ニ從事スルコトヲ主トセザル者、豫備トシテ採用シタル者、給料俸給ヲ含ム以テ支給セザル者及外國

〔社會六號〕

第七條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ拂込ムヘシ但シ三等郵便局所屬ノ組合員ノ掛金ハ所轄遞信局長ノ指定スル額ニ依ル

- 甲種組合員 給料月額ノ千分ノ五十六
- 乙種組合員 給料月額ノ千分ノ百
- 日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ日給額ニ三十ヲ乘シタル額ヲ以テ前項ノ給料月額トス
- 特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他ノ事由ニ因リ給料ノ受領額カ給料月額ニ異ル場合ニ於テモ掛金ノ額ヲ増減セス
- 第七條ノ二 甲種特別組合員ハ掛金トシテ前條ニ依リ甲種組合員ノ掛金ノ外一日ニ付給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル金額ヲ拂込ムヘシ
- 第七條ノ三 前條ノ給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル掛金ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ拂込ムコトヲ要セス
 - 一 傷病手當金又ハ出產手當金ヲ受クル期間
 - 二 陸海軍ニ召集セラレタル期間
 - 三 健康保險法施行區域外ニ在ル期間
 - 四 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタル期間
 - 五 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタル期間
- 第八條 掛金ノ拂込ハ毎月給料受領ノ時之ヲ爲スヲ要ス
- 給料ヲ受ケサル月又ハ其ノ受領額カ掛金ノ額ニ滿タサル月ノ拂込ハ次回給料受領ノ時之ヲ爲スヲ要ス
- 第九條 給料額又ハ指定額ノ變更其ノ他掛金ノ額ニ異動ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ組合ニ加入シタル月ニ應當スル月ニ於テ其ノ前月末ニ於ケル給料額又ハ指定額ニ依リ掛金ノ額ヲ改定ス
- 甲種組合員ヨリ乙種組合員ニ又ハ乙種組合員ヨリ甲種組合員ニ變更シタルトキハ前項ニ依ルノ外尙其ノ變更ノ翌月ヨリ掛金ノ率ヲ改定ス

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第十四條 救済金ハ左ノ十三種トス

- 一 殉職給與金
 - 二 療養年金
 - 三 傷病給與金
 - 四 疾病給與金
 - 五 療養給與金
 - 五ノ二 特定給與金
 - 六 醫療給與金
 - 七 死亡給與金
 - 八 災害給與金
 - 九 脱退給與金
 - 十 勤続給與金
 - 十一 退職年金
 - 十二 遺族扶助金
- 第十一條 殉職給與金ハ組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ給料二年六月分乃至三年分ニ相當スル額ヲ遺族ニ給與スルモノトス
- 第十二條 療養年金ハ組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ脱退ノ月ヨリ終身間毎年之ヲ給與スルモノトス
- 甲種 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ 給料七月分乃至九月分ニ相當スル額
- 乙種

四二二ノ一四

- 一 肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルモ終身業務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ニ準スルトキ 給料三月分乃至六月分ニ相當スル額
- 第十三條 傷病給與金ハ組合員職務上傷病ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ之ヲ給與スルモノトス
- 甲種 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退職シタルトキ 給料七月分乃至一年六月分ニ相當スル額
- 乙種 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得サルモ職務ニ堪ユルコトキ 給料一月分乃至六月分ニ相當スル額
- 第十四條 疾病給與金ハ組合員職務上疾病ニ罹リタルトキ前條ノ例ニ準シ之ヲ給與スルモノトス
- 第十五條 療養給與金ハ組合員職務上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ爲シタルトキ其ノ療養ニ必要ナル額ヲ給與スルモノトス
- 第十六條 前五條ノ場合ニ於テ其ノ傷病又ハ疾病力組合員ノ重大ナル過失ニ因ルモノナルトキハ救済金ヲ給與セズ
- 第十六條ノ二 特定給與金ハ組合員トナリタル後二年以上ヲ經過シタル者結核性疾患ニ因リ業務ニ堪ヘサル爲之ヲ退職セシメタルトキ左ノ區別ニ從ヒ給與スルモノトス
- 一 加入期間三年未満ノ者 給料三月分ニ相當スル額
- 二 加入期間三年以上ノ者 前條ノ額ニ加入期間一年未満ヲ増ス毎ニ給料十日分ニ相當スル額ヲ加算シタル額
- 第十七條 醫療給與金ハ組合員トナリタル後一年以上ヲ經過シタル者傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ七日以上勤務スルコト能ハサルトキ其ノ七日ヲ超エタル日ヨリ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額

〔社會六號〕

〔社會六號〕

額ヲ給與スルモノトス但シ缺勤中給料ヲ受ケル者ニハ之ヲ給與セズ

第十八條 死亡給與金ハ組合員死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給與スルモノトス

- 一 加入期間六月未満ノ者 給料三月分ニ相當スル額
- 二 加入期間六月以上一年未満ノ者 給料六月分ニ相當スル額
- 三 加入期間一年以上ノ者 前條ノ額ニ加入期間一年未満ヲ増ス毎ニ給料十五日分ニ相當スル額ヲ加算シタル額

第十九條 災害給與金ハ組合員水火震災其ノ他非常ノ災害ニ罹リタルトキ給料二月分ニ相當スル額以内ヲ給與スルモノトス

第二十條 脱退給與金ハ組合員脱退シタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ給與スルモノトス

- 一 加入期間六月未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ七
- 二 加入期間六月以上一年未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ八
- 三 加入期間一年以上二年未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ九
- 四 加入期間三年以上ノ者 別表第一號ニ依ル額

第二十一條 勤続給與金ハ組合員トナリタル後三年以上ヲ經過シタル者脱退シタルトキハ別表第二號ニ依ル額ヲ給與スルモノトス

第二十二條 脱退給與金及勤続給與金ハ掛金額ニ基キ之ヲ算定ス

掛金額ニ異動アリタルトキハ異動前ノ掛金額ニ基キ全加入年數ニ對スル給與金額ヲ算定シ之ニ異動後ノ加入年數ニ對シ掛金額ノ差額ニ基キ計算

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

シタル給與金額ヲ併算ス

- 二 同以上掛金額ニ異動アリタル場合ハ前項ノ計算方法ニ準ス
- 乙種組合員ニ在リテハ第五條第一項第四號但書ノ規定ニ依リ加入ヲ繼續シタル者ノ甲種組合員トシ期間ノ掛金ヲ除ク外掛金額ノ百分ノ五十六ヲ以テ前各項ノ掛金額トス
- 脱退給與金ノ算定ハ加入又ハ掛金額異動ノ月ヨリ脱退ノ月迄ノ月數ニ依ル
- 第二十二條ノ二 第七條ノ二ニ依リ拂込ミタル給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル掛金ハ前條ノ掛金額ニ算入セズ
- 第二十三條 退職年金ハ組合員トナリタル後二十年以上ヲ經過シ年齢四十歳ヲ超エタル者脱退シタルトキ左ノ區別ニ依リ終身間毎年之ヲ給與スルモノトス
- 一 加入期間二十年ノ者 平均給料年額ノ三分ノ一ニ相當スル者
- 二 加入期間二十年ヲ超エタル者 前條ノ額ニ加入期間二十年ヲ超エタル年數一年毎ニ平均給料年額百分ノ一ニ相當スル額ヲ加算シタル額

第二十四條 遺族扶助金ハ療養年金又ハ退職年金ノ給與ヲ受ケル者脱退後療養年金ニ在リテハ五年以内、退職年金ニ在リテハ七年以内ニ死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給與スルモノトス

- 一 療養年金ノ場合 年金五年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支拂ヒタル年金ノ額ヲ控除シタル殘額
- 二 退職年金ノ場合 年金七年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支拂ヒタル年金ノ額ヲ控除シタル殘額

四二二ノ一五

殘額

前項ノ規定ハ癡疾年金又ハ退職年金ノ給與ヲ受クヘキ者脱退後年金ノ給與ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 癡疾年金又ハ退職年金ハ其ノ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ其ノ前三月分ヲ支給ス但シ年金ヲ受クル者死亡シタルトキハ期日ニ拘ラス其ノ期分金額ヲ支給ス

第二十六條 癡疾年金又ハ退職年金ヲ受クル者ニハ脱退後七年以内ニ限り年金五分分ニ相當スル額以内ヲ利率年六分ノ割引ヲ以テ一時ニ支拂ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 年金ヲ賣買譲與實入書入シタルトキハ其ノ支拂ヲ停止シ又ハ其ノ給與ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十八條 癡疾年金、傷疾給與金、疾病給與金、療養給與金又ハ職務上ノ事由ニ因ル癡養ノ給付ヲ受ケ脱退シタル者脱退後一年以内ニ其ノ救済ヲ受ケタル事由ニ起因シ第十一條乃至第十四條ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ既ニ給與シタル救済金ヨリ多額ノ救済金ヲ給與スヘキ事由アルニ至リタルトキハ當該各條ノ規定ニ從ヒ救済金ヲ給與ス

前項ノ場合ニ於テ既ニ給與シタル救済金ヨリ多額ノ救済金ヲ給與スヘキモノナルトキハ其ノ差額ヲ給與シ癡疾年金ヲ給與スヘキモノナルトキハ其ノ年金トシテ支拂フヘキ額ヲ脱退後最初ノ分ヨリ積算シ既ニ支拂ヒタル傷疾給與金又ハ疾病給與金ノ總額ニ達スル迄ノ期間間年金ノ給與ヲ停止シ其ノ傷疾給與金又ハ疾病給與金ノ額ヲ以テ其ノ期間中ノ癡疾年金支拂額ニ充當ス

第二十九條 救済金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ救済金ヲ併給ス但シ退職年金ト脱退給與金及勤続給與金、癡疾年金ト傷疾給與金若ハ疾病給與金トハ之ヲ併給セズ

第三十條 殉職給與金、癡疾年金、傷疾給與金、疾病給與金、特種給與金、醫療給與金、死亡給與金、災害給與金、傷病手當金、分擔費、出產手當金及埋葬金ハ救済ノ事由發生ノ時ノ掛金ノ標準タル給料額ニ依リ之ヲ算定ス但シ第二十八條及第三十九條ノ十五乃至第三十九條ノ十七ノ場合ニ於テハ組合脱退又ハ資格喪失ノトキノ掛金ノ標準タル給料額ニ依ル退職年金ハ脱退ノ時ヨリ起リ二十年間ノ各年ニ付掛金ノ標準トナリタル給料額ヲ合算シタル額ヲ二十ヲ以テ除シタル平均給料額ニ依リ之ヲ算定ス

三等郵便局所屬ノ組合員ニ在リテハ掛金ヲ五十六分シタルモノニ一千ヲ乘シタルモノヲ以テ給料月額ト看做シ前二項ノ例ニ依ル

第三十條ノ二 掛金又ハ給與金ノ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ四捨五入ス但シ第七條ノ二ノ場合ニ於テハ掛金拂込ノトキ四捨五入ス

第三十一條 醫療給與金、死亡給與金、脱退給與金、勤続給與金、退職年金、特種給與金、癡養ノ給付、傷病手當金、分擔費、出產手當金及埋葬金ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ加入、甲種特別組合員ノ資格ノ取得喪失及救済ノ事由發生ノ日ヲ各一日トス

組合員ノ年齢ハ月ヲ以テ計算ス

第三十二條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキハ救済ヲ爲サス但シ脱退給與金ハ此ノ限ニ在ラス

刑事裁判ノ爲訴追セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判確定ニ至ル迄救済金ノ給與ヲ停止シ有罪ノ裁判確定シタルトキハ前項ノ例ニ依ル但シ既ニ支拂ヒタルモノニ付テハ之ヲ追徴セズ

第三十三條 組合員又ハ組合員タリシ者第十一條乃至第十五條、第十七條乃至第十九條、第二十四條、第二十八條、第三十九條ノ三、第三十九條

ノ七、第三十九條ノ十一、第三十九條ノ十二、第三十九條ノ十四、第三十九條ノ十六及第三十九條ノ十七ニ該當シタルトキハ本人、戸主、家族又ハ代理人ヨリ別ニ定ムル所ニ依リ直ニ之ヲ組合員又ハ組合員タリシ者ノ所屬長官ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人、戸主及家族ハ組合ノ醫師ノ臨檢、診察若ハ治療又ハ職員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ救済金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第三十四條 救済金ハ給與ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ給與セズ但シ癡養給與金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ二年以内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ癡疾年金及退職年金ノ每期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 救済金給與ノ時過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ニ加ヘ又ハ之ヨリ減ス

第三十六條 救済金ヲ受クヘキ者死亡シタル場合ニ於テ救済金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ死亡前其ノ順位ニ付特別ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 内縁ノ夫婦關係ニ在ル者

第四 直系尊屬

第五 兄弟姉妹

第六 戸主

第七 他家ニ在ル直系卑屬

第八 他家ニ在ル直系尊屬

第九 他家ニ在ル兄弟姉妹

第十 扶養ヲ受ケタル者

前項第二號、第五號、第七號及第九號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第四號及第八號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號、第四號、第五號及第十號ニ該當スル者ハ救済金ヲ受クヘキ者死亡ノトキ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

前各號ノ規定ハ第十一條、第十八條及第二十四條ニ依リ救済金ヲ受クヘキ遺族ノ範圍及順位ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 前條第一項第七號乃至第十號ノ者及救済金ヲ受クヘキ者死亡シタル後戸主トナリタル者ニ對シテハ救済金ノ半額ヲ給與ス

第三十八條 第三十六條ニ依リ救済金ヲ受領スル者無キトキハ組合ハ救済金ノ半額迄ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第三十九條 第三十二條第二項ノ規定ハ故意ニ救済金ヲ受クヘキ者又ハ救済金ノ給與ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲謀追セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

第五章 甲種特別組合員ニ關スル救済

第三十九條ノ二 甲種特別組合員ニ關シテハ前章ニ依ル救済金ノ外左ノ五種ヲ加フ

一 療養ノ給付

二 傷病手當金

二 分擔費

四 出產手當金

五 埋葬金

第三十九條ノ三 療養ノ給付ハ甲種特別組合員傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ

ルトキ左ノ範圍ニ於テ之ヲ給與スルモノトス

- 一 診察
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療
- 四 看護
- 五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一同二十圓限リトス但シ職務上ノ傷病又ハ疾病ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ組合必要アリト認ムル場合ニ限レ

組合必要アリト認ムル場合ハ組合員ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第十五條ノ規定ハ本條ノ救済ヲ受ケル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條ノ四 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ甲種特別組合員ハ組合ノ指定シタル醫師中自己ノ選定シタル者ニ就テ之ヲ受ケルコトヲ得但シ前條第四項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

甲種特別組合員前項ノ規定ニ依リ醫師ヲ選定シタルトキハ組合ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ傷病又ハ疾病ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ組合ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十九條ノ五 前條ニ規定スル醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ甲種特別組合員ハ組合ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ付キ藥劑ヲ受ケルコトヲ得

第三十九條ノ六 組合ハ左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ給與スルコトヲ得

一 主トシテ甲種特別組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合

給料日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲ケル者二人以内ナル場合

給料日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲ケル者三人以上ナル場合

給料日額ノ百分ノ六十

第三十九條ノ十一 分娩費ハ分娩前一年内ニ於テ九十日以上甲種特別組合員タリシ者分娩シタルトキ二十圓ヲ給與スルモノトス

組合必要アリト認ムル場合ハ前項ノ組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルトキ給與スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス

第三十九條ノ十二 出産手當金ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上甲種特別組合員タリシ者分娩ノ日以前二十八日分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十二相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ分娩ノ日力其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

前項ノ組合員ヲ産院ニ收容シタルトキハ第三十九條ノ十ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ組合員勞務ニ服セザリシ期間給料ヲ受ケルコトキハ出産手當金ハ之ヲ給與セズ

第三十九條ノ十三 出産手當金ノ給與ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ給與セズ

第三十九條ノ十四 埋葬金ハ甲種特別組合員死亡シタルトキ埋葬ヲ行フ遺族ニ對シ其ノ甲種特別組合員ノ給料日額ノ二十日分ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ其ノ額力二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 甲種特別組合員カ組合ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師ノ診察ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ請求アリタルトキ

三 甲種特別組合員カ緊急ノ場合ニ於テ組合指定セサル醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ請求アリタルトキ

前項ニ依リ給與スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ組合之ヲ定ム

第三十四條但書ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條ノ七 傷病手當金ハ甲種特別組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ三日以上勤務スルコト能ハサルトキ其ノ三日ヲ超エタル日ヨリ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十二相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ缺勤中給料ヲ受ケル者ニハ之ヲ給與セズ

第十七條ノ規定ハ本條ノ救済ヲ受ケル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條ノ八 甲種特別組合員職務上ノ事由ニ因ラスシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ同一ノ傷病又ハ疾病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ療養ノ給付及傷病手當金ヲ給與セズ

前項ノ給與ハ一事業年度ヲ通シ百八十日限リトス

前二項ノ規定ニ拘ラス療養ノ給付ハ傷病手當金ノ給與ヲ受ケル期間之ヲ給與ス

第三十九條ノ九 甲種特別組合員前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請スルコトキハ組合ハ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第三十九條ノ十 病院ニ收容シタル甲種特別組合員ニ對シ給與スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス

前項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス

第三十九條ノ十五 甲種特別組合員ニシテ組合脫退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル際傷病疾病又ハ分娩ニ關シ本章ノ救済ヲ受ケル者ハ甲種特別組合員トシテ本章ノ救済ヲ受ケヘカリシ期間繼續シテ本章ノ救済ヲ受ケ但シ資格喪失ノ前後ヲ通シ百八十日限リトス

第三十九條ノ十六 前條ノ規定ニ依リ救済ヲ受ケル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ救済ヲ受ケタル者其ノ救済ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ甲種特別組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ第三十九條ノ十四ノ規定ニ準シテ埋葬金ヲ給與スルモノトス

第三十九條ノ十七 甲種特別組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩費及出産手當金ノ給與ヲ受ケルモノトス

第三十九條ノ十八 第七條ノ三第二號乃至第五號ノ場合ニ在リテハ甲種特別組合員又ハ甲種特別組合員タリシ者ニ對シ本章ノ救済ハ之ヲ爲サズ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

第三十九條ノ十九 組合ハ正當ノ理由ナクシテ療養ノ指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ給與スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ給與セサルコトアルヘシ

第六章 審査會

第四十條 加入、脱退、救済金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ逓信大臣ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 審査會ハ議長一名委員十名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十二條 議長及委員ハ通信部内高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ通信大臣之ヲ指定ス

第四十三條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第四十三條ノ二 審査會ニ幹事一名ヲ置キ通信部内高等官ノ中ヨリ通信大臣之ヲ指定ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第四十三條ノ三 審査會ニ書記一名ヲ置キ通信部内列任官ノ中ヨリ通信大臣之ヲ命ス

書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十四條ノ二 審査會ハ第四十條ノ審査請求書及之ニ對スル辨明書ニ付審査ス

審査會ハ必要ト認ムル書類ヲ徴スルコトヲ得

第四十四條ノ三 審査ノ請求ヲ成規ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ決議ヲ以テ之ヲ却下スヘシ但シ審査請求手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ審査會之ヲ補正セシムルコトヲ妨ケス

第四十五條 議長又ハ委員ハ自己ニ關スル審査ニ與ルコトヲ得ス

第四十六條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ通信大臣ニ具申シ且之ヲ通信次官及審査請求者ニ通知スヘシ

第四十七條 通信大臣ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認メタルトキハ再審査ヲ命ス

第四十八條 審査會ノ決議ハ組合ヲ縛束ス

第七章 會計

第四十九條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十條 本組合ノ財産ハ郵便貯金若ハ銀行預金ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債券若ハ地方債券ヲ購入スルコトヲ得

前項ニ依ルモノノ外組合財産ノ管理方法ハ通信大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第五十一條 組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ廢疾年金、退職年金、脫退給與金及勤給給與金ノ給與ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五十二條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第五十二條ノ二 組合財産ノ管理ニ付テハ共濟組合財産管理委員ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ヲ經ヘキ財産管理ノ範圍及共濟組合財産管理委員ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

附則

第五十三條 本令ハ大正九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條 明治四十二年六月通信省令第二十三號爲替貯金局及地方通信署職員共濟組合規則ハ之ヲ廢止ス

第五十五條 明治四十二年六月通信省令第二十三號爲替貯金局及地方通信署職員共濟組合規則ニ依ル組合及組合員ハ本令施行ト同時ニ本令ニ依ル組合及組合員ト爲ル

第五十六條 前條ニ依リ本組合ノ組合員ト爲ル者ノ外本令施行ノ際現ニ本令第三條第二項ノ現業員タル者ハ本令施行ト同時ニ組合ニ加入ス

第五十七條 本令施行前ニ救濟金給與ノ事由發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔社會六號〕

〔社會六號〕

第五十八條 本令施行前ニ加入シタル組合員ニ對スル退職年金ハ第二十三條ニ依リ算出シタル金額ヨリ平均給料年額ノ二百分ノ一ニ本令施行前ノ加入年數ヲ乘シタル額ヲ控除シタル金額トス

附則 (大正十一年通信省令第七十一號)

本令ハ大正十二年一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第十三條及第十七條ニ該當ノ事故發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十三年通信省令第四十四號)

本令施行前第十八條、第二十條及第三十二條ニ該當ノ事故發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號表(脫退給與金)

加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脫退ノ時迄ノ年數	掛金毎月一圓ニ對スル給與額	加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脫退ノ時迄ノ年數	掛金毎月一圓ニ對スル給與額
一 年	一一・二三	九 年	一三四・八二
二 年	二五・〇七	十 年	一五三・七八
三 年	三八・五五	十 年	一七三・七〇
四 年	五二・七〇	十 年	一九四・六一
五 年	六七・五六	十 年	二一六・五七
六 年	八三・一六	十 年	二三九・六二
七 年	九九・五五	十 年	二六三・八三
八 年	一一六・七五		

(勤続給與金)

加入後同	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年	二十五年		
二六・三五	三三・五〇	四〇・〇〇	四六・七五	五三・五〇	六〇・二五	六七・〇〇	七三・七五	八〇・五〇	八七・二五	九四・〇〇	一〇〇・七五	一〇七・五〇	一一四・二五	一二一・〇〇	一二七・七五	一三四・五〇	一四一・二五	一四八・〇〇	一五四・七五	一六一・五〇	一七三・二五	一八〇・〇〇	一八六・七五	一九三・五〇	二〇〇・二五
二四・一〇	三〇・九二	三七・七四	四四・五六	五一・三八	五八・二〇	六五・〇二	七一・八四	七八・六六	八五・四八	九二・三〇	九九・一二	一〇六・〇四	一一二・八六	一二〇・〇八	一二七・三〇	一三四・五二	一四一・七四	一四八・九六	一五六・一八	一六三・四〇	一七〇・六二	一七八・八四	一八六・〇六	一九三・二八	二〇〇・五〇
二二・四四	二七・三一	三二・五八	三八・四〇	四四・二二	五〇・〇四	五五・八六	六一・六八	六七・五〇	七三・三二	七九・一四	八四・九六	九〇・七八	九六・六〇	一〇二・四二	一〇八・二四	一一四・〇六	一二〇・八八	一二六・七〇	一三二・五二	一三八・三四	一四四・一六	一五〇・〇	一五五・八二	一六一・四四	一六七・〇六
五・六二	一一・三八	一七・五一	二三・一四	二八・七八	三三・四一	三九・〇四	四四・六七	五〇・三〇	五五・九三	六一・五六	六七・一八	七十二・八一	七八・〇三	八三・二五	八八・四七	九四・〇〇	九九・六二	一〇五・二四	一一〇・八六	一二・二八	一二・九〇	一三・五二	一四・一四	一四・七六	一五・三八
五・四八	一一・三三	一七・一八	二二・八一	二八・四四	三四・〇七	三九・七〇	四五・三三	五〇・九六	五六・五九	六二・二二	六七八・五	七三・四八	七九・一	八四・六四	九〇・二七	九五・九〇	一〇一・五三	一〇七・一六	一一二・七八	一二・四〇	一二・〇二	一二・六四	一三・二六	一三・八八	一四・五〇
五・三七	一一・二二	一七・〇七	二二・七〇	二八・三三	三三・九六	三九・五九	四五・二二	五〇・八五	五六・四八	六二・一一	六七八・四	七三・〇七	七八・七〇	八四・三三	八九・九六	九五・五九	一〇一・二二	一〇六・八五	一一二・四八	一二・一〇	一二・七二	一三・三四	一三・九六	一四・五八	一五・二〇
五・二二	一〇・七四	一六・五九	二二・四四	二八・二九	三四・一四	三九・九九	四五・八四	五一・六九	五七・五四	六三・三九	六九・二四	七五・〇九	八〇・九四	八六・七九	九二・六四	九八・四九	一〇四・三四	一一〇・一九	一一五・〇四	一二・〇六	一二・六八	一三・三〇	一三・九二	一四・五四	一五・一六
一・七二	九・七二	一五・〇二	二〇・三二	二五・六二	三〇・九二	三六・二二	四一・五二	四六・八二	五二・一二	五七・四二	六二・七二	六八・〇二	七三・三二	七八・六二	八三・九二	八九・二二	九四・五二	一〇〇・〇二	一〇五・五二	一一・〇二	一一・六四	一二・二六	一二・八八	一三・五〇	一四・一二
四・三六	八・七六	一三・一六	一七・五六	二二・九六	二八・七六	三四・五六	四〇・三六	四六・一六	五一・九六	五七・七六	六三・五六	六九・三六	七五・一六	八〇・九六	八六・七六	九二・五六	九八・三六	一〇四・一六	一一〇・一六	一一・五六	一二・一六	一二・七六	一三・三六	一三・九六	一四・五六
四・一八	八・四八	一二・八八	一七・二八	二二・〇八	二六・八八	三二・六八	三八・四八	四四・二八	四九・〇八	五四・八八	六〇・六八	六六・四八	七十二・二八	七八・〇八	八三・八八	八九・六八	九五・四八	一〇一・二八	一〇七・〇八	一一・二八	一二・〇八	一二・八八	一三・六八	一四・四八	一五・二八
四・〇六	八・三六	一二・七六	一七・一六	二二・九六	二八・七六	三四・五六	四〇・三六	四六・一六	五一・九六	五七・七六	六三・五六	六九・三六	七五・一六	八〇・九六	八六・七六	九二・五六	九八・三六	一〇四・一六	一一〇・一六	一一・五六	一二・一六	一二・七六	一三・三六	一三・九六	一四・五六
三・九三	八・二〇	一二・六〇	一七・〇〇	二二・四〇	二七・八〇	三三・二〇	三八・六〇	四四・〇〇	四九・四〇	五四・八〇	六〇・二〇	六五・六〇	七一・〇〇	七六・四〇	八一・八〇	八七・二〇	九二・六〇	九八・〇〇	一〇三・四〇	一一・〇〇	一二・六〇	一二・二〇	一三・八〇	一四・四〇	一五・〇〇
三・七九	八・〇六	一二・四六	一六・八六	二二・二六	二七・六六	三三・〇六	三八・四六	四三・八六	四九・二六	五四・六六	六〇・〇六	六五・四六	七〇・八六	七六・二六	八一・六六	八七・〇六	九二・四六	九七・八六	一〇三・二六	一一・〇六	一二・六六	一二・二六	一三・八六	一四・四六	一五・〇六
三・六三	七・九〇	一二・三〇	一六・七〇	二二・一〇	二七・五〇	三二・九〇	三八・三〇	四三・七〇	四九・一〇	五四・五〇	六〇・九〇	六六・三〇	七一・七〇	七七・一〇	八二・五〇	八七・九〇	九三・三〇	九八・七〇	一〇四・一〇	一一・一〇	一二・七〇	一二・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
三・四三	七・七〇	一二・一〇	一六・五〇	二二・九〇	二八・三〇	三三・七〇	三九・一〇	四四・五〇	五〇・九〇	五六・三〇	六二・七〇	六八・一〇	七三・五〇	七九・九〇	八五・三〇	九〇・七〇	九六・一〇	一〇一・五〇	一〇七・九〇	一一・三〇	一二・九〇	一二・五〇	一四・一〇	一四・七〇	一五・三〇
三・二二	七・五〇	一二・九〇	一七・三〇	二二・七〇	二八・一〇	三三・五〇	三九・九〇	四五・三〇	五一・七〇	五七・一〇	六三・五〇	六九・九〇	七六・三〇	八二・七〇	八九・一〇	九五・五〇	一〇一・九〇	一〇八・三〇	一一四・七〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
三・〇一	七・二〇	一二・六〇	一七・〇〇	二二・四〇	二七・八〇	三三・二〇	三九・六〇	四五・〇〇	五一・四〇	五七・八〇	六四・二〇	七〇・六〇	七七・〇〇	八三・四〇	八九・八〇	九六・二〇	一〇二・六〇	一〇九・〇〇	一一五・四〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
二・八〇	七・〇〇	一二・四〇	一六・八〇	二二・二〇	二七・六〇	三三・〇〇	三九・四〇	四四・八〇	五一・二〇	五七・六〇	六四・〇〇	七〇・四〇	七六・八〇	八三・二〇	八九・六〇	九六・〇〇	一〇二・四〇	一〇八・八〇	一一五・二〇	一二・二〇	一二・八〇	一三・四〇	一四・〇〇	一四・六〇	一五・二〇
二・六〇	六・八〇	一二・二〇	一六・六〇	二二・〇〇	二七・四〇	三二・八〇	三九・二〇	四四・六〇	五一・〇〇	五七・四〇	六三・八〇	七〇・二〇	七六・六〇	八三・〇〇	八九・四〇	九五・八〇	一〇二・二〇	一〇八・六〇	一一五・〇〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
二・四〇	六・六〇	一二・〇〇	一六・四〇	二一・八〇	二七・二〇	三二・六〇	三九・〇〇	四四・四〇	五〇・八〇	五七・二〇	六三・六〇	七〇・〇〇	七六・四〇	八二・八〇	八九・二〇	九五・六〇	一〇二・〇〇	一〇八・四〇	一一四・八〇	一二・〇〇	一二・六〇	一三・二〇	一三・八〇	一四・四〇	一五・〇〇
二・二〇	六・四〇	一二・八〇	一七・二〇	二二・六〇	二八・〇〇	三三・四〇	三九・八〇	四五・二〇	五一・六〇	五八・〇〇	六四・四〇	七〇・八〇	七七・二〇	八三・六〇	九〇・〇〇	九六・四〇	一〇二・八〇	一〇九・二〇	一一五・六〇	一二・二〇	一二・八〇	一三・四〇	一四・〇〇	一四・六〇	一五・二〇
二・〇〇	六・二〇	一二・六〇	一七・〇〇	二二・四〇	二七・八〇	三三・二〇	三九・六〇	四五・〇〇	五一・四〇	五七・八〇	六四・二〇	七〇・六〇	七七・〇〇	八三・四〇	八九・八〇	九六・二〇	一〇二・六〇	一〇九・〇〇	一一五・四〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
一・八〇	六・〇〇	一二・四〇	一六・八〇	二二・二〇	二七・六〇	三三・〇〇	三九・四〇	四四・八〇	五一・二〇	五七・六〇	六四・〇〇	七〇・四〇	七六・八〇	八三・二〇	八九・六〇	九六・〇〇	一〇二・四〇	一〇八・八〇	一一五・二〇	一二・二〇	一二・八〇	一三・四〇	一四・〇〇	一四・六〇	一五・二〇
一・六〇	五・八〇	一二・二〇	一六・六〇	二二・〇〇	二七・四〇	三二・八〇	三九・二〇	四四・六〇	五一・〇〇	五七・四〇	六三・八〇	七〇・二〇	七六・六〇	八三・〇〇	八九・四〇	九五・八〇	一〇二・二〇	一〇八・六〇	一一五・〇〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
一・四〇	五・六〇	一二・〇〇	一六・四〇	二一・八〇	二七・二〇	三二・六〇	三九・〇〇	四四・四〇	五〇・八〇	五七・二〇	六三・六〇	七〇・〇〇	七六・四〇	八二・八〇	八九・二〇	九五・六〇	一〇二・〇〇	一〇八・四〇	一一四・八〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
一・二〇	五・四〇	一二・八〇	一七・二〇	二二・六〇	二八・〇〇	三三・四〇	三九・八〇	四五・二〇	五一・六〇	五八・〇〇	六四・四〇	七〇・八〇	七七・二〇	八三・六〇	九〇・〇〇	九六・四〇	一〇二・八〇	一〇九・二〇	一一五・六〇	一二・二〇	一二・八〇	一三・四〇	一四・〇〇	一四・六〇	一五・二〇
一・〇〇	五・二〇	一二・六〇	一七・〇〇	二二・四〇	二七・八〇	三三・二〇	三九・六〇	四五・〇〇	五一・四〇	五七・八〇	六四・二〇	七〇・六〇	七七・〇〇	八三・四〇	八九・八〇	九六・二〇	一〇二・六〇	一〇九・〇〇	一一五・四〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
〇・八〇	五・〇〇	一二・四〇	一六・八〇	二二・二〇	二七・六〇	三三・〇〇	三九・四〇	四四・八〇	五一・二〇	五七・六〇	六四・〇〇	七〇・四〇	七六・八〇	八三・二〇	八九・六〇	九六・〇〇	一〇二・四〇	一〇八・八〇	一一四・二〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
〇・六〇	四・八〇	一二・二〇	一六・六〇	二二・〇〇	二七・四〇	三二・八〇	三九・二〇	四四・六〇	五一・〇〇	五七・四〇	六三・八〇	七〇・二〇	七六・六〇	八三・〇〇	八九・四〇	九五・八〇	一〇二・二〇	一〇八・六〇	一一四・〇〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
〇・四〇	四・六〇	一二・〇〇	一六・四〇	二一・八〇	二七・二〇	三二・六〇	三九・〇〇	四四・四〇	五〇・八〇	五七・二〇	六三・六〇	七〇・〇〇	七六・四〇	八二・八〇	八九・二〇	九五・六〇	一〇二・〇〇	一〇八・四〇	一一四・八〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇
〇・二〇	四・四〇	一二・八〇	一七・二〇	二二・六〇	二八・〇〇	三三・四〇	三九・八〇	四五・二〇	五一・六〇	五八・〇〇	六四・四〇	七〇・八〇	七七・二〇	八三・六〇	九〇・〇〇	九六・四〇	一〇二・八〇	一〇九・二〇	一一五・六〇	一二・二〇	一二・八〇	一三・四〇	一四・〇〇	一四・六〇	一五・二〇
〇・〇〇	四・二〇	一二・六〇	一七・〇〇	二二・四〇	二七・八〇	三三・二〇	三九・六〇	四五・〇〇	五一・四〇	五七・八〇	六四・二〇	七〇・六〇	七七・〇〇	八三・四〇	八九・八〇	九六・二〇	一〇二・六〇	一〇九・〇〇	一一五・四〇	一二・一〇	一二・七〇	一三・三〇	一三・九〇	一四・五〇	一五・一〇

其異動差額金壹圓ニ對スル給與金額ヲ掲ケ
 二十五年ニ對スル給與金額ニ年五朱ノ複利ヲ付シタルモノヲ積算ス
 於テ端數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ於テ受クヘキ金額ヲ給與ス
 濟保險 第一節 共濟組合

鐵道省現業員ノ共濟組合ニ關スル件

明治四十年四月十九日
勅令第百二十七號

改正 明治四十年二月勅令第三〇五號、大正二年七月勅令二六〇號、九年五月第一四四號、第一五四號、昭和三年六月第一〇九號

朕鐵道省現業員ノ共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鐵道部内ノ鐵道手及雇員以下ノ現業員ハ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 鐵道大臣ハ鐵道部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 鐵道部内ニ勤務スル職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セズ

第五條 (削除)

第六條 本令ハ明治四十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 國有鐵道共濟組合規則

大正九年四月一日
鐵道院公達第一號

改正 大正九年七月鐵道省公達第一六八號

國有鐵道共濟組合規則左ノ通定ム

第一章 總則

第二章 組合員

第三章 組合員ノ資格

第四章 組合員ノ退會

第五章 組合員ノ福利

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

第七節 組合員ノ福利

第八章 組合員組合ヲ脫退シタルトキハ本規則ニ依リ給付ヲ受クルノ外組

【社會一〇號】

第一條 本組合ハ明治四十年四月勅令第百二十七號ニ基キ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ國有鐵道共濟組合ト稱ス

第三條 本組合ノ事務ハ鐵道大臣之ヲ統理ス

第二章 組合員

第四條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ鐵道手及雇員以下ノ現業員ヲ謂フ

乙種組合員トハ前項現業員以外ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第六條第五號ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スル意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

鐵道手及雇員以下ノ現業員ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 臨時ニ使用スル者、給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第六條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ脫退ス

一 死亡シタルトキ

二 退官又ハ退職シタルトキ

三 他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ

四 休職トナリタルトキ

五 甲種組合員ニ在リテハ鐵道手及雇員以下ノ現業員以外ノ職務ニ轉シタルトキ但シ組合員タル資格ヲ繼續スル意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

六 乙種組合員ニ在リテハ加入後又ハ資格繼續後一年ヲ超過シタル者脫退ノ意思ヲ表示シタルトキ

七 第五條ニ該當スルニ至リタルトキ

第七條 組合員ノ年齢及加入年數ハ月ヲ以テ計算ス

第八條 組合員組合ヲ脫退シタルトキハ本規則ニ依リ給付ヲ受クルノ外組

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第九條 組合員ハ毎月掛金トシテ左ノ金額ヲ支拂フヘシ

甲種組合員 給料月額百分ノ六

乙種組合員 給料月額百分ノ十一

乙種組合員ノ掛金ハ資格繼續ニ因リ組合員トナリタル者並新ニ組合ニ加入シ加入後五年ヲ經過シタル者ニ限リ給料月額百分ノ七ヲ選擇スルコトヲ得

第十條 掛金ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ給料月額ト定メ之ヲ計算ス

掛金ハ職位未滿之ヲ四捨五入ス

特別ノ勞務又ハ臨時ノ事由ニ因リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ掛金額ハ之ヲ増減セズ

第十一條 掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

給料ヲ受ケサル月及給料ヲ受ケルモ其ノ受領額カ掛金額ニ滿タサル月ノ掛金ハ次回受領ノ時之ヲ支拂フモノトス

第十二條 掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス

第九條第二項ノ乙種組合員ニ在リテハ掛金ノ選擇ヲ爲シタル當時ノ給料ニ依リ掛金ノ額ヲ算定シ爾後其ノ額ヲ改定スルコトナシ

第十三條 戰時事變ノ爲陸海軍ニ召集又ハ配屬セラレタルトキハ其ノ間掛金ヲ徴取セズ

第四章 給付

第一節 總則

第十四條 給付ハ之ヲ左ノ六種トス

一 公傷給付

二 療疾給付

三 疾病給付

四 退職給付

五 遺族給付

六 災厄給付

第十五條 給付ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ退職給付及療疾年金ハ相互ニ之ヲ併給セズ

公傷年金ト退職年金又ハ退職定期年金ト併給スル場合ニ於テ併給額給料年額ヲ超過スルトキハ該給料年額ヲ限リ公傷年金トシテ之ヲ給ス

療疾年金ノ額ニシテ退職年金又ハ退職定期年金額ニ達セザルトキハ退職年金又ハ退職定期年金ノ額ヲ療疾年金トシテ之ヲ給ス

第三十二條及第三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ

第十六條 第九條第二項ノ乙種組合員ニ對スル給付ハ之ヲ療疾給付、退職給付及遺族一時金トス

第十七條 給付額ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス

第十八條 給付額算定ノ基本タル給料ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ一箇月ノ額トシ其ノ十二倍ヲ以テ一箇年ノ額トス

月給ヲ受ケルモノニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ一日分ノ額トス

第十九條 第十條第二項ノ規定ハ給付額算定ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 給付金支給ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ支給額ニ加ヘ又ハ之ヲ支給額ヨリ控除ス但シ年金ニ在リテハ第一回ノ支給ノ際之ヲ爲スモノトス

第二十一條 年金ノ支給ハ退官、退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス

遺族年金ノ轉給ハ權利發生ノ翌月ヨリ之ヲ開始ス

第二十二條 年金ハ月割計算トス

〔社會〕

〔社會〕

前項ノ年金額ハ之ヲ四月、七月、十月及一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ給ス但シ權利消滅ノ場合ハ期月ニ拘ラス之ヲ給ス

第二十三條 給付ノ請求ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ三年以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ其ノ官職ヲ免セラレタルトキハ本章ノ給付ハ之ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二節 公傷給付

第二十五條 公傷給付ハ組合員職務執行上傷病ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ等級ニ應ジ當該金額ヲ給ス

第一等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷病ヲ受ケタルトキ

公傷年金 給料七箇月分乃至九箇月分

第二等 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖モ終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキ傷病ヲ受ケタルトキ

公傷年金 給料三箇月分乃至五箇月分

第三等 自用ヲ辨シ並業務ニ就クコトヲ得ト雖モ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ退官又ハ退職シタルトキ

公傷一時金 給料八箇月分乃至一年六箇月分

第四等 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ト雖モ引續キ職務ニ服スルコトキ

公傷一時金 給料一箇月分乃至六箇月分

第二十六條 公傷年金ハ本人ノ終身間之ヲ給ス

第二十七條 組合員職務執行上傷病ヲ受ケ前二條ノ給付ヲ受ケルニ至ラサル者當該傷病ニ基テ前二條ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各條ノ給付ヲ爲ス

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第六條 共済保險 第一節 共済組合

第六條 共済保險 第一節 共済組合

第六條 共済保險 第一節 共済組合

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第三十二條 療疾年金ヲ受ケル者ニシテ其ノ療疾輕減シタルトキハ該年金ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十三條 療疾年金ヲ受ケル者組合ヨリ要求アリタルトキハ組合指定ノ場所ニ於テ健康診斷ヲ受ケルコトヲ要ス

第三十四條 特症金ハ職業的疾患又ハ肺結核ニ罹リ業務ニ堪ヘサル場合ニ於テ加入後一年ヲ經過シタルトキハ給料三箇月分、三年ヲ經過シタルトキハ給料六箇月分、五年ヲ經過シタルトキハ給料九箇月分、七年ヲ經過シタルトキハ給料一年分ニ相當スル金額ヲ給スルモノトス但シ療疾年金ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

職業的疾患ノ種類ハ別ニ之ヲ定ム

第四節 疾病給付

第三十五條 疾病給付ハ組合員傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス但シ職務執行上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 醫療金

二 休養金

三 産婦金

第三十六條 醫療金ハ組合員ニシテ鐵道病院、療養所、治療所又ハ鐵道囑託醫ニ就キ醫療ヲ受ケタル場合ニ於テ現ニ要シタル醫療費用ノ半額ヲ給ス但シ傳染病預防法ニ規定スル傳染病及肺結核、喉頭結核、結核性肋膜炎、疥癬其ノ他職業的疾患ニ罹リタル者ニ在リテハ現ニ要シタル醫療費用ノ十分ノ七ヲ給ス

傷疾疾病ノ狀況其ノ他特別ノ事情ノ爲他ノ醫師ニ就キ醫療ヲ受ケタルトキ亦同シ

テハ給料年額ノ四分ノ一トシ十五年以上ハ加入一年ヲ増ス毎ニ之ニ給料年額百分ノ一ヲ加算ス

第四十二條 退職一時金ハ組合員前二條ノ年金ヲ受ケルニ至ラスシテ脱退シタルトキ之ヲ給ス

前項一時金ノ額ハ加入後六箇月ヲ經過シ一年未滿ニシテ脱退シタル者ニ在リテハ給料十日分トシ六箇月以上ハ加入六箇月ヲ増ス毎ニ之ニ給料十日分ヲ加算ス但シ自己ノ便宜ニ因リ脱退シタル者ニ在リテハ其ノ十分ノ八トス

加入後六ヶ月以内ニシテ脱退シタル者ニ在リテハ退官又ハ退職ノ原因カ自己ノ便宜ニ非ラサル場合ニ限リ掛金額ニ相當スル一時金ヲ給スルコトヲ得但シ給料十日分ヲ超ユルコトヲ得ス

第六節 遺族給付

第四十三條 遺族給付ハ組合員死亡シタルトキ左ノ種別ニ從ヒ其ノ遺族ニ之ヲ給ス

一 遺族年金

二 遺族一時金

三 葬祭金

第四十四條 遺族年金ハ組合員職務執行上傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ之ヲ給ス

遺族年金ノ額ハ之ヲ給料三箇月分トス

組合員ニシテ加入後二十年ヲ經過シタル者ナルトキハ前項年金額ハ之ヲ給料四箇月分トス

第四十五條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ其ノ終身間之ヲ給ス配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻シタルトキハ前項年金ヲ受ケルノ權利ヲ喪フ

第四十六條 配偶者ナキトキ並年金額ヲ受ケル配偶者死亡シタルトキ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ年金額ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給ス

醫療金ノ給付ハ加入後十年未滿ノ者ニ在リテハ一事業年度ヲ通シテ百八十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十七條 休養金ハ前條ノ規定ニ依リ醫療金ヲ受ケル者休業シ給料ノ支給ヲ受ケサル場合ニ於テ給料ノ半額ニ相當スル金額ヲ給スルモノトス但シ傳染病預防法ニ規定スル傳染病及トラホームニ罹リ其ノ費用ヲ官公費ニテ支拂ヒタル者ニ在リテハ醫療金ヲ受ケル者ナルコトヲ要セス

前項ノ休養金ハ休業五日ヨリ之ヲ給シ加入後十年未滿ノ者ニ在リテハ一事業年度ヲ通シ百二十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 産婦金ハ組合員分娩ノ爲休業シ給料ノ支給ヲ受ケサル場合ニ於テ分娩前後ヲ通シ四十二日間ヲ限リ給料ノ半額ニ相當スル金額ヲ給スルモノトス但シ該期間休養金ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五節 退職給付

第三十九條 退職給付ハ組合員第六條第二號乃至第七號ノ事由ニ因リ脱退シタルトキ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス

一 退職年金

二 退職定期年金

三 退職一時金

第四十條 退職年金ハ組合員加入後二十年ヲ經過シ年額四十歳ヲ超エ脱退シタルトキ終身間之ヲ給ス

前項ノ年金額ハ加入後二十年以上二十一年未滿ニシテ脱退シタル者ニ在リテハ給料年額ノ三分ノ一トシ二十年以上ハ加入一年ヲ増ス毎ニ之ニ給料年額ノ百分ノ一ヲ加算ス

第四十一條 退職定期年金ハ加入後十五年ヲ經過シ年額四十歳ヲ超エテ脱退シ前條ノ年金ヲ受ケルニ至ラサルトキ十五年間ヲ限リ之ヲ給ス但シ定期内ニ死亡シタルトキハ年金額ノ給付ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

前項ノ年金額ハ加入後十五年以上十六年未滿ニシテ脱退シタル者ニ在リ

前項ノ遺子トハ組合員ノ家ニ在ル年額二十歳未滿ノ未タ婚姻セサル者ヲ云フ

第四十七條 年金ヲ受ケヘキ遺子ナキトキ並年金額ヲ受ケル遺子其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給スルコトヲ得

第四十八條 遺族一時金ハ組合員死亡シタルトキ其ノ遺族ニ之ヲ給ス但シ職務執行上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項一時金ノ額ハ組合員加入後一年未滿ナルトキハ給料六箇月分、一年以上三年未滿ナルトキハ給料九箇月分、三年以上十年未滿ナルトキハ給料一年分、十年以上ナルトキハ給料一年六箇月分ニ相當スル金額トス

第四十九條 公傷年金、療疾年金、退職年金又ハ退職定期年金ヲ受ケル者退職ノ日ヨリ公傷年金ヲ受ケル者ニ在リテハ五年、其ノ他ノ年金ヲ受ケル者ニ在リテハ三年以内ニ死亡シタルトキ其ノ遺族ニ一時金ヲ給ス

前項一時金ノ額ハ公傷年金ニ在リテハ該年金ノ五分分、其ノ他ニ在リテハ該年金ノ三分分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給シタル年金額ヲ控除シタル金額トス

第五十條 公傷年金、退職年金又ハ退職定期年金ヲ受ケル權利確定シ未ダ年金ノ支給ヲ受ケルニ至ラサル者在職中死亡シタルトキハ公傷年金ヲ受ケル者ニ在リテハ該年金ノ五分分、其ノ他ニ在リテハ該年金ノ三分分ヲ其ノ遺族ニ給ス

第五十一條 前三條ノ規定ニ依リ一時金ヲ受領スヘキ遺族及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員カ死亡前特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第二 配偶者

第三 直系尊屬

第一項第一號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ同項第三號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號ニ該當スル者給付決定前死亡シタルトキハ次順位者其ノ受領者トナル

第一項第一號及第三號ニ該當スル者ハ組合員死亡當時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

第五十二條 遺族年金又ハ遺族一時金ヲ受領スル者ナキトキハ組合員ハ年金ニ在リテハ其ノ三分分、一時金ニ在リテハ其ノ三分ノ二ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第五十三條 葬祭金ハ組合員死亡シタル場合ニ於テ其ノ葬祭ヲ營ミタル者ニ之ヲ給ス

前項ノ金額ハ第四十四條ノ場合ニ在リテハ給料二箇月分、第四十八條ノ場合ニ在リテハ給料一箇月分トス

第七節 災厄給付

第五十四條 災厄給付ハ組合員災厄ニ罹リタル場合ニ於テ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ給ス

一 災害見舞金

二 家族見舞金

三 家族弔慰金

第五十五條 災害見舞金ハ組合員水火、震災其ノ他非常ノ災害ニ遭遇シタルトキ給料二箇月分以内ノ金額ヲ給スルモノトス

第五十六條 家族見舞金ハ組合員ノ現ニ扶養スル同居ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ引續キ一箇月以上休養シ醫療ヲ受ケル場合ニ限リ之

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六十九條 鐵道大臣又ハ其ノ命ヲ受ケタル官吏ハ審査會ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得但シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第七十條 審査會ハ何時ニテモ關係醫師ノ出席ヲ求メ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第七十一條 議長又ハ審査委員ハ特別ノ利害關係ヲ有スル事件ノ審査ニ與ルコトヲ得ス

第七十二條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ鐵道大臣ニ報告シ且審査ヲ求メタル者ニ通知スヘシ

第七十三條 審査會ノ決議ハ組合員ヲ驅逐ス

第七十四條 鐵道大臣ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命スルコトヲ得

第七章 附則

第七十五條 本規則ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條 大正七年二月公達第一號鐵道院共済組合規則ハ之ヲ廢止ス

第七十七條 本規則施行前ニ給付ヲ受ケヘキ事由發生シ未タ處分決定ニ至ラサルモノニ關シテハ舊規則ニ依ル

第七十八條 本規則施行前加入シタル乙種組合員ニ在リテハ第九條第二項ノ掛金ヲ選擇スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル給付ハ第十六條ノ規定ニ依ル

第七十九條 舊規則ニ依リ公傷救済金ヲ年金トシテ受ケル者ニ在リテハ本規則施行後ト雖モ其ノ給付ニ關シテハ舊規則ノ規定ニ依ル

第八十條 本規則施行前加入シタル組合員ニ對スル本規則ニ依ル退職給付ノ額ハ左ノ例ニ依ル

一 退職年金又ハ退職定期年金ニ在リテハ第四十條又ハ第四十一條ニ依リ算出シタル金額ヨリ第十七條、第十八條ニ依ル給料年額ノ二百分

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

ヲ給ス但シ一事業年度内一回トス

前項見舞金ノ額ハ之ヲ給料十日分以内トス

第五十七條 家族弔慰金ハ組合員ノ現ニ扶養スル同居ノ家族ニシテ死亡シタルトキ之ヲ給ス

前項弔慰金ノ額ハ之ヲ給料十日分以内トス

第五十八條 前二條ノ家族ハ之ヲ配偶者、直系尊屬、直系尊屬トス

第五章 會計

第五十九條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第六十條 組合財産ノ管理方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六十一條 組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金及遺族一時金、退職一時金並第八十一條及第八十二條ノ給付ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十二條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第六章 審査會

第六十三條 組合ハ審査會ヲ置ク

第六十四條 加入及脱退並給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ鐵道大臣ニ申告シ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第六十五條 審査會ハ議長一名及審査委員十名ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十六條 議長ハ鐵道次官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十七條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

第六十八條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス

ノ一ニ本規則施行前ノ加入年數ヲ乘シタル額ヲ控除シタル金額トス

二 退職一時金ニ在リテハ第四十二條第二項ニ依リ算出シタル金額ヨリ本規則施行前ノ加入年數ニ對スル第四十二條第二項ニ依ル算出額ノ二分ノ一ヲ控除シタル金額トス

第八十一條 本規則施行前舊規則ニ依リ掛金ノ支拂ヲ完了シタル者ハ本規則施行後ト雖モ掛金ノ支拂ヲ要セス

前項ニ該當スル者ニ對シテハ癡疾給付、退職給付及遺族一時金ニ限リ之ヲ給セス此ノ場合ニ於テハ明治四十年四月選信省公達第三百十五號鐵道院職員救済組合規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル救済金ヲ給ス

第八十二條 本規則施行前加入五年ヲ經過シ年齢五十五歳以上ニ達シ本規則施行後第六條第二號乃至第七號ノ事由ニ依リ脱退シタル組合員ニシテ第四十二條ニ該當スル場合ハ該條ノ給付ヲ爲サス

前項ノ場合ニ於テハ加入五年以上六年未滿ニシテ脱退シタル者ニ對シテハ給料百五十日分ヲ給シ加入五年以上ハ加入一年ヲ増ス毎ニ之ニ給料三十日分ヲ加給ス

● 警部補、巡查、消防手共済組合

二 關スル件

大正九年三月二十四日 勅令第四十四號

朕警部補、巡查、消防手共済組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道廳、警視廳及府縣所屬ノ警部補、巡查及列任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第二條 北海道地方費及府縣ハ各其ノ廳府縣所屬ノ組合員ノ俸給總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ毎年組合ニ給與スヘシ

第三條 內務大臣ハ內務部內及廳府縣ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

警察共済組合規則

大正九年七月十三日 內務省令第二十一號

警察共済組合規則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 本組合ハ大正九年勅令第四十四號ニ基キ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ警察共済組合ト稱シ內務大臣之ヲ監督ス

第三條 本組合ノ事務ハ內務次官之ヲ統轄シ道府縣內ニ於ケル組合ノ事務ハ地方長官之ヲ掌理ス

第四條 地方長官ハ所部ノ廳府縣職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第二章 組合員

第五條 本令施行ノ日ニ於テ現ニ警部補、巡查又ハ列任官ノ待遇ヲ受ケル消防手タル者ハ其ノ日ヨリ、本令施行後警部補、巡查又ハ列任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニ任命セラレ若ハ復職ヲ命セラレタル者ハ任命又ハ復職ノ日ヨリ組合員タルモノトス

第六條 組合員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り組合ヲ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
二 其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官、失職シタルトキ

三 休職トナリタルトキ
四 警部補、巡查又ハ列任官ノ待遇ヲ受ケル消防手以外ノ官職ニ轉シタルトキ
第七條 組合員及組合員タリシ者ハ本令ノ規定ニ依リ救済金ノ給與ヲ受ケルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第八條 組合員ハ掛金トシテ毎月月俸ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ月俸受領ノ時支拂フモノトス
第九條 救済金ハ左ノ五種トス
一 醫療金
二 死亡給與金
三 療疾給與金
四 罹災給與金
五 脱退給與金
第十條 救済金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各種ノ救済金ヲ併給ス
第十一條 醫療金ハ組合員醫療ヲ受ケタルトキ之ニ要シタル費用ノ十分ノ八ニ相當スル金額ヲ給與スルモノトス但シ明治三十四年勅令第四百九號巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令第一條ノ規定ニ該當スル場合ハ之ヲ給與セズ
左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ醫療金ヲ給與セズ
一 義眼、義手、義足、眼鏡、齒科技工其ノ他之ニ類スルモノニ要シタル費用
二 温泉、鎮泉ノ入浴費、轉地療養費、滋養品費其ノ他之ニ類スルモノニ要シタル費用
醫療ニ要シタル費用ニシテ必要ノ限度ヲ超ユルト認ムルトキハ醫療金ヲ減額スルコトアルヘシ

第十二條 死亡給與金ハ左ノ區別ニ依リ給與スルモノトス

一 組合員死亡シタルトキ月俸六月分ニ相當スル金額

二 組合員ノ配偶者死亡シタルトキ又ハ組合員ト同一ノ家ニ在リ組合員ニ於テ現ニ扶養スル祖父母、父母若ハ子死亡シタルトキ月俸二分ノ一ニ相當スル金額

第十三條 療疾給與金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ月俸六月分ニ相當スル金額ヲ給與スルモノトス

一 組合員ノ傷疾又ハ疾病自用ヲ辨シ得サル程度ノ重症ニ趨キ治療ノ見込ナク退職シタルトキ

二 組合員傷疾又ハ疾病ニ因リ一眼以上ヲ盲シ若ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ終身職務ニ堪ヘズ退職シタルトキ

三 組合員病毒傳播ノ危險アル肺結核若ハ喉頭結核又ハ癩病ニ因リ退職シタルトキ

第十四條 罹災給與金ハ組合員カ非常災害ニ罹リタルトキ月俸二分ニ相當スル金額以內ヲ給與スルモノトス但シ非常災害ノ狀況著シキ場合ニ於テハ特ニ月俸三分ニ相當スル金額迄ヲ給與スルコトヲ得

第十五條 脱退給與金ハ組合員脱退シタルトキ左ノ區別ニ依リ給與スルモノトス

一 引續キ組合員タリシコト五年未滿ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ四

二 引續キ組合員タリシコト五年以上十年未滿ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ六

三 引續キ組合員タリシコト十年以上ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ八

第六條第三號ノ規定ニ該當シ脱退シタル組合員ニシテ復職シタル者ニ關スル脱退給與金ノ算定ニ付テハ前後ノ組合員タリシ期間ヲ通算シ引續キ組合員タリシモノト看做シ其ノ掛金總額ハ最近復職後ノ掛金總額ニ依ル但シ休職ノ月ニ於テ復職シタル者ノ後ノ組合員タリシ期間ハ復職ノ月ノ

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

翌月ヨリ之ヲ起算ス

第十六條 第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ救済金ハ給與ノ事由發生ノ時ニ於ケル掛金ノ標準タル月俸ニ依リ之ヲ算定ス

第十七條 救済金給與ノ時未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ヨリ之ヲ減ス

第十八條 救済金給與ノ事由發生シタルトキハ組合員又ハ其ノ戸主、家族若ハ代理人ヨリ直ニ其ノ旨ヲ所屬地方長官ニ申告スヘシ

第十九條 救済金給與ノ事由發生シタル場合ニ於テ組合員又ハ其ノ戸主、家族若ハ代理人ハ地方長官ノ命シタル職員又ハ醫師ノ臨檢若ハ診察ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救済金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員カ死亡前特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 兄弟姉妹

前項第二號及第五號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ救済金ヲ受領スル者ナキトキ又ハ不明ナルトキハ組合ハ受領者ヲ指定シ救済金ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第二十二條 組合員ニ戒處分ニ因リ其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官、失職シタルトキハ救済金ヲ給與セズ

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第二十三條 組合員又ハ其ノ戸主、家族若ハ代理人第十九條ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ救済金給與ノ事由發生ノ日ヨリ一年内ニ請求ヲ爲ササルトキハ救済金ヲ給與セサルコトアルヘシ
第二十四條 故意ニ組合員又ハ救済金受領ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲訴追セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判確定ニ至ル迄救済金ノ支給ヲ停止シ有罪ノ判決確定シタルトキハ之ヲ給與セス
第二十五條 組合ハ組合員ニ對シ直接醫療ヲ爲シ又ハ他ノ施設ニ醫療ヲ委囑スルコトヲ得
第二十六條 組合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ組合員ノ共済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第五章 審査會

第二十七條 救済金ノ給與ニ關シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ異議アルトキハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ地方長官ヲ經テ内務大臣ニ其ノ審査ヲ請求スルコトヲ得
第二十八條 内務大臣前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ審査會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ決定ヲ爲シ地方長官ヲ經テ審査請求者ニ之ヲ通知ス
内務大臣前項ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命ス
第二十九條 審査會ハ議長一名委員十名以内ヲ以テ之ヲ組織ス議長及委員ハ内務省高等官中ヨリ内務大臣ノ命ス
第三十條 審査會ノ決議ハ委員半数以上出席シ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第三十一條 第二十八條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ決定ハ組合ヲ覆ス
第六章 會計
第三十二條 組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
第三十三條 組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得

用途ヲ指定シタル寄附ハ其ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
第三十四條 組合ノ財産ハ大藏省預金、郵便貯金若ハ確實ナル銀行ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ノ應募、買入ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ルノ外組合財産ノ管理方法ハ内務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
第三十五條 組合ハ救済金ノ支拂ニ關シ必要アルトキハ借入金ヲ爲スコトヲ得
借入金額、借入ノ方法利息ノ定率及償還方法ハ内務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
第三十六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
附則
本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
○大正十四年内務省令第二十一號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ大正十四年九月一日以降ニ於テ組合ヲ脱退シタル者ニ付之ヲ適用ス

警察共済組合事務取扱規程

大正九年九月十一日 内務省訓令第十七號

廳府縣

警察共済組合事務取扱規程左ノ通定ス

警察共済組合事務取扱規程

第一章 通則

第一條 本規程ニ於テ所屬長ト稱スルハ道府縣警察部長、警視廳官房主事、警視廳各部長、警視廳警察練習所長、警視廳消防練習所長、警察署長、警察分署長、消防署長及消防分署長ヲ謂フ
組合員警察分署長タル場合ハ其ノ所屬長ハ地方長官別ニ之ヲ定ム

〔社會三號〕

〔社會〕

第二條 地方長官ハ其ノ廳府縣所屬ノ組合員毎ニ別記様式第一號ニ依ル組合員原票ニ所定ノ事項ヲ記入シ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ整理スヘシ
地方長官ハ其ノ廳府縣所屬ノ組合員組合ヲ脱退シタルトキハ其ノ組合員原票ヲ内務次官ニ送付シ他ノ廳府縣ノ所屬ニ轉シタルトキハ當該地方長官ニ之ヲ轉送スヘシ

第三條 地方長官ハ別紙様式第二號及第三號ニ依ル報告書ニ所定ノ事項ヲ記入シ第二號ニ依ル報告書ニ付テハ三月分ヲ、第三號ニ依ル報告書ニ付テハ一月分ヲ各其ノ翌月二十日迄ニ内務次官ニ送付スヘシ

第四條 内務次官ハ毎年度組合ノ事業成績及收支決算ヲ組合員ニ公表スヘシ

第五條 地方長官必要ト認ムルトキハ本規程ノ施行ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第二章 救済

第六條 救済金ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ別記様式第四號ニ依ル請求書ニ左ノ書類ヲ添付シ所屬長ヲ經テ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一 醫療金ニ付テハ病名並藥價(投藥種別、日數ヲ明記スルコト)、手術料、處置料、入院料(等級、日數ヲ明記スルコト)又ハ看護料等ヲ明記シタル領收書

二 死亡給與金ニ付テハ死亡診斷書若ハ死體檢案書又ハ其ノ寫及正當請求者タルコトヲ證明スルニ足ル戸籍謄本又ハ戸籍抄本

三 癩疾給與金ニ付テハ傷痕又ハ疾病ノ原因、經過及機能障害ノ程度ヲ詳記シタル醫師ノ診斷書

四 罹災給與金ニ付テハ罹災ノ狀況及被害ノ程度ヲ詳記シタル調査前項第一號ノ領收書ニシテ病院又ハ醫師ニ非サル者ノ發シタルモノニ付テハ醫療上ノ指示ニ基ケ旨ノ醫師ノ證明アルコトヲ要ス
救済金ノ併給ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ同時ニ各其ノ請求書ヲ提出ス

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

第七條 地方長官癩疾給與金ノ請求書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ内務次官ニ送付スヘシ
内務次官前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル決定ヲ爲シ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ
第八條 地方長官醫療金、死亡給與金、罹災給與金及脱退給與金ノ請求書ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル決定ヲ爲スヘシ
第九條 地方長官第七條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ給與スヘキモノニ付テハ別記様式第五號ニ依ル給與書ヲ請求者ニ交付シ其ノ給與セサルモノニ付テハ其ノ旨請求者ニ通知スヘシ
第十條 救済金ノ給與ヲ受ケムトスル者特別ノ事由アルトキハ豫メ癩地ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨救済金請求書ニ明記スルコトヲ要ス

第三章 會計

第十一條 組合員ノ掛金ハ地方長官其ノ廳府縣所屬ノ組合員タル職員ノ月俸仕拂ノ時之ヲ徵收ス
組合員所屬廳府縣ヲ轉シタルトキハ其ノ月ノ掛金ハ其ノ前ニ屬スル廳府縣ノ地方長官之ヲ徵收ス
第十二條 北海道地方費及府縣ノ給與金ハ毎月各其ノ廳府縣所屬ノ組合員總人員ノ月俸額ニ依リ算定シ翌月十日迄ニ之ヲ組合ニ交付ス
組合員ノ月俸ニ異動ヲ生シタルトキハ前項ノ算定ニ付テハ其ノ月ニ限り異動ヲ生セサルモノト看做ス
第十三條 前條第一項ノ給與金ハ組合員所屬廳府縣ヲ轉シタル場合ニアリテハ其ノ月ノ掛金ヲ徵收シタル地方長官ノ管轄スル北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

自 年 至

月分警察共済組合加入、脱退、異動及現在員報告書

廳 府 縣 名

官 職 名	總 越 人員	新 加 入 人員	脱 退		其 他	員 計	異 動 人 員		現 在 人 員	備 考
			死	懲 戒 又 失 職 分 官			他 屬	轉 入 他 屬		
警 巡 防 計										
警 部 査 手										

(注意)

1. 本報告書ハ二通ヲ作製シ一通ハ廳府縣ニ保存スルコト
2. 異動人員ノ欄ニハ廳府縣間ノ所屬ノ異動ヲ記入スルコト
3. 總越人員ノ欄ニハ前三箇月ノ末日現在人員ヲ新加入人員脱退人員、異動人員ノ各欄ニハ前三箇月間ノ事實ヲ、現在人員ノ欄ニハ前三箇月ノ末日現在人員ヲ各記入スルコト
4. 備考欄ニハ他ヨリ轉屬、他ノ轉屬ノ場合ニ於ケル各其ノ先ノ廳府縣名ヲ記入スルコト
5. 巡查ヨリ警部補ニ昇進シ又ハ巡查ヨリ消防手ニ轉職シタルカ如キ場合ハ現在人員欄ノミ加除シ備考欄ニ其ノ旨ヲ記入スルコト

別記様式第三號

年 月分警察共済組合收支報告書

廳 府 縣 名

種 類	收 入		支 出	
	日 金	圓	日 金	圓
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				
利 回				
其 他				
種 類				
繰 越				
給 與				

中ノ第四項ニ該當スルモノヲ含ム。ナキ場合ニ於テ死亡者ノ爲ニ葬祭ヲ營ミタル者アルトキハ死亡給與金ノ三分ノ二ヲ限度トシテ之ニ要シタル實費ヲ葬祭ヲ營ミタル者ニ對シテ給與スルコトヲ得

- 十一、規程第五條ニ依リ細則ヲ定メタルトキハ速ニ内務次官ニ報告スルコト
十二、月俸ニハ功勞加俸及精勤加俸ヲ含ムコト
十三、月俸ハ總テ支給額ニアラスシテ辭令面ニ於ケル月俸額ヲ意味スルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入又ハ脱退スル者アルモ掛金ハ辭令面ノ月俸ノ百分ノ二ヲ徵收スルコト
十四、月ノ末日ニ加入シタル組合員ノ其ノ月ノ掛金ハ次ノ月俸仕拂ノ時徵收スルコト
十五、規程第十二條ニ依リ算定ハ前月中ノ組合員總人員ノ辭令面ニ於ケル月俸額ニ依ルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入若ハ脱退シ又ハ中途加入シ其ノ月ノ中途ニ於テ脱退スル如キ者モ總テ組合員總人員中ニ加フルコト
十六、規程第十四條ニ依リ内務次官ニ送金スルトキハ之カ明細書ヲ添付スルコト
十七、規程第十四條ニ依リ準備金ハ組合員ノ救濟金ニ充ツル外支出スルヲ得サルコト
十八、本省ニ報告スル組合ノ書類ニ記入スル番號ニハ總テ「共」ノ文字ヲ加フルコト

警察共濟組合ニ關スル件

大正九年九月十三日 警發第六八七號

本件ニ關シ本月十一日訓令第十七號ヲ以テ事務取扱規程發布相成候ニ就テ

ハ之カ救濟ノ主タル警察ニ關シ醫師トノ連絡最モ必要ト被存候ニ付當局ヨリ大日本醫師會長ヘハ其旨依頼致置候間地方醫師會トモ連絡ヲ採リ萬遺漏ナキ様致度

醫療明細簿記載例ニ關スル件

大正九年十一月二十五日 鳥根縣照會 鳥共第五號

本年九月十一日内務省訓令第十九號警察共濟組合事務取扱規程第二十一條別記第六號様式醫療明細簿中「受領日數」ノ欄ヘハ如何ナル事項ヲ記載スヘキ義ニ有之候哉聊カ疑義ヲ生シ候條至念何分ノ御回示相煩度候也

社會局長回答大正九年 醫療明細簿記載例ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本月二十五日附鳥共第五號御照會ノ所右ハ「受領日數」ノ誤記ニ有之從ツテ醫療ヲ受ケタル日數ヲ記載スヘキ義ニ候條御了知相成度

警察共濟組合ニ關スル簿冊記入方ノ件

大正九年十月二十六日 兵庫縣知事照會 兵共發第一〇號

警察共濟組合ニ關スル簿冊ノ記事ニ付テハ夫々記入上ノ注意ヲ與ヘラレ居リテ一目瞭然ナルカ如キモ脱退明細簿ノ記事ニ付テハ其注意事項中免職休職失官失職ノ原因ヲ明カニスル事トナリ居レリ而シテ脱退ノ原因死亡ニ因ル場合ノ如キハ死亡明細簿ニ登錄シタル上尙脱退明細簿ニ記入スル事トナリ同一人ニ對スルニ共濟事案ニ付重複記載スルノ憾アリ殊ニ死亡又ハ脱退シタル組合員ノ原票ハ貴廳ニ送付セサルヘカラス此場合其ノ原票ノ裏面ニ

〔社會九號〕

〔社會〕

於ケル番號欄ニハ證憑書類ト同一番號ヲ記入スルコトナリ居リ爲メニ一原票ニ對シ彼是兩帳簿ノ異リタル番號ヲ刻記スルコトナリ何レノ簿冊ニヨル番號ナリヤ一見之ヲ識別スルコト不能頗ル明瞭ヲ缺クノ嫌アルノミナラス事務ノ敏捷ヲ劃スル所以ニアラサルモノト思料被致候條一旦死亡明細簿ニ登錄セシモノハ再ヒ脱退明細簿ニ登錄スルノ必要無之候哉或ハ又再ヒ登錄スルノ必要アル場合ハ兩者ニ於ケル其ノ番號刻記ノ關係明細御指示相成度此段及照會候也

大正九年十一月九日 社會局長回答 警察共濟組合簿冊記入方ノ件回答

警察共濟組合簿冊記入方ノ件回答
標記ノ件ニ關シ大正九年十月二十六日附兵共第一〇號御照會ノ趣了承右ハ記帳ノ整理上必要ニ付脱退ノ原因死亡ニ因ル場合ト雖モ夫々登錄ヲ要スルモノニ有之而シテ原票裏面ノ番號ハ簿冊ニ據ルモノニ無之死亡、脱退等各別ニ提出シタル證憑書類ト同一ノ番號ヲ記入スヘキ義ニ候條御了知相成度
參照
一、(原票裏面注意ノ九)番號ノ欄ニハ證憑書類ト同一番號ヲ記入スルコト
二、(規程第六條第二項)救濟金ノ併給ヲ受ケントスル場合ニ於テハ同時ニ各其ノ請求書ヲ提出スヘシ

警察共濟組合財産管理並送金方法ニ關スル件

大正十年一月七日九、發會第 五二三號官房會計課長依命通牒

廳府縣長官宛(東京府) (ヲ除ク)

警察共濟組合財産ノ管理並送金方ニ關シテハ夫々適當ナル方法ヲ講シ遺憾ナキチ期セラレ候義ト存候得共本省ニ於テ管理スル資金ノ預入ニ付テハ左記六銀行ヲ確實ト認メ預金取引ヲ開始スルコトニ定メラレ而シテ該資金ノ送金ニ付テハ郵便振替貯金又ハ預金口振込ニ據ルチ最モ安全有利ナル方法ト存候依テ二者ヲ對比スルニ郵便振替貯金ハ振替ニ依リ拂出及現金ノ拂渡ノ爲ニスル拂出ノ際各相當料金ヲ徵收セラレ且預金利率低薄ニシテ振替ニ日時ヲ要ス然ルニ預金口振込ハ其ノ副報告書(用紙ハ私製業書)ニ相當郵便切手ヲ貼用スルノミニテ足リ預金利率ハ郵便振替貯金ニ比シ常ニ高位ニ在リ且受信方前者ヨリ迅速ナリ上述ノ如ク預金口振込ハ郵便振替貯金ニ比シ經費、利率及迅速ノ點ニ於テ優レルヲ以テ本省ニ於テハ預金口振込ノ方法ニ依リ送金可致候條貴廳(府縣)御取引ノ銀行名、預金種別及預金者名義御回示相成度候尙貴廳(府縣)ヨリ本省ヘ送金ノ場合ニ於テモ可成右ニ依リ取扱ハレ度就テハ預金口振込方法ハ概略別紙ノ通ニ有之候條御承知相成度
追而預金口振込ニ依ラレサル場合ニシテ郵便振替貯金口座ヲ有スル向ハ本省取引銀行ノ振替貯金口座ヘ直接御振替相成ルチ便宜ト存候但此ノ場合ハ其ノ都度本省ヘ其ノ旨御通知相成度又從前通小切手ヲ使用サル、向ハ今後記名式線引トセラレ度且會計課長山田準次郎ヲ受取人ニ指定相成度

Table with columns: 所在地 (Location), 銀行名 (Bank Name), 預金種別 (Deposit Type), 預金者名義 (Deposit Holder Name). Rows include 日本橋區平松町 (住友銀行東京支店), 日本橋區駿河町 (振替貯金口座東京七番), 同區小舟町三丁目 (東京武參九番).

第六章 共濟保險 第一節 共濟組合

總町區永樂町二丁目(東京海上ビルディング内)
三菱銀行丸の内支店 特別當座預金
(同東京五、四〇五番)
右 同 所 十五銀行丸の内支店 特別當座預金
(同東京六、九五〇番)
日本橋區橋本町 川崎銀行 通知預金
(同東京貳、壹參五番)
預金口振込(重ニ當座預金者ノ利用スルニ依リ銀
行界ニテハ當座勘定口振込ト稱ス)

一、條件

イ、受取人カ銀行ト取引關係(預金口座)ヲ有スルヲ要ス
(假令ハ本省カ目下住友銀行外五行ニ預金口座ヲ有スルカ如キ)
ロ、振込依頼ヲ受ケタル銀行カ相手方ノ銀行ト爲替取引アルモノニ限

一、依頼

本方法ニ依リ送金セムトスルモノハ申込書ニ現金又ハ手形ヲ添ヘ銀行
ニ振込方ヲ依頼スルモノトス申込書受ケタル當該銀行ハ相手方銀行宛
ノ副報告書ヲ作製シ依頼人ニ交付スヘキニ付依頼人ハ之ニ切手貼用ノ
上受取人ヘ郵送スルモノトス(關係書類ト同封)
(送致スルモ可)

一、受領

副報告書ヲ受ケタル受取人ハ之ヲ銀行ヘ呈示シ自己ノ預金通帳ニ記入
ヲ求ムルモノトス
(詳細ハ貴地所在ノ銀行ヘ照會セラレタシ)
(參照)
郵便振替貯金ト預金口振込トノ要經費其他ノ概略比較

預金口振込

- 一、振替ニ依リ受拂ヲ爲シタル時
ハ拂出ニ對シ四錢ヲ當該加入者
貯金ヨリ控除徵收ス
一、現金ノ拂渡ノ爲ニスル振替貯
金ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高
ニ應シ最高五十五錢迄ノ料金ヲ
當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收
ス
一、利率 一般銀行預金ニ比シ低
利ナリ
一、電報送達ノ方法アリ
一、拂出用紙ニハ通信文ヲ記載ス
ル事ヲ得

警察共濟組合財産預入先増加ノ件

大正十年九月二十日
發會第三四四號官房會計課長通牒
廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

Table with 4 columns: 所在地, 銀行名, 預金種別, 預金者名義. Includes entries for 總町區永樂町一丁目 and 東京海上ビル.

〔社會〕

共濟組合員異動整理ニ關スル件

大正十年二月二十二日
社發乙第四二號社會局長通牒
地方長官宛(東京ハ警視總監宛)

警察共濟組合規程第二條ニ依リ各道廳府縣所屬ノ組合員異動整理ニ關シテ
夫々御精勵中ノ事ト被存候處之ヲ從來之實例ニ徵スルニ異動往々明確ヲ缺
クノミナラス原票之記載方區々ニ互リ爲ニ調査上支障不尠候條左記事項特
ニ御留意相成整理上萬遺算ナキヲ期セラレ度

- 一、組合員ノ異動ニ關シテハ其ノ都度詳細明確ニ整理スヘキコト
二、脱退者ノ原票ハ裏面ニ記載ヲ要スルモノハ格別然ラサルモノハ事由發
生後遲滞ナク送付スヘキコト
三、脱退者中ニハ救濟ノ事實ヲ有スルニ不拘全然裏面ノ記載ヲ脱漏スル向
アルヲ以テ特ニ注意スヘキコト
四、原票中ニ脱退事由ヲ記載セサルモノアルモ右ノ第一號様式注意「六」ニ
依リ詳細記入スヘキコト
五、原票裏面ノ救濟金額ハ證書書類及收支計算表等ノ當該種目金額ノ内容
ト一致セサルモノアルヲ以テ注意スヘキコト
六、脱退者ノ原票ハ組合ノ事業成績作成上必要ニ付本省ニ保存スヘキモノ
ナルヲ以テ相當注意シテ取扱フヘキコト

警察共濟組合施設事業ニ關スル件

兵庫縣知事照會 大正十年四月九日
兵共發第一號
一、囑託病院ノ設置ニ關スル件

第六章 共濟保險 第一節 共濟組合

〔社會〕

警察共濟組合創立技ニ六ヶ月ヲ閱シ組合ノ利用其ノ緒ニ就キ既往六ヶ月
間ニ於ケル救濟事業ハ別表ニ示ス處ニシテ稍組合ノ目的ヲ達成シツ、ア
リト雖救濟事業中最モ重要ニシテ多數ヲ占ムル醫療ノ方法ニ關シテハ未
タ完全ナル施設ナク唯僅カニ地方醫師ヨリ組合員ハ各自其ノ醫療ヲ受ケ
ツ、アルモノナルカ各地方醫師ハ統一シタル組織ニアラサルヲ以テ彼此
醫療救濟ノ衝突ヲ缺キ中ニハ其ノ醫療ニ迷ヒ適確ナル醫療ヲ受ケル能
ハサルヤノ憾アリ殊ニ本縣ハ多數ノ組合員ヲ包含シ居ルヲ以テ組合員ハ
地方醫師間ニ於ケル情實ニ因ル弊害ヲ矯正シ縣下ヲ通シテ極メテ統一シ
タル醫療ヲ受ケシメ以テ信ニ組合員ヲ救濟シ組合ノ目的ヲ全カラシメ
ムトセハ確然タル施設ノ必要アルヘク時期幸ヒ年度始ニ遺遺シ居ルヲ以
テ其ノ施設計劃ハ必須ノ事ニ屬ス故ニ此際救濟最モ多キ組合員ノ醫療ニ
關シ縣又ハ公立病院ニ施設ヲ囑託シ組合員ヲシテ醫療ヲ容易ナラシメ均
當ナル救濟ヲナスト同時ニ救濟ノ實ヲ舉ケル爲メ市部ニ於テハ縣立神戶病
院ニ郡部ニ在リテハ其ノ最寄郡又ハ町村立病院ニ對シ醫療ノ囑託ヲ爲シ
醫師ヲ指定シ之カ醫療ヲ爲スノ方法ニ出テ度尤モ醫療ニ要スル費用ハ接
衝ノ後ニ非ラサレハ決定スルヲ得サルモ規程ノ十分ノ八以内ニテ取決メ
夫レニヨリ得タル剩餘金ハ警察共濟組合ノ施設事業ノ爲ニ借入金ヲナシ
タル場合ハ其ノ償還金ニ算入スルモノトス

二、組合員ニ對シ住宅供給施設ニ關スル件
經濟界稍不振ノ兆アリト雖順調時ニ於ケル餘波ニ因リ今尙ホ諸物價低下
ニス殊ニ都市集中ノ結果ハ住宅ニ影響シ執レモ住宅難ヲ口ニセサルハナ
ク爲ニ近クハ公共團體等ニ於テモ住宅問題ニ關シ焦慮考究セラレ逐次其
ノ施設ヲ見ル所ナルモ家賃ハ益々暴騰セントスル傾向アリ此ノ間ニ處ス
ル薄給ノ警察官吏ニ在リテハ到底満足ナル住宅ヲ得ル能ハサルハ公知ノ
事實ニ有之故ニ本組合ニ於テ住宅ノ供給ヲナシ組合員ニ對スル救濟ヲナ
スハ焦眉ノ必要ニシテ又以テ組合ノ目的ヲ達成スル所以ニ有之此際左記

ノ趣了承費縣管下各警察署ヨリ毎月ノ掛金送付手数料ハ縣費支辨トシ貴縣ヨリ管下各署ヘノ救済金其他ノ送金及本省ヘ毎月送金ニ對スル手数料ハ國費ヨリ支辨シ既配付ノ事務費雜費中諸手数料ヨリ支出相成可然ト存候

警察共濟組合事務取扱ノ件

大正十一年五月二十四日
岐阜縣照會 岐共發第二六六號

警察共濟組合事務取扱規程第二條第二項ニ依レハ地方長官ハ其ノ廳府縣所屬ノ組合員組合ヲ脱退シタルトキハ其ノ組合員原票ヲ內務次官ニ送付シ他ノ廳府縣ノ所屬ニ轉シタルトキハ當該地方長官ニ之ヲ轉送スヘキ旨明記セラレ居候處組合員ニシテ大正九年三月勅令第四十四號ノ適用ナキ他官(朝鮮總督府)ニ轉屬シタル場合ニ於テハ規則第六條各號ニ該當セザルモ組合員ニシテハ規程第二條第二項前段所定ノ通取扱可然疑義ヲ生シ候條御省ノ御意見承知致度此段及照會候也

社會局同答 大正十一年五月二十七日
社會局第四三號

警察共濟組合事務取扱ノ件同答

五月二十四日附岐共發第二六六號御照會ニ係ル標記ノ件右ハ御申越ノ通取扱可然儀ト認メ候條御了知相成度

共濟組合證憑書類送付ニ關スル件

大正十年六月二十三日
社發乙第一六九號社會局長照會
地方長官宛(東京ハ警視總監宛)

警察共濟組合救済金ノ仕拂了シタル證憑書類ハ規程第二十條ニ基キ夫々送付有之候處右調査上必要ニ候條御今該書類送付ノ際ハ左記事項表記之上添付候條致度

書類番號	給與種目	給與金額	官職別	員數
計				

- 注意
- 書類番號ニハ證憑書類ノ番號(自何號)ヲ記載スルコト
 - 給與種目毎ニ其ノ事實ヲ區分記載スルコト
 - 官職別(警部補、巡查、消防手)ニ集計記載スルコト
 - 死亡給與金ハ組合員、家族(妻、祖父母、父母、子)毎ニ區分掲記スルコト

〔社會三號〕

警察共濟組合廢疾給與金ニ關スル件

大正十四年十月十三日
兵衛第三四號內務省警保局長通牒

七月十六日附兵共發第二九號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ內務次官宛稟伺ノ次第有之候處廢疾給與金ヲ給與スヘキ組合規則第十三條各號ノ規定ハ何レモ退職當時ニ於テ其ノ退職理由トシテ認メラルコトヲ要件トセルモノナルヲ以テ原因ノ如何ヲ問ハス退職事由トシテ認メラレザリシ病症ニシテ其後數ヶ月ヲ經過シ病狀増進シ規則第十三條各號ニ該當スルニ至ルモ廢疾給與金ハ之ヲ給與シ得サルモノト被存候ヘ共個々ノ場合ニ關シテハ各其ノ事實ニ付詳查ヲ遂クルニ非サレハ直チニ決定シ得サルモノト被認候條御了知相成度經伺上

兵共發第二九號(大正十四年七月十六日)

內務次官宛

警察共濟組合廢疾給與ニ關スル件伺

公傷ニヨリ本年二月十五日退職シ其ノ後聽力薄弱(診定聽力右殆ト零)ニ至レル者アリ

右ニ關シ本人ヲ診察シタルニ、三醫師ノ意見ヲ徵スルニ現症ノ內耳故障ヲ誘發シタル原因ハ犯人逮捕ニ際シ加ヘラレタル頭部強打ニヨリ精神障礙ニ基クモノトイフニ一致ス惟フニ本件ハ現症ニ至ルノ原因ハ當時既ニ釀成セラレ其ノ後病症進行シ現症ニ至レルハ醫師診定ニヨリ明瞭ニシテ退職事由ハ本症ニハ非サルモ現症ヲ誘發シタル原因ハ前記強打セラレタルニアルハ疑ノ餘地ナク從テ原因ト現症トノ間ニハ當然因果關係ノ認メラルカ故ニ現症ノ素因タル現在ヨリ輕症ナリシ內耳故障ハ退職事

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

〔社會八號〕

由内ニ包含セラルヘク而シテ退職當時ハ內耳故障ヨリモ精神障害ノ程度重症ナリシカ爲メ本症ハ等閑ニ附セラレ精神障害ノ理由トシテ退職スルニ至リタルモ內耳故障ニシテ退職當時現在ノ如クナリセハ當然コノ全治ノ見込ナキ內耳故障力主たる退職事由トナルヘカリシナリ假令退職當時ノ事由ハ他ニアリシト雖モ退職事由タル病症ト直接關係アリ且ツ退職當時原因存在シ不知ノ間ニ進行シ途ニ一耳ヲ失フニ至リタルモノニ對シテハ規則第十三條二號ニ該當スルヲ以テ同條ノ適用ヲ爲シ得ヘシト一應ハ解釋セラルモ尙ホ多少ノ疑問ナキヲ得サル次第ニ就テハ現症ニ至レルノ原因力職務遂行ニ熱誠ノ餘リ被ムレル打擊ニ發セラレル事實特ニ御同情御斟酌ノ上至急何分ノ御指示相成候條致度此段及稟伺候也

昭和二年五月十六日
內務省形警第四號內務次官通牒

廳府縣長官宛

警察共濟組合規則第十三條各號ノ一ニ該當スル傷疾又ハ疾病ニ依リ退官又ハ退職ヲ願出テタル場合ニ於テ優遇ノ意味ニ於テ特ニ警部ニ昇進セシムル等組合員タルヲ得ザル他ノ官職ニ任シ即日退官又ハ退職セシメタルトキ及組合員死亡シタル場合ニ於テ優遇ノ意味ニ於テ特ニ警部ニ昇進セシムル等組合員タルヲ得ザル他ノ官職ニ任シタルトキハ轉官轉職前ニ於ケル官職ノ儘退官退職又ハ死亡シタル者トシテ救済金ヲ給與シ差支無之候條自今右ニ依リ御取扱相成度

●癩疾給與金請求ニ關スル件

大正九年十二月七日
發社會第四六號社會局長依命通牒
北海道長官 府縣知事宛(東京ハ警視廳監視)

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癩疾給與金ノ請求ヲ受ケタルトキハ規程第七條ニ依リ送付セラルヘキ成規ニ有之候處之ヲ從來ノ事例ニ徴スルニ添付書類ノ内容往々明確ヲ缺クノ疑有之爲ニ給與金決定上支障不尠候ニ付爾今左記事項取調添付相成候様致度

追テ警察醫檢診ノ場合ニ於ケル旅費ハ其ノ職員ノ俸給ヲ支辨スル經濟ヨリ支出スヘキ義ニ有之候條御了知相成度

記

〔社會八號〕

- 一、救濟事由發生ノ時ニ於ケル月俸額
- 二、規則第十三條第三號ノ場合ニ於テハ警察醫ヲシテ當該患者ヲ檢診セシメ其ノ證明書ヲ添付スルコト
- 三、前項證明書中ニハ病毒傳播ノ危險アリヤ否ヤヲ特ニ附記スルコト

長崎縣知事照會 大正九年十二月十一日

癩疾給與金請求ニ關スル件照會

本月七日内務省社會第四六號ヲ以テ首題ノ件通牒相成候處癩疾給與金ノ請求ヲ受ケタルトキ規則第十三條第三號ノ場合ニ於テハ警察醫ノ證明ヲ付セシムルノ御趣旨ナルカ本縣ノ如キハ警察分署ニ警察醫(醫務囑託ヲ含ム)ヲ配置セサル箇所多ク殊ニ其ノ多ハ離島若クハ僻地ニシテ巡查退職ノ場合ニ於テモ警察醫ノ診斷ヲ爲サシムルコト不可能ナル爲メ開業醫ノ診斷書ヲ付セシメ居ルノ實況ニ有之尙右請求書ニハ規程上單ニ醫師ノ診斷書ヲ付スルコトニナリ居ルニ不拘強テ警察醫ノ證明書提出ヲ命スルモ前記ノ如ク警察醫配置ナキ場合ニ之カ診斷ヲ受ケムトセハ數里若クハ十數里ヲ往復セサルヘカラサルヲ以テ病軀其ノ不可能ナル事由トシテ之ヲ拒ムモノナキヲ保シ難ク思料セラレ候條如斯場合ニ於テハ所屬長若クハ本人在住ノ警察官署長ヲシテ豫メ開業醫ニ對シ相當注意ノ上診斷セシメ且必要ト認ムルトキハ警察官署長ノ實況調査ヲ徵スル等特別ノ取扱ヲ爲シ得ルコトニ改メラレ度御意見相伺候也

社會局長回答 大正十年三月十七日

癩疾給與金請求ニ關スル件回答

標記之件ニ關シ十二月十一日附發第九四號照會之趣了承右規則第十三條第三號該當ノ場合ニ於テハ必ス警察醫ヲシテ檢診セシメ其ノ診斷書ヲ添付

第六章 共濟 保險 第一節 共濟組合

スヘキ義ニ有之候條御了知相成度

追テ御照會ノ如キ事實發生ノ場合ニ於テハ其ノ都度理由ヲ付シ申出有之度申添候

大正十年九月十九日 發社會第一三七號社會局長依命通牒

廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癩疾給與金請求書送付方ニ關シテハ嘗テ夫々通牒置候處右給與金決定上必要有之候ニ付爾今該請求書送付ノ際ハ左記關係書類添付相成候様致度

追テ右請求ハ救濟事由發生後數箇月ヲ經過スル尙有之給與上遺憾ニ被存候條相當御留意相成度爲念申添候

記

- 一、本人ノ退職願書
- 二、本人退職當時ノ醫師ノ診斷書
- 三、退職決定書類(退職月日共)
- 四、現俸給(退職當時ノ本俸並加俸)増俸年月日並増俸額

●共濟組合ニ關スル檢診證記載方

ノ件

大正十年三月四日 發社會第二四號社會局長依命通牒

廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

警察共濟組合員ニシテ規則第十三條第三號中肺結核及喉頭結核ニ該當スル場合ニ於テハ客年十二月七日内務省發社會第四六號通牒ノ趣旨ニ基キ警察醫檢診ノ結果夫々具申有之候處之ヲ其ノ後ノ事例ニ徴スルニ該檢診證ノ内容往々明確ヲ缺キ審査上支障不尠候條爾今左記各項ニ準シ記載相成候様致

度

- 一、病名
- 二、既往症
- 三、現在症(打診、聽診、脈搏、呼吸、體溫、喀痰検査成績等詳細)
- 四、経過
- 五、診断(他人ニ對シ病毒傳播ノ有無等)
- 六、豫後

共濟組合ニ關スル檢診證ニ關スル件

ル件

警視總監照會 大正十年三月十四日
警共第一九號

三月四日內務省發社會第二四號共濟組合ニ關スル件委細了承從來當廳ハ規則第十三條第三號該當者ハ臨床上疑ノ存スルモノ、ミニ限リ喀痰検査ヲ施行セシメタルモ同通牒左記第三號ニ依ルトキハ肺結核及喉頭結核ニ該當スルモノハ凡テ喀痰検査ヲ爲スヘキコトニ解セラレ候處多數ノ警察官ヲ有スル當廳ノ如キニ在テハ事務進捗上影響スル所鮮少ナラスト思料セラレ候ニ付爾今病症顯著ニシテ臨床上明ニ規則第十三條第三號ニ該當スルモノト認メラル、モノハ之ヲ省略シ其疑ノ存スルモノニ限リ喀痰検査ヲ施行スルコトニ致度候條右承認相成候様致度及稟申候

社會局長回答 大正十年三月十八日
視社會第一六號

共濟組合ニ關スル檢診證ノ件回答

標記之件ニ關シ本月十四日附警共第一九號稟申之趣了承右ハ肺結核及喉頭結核患者ニシテ規則第十三條第三號ニ該當スル場合ハ其ノ疑ノ有無ニ論ナ

カ喀痰検査ノ執行ヲ要スル義ニ有之候條御了知相成度

警察醫檢診方ニ關スル件

大正十一年二月十七日一〇、視社會第七二號社會局長心得依命通牒

廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

警察共濟組合癩疾給與金請求書送附ニ際シ警察醫ノ檢診證添付ヲ要スル旨豫テ通牒置候處組合退後ニ於ケル本人ノ居所ニシテ警察醫ノ設置ナク從ツテ其ノ在勤所ヨリ甚シキ遠隔ノ地點ニ在リ爲ニ檢診上非常ナル支障ヲ生スル場合ニ限リ本人所在ノ開業醫ヲシテ所轄警察署長立會ノ下ニ檢診ヲ了セシメ該檢診證ヲ添付シ差支無之候條爾今右様御了知相成度

追テ右開業醫ノ檢診證添付ノ場合ハ其ノ事由詳記相成候様致度申添候

警察共濟組合規則ニ關スル件

兵庫縣知事照會 大正九年十月十五日
兵共發第四號

規則第十二條第二號組合員ノ配偶者死亡シタルトキハ其以下ノ文理解釋及同則第二十條第一號ノ配偶者ノ意味ニヨリ婚姻ノ届出ヲナシタル民法ニ所謂配偶者ナリト解スル方妥當ナリト信スルモ本縣ニ於テハ巡查ノ娶妻ニ關シ明治九年四月警第一八號ヲ以テ娶妻手續ヲ定メ居リ其手續ニヨリ娶妻セル妻ニシテ未タ婚姻ノ届出ヲナサスシテ死亡シタル場合ハ警察ニ於テハ正當手續了シタルモノナルモ民法ニ所謂配偶者ニ非ラサルヲ以テ該規則ニヨリ給與ヲ受ケル能ハサルモノトスレハ極メテ婚姻ノ届出ヲ爲シタル配偶者トノ衡正ヲ缺クノ疑有之殊ニ同則第二十一條ニ組合員死亡ノ場合救濟金受領スル者ナキ時ハ婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラル、者ニハ救濟金ノ全部ヲ與フルモノナルニ第十二條第二號ノ配偶者ハ民法ニ所謂配

(社會)

ル件

鹿兒島縣知事照會 大正十年一月三十一日
共發第四五號

警察共濟組合救濟金給與決定方ニ關シ左記事項疑義有之候條至急何分ノ御回示相成度候

記

一、死亡給與金ニ關スル件

警察共濟組合規則第十二條ノ配偶者ニハ組合員ノ戶籍上ノ夫婦ニ非サル内縁ノ妻ハ包含セサルヤ

一、醫療金ニ關スル件

診療書料ハ醫療金中ニ包含セサルヤ

社會局長回答 大正十年二月七日
鹿社會第三號內

共濟組合救濟金給與ノ件回答

客月三十一日附共發第四五號照會ニ係ル標記之件左記ノ通ニ有之候條御了知相成度

記

一、規則第十二條第二號ノ「配偶者」トハ民法ニ所謂配偶者ノ法意ニ有之從テ内縁ノ妻ハ之ヲ包含セサルモノトス

二、診療書料ハ診療料中ニ含マレタルモノハ格別「診療書料」ト明記シタルモノハ之ヲ給與セサルモノトス

警察共濟組合救濟金給與ニ關スル件

佐賀縣知事照會 大正十年二月五日
佐共第一六號

警察共濟組合規則第十二條第二號中「同一ノ家」トアルハ戶籍ノ同一ヲ意味スルモノト解スヘキカ又ハ同居ノ意味ニ解スヘキヤ聊疑義有之候條御意見承知致度及照會候也

社會局長回答 大正十年一月十三日
阪局第五〇號

本月十七日附警第一六四一號御照會ニ係ル警察共濟組合規則第十二條第二號中「同一ノ家」トアルハ民法上ノ家籍ノ同一ヲ指稱シタル法意ニ有之候條御了知相成度

警察共濟組合救濟金給與ニ關スル件

第六章 共濟保險 第一節 共濟組合

左記事實ニ對シ警察共済組合規則第十二條第二號ニ依ル救済金請求有之候處右ハ給與シ得サル義ニ候哉御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩度候也

組合員ハ二男ニシテ妻ト共ニ分家シ一家ヲ創立セリ實母ハ家庭事情ニ依リ長男タル戸主ト別居シ次男タル組合員トモ同居セシ單獨住居シ組合員ハ毎月俸給ノ中ヨリ送金シ扶養ヲ爲シ來リタル處客年十一月死亡シ葬祭ノ如キモ組合員ニ於テ營ミタリ

社會局長回答 大正十年二月十六日 警察共済組合救済金給與ノ件回答 標記ノ件ニ關シ本月五日附佐共第一六號御照會之趣了承右ハ組合員ト同一ノ家ニ在ラサルニ於テハ給與シ得サル儀ト被認候條御了知相成度

警察共済組合員救済事務取扱ニ關スル件

廣島縣知事 大正十年三月十日 警察共済組合員死亡シタルトキハ規則第六條第一號ニ依リ脱退セシハ當然ニシテ此場合同則第十條ニ依リ救済金給與ノ事由併發セシモノトシテ同則第十一條ニ依リ死ニ至ル迄ノ間ニ於ケル醫療金並ニ同則第十二條第一號ニ依リ死亡給與金ト同則第十五條ニ依リ脱退給與金ヲ併給スヘキモノト存候モ或ハ死亡セシ場合ハ死亡給與金ヲ支給スルヲ以テ脱退給與金ハ支給セサル意味ニモ解シ候差當リ本縣ニ該當ノ事實有之候ニ付何分ノ御意見承り度候

假リ二月俸五十圓俸ノ者カ十ヶ年ノ後チニ前記ノ事實アリトセハ掛金百貳拾圓ニ對シ九十六圓ノ脱退給與金並ニ參百圓ノ死亡給與金ト尙死ニ至ル迄ノ間ニ於ケル醫療金等ヲ併給スヘキ割合ナリ彼是相合スルトキハ或ハ脱退給與金ハ支給セサル意味ニモ解スル次第有之候

社會局長回答 大正十年三月十七日 警察共済組合員救済事務取扱ニ關スル件回答 標記ノ件ニ關シ本月十日共第二〇七號御照會之趣了承右ハ前段申越之通併給スヘキ義ニ有之候條御了知相成度

醫療金給與ニ關スル件

愛知縣警察部照會 大正十年四月十九日 警察共済組合員醫療金給與ニ關シテハ夫々御規定有之候處別紙ノ通り腹臈驅除ニ要シタル費用ニ關シ醫療金給與方請求書提出ニ付調査スルニ本件ハ普通ノ疾病ト稱其趣キテ異ニ致シ居候様被認決定上疑義相生シ候ニ付何分ノ御内示相煩度及照會候也

追テ御内示ノ際別紙御返送相成度申添候 社會局長回答 大正十年四月二十五日 愛知縣警察部照會 愛知縣第三二號

警察共済組合規則ニ關スル件

大正十年五月十日 鳥社會第九號社會局長依命通牒

〔社會〕

〔社會〕

救済金給與ニ關スル件

北海道廳長官照會 大正十年五月五日 共北第一七二號

客年八月開催相成候警察共済組合事務協議會ノ際決定相成候事項中救済金請求上要シタル診斷書(死亡給與金請求ノ死亡診斷書)ハ請求上當然添付スヘキ關係書類ナルヲ以テ之レカ料金ハ給與セサルコトト決定相成唯醫療金ノ請求書ニハ診斷書ノ添付ヲ要セサルヲ以テ若シ給與審査上必要アリト爲シ添付ヲ命シタル場合ハ其診斷書料ハ醫療金トシテ給與差支ナシト協議相成候得共右ハ何レモ權利實行上要シタル費用ナレハ是レテ區別スルノ要ナキカ如ク被存候ニ付醫療金給與審査上添付ヲ命シタル診斷書ト雖モ他ト同様給與セサルコトニ致度此段相伺候也

社會局長回答 大正十年五月十三日 北局第四三號

救済金給與ニ關スル件回答

標記ノ件ニ關シ本月五日附共北第一七二號御照會之趣了承右ハ警察共済組合ニ關スル問答第十七項ニ準シ御處理相成候様致度

警察共済組合救済ニ關スル件

福岡縣知事照會 大正十年四月二日 共北二七九二號

警察共済組合員死亡救済金給與ニ關シ左記事例ノ事項ニ就テハ救済實施上聊力疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成候様致度此段及照會候也

一、組合員ニ實父アリ而シテ戸主ハ組合員ノ實兄ナルモ同戸主ハ十七年前ニ家出シ全ク家政ニ關與セサルヲ以テ爾來其實父ハ次男ナル組合員方ニ

左記事實ニ對シ警察共済組合規則第十二條第二號ニ依ル救済金請求有之候處右ハ給與シ得サル義ニ候哉御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩度候也

組合員ハ二男ニシテ妻ト共ニ分家シ一家ヲ創立セリ實母ハ家庭事情ニ依リ長男タル戸主ト別居シ次男タル組合員トモ同居セシ單獨住居シ組合員ハ毎月俸給ノ中ヨリ送金シ扶養ヲ爲シ來リタル處客年十一月死亡シ葬祭ノ如キモ組合員ニ於テ營ミタリ

社會局長回答 大正十年二月十六日 警察共済組合救済金給與ノ件回答 標記ノ件ニ關シ本月五日附佐共第一六號御照會之趣了承右ハ組合員ト同一ノ家ニ在ラサルニ於テハ給與シ得サル儀ト被認候條御了知相成度

警察共済組合員救済事務取扱ニ關スル件

廣島縣知事 大正十年三月十日 警察共済組合員死亡シタルトキハ規則第六條第一號ニ依リ脱退セシハ當然ニシテ此場合同則第十條ニ依リ救済金給與ノ事由併發セシモノトシテ同則第十一條ニ依リ死ニ至ル迄ノ間ニ於ケル醫療金並ニ同則第十二條第一號ニ依リ死亡給與金ト同則第十五條ニ依リ脱退給與金ヲ併給スヘキモノト存候モ或ハ死亡セシ場合ハ死亡給與金ヲ支給スルヲ以テ脱退給與金ハ支給セサル意味ニモ解シ候差當リ本縣ニ該當ノ事實有之候ニ付何分ノ御意見承り度候

廳府縣長官宛(但東京府鳥取縣ヲ除ク)

警察共済組合規則ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル別紙寫鳥取縣知事(甲號)照會ニ對シ今般決定之上乙號ノ通回答候ニ付御了知相成度

(別紙號) 甲號共發第六〇號(大正九年十二月十日)

內務省社會局長宛

鳥取縣知事

警察共済組合規則第二十二條ニハ組合員懲戒處分ニ因リ其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官失職シタルトキハ救済金ヲ給與セストアリテ救済金ノ種類ヲ明記セラレサルモ右ハ

- (一) 脱退給與金ノミテ意味スルヤ
 - (二) 脱退給與金ノ外免官又ハ失職ノ事由ト因果關係ヲ有スルモノ例ヘハ自己ノ家ニ放火シタルニ因ル罹災給與金混雜シテ他人ト争闘シ爲ニ負傷シタル等官吏ノ體面ヲ汚損スルモノアリテ懲戒免官セラレタル場合ニ於ケル醫療金ノ如キモ包含スルヤ
 - (三) 又免官失官以前已ニ救済金ヲ受領スヘキ權利ヲ生シ居ルモノハ後免官又ハ失官ニ依リ變更セラレサルモノト解スヘキヤノ點
- 取扱上疑義ヲ生シ居候條御省ノ御意見承知致度此段及照會候也
- 乙號內務省社會第九號(大正十年五月十日)
- 鳥取縣知事宛 內務省社會局長

警察共済組合規則ニ關スル件回答

標記ノ件ニ關シ客年十二月十日附共發第六〇號ヲ以テ御照會有之候處左記ノ通御了知相成度

- 一、脱退給與金ノミナラス規則第九條ノ各種救済金ヲ總テ包含ス
- 二、懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因ル免官、失官、失職ト關係ヲ有スル事實ヲ

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

同居シ組合員ノ扶養ヲ受ケツ、居タルカ實父ハ豫テ罹病ノ爲メ死亡セリ然ルニ組合員ハ實父死去ノ一週間前ニ兄ノ戸籍内ヨリ分家ノ手續ヲ爲シ實父死去當時ハ全ク別家ノ形式ニアリ

以上ノ通りニシテ實父ハ死亡ノ當時偶々組合員ト同一ノ戸籍内ニハアラサルモ第一扶養義務者タル本家ノ戸主(死亡者ノ長男)ハ久シキ家出扶養ノ義務ヲ盡サザリシモノニシテ僅ニ死亡一週間前ニ於テ組合員ハ戸籍上ノ分家ヲ爲シタルモ依然トシテ實父ノ扶養ハ實際ニ於テ組合員方ニ同居セシメテ之カ扶養ヲ爲シタルモノナレハ同一ノ家ニ在ルモノトシテ救済金ヲ給與シ差支ナキヤ

二、組合員ノ嫡出子ハ出生後僅カニ八日ニシテ死亡シタルヲ以テ單ニ埋葬ノ認可ヲ得タルノミニシテ戸籍上ノ手續(出生及死亡ノ届出)ヲ爲シ居ラサル場合ニ於テハ戸籍簿本ヲ以テ親子ノ關係ヲ證明シ得サルモ事實ニ基キ救済金ヲ給與シ差支ナキヤ 以上

社會局長回答 大正十年五月三十日 社會部第二三三號

警察共済組合救済ノ件回答 標記ノ件ニ關シ四月二日附共第二七九二號御照會之趣了承右ハ後記ノ通り有之候條御了知相成度

● 共済組合死亡給與金給與方ニ關スル件

高知縣知事照會 大正十年九月四日 發第二五號

一、實父ハ組合員ト民法上同一ノ家ニ在ラサルヲ以テ給與シ得サルモノトス

二、出生届出前ニ死亡シタル場合ハ戸籍法第七十七條ノ届出ヲ要スルヲ以テ照會ノ如キ事實ヲ生スルコトナシト認ム再調ヲ要ス

〔社會〕

● 警察共済組合醫療金給與ニ關スル件

警察共済組合員ト其ノ内縁ノ妻トノ間ニ生レタル子ノ死亡シタルモノアリ右内縁ノ妻ハ相續人タル關係上容易ニ組合員ノ籍ニ入ルヲ得ス入籍未了ニ付死亡シタル其ノ子ハ組合員ノ庶子ナルモ妻ノ私生子トシテ届出ナシアリタルモノナリ

然ルニ事實ハ組合員ト同棲セル配偶者トノ間ニ生レタル子ニシテ現ニ組合員ニ於テ扶養シ居タルモノニ付死亡給與金ヲ給與シ可然ト存候得共爲念及御問合候也

社會局長回答 大正十年十月五日 高社局第五一號

共済組合死亡給與金給與ノ件回答 標記ノ件ニ關シ九月四日附發第二五號御照會之趣了承右ハ民法上組合員ノ庶子ニアラサルヲ以テ給與スヘキモノニアラスト被認候條御了知相成度

理由

母ノ家ニ在ル私生子ハ其後父ノ認知ニ因リテ庶子トナリ(民法第八二七條)其私生子出生ノ當時ニ適リ法律上ノ親子關係ヲ確定スルコト明ナリ(民法第八三二條)而シテ照會文ノ趣旨ニ依レハ事實上ハ組合員ノ庶子ナルモ妻(内縁ノ妻)ノ私生子トシテ届出ヲ爲シアリテ當時該庶子ト組合員トノ間ニ於ケル法律上完全ナル親子關係カ成立シアリシヤ否ヤ疑ナキ能ハス

然ルニ規則第十二條ノ死亡給與金給與ノ資格ハ「組合員ト同一ノ家ニ在リ現ニ扶養スル子タル」ヲ要ス故ニ照會文中「現ニ扶養シタル」ノ事實ハ之ヲ認ムルモ前段ノ事由ニ依リ果シテ「民法上同一ノ家ニ在ル子」タルヤ否ヤ明確ヲ缺クノ嫌アルヲ以テ本文ノ如ク回答スルヲ妥當ナリト認ム

〔社會三號〕

也

記

一、組合員ハ駐在巡查ニシテ本年八月二十六日病氣ニ罹リ居村ニ主治醫ヲ定メ受療中主治醫ニ在リテハ病名ヲモ確認シ能ハサル病狀ナリシニ初發以來殆ト昏睡狀態ニシテ漸次重篤ニ陥リ生命ニ危險ノ虞アリ仍テ八月二十九日以降ニ於テ他郡市ヨリ名醫三名ヲ三回ニ招聘主治醫ト立會診察セシメタルニ二回目迄ハ病名モ確定セス三回目即チ九月六日立會ニテ漸ク流行性感冒ト決定爾來治療中九月十七日ニ至リ遂ニ死亡シタルモノニ有之候處右立會ニ要シタル各醫師ノ往診料ハ其ノ人員及度數等ニ制限ナク之ヲ給與シ得ル儀ニ候哉

社會局長回答 大正十年七月二十二日 社會部第四九號

警察共済組合救済金ニ關スル件回答 標記ノ件ニ關シ十月十日附佐共第一八一號御照會ノ趣了承右醫師ノ往診料ハ醫療上必要ナル限度内ニ於テハ別ニ制限セサル儀ニ有之候條御了知相成度

大正十五年一月三十日内務省一四、佐警第一〇號内務省警保局長通牒 廳府縣長官宛

警察共済組合救済金ニ關スル件 首題ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條御了知相成度(甲號) 佐共第二七四號(大正十四年十月二十九日) 佐賀縣知事

警察共済組合救済金ニ關スル件 佐賀縣知事照會 大正十年十月十日 佐共第一八一號 警察共済組合規則第十一條ニ依リ左記事實ニ對シ組合員ノ家族ヨリ救済金請求候處之カ給與決定上ニ關シ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相煩度候

神奈川縣知事照會 大正十年八月五日 西警共發第三五號 警察共済組合醫療金給與ニ關シ左記ノ如ク疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

記

一、組合員入院治療ノ際普通病院ニ在リテハ藥價及患者食費等凡テ入院料ニ包含セシメ之ヲ徴收スルハ普通一般ノ慣例ナルニヨリ醫療金給與ニ付テモ毫モ疑問ノ餘地ナシト雖モ茲ニ帝國大學病院ニ入院シタル者ニ在リテハ同院ニ限リ費用支拂ノ際入院料ト食費トハ全ク區別スル取扱ナル趣ニ付テハ右食費ハ醫療ノ範圍ヲ脱シタルモノト認メ全然給與スヘカラサルモノ、如ク思料セラレ候モ斯クテハ取扱上前者ト均衡ヲ失スルノミナラス前記食費ハ療養費中多額ヲ占ムルモノニシテ從テ組合員ノ負擔最輕カラサルモノナルニヨリ特ニ帝國大學病院ニ入院セルモノニ限リ凡テ之ヲ入院料ニ包含セシメ相當救済金給與可然哉

社會局長回答 大正十年十月六日 社會部第五一號

警察共済組合醫療金給與ノ件回答 標記ノ件ニ關シ八月五日附西警共發第三五號御照會之趣了承右ハ申越ノ如ク入院患者ノ食費ヲモ入院料中ニ包含セシメ給與相成可然儀ト被認候條御了知相成度

● 警察共済組合救済金ニ關スル件

佐賀縣知事照會 大正十年十月十日 佐共第一八一號 警察共済組合規則第十一條ニ依リ左記事實ニ對シ組合員ノ家族ヨリ救済金請求候處之カ給與決定上ニ關シ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相煩度候

警察共濟組合救濟金給與ニ關スル件
警察共濟組合規則第十一條ニ依ル救濟金(醫療)給與ニ關シ左記ノ通疑義
相生シ候ニ付御意見承知致成至急何分ノ御指示相煩度候也

一、齋齋治療(齒科)ニ關シ護謄「セメント」又ハ銀ヲ以テ充填ニ要シタル
費用ハ醫療金トシテ給與スヘキモノナルヤ
二、蟲様突起炎、腸「チアス」等ニ罹リ發熱シ治療上必要トシテ使用シタ
ル水代ニシテ醫師ノ證明アル場合ハ醫療金トシテ給與スヘキモノナル
ナ

乙號) 內務省一四佐警第一〇號(大正十五年一月三十日)

內務省警保局長

佐賀縣知事宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件回答

客年十月二十九日附佐共第二七四號ヲ以テ內務次官宛御照會相成候標記
ノ件ハ左記ノ通御了知相成度候何ノ上

一、齋齋治療ニ關シテハ最低限度ノ護謄又ハ「セメント」ノ充填ハ已メテ
得サル醫療ノ範圍ト認メ醫療金ヲ給與スルコトヲ得ルモ其ノ他ノ充填
ニアリテハ給與スルコトヲ得サルモノトス
二、蟲様突起炎、腸「チアス」ノミナラス一般ニ熱性ノ疾病又ハ傷寒ニシ
テ醫療上其ノ必要ヲ缺クヘカラサルモノニシテ醫師ノ指指ニ基キ使用
シタルモノニシテ其ノ證明書アルトキハ之ニ對シ醫療金ヲ給與シ支ヘ
ナシ

大正十五年三月十一日內務省阪
警第九號內務省警保局長通牒

廳府縣長官宛

警察共濟組合醫療金ニ關スル件
標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答候條爲御參考
(甲號)
親共第三一號(大正十四年九月十六日)

大阪府知事

內務次官宛

警察共濟組合醫療金ニ關スル件

法定傳染病ニ罹リタル組合員各其ノ住居地市町村設置ノ傳染病院隔離病
舍ニ收容セラレタルニ於テハ無料取扱ヒテ受ケルニ不拘特ニ該當設備中ノ
有料室ニ變更シ又ハ前以外ノ病院(有料)ニ入院加療シタル場合其醫療金
ノ請求アリタル時ハ規則第十一條第三項ニ依リ醫療金ニ要シタル費用ニ
シテ必要ノ限度ヲ超ユルモノト認メ減額支給スヘキ哉若シ減額スルトモ
ハ其ノ救濟金算定ノ標準又前記ノ場合主治醫ニ於テ有料病院ニ入院シタ
ル理由カ醫療上ノ必要ニ基ク旨ノ證明書添付請求シタルトキハ全額支給
支障ナキ哉至急何分ノ御指示相成度右及照會候也
(乙號)
內務省阪警第九號(大正十五年三月十一日)

內務省警保局長

大阪府知事宛

警察共濟組合醫療金ニ關スル件

大正十四年九月十六日附親共第三一號御照會ニ依ル標記ノ件左記各號ニ
依リ御取扱相成度候何ノ上及回答候也

〔社會四號〕

記

一、傳染病院又ハ隔離病舎ノ有料室ニテ加療ノ場合

照會ノ有料室トハ傳染病預防法施行規則第三十條ニ依リ地方長官又
ハ郡長ノ認可ヲ受ケタル食費、藥價徴收ノ場合ト認メラルヲ以テ
同費用徴收ノ認可條件ヲ參照シ

(一)

同費用ノ徴收ニシテ進ンテ本人ノ希望セルニ基キ必要ノ限度ヲ
超エタル治療方法ヲ採ル場合ニ行ハルルニ於テハ之ニ對シ醫療
金ヲ給與スルノ限ニアラス此ノ場合ノ減額シテ支給スル金額ノ
標準ハ同病舎中ノ無料治療ヲ受ケル部分ニ收容セラレタル場合
ノ要費トス

(二)

特ニ食費、藥價ノ負擔ニ困難ヲ感ズルガ如キ貧困者ニ對シテハ
其費用ヲ徴收セザルモ負擔能力アル者ニ對シテハ之ヲ徴收シ無
料者ト有料者ト病室ヲ異ニスルガ如キ場合ハ同費用ニ對スル醫
療金ハ之ヲ給與スルヲ相當トス

二、有料病院ニ入院加療ノ場合

有料病院ニ於テ加療ノ原因ニシテ市町村立傳染病院又ハ隔離病舎ノ
都合若ハ治療上ノ不得止ル必要ニ基ク等本人ノ自由ナル希望ニ依ラ
ザル場合ハ一般疾病治療ノ場合ト同様醫療金給與ノコトニ取扱フヲ
相當ト認ムルモ個々ノ場合ニ付事實上有料病院ニ入院治療ノ不得止
ル事由ノ有無ハ慎重調査ノ上其ノ給否ヲ決定スヘキモノト認ム

大正十五年七月二十八日
內務省阪警第三八號內務省警保局長通牒

廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)
大阪府ヲ除ク)

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答候條御了知相成度

第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

(甲號)

親共第六號(大正十五年二月二十四日)

大阪府知事

內務次官宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ左記各號ノ通り疑義相生候條至急何分ノ御指示相成度
左記

一、

組合員カ開業醫師ト信シ醫療繼續中該醫師ハ無免許ナルコト發覺シ
檢舉セラレタル事實アリ而シテ該組合員ハ其ノ發覺ニ至ル期間ノ代金
ハ支拂済ナリト言フ本件ハ醫療ト看做シ醫療金支給スヘキモノナル
ナ

二、

甲組合員カ乙組合員ノ丙女ト姙婬子縁組ヲナシ戸籍ノ手續了了シ同
一世帯中丙女死亡シタリ甲組合員ハ配偶者ノ死亡乙組合員ハ自己ノ扶
養セル子死亡トシテ何レモ死亡給與金ノ請求ヲナシタル場合ハ同一事
實ニ基クト雖モ組合員ヲ異ニスルニ依リ双方共支給スヘキモノナルヤ
ナ

(乙號)

內務省阪警第三八號(大正十五年七月二十八日)

內務省警保局長

大阪府知事宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件回答

本年二月二十四日附親共第六號ヲ以テ御來照ニ係ル標記ノ件ハ左記各項
ニ依リ御取扱相成度右經何ノ上及回答候也

記

一、組合員カ免許開業醫師ノ如ク裝ヘル無免許ナル醫師ヲ一般ノ免許開
業醫師ナリト信シタル點ニ於テ組合員ニ重大ナル過失ナキ場合ニシテ

四五八ノ一

既ニ仕拂濟ニ係ル醫費ニ對スル醫費金ハ之ヲ給與シ差支ナシト認
二、(一)夫タル甲組合員ニ對シテハ當然之ヲ給與スルノ要アルモ、(二)同一
ノ家ニ在ル父タル乙組合員ニ對シテハ丙女死亡前現ニ之ヲ扶養シ來タ
レルノ事實アル場合ニ於テハ組合規則第十二條第二號ニ依リ同人ニモ
之ヲ給與シ得ルカ如ク解シ得ラレサルニ非サルカ如キモ同一原因ニ對
シ同一家内ニ二人ノ救濟金受領者ヲ生スルハ組合救濟金給與ノ性質上
妥當ヲ缺クモノナルヲ以テ之ヲ給與セザルモノト解スルヲ相當ト認ム

大正十五年十月二十六日
內務省阪警第四八號內務省警保局長通牒
關府縣長官宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

本件ニ關シ別紙(甲號)照會ニ對シ乙號ノ通回答相成候條御了知相成度

(甲號)

親共第三四號(大正十五年八月二十八日)

大阪府知事

內務次官宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件照會

標記ノ件ニ關シ左記各項ニ對シ給否決定上疑義相生シ差當必要有之候條
至急何分ノ御指示相成度

記

一、組合員ト同一家ニ在ル子大阪市ノ一時救助人トシテ取扱ヲ受ケ入院
治療中死亡シタリ組合員ハ該子ニ對シ大阪市ノ一時救助人トシテ取扱
ヲ受ケル前ノ扶養ハ勿論死後ノ葬祭モ該組合員ニ於テ營ミタル理由
トシ死亡給與金ノ請求ヲ爲シタリ本件ハ警察共濟組合規則第十二條第

二號現ニ扶養スル子死亡ト解シ支障ナキヤ
追テ大阪市一時救助人トシテ取扱ヲ受ケル者ハ(一)自活ノ途ナク且ツ
扶養義務者ナキ者、(二)扶養義務者アルモ其ノ義務ヲ履行スル實力ナ
キ貧困者等ニシテ本件ハ(二)ニ屬ス
二、組合員自動車ニ觸レ負傷シ入院治療ヲ受ケ該治療費ハ他ヨリ融通ヲ
受ケタル金員ヲ以テ全額ノ支拂ヲ了シ退院ヲ爲シ其ノ後自動車會社ヨ
リ前記治療費額ノ約五割強ニ相當スル慰藉料ヲ受ケ該治療金ノ請求ヲ
ナシタリ本件治療金ハ治療全額ニ對シ救濟支障ナキヤ

(乙號)
內務省阪警第四八號(大正十五年十月二十六日)

次官

大阪府知事宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件照會

本件ニ關シ八月二十八日親共第三四號ヲ以テ御照會相成候條第一ニ付テ
ハ死亡給與金給與相成、第二ニ付テハ醫療費全額ニ對シ醫療金給與相成
可然右申進候

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

昭和二年十二月二十七日
內務省廣警第一四號內務省警保局長通牒
關府縣長官宛(除東京府)

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙甲號廣島縣知事照會ニ對シ乙號ノ通回答相成候條御了
知相成度

(甲號)

[社會九號]

共第一六九四號(大正十五年十月九日)

廣島縣知事

內務次官宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

本月五日內務省石警第五號御通牒ニ關シ左記ノ通疑義相生候條至急何分
ノ御指示相成度候

記

一、本縣ニ於テハ組合規則第十二條第二號ノ配偶者ハ戶籍上ノ手續ヲ完
了セル妻ト解シ其ノ手續未了者ノ死亡ニ對シテハ從來總テ死亡給與
金ヲ給與シ居ラサルモ右取扱ハ不當ナルヤ
二、前項ノ解釋不當ナリトセハ本年一月十二日內務省阪警第一號通牒ノ
次第モアリ事實明瞭ニシテ處理上支障ナキ限リ既往ニ過リ救濟事由
發生後一年以上經過ノモノニ對シテモ之ヲ給與シ支障ナキヤ
三、前第一項ノ解釋不當ニ非ストセハ本文通牒適用ノ時期ニ關シ疑問ア
リ將來發生ノ事實ニ付テノミ該通牒ノ趣旨ニ依ルヘキヤ又ハ既往何
時マテ過リテ該趣旨ニ基キ取扱フヘキヤ
四、組合規則第二十條第一項ノ配偶者ニ關シテハ大正九年九月十一日內
務省發衛第二二七號及本年一月九日內務省一四阪警第三八號通牒ノ
趣旨ニ徴スルモ一般法令ノ解釋ト同様婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實ア
リト認メラル、モノ(所謂内縁ノ妻)ヲ包含セザル義ト信スルモ前項
通牒ト同趣旨ニ解スヘキモノナルヤ、又ハ彼此二樣ニ解スヘキ義ナ
ルヤ

(事實上戸主又ハ兄弟姉妹ヨリ内縁ノ妻ヲ先順位ニ置クテ至當ト認
ムルモノアリ)

內務省廣警第一四號(昭和二年十二月二十七日)

內務省警保局長

廣島縣知事宛

警察共濟組合救濟金ニ關スル件照會

大正十五年十月九日附共第一六九四號ヲ以テ照會相成候條標記ノ件左記ノ
通牒了知相成度

記

一、組合規則第十二條第二號ノ配偶者ニ付テハ大正十五年十月五日內務
省石警第五號通牒ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度
追テ右通牒ニ所謂「戶籍法上ニ於ケル婚姻ノ届出ハ未済ナリト雖
夫婦ノ實アリト認メラルル者」トハ社會通念ニ於テ正當ナリト認
メ得ル婚姻ヲ爲スト雖家庭其ノ他ノ事情ニ依リ未タ戶籍法ニ依ル
婚姻ノ届出ヲ完了セザル者ヲ指稱スルモノナルニ依リ之力死亡ニ
對スル救濟金ノ給與ニ當ツテハ慎重調査ノ上御取扱相成度
二、御見込ノ通
三、略
四、組合員死亡シタル場合ニ於テ大正十五年十月五日內務省石警第五號
通牒ニ該當スルモノハ組合規則第二十條第一項第一號ノ配偶者ニ相
當ノモノトシテ自今御取扱相成可然

昭和二年十二月二十四日
內務省發警第一〇三號內務省警保局長通牒
關府縣長官宛

警察共濟組合死亡給與金ニ關スル件

死亡給與金請求ニ付テハ請求書ニ死亡診斷書又ハ死體檢案書ノ添付ヲ要ス
ヘキ處死體發見セザルガ爲ニ死亡診斷書又ハ死體檢案書ヲ得サルトキ管轄

區裁判所ニ於テ死亡事實認定ノ許可アリタル旨ヲ記載シタル市町村長ノ證明書アルトキハ之ヲ以テ救済金請求ノ手續ヲ爲サシメ差支無之候條御了知相成度

警察共濟組合給與金決定ニ關スル件

兵庫縣知事照會 大正十年十月八日 三共第四四號
本月五日內務省兵社會第二八號依命通牒相成候元本縣巡查古田龜藏ニ對スル救済金給與方ニ關スル追而書ニ給與金ハ本人退職當時ノ掛金ノ標準タル月俸額ニヨリ御決定相成候旨附記有之而シテ退職當時ノ掛金徵收ニ關シテハ客年九月十一日內務省發給第二二七號警察共濟組合事務取扱ニ關スル依命通牒第十三項ニ遵據スヘキモノニシテ此規定ハ月ノ中途ニ脱退又ハ加入スルモ掛金ハ其日割ニ據ラズ辭令ニ基キ月俸ノ百分ノ二(其ノ月金額)ヲ徵收スルモノナリ茲ニ所謂辭令面トハ増俸前ノ辭令ニ據ルヘキモノナリ又増俸ノ辭令ニ據ルヘキモノナルハ迷フ處ナリト雖モ増俸タルモ職務ノ分限尙繼續中ニシテ組合脱退以前ノ行為ニ有之且増俸アリテ脱退スルモノニ對シテ規則第八條但書ヲ適用スル事ヲ得ス殊ニ其勤勞ニ對スル増俸ヲ無意味ナラシムルノ嫌アリ故ニ如斯場合ニ於テハ畢竟退職當時ノ辭令面ナルモノモ其ノ増俸ノ辭令面ニ據リ徵收スルヲ妥當ニアラサルヲ信セラレハ力故ニ規則第十六條ノ給與金ノ標準モ退職當時ノ月俸即チ増俸額ニヨリ算定スヘキモノナリト思料被致候條以上ノ御取扱擬ニ關シ至急何分ノ御意見相同度此段及照會候也
大正十年十月二十四日
社會局長 回答 兵社會第二八號

方ノ件

新潟縣知事照會 大正十一年二月六日 共發第九四號
警察共濟組合規則第十二條ノ給與金ハ同第十六條ニ依リ事由發生ノ時ニ於ケル掛金ノ標準トナル月俸トハ例令ハ一月俸五十圓ノ者カ其月半ニ於テ五十五圓ニ昇給スルモ同則第八條ニ依リ其月ノ掛金ハ五十圓ノ百分ノ二ヲ徵收ス然ルニ昇給ト同時ニ死亡若クハ退職シタル場合ノ給與金ハ前月俸五十五圓ニ依リ計算スルモノナルハ又昇給シタル五十五圓ニ依ルモノナルハ取扱上疑義ヲ生シ候條御省ノ御意見承知致度此段及照會候也
大正十一年二月二十八日
社會局長 回答 新社會第一〇號

確災給與金給與決定ニ關スル件

大阪府知事照會 大正十一年一月三十日 共親第九四號
左記ノ者ハ警察共濟組合規則第十四條ニ該當シ罹災給與金ノ支給ヲ受ケヘキモノト被認候條給與決定相成候條致度大正九年九月十一日內務省發給第二二七號八項ニ依リ此段及協議候也

- 一、官職氏名
 - 巡查 岡本榮之助
 - 巡查 速水 進
 - 二、罹災當時ノ俸給
 - 金四拾四圓 岡本榮之助
 - 金四拾貳圓 速水 進
- 第六章 共濟 保險 郵便年金 第一節 共濟組合

警察共濟組合給與金決定之件回答
標記ノ件ニ關シ十月八日附三共第四四號御照會ノ趣了承組合員ノ月俸ニ異動ヲ生シタルトキノ掛金標準額ハ規則第八條ニ基キ異動以前ノ辭令面ニ據ルヘキ筋合ニ有之從ツテ規則第十六條ノ救済金モ右ニ準シ算定スヘキ儘ニ候條御了知相成度

警察共濟組合救済金ニ關スル件

佐賀縣知事照會 大正十一年一月二十六日 佐共第一九號
警察共濟組合規則第十四條ニ依リ左記事實ニ對シ罹災給與金請求候處之カ給與決定上ニ關シ疑義相生シ候條至急何分ノ御回答相煩度候也

一、組合員ハ管下藤津郡鹿島警察署部内ニ於ケル駐在所ニ現住シ其ノ實家ハ同郡東嶺野村ニシテ實家ニハ兩親ト妹二人居住スルモ組合員ハ其ノ長男ニ當リ扶養ノ義務アリ實家ノ家計豐ナラサル爲從來藤津郡ノ送金等モナシタル事實モ認メラレ候處本月四日嶺野宿火災ニ際シ延燒實父ノ所有ニ屬スル住家一棟及物置小屋一棟ヲ全燒シ六百餘圓ノ損害ヲ受ケタル事實ハ直接組合員力災害ニ罹リタルニハアラサルモ家督相續ノ關係上罹災トモ解セラル、カ如何有之
社會局長 回答 大正十一年二月十日 佐社會第八號

警察共濟組合員救済給與金算定

警察共濟組合救済金ニ關スル件回答
標記ノ件ニ關シ一月二十六日附佐共第一九號御照會ノ趣了承右罹災給與金ハ現ニ組合員ノ所有ニ屬スル財產罹災ノ場合ニアラサルハ給與シ得サル儘ニ有之候條御了知相成度
〔社會九號〕

〔社會九號〕

- 三、罹災ノ狀況及被害ノ程度
 - 添付現狀調査復命書記載ノ通
 - 四、被害物件及時價見積額
 - 岡本榮之助 衣類外六點金壹百八圓九拾五錢也 衣類外四點金八拾參圓貳拾四錢也
 - 速水 進 金四拾四圓也月俸一ヶ月分罹災額ノ四割四分弱 金參拾六圓也月俸七分ノ六右同
 - 五、給與見込額
 - 岡本榮之助 屬兼警部 和田 侯 二郎
 - 速水 進 大正十年十二月二十五日
- 大阪府警察部長藤沼庄平殿
罹災給與金請求ニ關シ實地調査方ノ件復命
別紙大阪水上警察署木津川分署長ヨリ進達ニ係ル巡查速水進同岡本榮之助罹災ニ關スル件實地調査ヲ遂クルニ左記ノ通有之候條此段及復命候也
- (A) 罹災ノ狀況
 - 右二巡查ハ大阪市西區三軒家上ノ町一番地大阪水上警察署木津川分署詰巡查阿部末一方二階八疊ノ間ヲ共同間借セルモノナルカ大正十年十二月二十三日午後十時三十分頃附近櫻井具作所有「ホーコン」工場ヨリ出火ノ際附近民家二十戸ト共ニ類焼セルモノ
 - (B) 被害ノ程度
 - 速水、岡元二巡查共當務ノ爲メ出勤不在加之當時風強ク火勢猛烈ニシテ水利ノ便アシカリシ爲メ家主阿部末一サヘ其家族ト共ニ身ヲ以テ逃レタル有様ニシテ兩人共其所持品ノ全部ヲ燒失セリ
 - (C) 罹災價格及物品
- 四五八ノ三

(イ) 價格 岡元榮之助逕查金一百八圓九十五錢也

(ロ) 逕查金八十三圓二十四錢也

(D) 調査ニ關スル意見

本件ハ規則第十四條該當ノ者ナルモ獨立ニシテ一戸ニ居住セル者ニアラサルヲ以テ大正九年內務省發給第二二七號八項ニヨリ左記給與見込額ヲ附シ內務次官ニ協議相成可然哉

岡元榮之助 金四十四圓也(罹災額ノ四割四分弱)
速水 進 金三十六圓也(月俸四十二圓ノ七分六釐災額ニ四割四分弱)

社會局長回答 大正十一年三月二十二日

罹災給與金給與決定ノ件回答
標記ノ件ニ關シ一月三十日附共親第九四號ヲ以テ御協議ノ趣了承右ハ申越ノ通給與相成可然儀ト被存候條御了知相成度

警察共濟組合救濟金支給上ニ關シ疑義ノ件

疑義ノ件

茨城縣知事照會 大正十一年五月二十五日

警察共濟組合救濟金支給ニ關シ左記ノ點疑義有之候ニ付何分ノ御問示相煩シ度及照會候也

左記

- 一、大正九年九月發給第二二七號通牒第七號ノ「家屋」ハ罹災者所有ノミノ場合ヲ指シタルヲ將タ所有ノ何人タルヲ問ハス罹災ノ際組合員現ニ居住シアラハ差支ナキヤ
- 二、同號第三ノ「家具」中ニハ衣類、日用品、其他娛樂、裝飾品等ヲモ包含

〔社會九號〕

〔社會三號〕

シ差支ナキヤ若シ包含セストセハ同上第八號ニ依リ貴官ニ協議ヲ要スヘキヤ

社會局長回答 大正十一年六月二日

共濟組合救濟金支給上ニ關スル疑義ノ件回答
標記ノ件ニ關シ五月二十五日附發第一六七號御照會有之候處右ハ後記ノ通御了知相成度

- 一、現ニ組合員所有ニ係ル「家屋」罹災ノ場合ヲ指稱ス
- 二、家具中ニハ組合員ノ現ニ所有スル衣類日用品其他娛樂、裝飾品等ヲモ包含スヘキモノトス

警察共濟組合救濟金支給者ニ關スル件

大正十五年一月九日內務省一四、阪警第三八號內務省警保局長通牒

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答候條爲御參考

共親第三三號

大正十四年九月二十四日

(甲號)

內務次官 川崎卓吉宛

大阪府知事 中川 望

警察共濟組合救濟金支給者並ニ同指定ニ關スル件
標記ノ件ニ關シ左記ノ通リ疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度候

- 一、癡疾、脫退其他ノ救濟金ヲ脫退後請求シタル者其ノ死亡後ニ給與決定アリタル時ノ該金受領者ハ規則第二十條ノ順位ニヨリ支給支障ナ

第六章 共濟 保險 第一節 共濟組合

〔乙號〕
內務省一四阪警第三八號
大正十五年一月九日

大阪府知事宛

警察共濟組合救濟金支給者ニ關スル件回答

客年九月二十四日附共親第三三號御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ニ依リ御了知相成度右經何ノ上及同答候也

記

- 一、御見込ノ通
- 二、大正十三年六月十一日內務省發給第一五號回答第三號ハ家督相續人又ハ遺產相續人ヨリノ請求ハ之ヲ適法ノモノトシテ事務取扱規程第七條ニ依リ內務次官ニ送付スヘキコトヲ同答セル義ニシテ救濟金ノ受領者ヲ決定セルモノニアラス
- 三、組合員脫退後死亡ノモノニシテ死亡給與金ハ給與セラレサルモ其他ノ救濟金ニシテ米受領ノモノアル場合規則第二十條該當者及婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラル、者共ニ無キ場合ニ於テハ大正九年九月十一日內務省發給第二二七號依命通牒左記第十項第二號ニ準シ救濟金中本人ノ葬祭ニ要シタル實費ニ相當スル金額ヲ給與ノコト

ニ取扱相成可然

警察共済組合救済金請求遅延ノ場合取扱方

大正十五年一月十二日内務省一四、
阪警第一號内務省警保局長通牒
廳府縣長官宛

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答候條爲念

甲號 共第六三五號(大正十四年十月十二日)

内務次官宛

大阪府知事

照會

警察共済組合規則第二十三條ニ「救済金給與事由發生ノ日ヨリ壹ヶ年内ニ請求ヲ爲ササルトキハ救済金ヲ給與セサルコトアルヘシ」トアリ依ツテ同明文ニ抵觸スルトキハ其ノ遅延ノ理由カ救済法規ノ存在ヲ知悉セス又ハ法規ノ解釋ヲ成リ其ノ他遺忘シタル等自己ノ過失ニ基因スル場合ノ如キハ絕對ノ時効ト看做スコトヲ得ルモ斯クテハ折角當該組合ヲ設ケラレタル相互救済ノ主旨ヲ没却スル次第ニ付キ該請求遅延スルモ事實明瞭ニシテ且ツ簿冊整理上支障ナキニ於テハ上記遅延ノ理由カ如上ノ場合ト雖モ可及的給與スヘキ義ト解シ支障ナキ哉聊カ疑義相生候條一度貴官ノ御定見承知致度此段及照會候也

乙號 内務省警保局警發乙第一三一號(大正十五年一月十二日)

内務省警保局長

大阪府知事宛

警察共済組合救済金給與ニ關スル件回答

十月十二日共第六三五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件御見込ノ通給與ノ

コトニ御取扱相成可然經何ノ上

警察共済組合事務取扱ニ關スル件

大正十二年三月十七日
發警第一四號警保局長依命通牒
廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

警察共済組合事務取扱ニ關スル件

警察共済組合事務取扱ニ關スル件
警察共済組合事務取扱ニ關シテハ組合員打撲、捻挫、脱臼、接骨ニ對シテ接骨營業者及柔道ノ教授ヲ爲ス者ノ柔道整復術ニ依リ治療ヲ爲シ其ノ費用ヲ請求スル場合ニ於テ從來ノ取扱ハ費用領收書ニ醫務上ノ指示ニ基キ旨ノ醫師ノ證明アルコトヲ要シ候處右ハ自今醫師ノ證明ノ有無ニ拘ラス之ヲ醫務上ノ證明ノ則第十一條ニ依リ給與相成候致度

警察共済組合收支計算ニ關スル件

大正十年一月二十八日社發乙第
一七號社會局長會計課長依命通牒
地方長官宛(東京ハ警視廳宛)

警察共済組合收支計算ニ關シテハ夫々御督勵中ノ事ト被存候處之ヲ從來ノ實例ニ徵スルニ其取扱區々ニ互リ調査上支障不尠候條備今左記ニ依リ御取運相成度
追テ右報告書ノ提出ハ甚シク遅延ノ向有之集計上差支候ニ付期限履行相成候條致度申添候

一、給與金並掛金ハ當月分ヲ翌月二十日前ニ必ス收入ヲ了シ少クトモ二十日迄ニ其三分ノ一ヲ送金シ當月分收支報告書ノ當該欄ニ區分記載シテ提出スルコト但シ月俸支給日以後月末迄ニ加入シタル組合員ニ就キテハ此限ニアラス

〔社會三號〕

- 二、前項但書ノ未收入額ハ當月分收支報告書ノ欄外ニ附記シ其額收入済ノ後ニ於テハ翌月分收支報告書中ニ區分掲記シテ報告スルコト
- 三、收支報告書様式第三號注意中「三」ハ之ヲ削除ス
- 四、收支報告書中ニ送金ニ關スル内譯ヲ記載シ送金明細書ヲ省略スル向アルモ右ハ別途ニ提出スルコト
- 五、概算前渡ヲ爲シタル時ハ其種目ヲ分記スルコト
- 六、送金後其額ニ異動ヲ生シタルトキハ收支報告書訂正ノ手續ヲ取運フコト
- 七、送金明細書ハ爾今別紙様式ニ據リ提出スヘキコト

(別紙略) 様式例

大正何年何月分警察共済組合送金明細書

大正 年 月 日 何々道廳(府縣)

送金高	掛金五百五十二圓四十六錢三分一厘	
184	000	給與金五百五十二圓三分一厘
010		何月分送金ノ際何々……ノ爲メ不足額

大正何警察共済組合收支決算書

月別	收 入			支 出										差引
	掛金給與金	利子	計送金	醫藥	死亡	療疾	罹災	脱退	計	殘額				
同														
同														
七														
六														
五														
四														
三														
二														
一														
同														

警察共済組合收支決算ニ關スル件

大正十一年四月一日
發社會第二四號社會局長依命通牒
廳府縣長官宛(東京府ヲ除ク)

警察共済組合收支計算ニ關シテハ夫々御督勵中之事ト被存候處右決算書別記様式ニ基キ取調毎年度終了後一ヶ月以内ニ本省ニ到達候條御提出相成度
追テ右計算ニ關シテハ豫テ報告ニ係ル收支計算参照ノ上異動ニ關スル附記相成候條致度申添候

300	前月分掛金九十二圓三分一厘(前月分送金後残額)
460	何々銀行特別當座振込(又ハ何々銀行振出小切手)
368	計上總共送金生シタルトキハ送金簿ニ於テ切捨テスル内譯

同	同
計	

附 準備金保管状況並預金利率

(注意)

- 1、大正十年度收支決算書ハ來ル五月二十日迄ニ提出スルコト
- 2、本様式中各月ノ掛金及給與金ハ其ノ月分トシテ當然徴收シタル額(決算額)ヲ掲記スルコト
- 3、年度末決算期ニ際シ翌年度ニ繰越收入アリタルモノト雖前年度所屬ノ收入(掛金及給與金)ハ科目別ニ整理ノ上其ノ精算額ヲ記入スルコト
- 4、概算前渡後精算済ノモノハ各科目別ニ(醫療羅災)整理記入シ尙年度末ニ於テ現ニ概算前渡ニ係ルモノト雖年度末打切り精算ノ上記入スルコト
- 5、「支出」欄中ノ「計」ハ金額ノモノ合計ヲ掲記スルコト
- 6、本表中管テ報告済ノモノト異動ヲ生シタル場合「附記」ハ可成詳細ニ記載スルコト
- 7、準備金保管状況ニ就テハ年度末現在ノ狀況ヲ左記ニ區分記載スルコト

記

一、現金

二、銀行預金

1、定期預金

2、通知預金

3、特別當座預金

4、小口當座預金

三、郵便貯金

警察共済組合ニ關スル問答

大正九年八月警察共済組合實施ニ關スル道府縣事務取扱主任協議會協定事項中摘録セルモノ

一、問、國庫ハ組合ニ對シテ補助セラル、ヤ

答、國庫ヨリハ補助セス

二、問、組合ノ事務ニ從事セシムル爲組合ノ費用ヲ以テ職員ヲ置キ差支ナキヤ

答、勅令第三條及省令第三條ニ依リ當然道府縣ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムヘク特ニ組合ノ費用ヲ以テ置クヘカラサルモノ

〔社會〕

〔社會〕

答、入院料中ニ醫師カ醫療上必要ト認メタル滋養品費ノ外ハ給與セサルモノトス

一、問、入院ノ要否ヲ地方長官ニ於テ審査スルノ權アリヤ

答、省令第十一條第三項ニ依リ之レカ必要ノ限度ヲ審査スルノ權限アリ

二、問、醫療金ハ一日若ハ一回何圓以内ト標準ヲ定メラレタシ

答、病症ノ種類及程度區々ニ互ルヲ以テ標準ヲ定ムルコトヲ得ス

三、問、巡査駐在所ノ所在地ニ醫師ノ在住ナキ爲賣藥ニ依リテ治療シタル場合ノ如キハ醫療金ヲ給與シ差支ナキヤ

答、賣藥ニ依リ治療ハ之ヲ醫療ト認メス

四、問、鍼術、按摩術ハ醫療ト認メテ可ナルヤ

答、醫師ニ於テ醫療上必要ト認メタル證明アル場合ノ外ハ醫療ト認メス

五、問、血清其他細菌學的預防治療品ノ注射ハ醫療ト認メテ取扱ヒ差支ナキヤ

答、注射ハ疾病ヲ未然ニ防ク場合ト疾病ノ治療ニ用ユル場合トノ二アリ前者ハ之ヲ醫療ト認メス

六、問、省令第十九條ニ依リ派遣スヘキ醫師ノ診察料等ニ要スル費用ハ組合費ヨリ支出シ差支ナキヤ

答、組合費ハ救済金ノ外支出スルコトヲ得ス

七、問、救済金請求ニ添付スヘキ診斷書作製ニ要シタル費用ハ給與セサルヤ

答、給與セサルモノトス

八、問、規程第四條中處置料トハ如何ナル費用ナリヤ

答、例ヘハ醫療上必要ナル繙帶交換マツサージ等ノナリ

九、問、同一戸籍内ニ在リテ現ニ同居セサルモ生活ニ必要ナル資金ヲ送

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

一〇、問、入院料中ニ滋養品費ト認メ得ヘキモノヲ含マレタル場合ハ其ノ

取扱テ如何ニスヘキヤ

第六章 共済 保險 第一節 共済組合

金シツ、アル祖父母、父母、子死亡シタルトキハ死亡給與金ヲ給與スヘキヤ

答、扶養義務者ニシテ毎月一定ノ生活費ヲ送金シツ、アルノ事實ヲ認メ得ヘキ場合ハ之ヲ給與スヘシ

二〇、問、月ノ末日任命シタル組合員ニシテ其ノ月ニ死亡シタル場合ハ死亡給與金ヲ給與スヘキモノナリヤ

答、給與スヘキモノトス

二一、問、死亡給與金ハ自殺ノ如キ場合モ給與スヘキモノナリヤ

答、給與スヘシ

二二、問、罹災給與金ハ自己ノ過失ニ基因スル場合モ給與スヘキモノナリヤ

答、過失ノ場合ト雖モ給與スヘキモノトス

二三、問、二戸ノ家ヲ有スル組合員同時ニ罹災ノ場合ハ如何ニ取扱フヘキヤ

答、罹災ノ全部ニ付給與金ヲ決定スヘシ

二四、問、間借或ハ下宿屋等ヲ生活ノ本據トスル組合員罹災ノ場合ハ如何ニ取扱フヘキヤ

答、大正九年九月發衛第二二七號通牒第八項ニ依リ處置スヘシ

二五、問、懲戒處分ナラサルモ之ニ準スヘキ退職(例ハ諭旨免官等)ノ場合ハ如何ニ取扱フヘキヤ

答、懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ失官失職ニ依リ退職シタル場合ノ外ハ省令第二十二條ヲ適用セシ

二六、問、一月分ノ掛金ヲ納付シタル組合員既退シタル場合ニモ既退給與金ハ給與スヘキモノナリヤ

答、省令第十五條第一號ニ依リ其ノ掛金額ノ十分ノ四ヲ給與スヘシ

二七、問、月ノ末日任命シタル組合員ノ其ノ月ノ掛金ハ徵收スヘキモノナリヤ

答、辭令面ニ於ケル月俸額ノ百分ノ二ニ徵收スヘシ

二八、問、從來ヨリ實施シツ、アル互助的機關ノ基金ヨリ組合員ノ掛金ノ半額ヲ毎月納付スルカ如キハ差支ナキヤ

答、互助的機關ヨリ組合員ニ掛金ノ半額ニ相當スル金額ヲ交付シ更ニ組合員ヨリ組合員ニ掛金ヲ納付スルモノトセハ差支ナシ

二九、問、地方ニ於テ管理スル準備金ノ利子ハ地方ニ於テ適當ニ處分シ差支ナキヤ

答、救済金ノ給與ニ充ツルノ外使用スルヲ得サルモノトス

三〇、問、救済金ニ充ツヘキ資金ニ不足ヲ生シタル場合及其ノ資金ニ殘餘ヲ生シタル場合ハ如何ニ取扱フヘキヤ

答、不足ヲ生シタルトキハ省令第三十五條ニ依リ組合員ノ内務大臣ノ認可ヲ經テ借入金ヲ爲シ殘餘ヲ生シタル場合ハ省令第二十六條ニ依リ組合員ノ共済ニ必要ナル施設ヲ爲スヲ得ヘシ

三一、問、規程別記様式第六號中醫療ニ要シタル費用ノ欄ニハ給與シタル金額即チ十分ノ八ヲ記入スルモノナリヤ

答、十分ノ八ニ相當スル金額ニアラスシテ醫療上實際ニ要シタル費用ヲ記入スヘシ

三二、問、組合員原票ノ左欄ヲ切取ル理由如何

答、整理ノ際誤謬ヲ發見シタル原票ヲ逆ニ置クトキハ容易ニ其ノ誤謬アル原票ヲ發見スルコトヲ得附箋等ノ手數ヲ省ケルノ便利ニ出テタルモノナリ

三三、問、既退シタル組合員ノ原票ハ廢棄セラレタシ

答、組合ノ事業成績作製等ニ際シ必要ノ場合ヲ生シタルトキ不都合ナルヲ以テ本省ニ於テ保存スヘシ

第六條 保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ之ヲ保險契約者ニ交付ス

第七條 保險證書ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 保險契約ノ效力ハ保險證書作成ノ日ニ始マル

第九條 被保險者力保險契約ノ效力發生後二年内ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

第十條 保險契約者力保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定セサルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第十一條 保險金額ヲ受取ルヘキ者力第三者ナルトキハ其ノ第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス

第十二條 保險契約者ハ保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ還付金額ノ支拂ノ事由發生スル迄ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スルコトヲ得但シ保險金額ヲ受取ルヘキ者力第三者ナル場合ニ於テ保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ還付金額ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ命令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十五條 保險契約者ハ被保險者ノ同意ヲ得テ第三者ヲシテ保險契約ニ因ル權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第十六條 前項ノ承繼ハ政府ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ政府ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 保險契約者又ハ被保險者ノ詐欺ニ因ル保險契約ハ之ヲ無効トス

第二節 保險 簡易生命保險法

大正五年七月十日 法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル簡易生命保險法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 簡易生命保險法

第一條 簡易生命保險ハ政府ノ之ヲ管掌ス

第二條 簡易生命保險事業ハ保險會社ノ之ヲ管ムコトヲ得ス

第三條 簡易生命保險ニ於テハ政府力保險契約者又ハ第三者ノ生死ニ關シ保險金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ保險契約者カ對價トシテ政府ニ保險料ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノトス

第四條 簡易生命保險ノ種類、被保險者ノ年齢、保險料及被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ計算ノ基礎ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 簡易生命保險ノ保險金額ハ四百五十圓以下トス

第六條 同一ノ被保險者ニ付數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ保險金額ノ總額ハ前項ノ制限ニ依ル

第七條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第八條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第九條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十一條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十二條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十三條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十四條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十五條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十六條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十七條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十八條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十九條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第十七條 保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第十八條 保險契約者ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第十九條 保險契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 保險契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 保險契約復活シタルトキハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

第二十二條 第十五條及商法第四百二十九條ノ規定ハ保險契約復活ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 被保險者カ保險契約復活ノ效力發生後一年內ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

一 被保險者カ保險契約又ハ其ノ復活ノ效力發生後二年內ニ自殺シタルトキ

二 被保險者カ決闘其ノ他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但シ其ノ者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ政府ハ其ノ殘額ヲ支拂フ

四 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

五 被保險者ノ死亡シタル場合ニ於テ保險契約者及保險金額ヲ受取ルヘキ者カ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ通知ヲ發セザルトキ

第二十五條 第十六條第一項、第十七條、第十八條第一項及前條ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ノ一部ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ保險契約者ノ請求アルトキハ保險契約ノ解除ニ因リ還付スヘキ金額ノ範圍內ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ保險金額ヲ支拂フヘキトキハ貸付金及其ノ利息ハ保險金額ヨリ之ヲ控除ス

第二十八條 當該官署方命令ノ定ムル所ニ依リ保險金額又ハ保險契約者若ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ還付スヘキ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ支拂ハ之ヲ有効トス

第二十九條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ簡易生命保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易生命保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條 前條ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十一條 簡易生命保險審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七 四十年滿期養老保險
第五條 新ニ被保險者タルコトヲ得ル者ノ年齡ハ十二歳以上六十歳以下トス
第六條 保險證書作成ノ後被保險者ノ年齡ニ付錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ作成ノ日ノ年齡カ前條ノ範圍內ナルトキハ當初ヨリ其ノ年齡ニ基キテ保險契約ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ年齡カ十二歳未滿ナルトキハ十二歳ニ達シタル日ニ於テ保險證書ヲ作成シタルモノト看做シ保險金額ヲ更正ス
前項ノ規定ニ依リ保險金額ヲ更正スル場合ニ於テ其ノ金額カ四百五十圓ヲ超過スルトキハ當初ヨリ最高ノ保險金額ニ基キテ保險契約ヲ爲シタルモノト看做ス
第七條 保險料ハ左ノ基礎ニ依リ計算ス
一 明治四十五年內閣統計局ノ發表シタル第二表ノ男子死亡率ニ二割ヲ增加シテ作成シタル死亡生殘表
二 年三分五厘ノ豫定利率
被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ハ前項ノ基礎ニ依リ純保險料式ヲ以テ之ヲ計算ス
第八條 簡易生命保險法第八條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ保險金額ハ左ノ區別ニ依ル
保險契約ノ效力發生後一年內ナルトキ 死亡率ニ拂込ムヘキ保險料ニ相當スル金額
保險契約ノ效力發生後二年內ナルトキ 保險金額ノ二分ノ一
前項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金額カ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ滿タサルトキハ其ノ積立テタル金額ニ依ル
第九條 簡易生命保險法第二十三條第一項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ保險金

簡易生命保險令

大正五年八月十八日 勅令第二百六號

大正一年八月勅令第三九五號、一五年四月勅令第六八號 簡易生命保險令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 簡易生命保險ハ終身保險及養老保險トス
第二條 終身保險ニ在リテハ被保險者死亡シタルニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スモノトス
第三條 養老保險ニ在リテハ被保險者ノ生存中保險期間滿了シ又ハ其ノ期間滿了前被保險者死亡シタルニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スモノトス
第四條 養老保險ハ左ノ七種トス
一 十年滿期養老保險
二 十五年滿期養老保險
三 二十年滿期養老保險
四 二十五年滿期養老保險
五 三十年滿期養老保險
六 三十五年滿期養老保險

額ハ左ノ區別ニ依リ保險契約復活ノ效力發生ノ日ニ於テ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ左ノ金額ヲ加ヘタルモノトス
復活ノ效力發生後六月内ナルトキ
ヘキ保險料ニ相當スル金額
復活ノ效力發生後一年内ナルトキ
保險金額ト復活ノ效力發生ノ日ニ於テ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額トノ差額ノ二分ノ一

第十條 簡易生命保險法第八條及第二十三條第二項ノ規定ニ依リ支拂フヘキ保險金額ハ左ノ區別ニ依ル

復活ノ效力發生後一年内ナルトキ
復活ノ效力發生ノ日ニ於テ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ復活ノ效力發生後死亡迄ニ拂込ムヘキ保險料ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

復活ノ效力發生ノ日ニ於テ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ復活ノ效力發生後死亡迄ニ拂込ムヘキ保險料ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額

保險契約ノ效力發生後二年内ニシテ復活ノ效力發生後一年ヲ超ユルトキ 保險金額ノ二分ノ一

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 簡易生命保險法第二十五條ノ規定ニ依リ還付スヘキ金額ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ノ百分ノ八十乃至九十八ノ範圍内ニ於テ通信大臣ノ定ムル所ニ依ル

通信大臣ノ定ムル所ニ依リ保險契約ノ效力發生後一定ノ期間ヲ經過セサル契約ニ付テハ前項ノ金額ヲ還付セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ未ダ拂込テ爲ササル保險料ハ之ヲ拂込ムコトヲ要セス

附則 本令ハ簡易生命保險法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正五年十月一日)
附則 (大正十五年勅令第六十八號)

本令ハ大正十五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ノ保險契約ニ付簡易生命保險令第六條第二項ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

簡易生命保險規則

大正五年八月十八日 逓信省令第四十六號

大正七年四月逓信省令第二二號 九月第四七號、八年一月第九〇號、九年三月第一三號、一〇月第一〇五號、一一年三月第一七號、八月第五二號、一三年六月第三〇號、一五年九月第三五號、昭和二年一〇月第三九號

簡易生命保險規則左ノ通相定ム

目次

- 第一章 總則
- 第二章 契約ノ成立
- 第三章 保險料ノ拂込
- 第四章 保險金ノ支拂
- 第五章 契約ノ異動變更
- 第六章 契約ノ消滅及復活
- 第七章 保險契約者ニ對スル貸付
- 第八章 長期繼續ノ契約者ニ對スル保險料還付
- 簡易生命保險規則
- 第一章 總則
- 第一條 簡易生命保險ハ郵便官署ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル郵便官署ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 保險料額及保險金額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

〔社會九號〕

〔社會二號〕

第三條 保險契約ニ關シ郵便官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者以下保險金受取人ト稱ス

第四條 保險契約ニ關シ郵便官署ニ差出ス書類ニハ保險證書ノ記載番號ヲ記載スヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ再度保險證書、再度保險料領收帳、再度保險金支拂通知書、再度保險還付金支拂通知書又ハ再度貸付證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 證書、通知書又ハ領收帳ヲ失シタルトキ
二 證書、通知書又ハ領收帳毀損汚損シテ不列明トナリタルトキ
再度保險證書ノ請求ニ對シテハ證書一通ニ付料金十錢ヲ徴收ス但シ郵便官署ニ於テ已ムテ得サル事由アリト認メタルトキ及第二十八條又ハ第二十九條ノ請求ト共ニ之ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 保險契約者又ハ保險金受取人前條ノ請求ヲ爲サルトキハ再度保險證書、再度通知書又ハ再度領收帳請求書ヲ作成シ再度保險證書ノ請求ニ在リテハ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ郵便局ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ證書、通知書又ハ領收帳アルモノハ之ヲ添附シ保險證書ニ對シテハ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ再度證書、再度通知書又ハ再度領收帳ヲ作成シ之ヲ請求人ニ交付ス

原證書、原通知書又ハ原領收帳ヲ發見シタルトキハ郵便局ニ之ヲ返還スヘシ

第七條 再度證書、再度通知書又ハ再度領收帳ヲ發行シタルトキハ原證書、原通知書又ハ原領收帳ハ無効トス

第八條 保險金又ハ還付金ノ支拂郵便局ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ其ノ要旨ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局ニ差出スヘシ但シ原支拂郵便局以外

金口座番號

十一 被保險者ニ付既ニ簡易生命保險契約アルトキハ其ノ保險金額及保險證書ノ記號番號又現ニ簡易生命保險契約ノ申込中ニ係ルトキハ其ノ旨並保險金額

十二 保險料ノ併合拂込ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨並保險證書ノ記號番號及第二十條ノ三第一項ノ指定日

第十三條 保險契約ノ申込ヲ爲サムトスル者ハ申込ノ際被保險者タルヘキ者ヲシテ郵便官署ノ吏員ニ面接セシムヘシ但シ被保險者タルヘキ者カ現役軍人又ハ召集中ノ軍人ニシテ所屬長官ノ健康證明書ヲ提出スルトキハ之カ手續ヲ省略スルコトアルヘシ

第十四條 保險契約ノ申込ヲ爲サムトスル者ト被保險者タルヘキ者ト其ノ所在地ヲ異ニスル爲保險契約申込ノ際被保險者タルヘキ者カ第十二條ノ規定ニ依リ記名調印又ハ前條ノ規定ニ依リ面接ヲ爲シ難キトキハ其ノ所在地ノ郵便官署ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ保險申込書ニ被保險者タルヘキ者ノ住所ヲ記載スヘシ

第十五條 簡易保險局保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書及保險料領收帳ヲ保險契約申込者ニ交付ス但シ保險料ノ振替貯金振替拂込ヲ爲スモノニ在リテハ保險料領收帳ヲ交付セズ

第十六條 保險契約ノ申込ヲ承諾セザルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ保險契約申込者ニ通知ス

第十七條 保險契約申込者前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印ノ上第一回保險料領收帳ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ拂込金ノ還付ヲ受ケヘシ

第十八條 保險證書ニ左ノ事項ヲ記載シ簡易保險局長記名調印ス

一 保險ノ種類

シテ經過期間六月以上ナルトキハ保險料月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額トス

第十八條 保險料ハ集金人拂込ノ場合ニ在リテハ拂込場所ノ集配受持郵便局ノ集金人ニ、窓口拂込ノ場合ニ在リテハ保險契約者ノ指定シタル郵便局ニ拂込シ保險料領收帳ニ其ノ記入ヲ受ケヘシ振替貯金振替拂込ノ場合ニ在リテハ口座所管處ニ於テ當該加入者ノ貯金ヨリ振替拂込ヲ爲シ之ヲ保險契約者ニ通知ス

第十九條 保險料ノ集金ハ一月一日ヨリ一月三日迄ハ之カ取扱ヲ爲サスマサルトキハ窓口拂込ニ依ラシムルコトアルヘシ

第二十條 保險契約者ハ其ノ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ於テ郵便貯金ヨリ保險料ノ拂込ヲ爲スコトヲ得

二 保險金額

三 保險料額及其ノ拂込期間

四 保險契約者及保險金受取人ノ氏名又ハ名稱並被保險者ノ氏名及生年月日

四ノ二 第九條ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ノ氏名

五 保險證書作成ノ年月日及記號番號

六 簡易生命保險法第十一條但書ノ意思表示

七 養老保險ニ在リテハ保險期間ノ終期

第三章 保險料ノ拂込

第十六條 保險料ノ拂込期間ハ十年間、十五年間、二十年間又ハ全保險期間トス

第十七條 保險料ハ月掛トシ一月分ヲ毎月保險證書作成ノ日ニ應當スル日ヨリ一月間ニ拂込ムヘシ

第十八條 船員、出稼人、農業者等ニシテ郵便官署ニ於テ已ムテ得サル事由アリト認メタル者ニ限リ保險料一年分以内ヲ前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一時ニ拂込ヲ爲サムトスル保險料延滞シタル保力十二月分又ハ十三月分ナルトキハ保險料一月分ニ相當スル金額ヲ、六月分以上ナルトキハ保險料月額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ割引ス

第十九條 前項ノ規定ニ依リ保險料ヲ前納シタル後其ノ期間ノ中途ニ於テ保險料ノ拂込ヲ要セザルニ至リタル場合ニ於テハ未經過期間ニ對スル保險料額ヲ保險契約者ニ還付ス但シ保險料ヲ割引シタル保險契約ノ還付額ハ未經過期間ニ對スル保險料額ヨリ經過期間六月未滿ナルトキハ前項ノ規定ニ依リ割引シタル金額ヲ又保險料一月分ニ相當スル金額ヲ割引シタルモノニ

第二十條 二交付ス

第二十一條 保險契約者保險料併合拂込ノ全部又ハ一部ヲ廢止セムトスルトキハ集金人拂込又ハ窓口拂込ノモノニ在リテハ保險料併合拂込廢止請求書ニ保險料領收帳ヲ添ヘ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ保險料領收帳ノ受領證ヲ受取ルヘシ又振替貯金振替拂込ノモノニ在リテハ保險料併合拂込廢止請求書ヲ郵便局ニ差出スヘシ

第二十二條 前條第二項ノ規定ハ前項及併合シタル保險料額ニ異動ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第二十條ノ二及第二十條ノ四ノ規定ハ保險契約ノ申込ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ保險料領收帳アルモノハ之ヲ保險申込書ニ添附シ保險料併合拂込請求書ハ之ヲ差出スコトヲ要セズ

求書ニ保險證書、醫師ノ診斷書及傷害ノ事實ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十二條ノ四

簡易保險局第二十二條ノ二ノ事實ヲ認メタルトキハ保險證書ニ保險料ノ拂込ヲ要セザル旨及承認ノ年月日ヲ記載シ之ヲ保險契約者ニ交付ス

第四章 保險金ノ支拂

第二十三條 被保險者死亡シタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三月内ニ簡易保險局ニ其ノ通知ヲ發スヘシ

正當ノ事由ニ因リ前項ノ期間内ニ通知ヲ發スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後速ニ其ノ通知ヲ發スヘシ

第二十四條

左ノ金額ハ第五十七條ノ三ノ規定ニ依リ保險料還付額ヨリ控除シ殘額アルトキハ支拂フヘキ保險金額ヨリ之ヲ控除ス

一 未拂保險料及延滞料

二 貸付金及其ノ利息

第二十五條 保險金受取人保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ保險證書ヲ呈示シタル上保險金支拂請求書ニ左ノ書類ヲ添附シ郵便局ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

一 被保險者ノ戸籍謄本又ハ抄本

二 被保險者死亡ノ場合ニ在リテハ市町村長ニ差出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シタル事項ノ證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類

三 保險料集金人拂込又ハ窓口拂込ノ場合ニ在リテハ保險料領收帳

前項ノ場合ニ於テ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスレバ保險契約ノ效力發生後一年内ニ死亡シ又ハ保險契約ノ效力發生後二年内ニシテ復活ノ效力發生後一年内ニ死亡シタルモノニ在リテハ保險金支拂請求書ニ前項第一號及第二號ノ書類ノ添附ヲ省略スルコトヲ得此ノ

場合ニ於テハ保險金支拂請求書ニ被保險者ノ本籍ヲ附記スヘシ

第二十六條 前條ノ請求アリタルトキハ保險金支拂通知書ヲ保險金受取人ニ送付ス

保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ保險證書ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ保險金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

第二十六條ノ二 保險金受取人簡易生命保險法施行區域外ニ於テ保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第二十五條ノ規定ニ依リ保險金支拂請求書及其ノ添附書類並保險證書ヲ簡易保險局ニ送付スヘシ但シ臺灣、澎湖、府、關東廳及樺太廳管内ニ於テ保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタルトキハ會計規則第四十八條第一項ノ規定ニ依リ保險金支拂ヲ

第二十六條ノ三 保險金受取人ハ別ニ告示スル郵便局ニ於テ保險金ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條ノ四 保險金受取人保險金ノ局待拂ヲ請求セムトスルトキハ保險證書ヲ呈示シ第二十五條第一項ノ規定ニ依リ保險金支拂請求書及其ノ添附書類ヲ當該郵便局ニ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ保險金支拂通知書ヲ直ニ保險金受取人ニ交付ス

保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ保險證書ヲ添ヘ當該郵便局ニ差出シ保險金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

第二十六條ノ五 保險金受取人郵便年金規則第十六條ノ規定ニ依リ保險金ノ振替請求ヲ爲サムトスルトキハ保險證書ヲ呈示シタル上保險金支拂請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ第二十五條第一項ノ規定ニ依リ添附書類及年金契約申込書ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ支拂フヘキ保險金額ヨリ郵便年金契約ノ掛金

ヲ控除シタル殘額ニ付保險金支拂通知書ヲ作成シ保險金受取人ニ送付ス

第二十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 第二十三條乃至第二十六條ノ四ノ規定ハ簡易生命保險法第二十四條ノ場合ニ於テ同法第二十五條ノ規定ニ依リ還付スヘキ金額ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第五章 契約ノ異動變更

第二十八條 保險契約者ハ左ノ場合ニ於テ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セザル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 保險金額ヲ増加セス及保險料拂込期間ヲ延長セスシテ終身保險ヲ養老保險ニ變更セムトスルトキ

二 保險金額ヲ増加セス及保險料拂込期間ヲ延長セスシテ養老保險ノ保險期間ヲ短縮セムトスルトキ

三 保險金額ヲ増加セス、養老保險ヲ終身保險ニ變更セス及保險期間ヲ延長セスシテ保險料拂込期間ヲ短縮セムトスルトキ

四 養老保險ヲ終身保險ニ變更セス及保險期間並保險料拂込期間ヲ延長セスシテ保險料ヲ減額セムトスルトキ

前項ノ請求ニ對シテハ料金二十錢ヲ徵收ス

第二十九條 保險契約者力當該保險契約ヲ保險料拂濟保險契約ニ變更ノ請求ヲ爲スニハ簡易生命保險令第十一條第二項ノ規定ニ該當セザル場合ニシテ料濟保險金額ハ十圓以上ナルコトヲ要ス

第三十條 (前條)

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ更正スヘキ保險金額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條第一項第四號ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ保險料ノ減少セ

ラレタル部分ニ對スル被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ノ還付ヲ請求セザルトキハ別表ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ヲ前項ノ保險金額ニ加算ス

第二十九條ノ請求アリタル場合ニ於テ更正スヘキ保險金額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 保險契約者第二十八條及第二十九條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ保險契約變更請求書ヲ作成シ料金ヲ要スルモノニ在リテハ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ保險證書ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證ヲ受取ルヘシ此ノ場合ニ於テ保險料領收帳アルモノハ之ヲ添附スヘシ

保險證書及保險料領收帳ハ訂正ノ上之ヲ保險契約者ニ交付ス

第三十二條ノ二 保險金受取人簡易生命保險法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ保險契約ノ變更ニ因リ還付金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ前條ノ請求ト同時ニ還付金支拂請求書ヲ郵便局ニ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ保險還付金支拂通知書ヲ保險金受取人ニ交付ス

保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ還付金ノ拂渡ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ保險證書ヲ呈示スヘシ

第二十四條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ還付金ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第三十三條 簡易生命保險法第十四條ノ規定ニ依リ保險契約者ニ變更アリタルトキハ保險契約承繼者ハ保險證書訂正請求書ニ被保險者及保險契約者ト共ニ記名調印シ保險證書及保險料領收帳ヲ添ヘ郵便局ヲ經テ簡易保險局ニ差出シ郵便局ヨリ保險證書ノ受領證ヲ受取ルヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 保險契約者又ハ保險金受取人第九條ノ規定ニ依リ代表者ヲ變更シタルトキハ保險證書訂正請求書ニ保險證書ヲ添ヘ郵便局ヲ經テ簡易